

2016年度

四国遍路と霊場研究 3

四国霊場第五十一番札所 石手寺総合調査報告書



愛媛大学法文学部附属
四国遍路・世界の巡礼研究センター

胡 光 編

二〇一六年度 四国遍路と霊場研究 3

四国霊場第五十一番札所

石手寺総合調査報告書

愛媛大学法文学部附属

四国遍路・世界の巡礼研究センター



例言

一、本書は、愛媛大学法文学部附属四国遍路・世界の巡礼研究センターならびに日本史研究室において、平成二五～二八年度に教授胡光が指導学生とともに愛媛県美術館等と共同で行った石手寺総合調査の研究成果をまとめたものである。また本書は、「四国遍路と霊場」について継続的に研究し、刊行する報告書の第三巻である。

一、本書の研究対象は、四国霊場第五十一番札所熊野山石手寺（加藤俊生住職／松山市石手）が所蔵する全ての資料である。未公開を含む同資料について、約五八〇〇点の内容を把握し目録化して、研究を行った。本書は、彫刻・絵画・工芸品・古文書・古記録・聖教調査の成果を報告書として刊行するものである。

一、石手寺総合調査は、四国霊場開創一二〇〇年記念事業に関連して、加藤俊生住職をはじめ、関係各位の全面的な協力を得て行った。深甚の謝意を表す。

一、石手寺総合調査のうち、彫刻・絵画・工芸品の調査は、善通寺宝物館学芸員松原潔氏・神奈川県立歴史博物館学芸員神野祐太氏・圓明院住職武田和昭氏・愛媛県美術館学芸員長井健氏・愛媛県教育委員会学芸員石岡ひとみ氏・愛媛県歴史文化博物館学芸員今村賢司氏・伊方町立町見郷土館学芸員高嶋賢二氏が中心となつて行い、愛媛大学法文学部日本史研究室が補佐した。

一、石手寺総合調査のうち、古文書・古記録・聖教調査は、愛媛大学法文学部日本史研究室教授寺内浩、同胡光、講師中川未来が、愛媛資料ネットの活動の一環として行った。平成二七年度からは、新設された法文学部附属四国遍路・世界の巡礼研究センターの活動の一環として行った。同文書のクリーニング、資料番号挟み込み、基礎データ採取による目録制作も、資料ネット・研究センターの活動の一環として、胡が指導学生等とともにに行った。参加者は、和氣坂ハナミ・前田精一・村上由実子・甲斐未希子・松田和也・植田竜一・上村和史・大西新平・岡本佑弥・兼折朋香・河村貴裕・松井理絵・山口美香・安西莉湖・加藤絵里菜・久

米枝実子・澤田奈緒・柴田真司・曾根崎莉乃・横井まり・鈴木あかり・檜垣志穂里・平井清貴・星島菜摘・本田隼人・上田沙紀・大西綾乃・高尾陽香・高橋舞衣・八塚萌である。

一、前項資料と棟札の解説ならびに入力は、和氣坂ハナミ・村上由実子・岡本佑弥・高嶋賢二が行い、胡光が監修した。解説にあたり、罫字、平出、年次・受給関係などの位置は、原本通りに翻刻した。

一、本書の編集は、胡光が行い、岡本佑弥・兼折朋香が補佐した。

一、本書の作成にあたって、資料に基づいた表記をとつたため、今日では用いない職業や身分に関する呼称を用いている場合がある。利用者の方々には、史実を知ることによって人権擁護の意識を高められるよう切望し、あわせて本書を正しく利用されるよう希望する。

一、本研究は、平成二六～二八年度科学研究費交付基盤研究（C）「信仰形態の変遷からみた四国八十八ヶ所成立過程の研究」（研究代表：胡光、研究協力：石岡ひとみ・今村賢司・高嶋賢二・武田和昭ほか）、平成二五～二八年度同基盤研究（B）「四国遍路の学術的総合研究」（研究代表：寺内浩、研究分担：胡光ほか）、平成二六～三〇年度同基盤研究（S）「災害文化形成を担う地域歴史資料学の確立」（研究代表：奥村弘、研究分担：胡光ほか）、平成二六～二八年度松平公益会助成金「近世大名と地域文化形成に関わる総合研究」（研究代表：胡光）、平成二五～二六年度愛媛大学研究活性化事業「四国霊場の成立と発展に係る萌芽的研究」（研究代表：胡光）、平成二六年度同地域連携プロジェクト「四国霊場開創一二〇〇年及び道後温泉本館改築一二〇周年記念事業に係る共同調査研究」（研究代表：胡光、研究分担：寺内浩）、平成二七年度愛媛大学法文学部人文系担当学部長裁量経費「地域歴史資料の調査・整理と保全プロジェクト」（研究代表：胡光、研究分担：寺内浩・中川未来）による研究成果の一部である。

一、本書の刊行は、平成二六～二八年度科学研究費交付基盤研究（C）「信仰形態の変遷からみた四国八十八ヶ所成立過程の研究」（研究代表：胡光）によって行う。

目次

例言		……	一頁
目次		……	二頁
石手寺の歴史		……	三頁
石手寺の彫刻	松原 潔・神野祐太	……	八頁
石手寺の木造獅子頭について	高嶋賢二	……	三〇頁
石手寺の仏画	武田和昭	……	三七頁
石手寺の祭礼絵巻	高嶋賢二	……	四五頁
石手寺所蔵の灰釉三筋壺と松葉双鳥鏡	石岡ひとみ	……	五五頁
石手寺の版木について	今村賢司	……	六〇頁
石手寺の棟札	高嶋賢二	……	六九頁
石手寺の歴代住持位牌について	今村賢司	……	七五頁
石手寺の古文書	胡 光	……	八二頁
石手寺文書翻刻	……	……	八五頁
加藤明成禁制【宝物館西五三・七】慶長十一年（一六〇六）・豎紙			
加藤明成居屋敷免許状【宝物館西五三・九】慶長二〇年（一六一五）・豎紙			
加藤家奉公人連署奉書【宝物館西五三・一〇】元和八年（一六二二）・豎紙			
威徳院坊屋敷売渡証文【宝物館西七一】寛永元年（一六二四）・豎紙			
蒲生忠知家臣書状【宝物館西三四】寛永十二年（一六三四）・折紙			
石手寺代々記録【宝物館西四四】寛永十二年（一六三五）・豎紙			
石手寺実秀書状案【宝物館西二四】寛永十五年（一六三八）成・一紙			
石手寺法印実秀書状案【宝物館西四二】寛永十六年（一六三九）・一紙			
道後八幡宮神主役覚【宝物館西五九】寛永十六年（一六三九）・一紙			
大覚寺宮二品親王令旨【宝物館西二七】天和二年（一六八二）・豎紙			
補僧録御免状【宝物館西八二】元禄十一年（一六九八）・豎紙			

瑞元代記録【旧土蔵三四・一】享保十六年（一七三二）・豎帳			
石手寺願書【宝物館西六四】宝暦十二年（一七六二）・継紙			
衛門三郎略縁起【宝物館西三〇】江戸時代後期（一八世紀頃）・卷子本			
衛門三郎略縁起【宝物館西三三】江戸時代後期（一八世紀頃）・卷子本			
石手寺文書目録	胡 光・岡本佑弥・兼折朋香編	……	九四頁
信仰形態の変遷からみた四国八十八ヶ所成立過程	胡 光	……	一七八頁
奥付		……	一八〇頁



石手寺宝物館調査

石手寺文書調査（講堂）



石手寺の歴史

岡本 佑弥

はじめに

四国霊場第五十一番札所熊野山虚空藏院石手寺は、松山平野を流れる石手川の岩堰付近に位置する。石手寺周辺には、古来、「風土記」や「日本書紀」にも記された道後温泉、中世に築かれた河野氏の湯築城が所在する。江戸時代、石手寺は松山藩領温泉郡石手村(松山市石手二丁目)に属した。鎌倉時代末に建立された仁王門は国宝、本堂と三重塔、訶梨帝母天堂、五輪塔、護摩堂、鐘楼とその銅鐘が重要文化財に指定されている。これらを保持する石手寺は、承応二年(一六五三)に「四国辺路日記」を著した京都智積院の僧澄禅によって「予州無双の大伽藍」と記されるなど、四国遍路の札所の中でも代表的な巨刹である。

石手寺と四国遍路との関わりで言えば、衛門三郎(右衛門三郎)伝説を欠くことが出来ない。弘法大師信仰が深く関わりとされるこの伝説は、江戸時代初めには既に流布していた。石手寺の宝物館には、衛門三郎の名が書かれた石が寺宝として安置されており、現在も多くのお遍路さんが拝観している。

愛媛大学と愛媛県美術館等は、平成二十五年(二〇一三)から、約三年間、当寺の総合調査を合同で行った。愛媛大学法文学部日本史研究室が担当した調査では、古文書・古記録、聖教類約五五〇〇点を確認した。この調査成果を基に、本稿では石手寺の歴史を領主や本寺、札所寺院との関係から考察していきたい。

一 石手寺の由緒

石手寺の由緒を知ることの出来る史料としては「河野通宣左京大夫安養寺石手寺由緒書 同寺寺領寺宝等目録」(以下、刻板文書)が広く知られる。刻板文書は、その名が示す通り、縦四〇・八センチ、横一五三・五センチ、厚さ一・六センチの板

に文字が刻まれ、永禄十年(一五六七)に記されたものである。その作成理由は、前年の十一月二十日に、霊宝や由来などが薬師堂、庫藏炎上とともに焼失したことがある。焼失を嘆いた衆徒の求めにより、末代のため作成された。刻板文書の表面には、和銅五年(七一二)から文明十三年(一四八一)までの由緒書があり、最後に作成理由と河野伊予守通宣の署名と花押が刻まれている。刻板の裏面は、「伽藍棟敷」二四の建造物の他、「当寺文書」一二筆、「山野境免許寺社領田事」三〇筆、「炎上砌残書物霊宝等分」三三筆がそれぞれ刻まれる。

刻板文書に見られる石手寺における信仰の変遷については、川岡勉氏の研究に詳しい⁽¹⁾。以下、川岡説を参照しつつ、中世までの石手寺の寺歴とその信仰の変遷を確認していきたい。

刻板文書の由緒書は全一八筆あり、川岡氏はその中から信仰の変遷を読み取れる次の八箇所を抜粋した。以下、その概要を記す(例：①↓一筆目)。

①和銅五年二月に白山権現社を勧請。

②神龜五年(七二八)の聖武天皇の勅宣により「国家安全祈願所」として伊予大領玉純が伽藍を創建し、翌天平元年三月八日に行基を開眼として薬師如来が安置。

④当時の宗派は、法相宗であり、その後、弘仁四年(八一三)に真言宗へ改宗され、当寺が伊予国における真言密教の始め。

⑤天長八年(八三二)には、右衛門三郎の伝承が記される。浮穴郡荏原郷の右衛門三郎は、利欲を求め、仏神に逆らったため、八人の男子を亡くした。そのため、髪を剃り、家を捨て、四国遍路に出る。右衛門三郎は、阿波国焼山寺(四国霊場第十二番札所)の麓で病死する間際に伊予の国司を望んだ。ここで右衛門三郎は、空海和尚から一寸八分の八塚右衛門三郎と記された石を授かった。年を経て伊予国司息利のもとに石を握った男子が生まれ、家を継ぎ、息方と名乗った。

⑥寛平三年(八九一)に至り、熊野権現宮・拝殿・新堂が創建され、翌四年には、熊野十二社権現が勧請された。その際、安養寺は熊野山石手寺と改名され、六十六坊敷と浮穴郡荏原郷が寄附された。願主は伊予息方。

⑨寛治三年(一〇八九)には、堀川院の院宣により、弘法大師木像が下賜され、これを安置する影堂が建てられる。

⑩弘安二年(一二七九)に河野対馬守通有が願主となり、三嶋大明神が勧請され、そのための御殿・拝殿・十六王子宮が建立。

⑪文保二年(一二二八)、河野通繼(法名生阿弥陀仏)により、仁王門・護摩堂の再興。

以上の箇所から、川岡氏が明らかにした信仰の変遷の要点は次のようになる。最初の起源は白山信仰①の霊場であり、近隣の道後温泉と深く関わる薬師信仰②を中心に、寺院としての体裁が整えられていく。その後、平安初期に真言密教が伝わり④、ついで熊野信仰⑥やこれと結合する阿弥陀信仰⑨が浸透した⑩。院政期には、弘法大師信仰の広がりとともに影堂(大師堂⑨)が建てられ、鎌倉後期になると河野氏との関わりが強まり三島信仰⑭が導入された。この時期には、時宗⑯や真言律宗⑰などの影響も受けていた。「刻板文書」の「伽藍棟敷」には薬師堂が「札所本堂」と記されており、戦国期には四国遍路の札所寺院として、石手寺は世俗の信者を獲得していた。

「刻板文書」では、薬師堂を「札所本堂」とする一方、熊野権現の本地仏である阿弥陀仏を安置する建物を「新本堂」と記している。川岡氏は中世末の伽藍の様子を記すとされる「石手寺往古図」④の分析から、本堂である巨大な薬師堂に対抗するかのようになり、熊野権現社と「新本堂」が存在していたことを明らかにした。さらに川岡氏は、近世に作成された四国遍路の案内記の絵図から、永禄九年の火災後に再建された薬師堂が、熊野権現社や「新本堂」と比べて小規模であることから、近世において熊野信仰が本来の薬師信仰を圧倒する勢いであったことを指摘した。

二 近世領主の宗教政策

「刻板文書」には、その由緒を保証した河野通宣の花押が記されている。川岡氏によれば、このような石手寺と河野氏の親密な関係は、鎌倉時代後期の弘安二年(一二七九)に河野通有が願主として三嶋大明神を勧請したとされる頃から始まる。鎌倉末・南北朝期の河野通盛の頃になると、石手寺近くに湯築城を築いて本拠地とするなど、

中世後期の石手寺は、河野氏との関係があつて成り立つものであつた。では、河野氏衰退後の石手寺と新たな領主との関係は、いかなるものであつたのだろうか。

天正十三年(一五八五)の豊臣秀吉による四国侵攻によって、四国は豊臣政権の支配下に組み込まれることとなる。伊予には、秀吉に近い毛利系大名である小早川隆景が配されたが、同十五年の九州平定後には、東・中予に福島正則、南予に戸田勝隆が入封した⑮。福島治世期は、太山寺の縁起に同寺の寺領を没収したことが記されていることから、伊予の霊場が衰退した時期と捉えられている⑯。その後、福島正則は、尾張清洲二四万石に転封となり、替わりに加藤嘉明が文禄の役の功により、伊予国正木に入った。

加藤嘉明は、慶長五年(一六〇〇)の関ヶ原合戦に東軍として参戦した結果、加増を受け伊予半国を領することとなる。翌年五月二日、嘉明は、家臣への知行宛行、寺社への寺領寄進を行った。石手寺へは二百石の寺領寄進を行っており⑰、太山寺への十五石の寺領寄進と比べても、石手寺への厚遇が見て取れる。それとともに嘉明は、慶長十年に諸堂を、同十四年には薬師堂、白山堂を修復した⑱。元和八年(一六二二)の三上桃庵・二神瑞庵発給の奉書では、堂塔伽藍の造営等を退転させてはならない旨を掟書として示しており、ここからも嘉明の伽藍の保護への熱意が見て取れる⑲。石手寺へは、嘉明の世子、明成発給の禁制が出されており、加藤氏の支配体制に組み込まれていったことが窺える⑲。

寛永四年(一六二七)に加藤嘉明は会津四〇万石へ転封となり、蒲生忠知が入封した。石手寺には、蒲生忠知家臣書状が二通遺されている⑳。この書状は、先の太山寺総合調査において胡光氏が調査・分析した書状の発給者と年次が同一であった。その際、分析によって、発給者の高瀬為右衛門・不破庄右衛門・浅井権右衛門は郡奉行であり、戊年寛永十一年発給の文書であることが比定されている。石手寺に現存する二通のうち、一通目は、石手寺へ、寺領二百石を保証するもので、蒲生時代の寺領は加藤時代と同様であった。二通目は石手愛宕山別当が宛所となっており、戊年の現米(取米)を五石保証するものである。愛宕社は、石手寺の奥の院であり、別当寺を務めていた石

手寺宛に発給されたと思われる。さらに蒲生忠知は石手寺の阿弥陀堂・大師堂の修復を図った。しかし、寛永十一年八月に忠知は急死し、御家断絶の憂き目にあう。蒲生氏による治世はわずか七年ほどで幕を閉じることとなった。

寛永十二年(一六三五)七月に至って、松平定行が桑名から松山へ加増転封となり、以後、幕末まで松平家が松山十五万石を治めることとなる。松平氏によって、百石以上の寺領が寄進されたのは、石手寺の他、大林寺(浄土宗)、常信寺(天台宗)、法龍寺(曹洞宗)、法花寺(日蓮宗)のみであり、石手寺を除く寺院は松平家の菩提寺である「四ヶ寺」として厚く保護されていた⁽¹²⁾。

「四ヶ寺」と石手寺は、領主によって領内の触頭(僧録、録所)職に任じられていた。触頭とは、藩や各宗派の触書を末寺へ伝達し、領内末寺の諸願いをとりまとめる職であった。触頭職は、藩から任命されるもの(国法触頭)と、本寺から任命されるもの(寺法触頭)の二つが存在したが、両方の機能は類似しているため、一寺が担う例が一般的であったという⁽¹³⁾。石手寺の場合、元禄十一年(一六九八)に將軍綱吉に重用された護持院大僧正隆光によって伊予一国内の新義真言宗の触頭職に任命されるとともに、四代藩主松平定直によって新義真言宗の触頭職に任じられた。隆光が石手寺を触頭に選定した理由として「千有余年之古梵刹」、「國中無双之靈地」であること、殊に「邦君御祈願所」であることが挙げられている⁽¹⁴⁾。

元禄三年、石手寺は松平定直によって堂宇の修補が為され、松山藩の「御祈願所」を命じられた⁽¹⁵⁾。『愛媛県史』によると、松山藩の「御祈願所」の内、寺領が与えられたのは、菩提寺の「四ヶ寺」の他、石手寺、太山寺、千秋寺、大禪寺、天徳寺、龍穩寺、大宝寺であった。石手寺の「祈祷録」⁽¹⁶⁾では、藩主の参勤交代時の安全を願った「海陸御祈祷」などが行われたことがわかる。定直は、宝永四年(一七〇七)に石手寺へ寺領五〇石を付け加え⁽¹⁷⁾、天保十一年(一八四〇)の「松府御役録」には、寺領百石とみえる⁽¹⁸⁾。

三 「一国之惣本寺」としての石手寺

石手寺は現在、真言宗豊山派に属し、総本山は長谷寺(奈良県桜井市)である。「刻

板文書」は石手寺の開基を神龜五年(七二八)とし、その当時の宗派は、法相宗であった。しかし弘仁四年(八一三)に真言宗へ改宗され、当寺が伊予国における真言密教の始めとなったという。中世までの当寺の信仰の変遷は先述の通りである。

その後の宗派の変遷を同寺の古文書から分かる範囲で復元し、宗派内での役割を考察する。

江戸幕府は、各宗派に本末帳を提出させ、本山―本寺―中本寺―直末寺(小本寺)―孫末寺と複雑なヒエラルキーをもつ本末制度を構築し、寺院統制を図った⁽¹⁹⁾。その中で、石手寺は中本寺に格付けされていた。伊予国における新義真言宗の中本寺は、石手寺の他に、繁多寺、浄明院、太山寺、大宝寺、宝珠寺、金蓮寺があった⁽²⁰⁾。中本寺である石手寺には塔頭五坊、末寺十四ヶ寺が属していた⁽²¹⁾。

石手寺の本寺が文書で判明するのは、寛永十五年(一六三八)の末寺状の写しが最初となる。十月十七日付で、石手寺の住持である実秀から大勝院(大覚寺の塔頭)に出された書状であり、この時に石手寺が京都嵯峨大覚寺の末寺になったことが判明する⁽²²⁾。その後明治初年まで、石手寺の本寺は大覚寺であった⁽²³⁾。

大覚寺の末寺である松山藩領の札所寺院には、石手寺・大宝寺(四十四番)・浄瑠璃寺(四十六番)がある。その中で、石手寺と大宝寺との関係に注目したい。大宝寺は、江戸時代において奥の院が岩屋寺(四十五番)となるまでは、一つの寺(菅生寺)であった。菅生寺の信仰の変遷は、白山信仰や弘法大師信仰、時宗や熊野信仰との接点が見出されており、石手寺のそれと類似している⁽²⁴⁾。江戸時代前期の承応二年(一六五三)の段階に、伊予国において大師堂の存在が確認されるのは、石手寺・大宝寺・岩屋寺のみである⁽²⁵⁾。江戸時代中期の享保四年(一七一九)二月上旬から三月下旬には、大宝寺が本尊十一面観世音菩薩、岩屋寺が本尊の石仏不動明王と法花仙人像などを、石手寺において開帳している⁽²⁶⁾。三ヶ寺の深い関係は、江戸時代においても持続していたことが見て取れる。

本末関係のみならず、石手寺と本寺大覚寺との関係は、石手寺の院室兼帯の際にも重要とされた。院室(院家)とは、上方の醍醐・大覚寺等の門跡寺院の境内に構営され

ており、院号を持つ境内寺院のことである。その院室寺院が無住、或いは廃された後にその名跡を形式的に再興し、門跡寺院の法流を継承する地方の寺院が兼帯することを院室兼帯という。院室兼帯寺院は、宗派規定以外の色衣や乗輿等を使用する権利を得る事が出来た⁽²⁷⁾。石手寺では、享保元年(一七一六)に住持の瑞元が大覚寺院室宝輪院の兼帯を許された⁽²⁸⁾。それ以後、宝暦五年(一七五五)から弘化二年(一八四五)までの補任状が伝存する⁽²⁹⁾。

正徳五年(一七一五)から享保十六年(一七三一)にかけて石手寺住持を務めた瑞元は、宝輪院々室兼帯の祖であるとともに、石手寺の住持として初めて三色の色衣の着用が許可された人物である⁽³⁰⁾。瑞元以前の住持は二色のみの許可が通例であったが、「一国之惣本寺」であることを理由に、三色の着用が免許された。「一国之惣本寺」とされるのは、先述した伊予一国内の新義真言宗の触頭職を務めていたことに起因すると思われる。そのことに加え、御朱印地が与えられた談林であることが、三色の色衣を免許されたことと関係していた⁽³¹⁾。

談林(常法談林所「談義所」とは、地方における真言宗の学問所である。談義所の住職は主として学徒に事教二相を相伝すると共に夏冬の報恩講(祖師・先師の恩に報いるためにその忌日に行われる法要)を指南する役目を担っていた⁽³²⁾。石手寺では、明暦(一六五五)一六五七)ごろの住持であった真龍が談林の祖とされている⁽³³⁾。それ以後、寛文十二年(一六七二)から明治十三年(一八八〇)まで長谷寺からの談林免許状が代々伝存している。長谷寺の道場において石手寺の僧が授与された印可状も多く伝わっている。その一方で、石手寺では、住持が道場や神御殿において弟子へ印可を授与しており⁽³⁴⁾、まさに伊予における教学振興の中心的寺院であった。

おわりに

石手寺の歴史を領主や本寺、札所寺院との関係から考察してきた。

天正十三年(一五八五)の豊臣秀吉による四国侵攻後、伊予の領主は、目まぐるしく入れ替わることとなる。加藤氏・蒲生氏による二百石の寺領の寄進、伽藍の修復

は、当時衰退していた石手寺の再興へと繋がった。さらに寛永十二年(一六三五)に入封した松平氏の下では、菩提寺である「四ヶ寺」と同等の待遇を得る。特に四代藩主松平定直は、元禄年間に伽藍の修復のみならず、石手寺を松山藩の「御祈願所」・「触頭」に任じ、その地位を確固たるものにした。

宗派内における石手寺の位置も、江戸幕府による宗教政策の確立と松平氏の入封により定まることとなる。伊予国における新義真言宗の「一国之惣本寺」として触頭職を務めるとともに、学問所である談林として教学振興を行った。そのことにより、院室兼帯や上位の色衣が許可され、同寺の寺格を高めた。

同じ京都嵯峨大覚寺の末寺で、中世以前の信仰の変遷が類似する大宝寺と岩屋寺は、遍路も含めた不特定多数の信者を対象とした開帳を石手寺で行っており、四国遍路の札所寺院間の関係も見られる。金剛三昧院の末寺であった太山寺(五十二番)についても、明和元年(一七六四)に太山寺住持意興が談林としての許可願を江戸へ提出する際、石手寺住持瑞澄は触頭としてサポートを行った。その後、両寺は談林の職務を分担しており、協調関係にあったと言える⁽³⁵⁾。

九州・中国地方からの四国遍路にとって、四国の玄関口は高浜・三津浜が知られており、札打ち始めの札所は太山寺であった。石手寺は札打ち納めの札所であり、結願後、道後の湯で西方からの四国遍路たちは疲れを癒した⁽³⁶⁾。

石手寺は、西方からの四国遍路の結願寺としてのみならず、江戸時代前期の四国八十八ヶ所成立期には、伊予の札所の代表であったという⁽³⁷⁾。本稿の考察から、石手寺が伊予の札所の代表で有り得たのは、藩体制や宗派内における同寺の地位と関係していると考えられよう。

註

(1)川岡勉「中世の石手寺と四国遍路」(四国遍路と世界の巡礼研究会編『四国遍路と世界の巡礼』法蔵館、二〇〇七年)。

(2)寺内浩氏は「刻板文書」に見える右衛門三郎伝説を石手寺における熊野信仰の始まりを

説くものであったとする(寺内浩「衛門三郎伝説と熊野信仰」、『四国遍路と世界の巡礼』第2号、愛媛大学文学部附属四国遍路・世界の巡礼研究センター、二〇一七年)。

(3) 重要文化財である鎌倉期の石手寺五輪塔は、十四世紀に西日本に分布する真言律宗の五輪塔との関連が指摘されている(註1同)。

(4) 石手寺文書・宝物館西面五六号。

(5) 胡光「四国の大名」(四国地域史研究連絡協議会編『四国の大名―近世大名の交流と文化―』、岩田書院、二〇一一年)。

(6) 胡光「太山寺と伊予の霊場」(胡光編『四国遍路と霊場研究1 四国霊場第五十二番札所太山寺総合調査報告書(1)』、愛媛大学法文学部日本史研究室、二〇一五年)。

(7) 石手寺文書・宝物館西面五三―八号。

(8) 「伊予古蹟志」(『予陽郡郷俚諺集・伊予古蹟志』、伊予史談会、一九八七年)。

(9) 石手寺文書・宝物館西面五三―一〇号。

(10) 石手寺文書・宝物館西面五三―七、九号。

(11) 石手寺文書・宝物館西面三四―一、二号。

(12) 『愛媛県史』学問・宗教(愛媛県、一九八五年)。松平家の宗旨は浄土宗であった。

(13) 『福井県史』近世一(福井県、一九九四年)。

(14) 石手寺文書・宝物館西面一号。石手寺の触頭職任命は、近世前期に全国で国触頭が設置されてから時代の経過があり、藩内寺院統制上の必要性に出たものよりも、藩主家の祈祷寺として藩内新義真言宗寺院の最高位に昇った石手寺の地位を、寺院統制システム上に位置づけることに主眼があつたとされる(坂本正仁「新義真言宗の触頭制度における国触頭の創出―伊予石手寺の場合―」、『宇高良哲先生古希記念論集 歴史と仏教』、文化書院、二〇一二年)。

(15) 北川淳一郎「熊野山石手寺」(石手寺、一九六二年)、「寺院明細帳(抄)」(『松山市史料集』第十二卷、松山市役所、一九八五年)。

(16) 石手寺文書・旧土蔵三四―二号。

(17) 註(8)同。

(18) 「松府御役録」(愛媛県立図書館蔵)。

(19) 末本文美士『近世の仏教 華ひらく思想と文化』(吉川弘文館、二〇一〇年)。

(20) 註(12)同。

(21) 「松山藩寺院録」(『松山市史料集』第十三卷、松山市役所、一九八五年)。

(22) 石手寺文書・宝物館西面二四号。

(23) 圭室文雄監修・解説『明治初年寺院明細帳』第六卷(アルヒーフ、二〇一三年)。

(24) 註(1)同。

(25) 頼富本宏『四国遍路とはなにか』(角川学芸出版、二〇〇九年)。

(26) 石手寺文書・旧土蔵三四―一号。

(27) 坂本勝成「院室兼帯寺院について―近世における新義真言宗寺院の場合」(『立正大学文学部論叢』二八、一九七〇年)。

(28) 石手寺文書・宝物館西面六七号、旧土蔵三四―一号。

(29) 石手寺文書・旧土蔵一三函。

(30) 石手寺文書・宝物館西面六号など。

(31) 註(26)同。

(32) 村山正栄編『智積院史』(弘法大師遠忌事務局、一九三四年)。

(33) 石手寺文書・宝物館西面五十一号。

(34) 石手寺文書・旧土蔵一三函。

(35) 太山寺文書・箱三一―二一―一号。

(36) 胡光「遍路日記」に見る四国、その内と外と(『四国遍路と世界の巡礼公開講演会・公開シンポジウム・プロシーディングス』、二〇一三年)。

(37) 「明暦四年四国辺路廻り手形」(武田和昭「四国辺路と白峯寺」、『四国八十八ヶ所霊場第八十一番札所白峯寺調査報告書』、香川県、二〇一三年)。

(おかもと・ゆうや／愛媛大学大学院)

石手寺の彫刻

松原 潔・神野 祐太

調査の概要

石手寺の彫刻調査は、境内の諸堂と宝物館に所在する彫刻のうち原則として江戸時代までに製作された尊像を対象に、法量(四)の計測を含む調書の作成とデジタルカメラによる写真撮影をおこなった。調査期間は平成二十六年二月十一日から平成二十八年十二月六日までの間で、計十一回の実査となった。調査した堂宇と建造物は本堂・阿弥陀堂・三重塔・経蔵・護摩堂・講堂・宝物館で、計九六点の尊像を確認できた。(彫刻目録参照)また、未調査の堂宇については今後も調査を継続し、別途報告する予定である。

従来、石手寺所蔵の文化財については、県指定文化財の二王門の金剛力士立像・護摩堂の不動明王及び二童子立像・菩薩面(行道面)・天人面(天童面)・獅子頭、市指定文化財の懸仏(阿弥陀三尊懸仏)などが知られており、また、平成十九年の赤川一博氏による実査で阿弥陀堂の阿弥陀如来坐像と二天像が平安時代に遡る尊像として報告されていたが、一部の尊像が断片的に語られるのみで、悉皆的な調査はおこなわれていなかった。今回の調査では、中世以前に遡る尊像や石手寺の歴史を語るうえで重要な銘記等も新たに確認できたので、ここでは、そうした新出作例の基礎データとともに既知の尊像についても新知見を加えて報告したい。なお、懸仏は文化財指定時の分類等では工芸品に属するが、彫刻との造形上・技法上の共通点も多いため彫刻調査の対象に加えるものとした。

実査は、松原潔・神野祐太がおこない、長井健・石岡ひとみ・高嶋賢二・鈴木あかり氏の協力を得た。本稿の執筆は、菩薩面と天童面を神野祐太が、その他の尊像を松原潔がそれぞれ担当した。また、獅子頭《彫工一〇〇〇》については、本報告書所収の高嶋賢二氏の論稿もあわせて参照されたい。

彫刻の調査番号は建造物ごとに番号を付与し、枝番号を付けた。建造物ごとの番号は以下の通りである。

1. 本堂
2. 阿弥陀堂
3. 三重塔
4. 十二社権現
5. 大師堂
6. 訶梨帝母天堂
7. 経蔵
8. 護摩堂
9. 弥勒堂
10. 鐘楼
11. 茶堂
12. 二王門
13. 講堂
14. 本坊
15. 宝物館
16. 穴場地蔵尊
17. 水天堂
18. 弁天堂
19. 兜跋毘沙門天堂

〈本堂〉

薬師如来坐像 木造 玉眼 現状古色仕上げ 一軀 南北朝時代～室町時代《彫工》
〔形状・法量〕

螺髪を粒状に彫出し、肉髻相・肉髻珠(亡失)・白毫相・三道相をあらわす。耳垂は環状貫通か(左耳での推測)。右肩から右腕に覆肩衣をつけ(腹前にあらわれる大衣下層の衣もあるいは覆肩衣の一部か)、大衣は左肩から背面を覆い、右肩に少し懸けて右腋下をとり、腹前を覆って左肩に懸ける。左手は脚部において薬壺を捧げ持つ。右腕は屈臂し掌を正面に向け、第三・四指を軽く曲げて立掌する。左足前で結跏趺坐する。

像高・六七・二 白毫高・五七・八 髮際高・五九・五

頂―顎・二二・〇 面長・一三・五 面幅・一一・九

耳張・一五・八 面奥・一八・一 肘張・四三・四

膝張・五三・八 胸奥・左一八・四 右一九・四

腹奥・二二・〇 膝高・左一一・五 右一一・七

〔品質・構造〕

針葉樹材製(ヒノキ材か)。白毫相は水晶製を嵌入。肉髻珠を嵌め込む孔をうがつ(肉髻珠亡失)。頭体は別材製で、三道下で挿し首か。目には玉眼を施す。体幹部は前後二材製か。内剣を施し、両肩以下の体側に別材を矧ぐか。両脚部・裳先に別材を矧ぐ。像底は布貼りの上塗塗り。その他の構造の詳細は不明。

〔保存状態〕

耳垂は欠失。肉髻珠は亡失。面部は体幹部と表面の仕上げが大きく異なり大幅な補修が認められる。台座・光背は後補。

〔所見〕

本堂内陣の厨子内に安置される石手寺の本尊像。

面部の補修は江戸時代のものと思われ、体幹部はそれ以前の製作と考えられる。着衣の下の腰のくびれをあらわす点や衣文の奔放で写実的な彫法には、やや形式化した硬さも感じられるが、鎌倉時代様式の片鱗が見てとれる。製作は南北朝～室町時代が想定されよう。

薬師堂は現在の阿弥陀堂が建つ位置にあったとされ、永禄九年（一五六六）の火災により失われたとされるが、あるいは、焼失した薬師堂安置の尊像が助け出され、修復を経て再興された可能性もある。江戸時代の地誌『伊豫古蹟志』（享和二年〔一八〇二〕）には、永禄の火災の際に薬師像が飛揚し桜樹の梢にとどまったとの記述があり興味深い。一方で、宝物館には別に二体の薬師如来像（彫^二五^一・彫^二五^二）が伝存し、そのうちの一体（彫^二五^一）は作風から室町時代の製作と考えられ、また、本堂厨子内には同じく室町時代の製作と考えられる十二神将像が安置されており、本像を含めて今後の精査と検討が必要であろう。

〈阿弥陀堂〉

阿弥陀如来坐像 木造 彫眼 現状素地 一軀 平安時代〔彫^二五^一〕

〔形状・法量〕

やや高めの肉髻相をあらわし、粗い螺髪を刻む。地髪部は被りが深く、螺髪は肉髻部に比べて細かに彫出する。肉髻珠（亡失）・白毫相（水晶製嵌入）・三道相をあらわす。耳垂は環状で不貫。大衣は左肩から背面を覆い、右肩に少し懸けて右腋下とおり、腹前・両脚部を覆って左肩に懸ける。両脚部前面に大衣の衣端が舌状にあらわれる。両腕をわずかに屈し両脚部上の腹前で定印を結ぶ。左足前で結跏趺坐。蓮華座上に坐し、柄付の輪光を負う。

像高…一〇七・四 髮際高…八八・三 白毫高…八六・二

頂ノ顎…三二・四 面長…二八・六 面幅…一八・四

耳張…二二・二 面奥…二四・三 胸奥…二四・八

腹奥…三三・六 肘張…六六・八 膝張…一〇一・六

膝高…左一五・六 右一六・二

〔品質・構造〕

針葉樹材製（ヒノキ材か）。彫眼。もと漆箔仕上げか。寄木造。頭体幹部をとおして前後二材より彫出する。その矧目は両耳中央から両上膊中央を通る。体幹部に内刳をほどこす。両肘以下・両前膊半ば以下（定印を結ぶ両手は共木）・両脚部以下はそれぞれ別材製。両腰脇に別材製の小材を矧ぎ付ける。

〔保存状態〕

肉髻珠は亡失。表面の漆箔はほとんど剥落して素地を呈する。面部は彫り直し。白毫・両肘以下・右腰脇補材・光背・台座は後補。両腰脇の三角材亡失。

〔右腰脇補修材墨書銘〕

「一」 「十三歳ノ大守定直公御修復」

※元号部分は判読できなかったが、元禄十三年（一七〇〇）の可能性がある。

〔所見〕

阿弥陀堂中央壇上に天部形立像二軀を伴って安置される。体部に比して頭部が小さく、なで肩で、量感を抑えた奥行きのない側面観をもち、また、鎬を立てない浅い彫りや穏やかな表情など、いずれも仏師定朝が完成させた和様彫刻の流れをくむもので、その製作は平安時代後期（十一世紀後半～十二世紀前半）と考えられる。

阿弥陀堂は、現在の本堂付近にあった十二社権現の社殿に列なつた西側に建つていた堂宇で、本像はそこに安置されていた可能性がある。なお、赤川一博氏は薬師如来像からの改造も想定されたが、当初材と思われる両肘までの腕の構えから推測すると、印相の改変はなく当初から弥陀定印を結んでいたと考えたい。いずれにしても古代の石手寺あるいは安養寺の造仏活動を知るうえで特に重要な尊像といえよう。

腰脇の補修材に墨書があり、伊予松山藩四代藩主・松平定直(一六六〇～一七二〇)による修理がおこなわれたことがわかる。

天部形立像 木造 彫眼 現状素地 二軀 平安時代《彫_レ二一〇一〇》

〔形状・法量〕

(左方像・向かつて右)《彫_レ二一〇一〇》

单髻(元結帯一条を結う。花卉形の宝冠を彫出する。天冠台は紐一条に帯一条。瞋目、閉口。鬢髪が耳上で渦状に巻き上がる。顔を右に向け、左腕をふりあげて持物を執るかたちをつくり、右腕は垂下してわずかに肘を曲げる(右手首先欠)。左に腰をひねり、右足先を右方にむけ邪鬼の上に立つ。着甲。領巾・鯨袖・大袖衣(垂下部に括り)・手甲・背当・裙・脛当・天衣をつける。杳を履く。天冠台正面に銅製の宝冠をつける。胸甲の左右中央に銅製の輪宝をつける。中心に蓮華をあらわす輪宝光(火炎付)。方座。

(右方像・向かつて左)《彫_レ二一〇一〇》

大略は《彫_レ二一〇一〇》に準ずる。天冠台は紐一条に列弁文。顔を左に向け、左腕を屈臂し胸前で宝塔(台座のみ現存)を捧げ持ち、右腕は屈臂して振り上げて拳をつくる。右に腰をひねり、左足先を左方にむけ邪鬼の上に立つ。胸甲の左方中央に銅製の輪宝(右方分亡失)をつけ、背面から両肩をとおり輪宝を留める銅製帯をつける。

(左方像)

像高…一五〇・九 髪際高…一三七・〇

頂上顎…二八・四 面長…一三・四 面幅…一一・九

耳張…一七・九 胸奥…一九・七 腹奥…二二・三

体幹部材幅…二八・一

(右方像)

像高…一五四・四 髪際高…一四〇・五

頂上顎…三七・九 面長…一一・二 面幅…一一・九

耳張…一六・四 胸奥…一八・三 腹奥…三二・八

体幹部材幅…二六・四

〔品質・構造〕

(左方像)

針葉樹材製(ヒノキ材か)。彫眼。現状素地。頭体幹部をとおしてほぼ一材より彫出し、別材製の背板(後補)を短ぎ付ける。頭部は内刳なしか。体幹部の内刳は、赤川氏報告によると、上下二段に分けて行い中央に柵板状の彫り残しを設けるといふ(未見)。左肩・左上膊半ば・右肩・足先でそれぞれ別材を短ぎ付ける。銅製の宝冠・胸甲飾り金具・邪鬼以下の台座・光背はそれぞれ別材製。

(右方像)

大略は《彫_レ二一〇一〇》に準じる。頭部は内刳なしか。体幹部に内刳を施すか。左前膊半ば・右肩・右手首・両足先でそれぞれ別材を短ぎ付ける。左上膊は体幹部と共木である。

〔保存状態〕

(左方像)

後補は、銅製宝冠・胸甲銅製輪宝・両肩以下・背面材・両杳先・天衣遊離部・邪鬼を含む台座・光背。像全体に虫損あり。

(右方像)

後補は、銅製宝冠・胸甲銅製輪宝と銅製留め帯・左前膊半ば以下・右手首以下・背面材・両杳先・天衣遊離部・邪鬼を含む台座・光背。像全体に虫損あり。

〔所見〕

天冠台上の花弁形の宝冠・巻き上がる鬢髪のかたちや像のほぼ全容を共木より彫出するシンプルな構造は、九世紀後半から十世紀にかけての四天王像などの天部形像との類似が指摘できる。一方で、量感の減じた体幹部の造形や穏やかな彫法には和様化の特色が見てとれ、その製作は平安時代中期(十世紀末～十一世紀前半)ごろと思われる。したがって、中尊の阿弥陀如来坐像とは異なる伝来をもつものと考えられるが、阿弥陀如来坐像と同様に貴重な作例である。

〔付記〕

阿弥陀堂の阿弥陀如来坐像・天部形立像については、赤川一博氏が平成十九年に行った実査の際の報告(未刊行)も参考にした。

〈三重塔〉

釈迦如来及び両脇侍坐像 木造 玉眼 金泥塗 三軀 南北朝時代《彫₃₁₁》

〔形状・法量〕

〔釈迦如来坐像《彫₃₁₁》〕

螺髪は旋毛形を彫出。肉髻珠・白毫相(中央に凹形の陰刻)・三道相をあらわす。肉髻の盛り上がりは極めて小さい。耳垂は環状貫通。口髭、顎髭を墨彩であらわす。右肩を覆肩衣で覆い、大衣は左肩↓背面↓右肩から右上膊を覆って右腋下↓腹前↓右肩に懸けて大きく折り返しをあらわす。裾の上端とその結び目を腹前にあらわす。禪定印を結び、左足前で結跏趺坐。

像高…五三・二 髮際高…四六・四 白毫高…四四・五 肉髻珠高…五〇・二

頂―顎…一九・六 面長…一二・四 面幅…一一・八 耳張…一四・〇

面奥…一五・四 胸奥…一七・〇 腹奥…二〇・七 肘張…三七・三

膝張…四五・五 膝奥…三〇・〇 裳裾張…四五・五

〔文殊菩薩坐像《彫₃₁₂》〕

高い髻を結う。地髪部束目入毛筋彫。白毫相をあらわす。肉髻の盛り上がりは極めて小さい。耳垂環状貫通。口髭、顎髭を墨彩であらわす。三道相をあらわす。天冠台正面に宝冠をつけ、冠繪、胸飾をつける。右肩を覆肩衣で覆い、大衣は左肩↓背面↓右肩から右上膊を覆って右腋下↓腹前↓右肩に懸けて大きく折り返しをあらわす。裾の上端とその結び目を腹前にあらわす。左腕を屈臂して胸前で経巻を持ち、右腕を屈臂して右膝上で剣を執る。右足前で結跏趺坐。蓮華座、騎獅子。獅子は前後足とも右足を踏み出す。その各足下には蓮華座を敷く。

像高…三六・二 髮際高…二六・一 白毫高…二五・三

頂―顎…一七・六 面長…七・四 面幅…六・七 耳張…八・〇

面奥…八・六 胸奥…九・三 腹奥…一一・二 肘張…二一・八

膝張…二五・九 膝奥…一九・三 裳裾張…二六・四

〔普賢菩薩坐像〕

高い髻を結う。地髪部束目入毛筋彫。白毫相をあらわす。肉髻の盛り上がりは極めて小さい。耳垂環状貫通。口髭、顎髭を墨彩であらわす。三道相をあらわす。天冠台正面に宝冠をつけ、冠繪、胸飾をつける。右肩を覆肩衣で覆い、大衣は左肩↓背面↓右肩から右上膊を覆って右腋下↓腹前↓右肩に懸けて大きく折り返しをあらわす。裾の上端とその結び目を腹前にあらわす。左腕を屈臂して胸前で掌を正面に向け、右腕を屈臂して右膝上に掌を上に向けて構え、両手で如意を持つ。右足前で結跏趺坐。蓮華座、騎象。象は前後足とも左足を踏み出す。

像高…三七・三 髮際高…二六・三 白毫高…二五・五

頂―顎…一七・六 面長…七・〇 面幅…六・六 耳張…七・八

面奥…八・五 胸奥…九・二 腹奥…一〇・八 肘張…二二・〇

膝張…二六・二 膝奥…一八・〇 裳裾張…二六・一

〔品質・構造〕

〔釈迦如来坐像〕

針葉樹材製(ヒノキ材か)。寄木造。玉眼を施す。肉身は金泥塗、衣部は金泥塗のうえ朱漆による盛り上げ彩色と截金文を施す。頭体幹部は、耳後ろと背面襟際で前後三材製。三道下で割り首。頭体に内刳を施す。体幹部前面材の正中下方には地付きに向かつて伸びる像心束を刳り残し、またその左右には後方への束を伸ばしている。両肩以下の体側部・両手首先はそれぞれ別材を刳ぐ。両脚部横木一材製。裳先別材製。肉髻珠・白毫は各水晶製を嵌入する。像内墨塗り。

〔文殊菩薩坐像〕

大略は釈迦如来坐像に準じる。寄木造。髻は別材刳付け。頭体幹部は頭部の耳後ろで前後二材製。三道下で割り首。頭体に体幹部前面材の正中下方には地付きに向かつて伸びる像心束を刳り残し、またその左右の前後体幹部材には前後材を繋ぐ束を刳り残

す。両肩以下・両手首先はそれぞれ別材を短く。両脚部横木一材製。裙裾先別材製。白毫別材製か(品質不明)。宝冠、冠繪、胸飾は各銅製鍍金(玉飾り付き)。

(普賢菩薩坐像)

大略は文殊菩薩坐像に準ずる。

〔保存状態〕

(釈迦如来坐像)

後補は、光背・台座の一部(敷茄子・獅子座・受座・返花・框座)。蓮華座は当初か。

(文殊菩薩坐像)

右肩以下の体側材が遊離する。獅子の下顎と左耳が欠失する。

(普賢菩薩坐像)

象の玉眼亡失。

〔所見〕

三重塔初重に南面する須弥壇上に安置される。三尊の着衣形式は静岡・方広寺宝冠釈迦如来及び両脇侍像(院吉・院広作、観応三年(一一三二))や愛知・妙興寺釈迦如来及び両脇侍像(院遵作、貞治四年(一一三六))に酷似し、像心束を設ける独特な構造などを勘案すると、南北朝時代に活躍した院派仏師による造像とみて間違いない。

近隣の院派仏師の造像としては愛媛・東田坊如来坐像(院吉作、元徳二年(一一三〇))や愛媛・宗昌寺文殊菩薩坐像(院什作、康安二年(一一三二))が知られており、四国における院派仏師の造像活動を知るうえで極めて重要な作例といえる。三尊いずれの像内にも墨が塗られ、今回の調査では銘記等の墨書は目視では確認できなかった。赤外線カメラ等の光学機器の使用による新たな発見を期待したい。

【参考文献】

清水真澄「仏師院吉、院広の事蹟とその作例」(同氏『中世彫刻史の研究』所収 有隣堂 一九八八年三月)

清水真澄「院派仏師の作例と活動」(『特別展 中世の世界に誘う仏像〜院派仏師の系譜と造像』横浜市歴史博物館 一九九五年十一月)

山岸公基「妙興寺仏殿本尊釈迦如来及び両脇侍像調査中間報告」(『愛知県史研究』第八号 二〇〇四年三月)

山本勉「南北朝時代の彫刻」(『日本の美術』四九三号 至文堂 二〇〇七年六月)

愛知県史編さん委員会編『愛知県史 別編 文化財3 彫刻』二〇一三年三月

〈講堂〉

虚空蔵菩薩坐像 木造 玉眼 彩色 一軀 江戸時代・享保八年(一七二二)《彫

13-1》

〔形状・法量〕

高い髻を結う。白毫相・三道相をあらわす。宝冠・冠繪・胸飾をつける。左手に宝珠、右手に宝剣を持つ。条帛・裙・天衣をつける。

像高・八一・九 髪際高・六〇・九 白毫高・五八・一 総高・一七七・九

頂一顎・三五・二 面長・一一・二 面幅・一三・五 耳張・二六・八

面奥・一九・四 胸奥・左二・四 右二・二 腹奥・二四・八

肘張・四五・二 膝張・六二・二 膝高・左一・二 右一・四

像内木札寸法・縦二六・〇 上幅九・〇 下幅七・九 厚さ〇・八

〔品質・構造〕

寄木造。玉眼。現状古色。白土地か。頭体別材製。頭部は前後三材製。体幹部は前後

三材製。挿し首。両肩以下・両肘以下・両脚部・裳先にそれぞれ別材を短く。宝冠・冠繪・胸飾は銅製鍍金。像内に円筒形の孔を穿ち、木造虚空蔵菩薩坐像《彫13-1》を納入する。

〔像内木札墨書銘〕

〔表面〕

「梵字・タラク」奉再興虚空蔵菩薩／大施主松平隱岐守定英公／大願主 院家法

印瑞元 四十九歳

〔裏面〕

「大佛師 法橋一運／享保八癸卯年六月廿三日開眼／繕之佛工大佛師 左門弟 治部」

〔所見〕

講堂中央須弥壇上に安置される。条帛や両脚部に刻まれた衣文は、やや神経質ながら堅実な彫技がみてとれる。一方で、抑揚の少ない扁平な顔貌表現は、鎌倉時代彫刻を範とする江戸時代初頭の時代様式に比べても稚拙で、その製作は十八世紀頃と考えられる。

像内には小型の木造虚空蔵菩薩坐像とともに木札が納入される。その木札の墨書から、伊予松山藩五代藩主松平定英（一六九六～一七三三）が施主となり、大仏師一運が享保八年（一七二七）に再興したことがわかる。一運は京都の仏師で、十七世紀後半から十八世紀前半の事績が知られている。「再興」と記されることから、なんらかの由緒を持つ旧仏を修復したものと考えられるが、その作風から判断すると本像の造像は享保八年としてよいと思われる。近年飛躍的に進みつつある近世仏師研究の新出資料として貴重な尊像である。

【参考】

「近世仏師事績データベース」<http://www.bussshi.net/search.cgi>

虚空蔵菩薩坐像（胎内仏）《彫13-12》

〔形状・法量〕

高い髻を結う。白毫相・三道相をあらわす。宝冠・冠繪・胸飾をつける。左腕を屈臂し、右腕をわずかに曲げて右膝上におき、両手で蓮華を持つ。条帛・裙・天衣をつける。

像高…二七・二 髮際高…一九・四 白毫高…一八・九

頂一顎…一二・五 面長…四・七 面幅…四・二 耳張…五・四

面奥…六・一 胸奥…左五・七 右六・〇 腹奥…六・七

肘張…一三・三 膝張…一二・八

〔品質・構造〕

木造。玉眼。肉身部は素地仕上げ。地髪部は青色の彩色。衣部は紫色の彩色。宝冠・冠繪・胸飾は銅製鍍金。像内に木札が納められるが取り出せず。

〔像内前面材（胸・腹の内側）墨書銘〕

「□〔寄か〕願／□郎兵衛 願／主」

〔像内背面材（背中の内側）墨書銘〕

「□ 廿日／」

「七月 敬白／」

「八十一才」

〔像内木札墨書銘〕

「京麩屋丁大佛子末葉佐門弟／佛子次郎兵衛造立／□〔佛あるいは厨か〕子施主松山奈前町 安留□六／政次／根本高祖大師御作之」

〔所見〕

虚空蔵菩薩坐像《彫13-12》の像内に納められた小型の虚空蔵菩薩坐像。小像ながら玉眼を施しており、堅実な彫技も見てとれ、江戸時代前半（十七世紀後半）頃の製作と思われる。像内の木札に記された次郎兵衛が本像の作者と考えられるが、その詳細は不詳。ただし、師匠と思われる佐門については、「左門」と称する仏師の事績が十七世紀後半～十八世紀に複数確認されているが、こちらも詳細は不詳。

今回の調査では、像の保存状態も考慮して像内の木札の取り出しまでは行わなかった。今後の精査を俟ちたい。

不動明王立像 木造 現状古色 一軀 平安時代 《彫13-9》

〔形状・法量〕

巻髪。頭頂に七沙髻を彫出する。天地眼。上下牙出。弁髪が左肩に垂下する。結び目は先端に紐一条。耳垂環状貫通（左は不貫）。左腕は垂下して縋索を執る。右腕は屈臂して腹前で剣を執る。条帛、折り返し付の裙、腰布をつける。腰紐の結び目と両端が腰前面に垂れる。腰を右にひねって岩座上に立つ。火炎光背。框座。方座。

像高…九八・八 髮際高…九二・六 総高…一四六・六

頂―顎…一七・三 面長…一一・一 面幅…一〇・六 耳張…一五・八
面奥…一七・〇 胸奥…左(背面で条帛含む)一五・〇 右一四・四
腹奥(前面で条帛含む)…一九・五 肘張…四三・六 裳裾張…二九・一

〔品質・構造〕

針葉樹材製(ヒノキ材か)。彫眼。現状古色。一木造。内刳なし。木心は像中央やや右寄りに込める。両肩・左肘・右手首・両足先でそれぞれ別材を矧ぐ。左肘に小材を矧ぐ。背面に垂下する条帛遊離部は頭体幹部と共木。光背、岩座、框座は別材製。

〔保存状態〕

像全体に虫損あり。また像表面全体に彫り直しがある。左足第三指欠。後補は、右肩以下・左肘以下・両手持物・光背・台座。方座は近代以降の製作。

〔所見〕

講堂中央須弥壇上に虚空蔵菩薩坐像の脇侍として毘沙門天立像《彫333》と共に立つ。表面全体に彫り直しがあるものの、像のほぼ全容を一木より彫出し内刳を施さない簡明な構造、体部に比して頭部を大きくつくる点や頭体ともに奥行きが大きい量感あふれる体軀など、平安時代も前半期に共通する要素をもつ。また、わずかに翻波式の衣文の痕跡も確認できる。その製作は十世紀末〜十一世紀前半頃と考えられる。

毘沙門天立像 木造 現状古色 一軀 平安時代 《彫333》

〔形状・法量〕

垂髻(元結紐上下)に一条ずつ、輪状束髪五束。天冠台は紐二条に帯で、左右耳上に入りをつくる。天冠台正面に鍬形宝珠の頭飾をつける。耳垂は環状不貫。瞋目、閉口。着甲(領巾・肩甲・胸甲・表甲・前盾・手甲・脛当・杵)。鱗袖・大袖衣・裙・袴をつける。左腕屈臂して胸前で宝塔を捧げ持つ。右腕は垂下して戟を執る。左に腰をひねって岩座上に立つ。輪宝光背(火炎付)。框座。方座。

像高…九四・六 髮際高…八四・六 総高…一三五・八

頂―顎…二二・三 面長…一〇・九 面幅…一〇・三 耳張…一三・一

面奥…一四・七 胸奥…左一四・四 右一五・二 腹奥…二一・七
肘張…三九・四 裳裾張…三三・九

〔品質・構造〕

針葉樹材製(ヒノキ材か)。彫眼。現状古色。一木造。内刳なし。木心は像右方にはずすか。両肩・左前膊半ば・両手首・両杵先でそれぞれ別材を矧ぐ。右腰側方に別材を矧ぐ。頭飾別材製。持物、光背、岩座、框座はそれぞれ別材製。

〔保存状態〕

垂髻最上後端亡失。左手首の一部、左第二・四指欠失。右手首先の一部欠失。戟の先端の一部欠失。像表面全体に彫り直しがある。後補は、頭飾・両手首先・両杵先・持物・光背・台座。その他、表面に彩色の痕跡が認められるが後補か。

〔所見〕

不動明王立像《彫332》と共に虚空蔵菩薩坐像《彫331》の脇侍として立つ。本像も不動明王立像と同様に内刳のない一木造だが、天冠台のかたちや大腿部にあられる表甲下端の花弁形飾りの意匠などは平安時代後期の天部形像にしばしば見られるものである。また、胸部の奥行きが浅く腹部から大腿部を量感豊かに表現した側面観も同じく定朝が完成させた和様の系譜につらなるもので、その製作は十一世紀末から十二世紀前半頃と考えられる。したがって、現在不動明王立像とともに脇侍像としてまつられる本像は本来一具ではなく、異なる伝来を持つものと推測される。

〔宝物館〕

獅子頭 木造 彩色 一部漆箔 二頭 鎌倉時代 《彫1511》

〔形状・法量〕

(一号)
眉根を寄せ、目を見開く。上唇を大きくうねらせて歯茎をあらわにし、上歯列と牙をむきだす。左右の牙の外側には各一条の溝をあらわす。耳をたてる。

全高…三二・九 最大幅…四五・〇 奥行…四九・二 下顎―後端…三七・九

下顎奥行…二八・〇(束を除く) 下顎幅…三七・二
下顎束幅…二九・〇(外―外) 二一・二(内―内)

耳高…一二・五(右) 耳柄高…五・四(右)

本体後端部厚…三・三

(二号)

眉根を寄せ、目を見開く。上唇部分をうねらせて歯茎をあらわにし、上歯列と牙をあらわす。わずかに下歯列をあらわす。耳をたてる。

全高…三一・八 最大幅…四〇・八 奥行…四八・二 下顎―後端…三六・八

下顎奥行…二八・二(束を除く) 下顎幅…三四・〇

下顎束幅…二九・五(外―外) 二〇・〇(内―内)

耳高…一〇・七 耳柄高…四・三

本体後端部厚…三・〇(三・三)

〔品質・構造〕

(一号・二号)

針葉樹材製(ヒノキ材か)。一木造。彫眼。彩色。一部漆箔。耳と下顎を除くほぼ全容を一材より彫出し、内削を施す。鼻孔を貫通。木心は像の下方に外す。両耳はそれぞれ別材より彫出し、円柱形の柄を取り付け、孔を穿った本体上部に差し込み、像内で左右両柄を紐でつないで可動させる。下顎は別材(一号はケヤキ材製、二号は針葉樹材製)より彫出し、後方左右に束を作りだし、その上部に鉄製環状金具を打ち込んで金属製の棒を通し本体とを繋ぐ。

〔保存状態〕

一号像の下顎は後補か。二号像の下顎も後補の可能性がある。

〔所見〕

眉根や上顎の立体的かつ抑揚の強い表現は、山口・防府天満宮の獅子頭(二頭のうちの正平十年「二三五五」修理銘分)に極めてよく似ている。この防府天満宮の一頭はおそらくは十三世紀前半に遡る遺品で、本像の製作年代もこれと同じ頃と推測され

る。他の鎌倉期の作例と比較しても、前述の防府天満宮像や本像は群を抜く迫力と力強さを備えている。したがって、本像は四国四県においては最古の獅子頭と考えられ、二頭があわせて伝存する点でも極めて貴重な遺品である。おそらくは、十二社権現の祭礼に関わる儀礼において菩薩面・天童面とともに使用されたものと思われる。なお、あわせて本報告書の高嶋賢二氏の論稿を参照されたい。

【参考文献】

田辺三郎助『行道面と獅子頭』『日本の美術』二八五号 至文堂 一九八一年十月

獅子・狛犬 木造 彩色 二軀 鎌倉時代 《彫刻》

〔形状・法量〕

(獅子・阿形)

頭部を左方に向ける。耳が垂れる。目を見開き、開口して上歯列と下歯をあらわす。舌をあらわす。顎に髭を八束あらわし、その先端を巻きあげる。たてがみは上方に八束、下方に十三束とし、そのうち上方左の二束と右の一束、下方の左右前方の各三束の先端を巻きあげる。前脚をそろえ、左足をわずかに開く。後脚をそろえ膝を曲げて座す。前脚には獣指各五指をあらわすが、そのうちの各一指は内側にあらわす。前脚の外側に毛をあらわす。男根はあらわさない。

像高…五三・五(頭頂高) 体幹部幅…二三・〇 奥行…四〇・五

頂―顎…一七・四 面幅…一一・七 襟髪張…二三・二

耳張…一五・八 面奥…二三・九

前足先開…二一・九(外―外) 一一・二(内―内)

後足先開…一七・一(外―外、現状) 七・一(内―内、現状)

(狛犬・吽形)

大略は阿形像に準ずる。頭部を正面に向ける。耳をたてる。頭頂に角の痕跡(斫り)がある。閉口して上歯列と犬歯をあらわして下唇を嚙む。たてがみは上方に八束で、そのうちの背面二束は下方にまで垂れ、下方のたてがみは十三束。右後脚に獣指四本

をあらわす。尾をあらわす。わずかに右前脚を前方に出して立つ。

像高…五三・〇 頭頂高…五一・七 体幹部幅…二三・三 奥行…三五・四

頂上顎…二二・〇 面幅…一一・四 襟髪張…二二・三

耳張…一三・九 面奥…二二・六

前足先開…二四・一(外|外) 一一・三(内|内)

後足先開…二二・三(外|外) 一二・四(内|内)

〔品質・構造〕

〔獅子・阿形〕

針葉樹材(ヒノキ材か)。彫眼。彩色。頭体幹部のほぼ全容をたて一材より彫出する。頭頂部辺りに木心を込める。内割を施し、背中から臀部にかけて別材を短ぎ付ける。上顎を含む面部に別材(広葉樹材製、クスノキ材か)を短ぐ。両脚部の前面材をそれぞれ短ぐ。そのうち右足分は前面材が地付きにおよぶ。その他、右足第一指、両後脚先を短ぐ。

〔狛犬・吽形〕

木造。彫眼。彩色。構造の大略は開口像に準ずる。別材製の尾を短ぐ。右前足の毛は別材製短ぎ付け。両後足先を短ぐ。

〔保存状態〕

〔獅子・阿形〕

左前足先・両後足先・尾・上歯の両犬歯が亡失。右前足第一指が遊離する。上顎を含む面部に別材は後補か。表面の彩色は後補。

〔狛犬・吽形〕

角・尾の一部が欠失。右前足の毛・左後足先・尾・背面の鬣の二材・彩色は後補。

〔所見〕

胸部をやや前方に突き出し顎を後方に引き前脚を踏ん張る姿は、湛慶作と伝わる京都・高山寺像(嘉禄元年(一二二五))や滋賀長浜市・白髭神社像(安貞元年(一二二七))など、鎌倉時代前半の基準作例との共通点が見てとれる。一方でこれらの中央

基準作例に比べると動きに硬さが見られ、やや時代が下る製作と考えられる。おそらくは、十三世紀後半頃の製作で、往時の十二社権現に関わるいずれかの社殿に安置されていた可能性がある。

【参考文献】

伊東史朗『狛犬』(『日本の美術』二七九号 至文堂 一九八九年八月)

ミホミュージアム編『獅子と狛犬 神獣が来たはるかな道』(株)青幻舎 二〇一四年九月

年九月

菩薩面(行道面) 木製 彩色 二十五面 鎌倉時代〜江戸時代(彫15161〜25)

大略いずれも高髻を結い天冠を着けた菩薩形の仮面である。白毫相をあらわし、耳垂部は環状を呈する。木製、彩色とし、構造は高髻材・地髪部材・面部材(天冠台含む)の三材短ぎで、面部材裏の上縁を一段彫りくぼめ受けをつくる。瞳部と鼻孔をうがつ。練り供養に使用されていたため、耳朵や下顎等に欠失や後補が目立ち、表面の彩色も剥落が処々にみられ後補の彩色が塗られているものがある。

それぞれの縦の法量(髻を含む)は次の通り。

一号	四一・二	二号	四〇・五	三号	三九・五
四号	四一・五	五号	四二・二	六号	四〇・八
七号	四〇・〇	八号	四一・五	九号	四二・一
一〇号	四二・〇	一一号	四一・〇	一二号	四〇・五
一三号	四〇・八	一四号	四一・七	一五号	四一・四
一六号	四〇・五	一七号	四〇・〇	一八号	四三・五
一九号	四〇・三	二〇号	四〇・三	二一号	四〇・九
二二号	四二・〇	二三号	四〇・二	二四号	四〇・〇
二五号	四一・七				

作風や構造を考察し、製作年代を推定したうえでA〜Eの五群に分類した。なお、菩薩面の号数は、宝物館に安置されていた順番で便宜的に付したものである。

最も古いA群（六号〜一〇号・二二号）六面は、鎌倉時代中期に遡るとみられる。これらは鎌倉時代前期に活躍した仏師肥後定慶の手になる菩薩像の面部表現に近い。例えば、貞応三年（二二二四）の京大報恩寺准胝観音菩薩立像（六観音菩薩像の内）と比較すると、卵型の頭部の形、ふっくらした頬等似ている点が指摘できる。地髪表現がややおとなしいことから、すこし時代が下った頃の製作と考えられる。構造は奈良当麻寺に所蔵される鎌倉時代の菩薩面と共通し、高髻、地髪部、面部の三材とし、面部の上縁に段差をもうけ地髪部材を受けるつくりまで同じである。これらの中央で造られた作品との作風や構造が似通っていることから、なんらかの影響を受けていたと推測され、石手寺と中央との関わりを考えるうえで興味深い。四国には慶派仏師の手になる現存作例が少なく、肥後定慶周辺の慶派仏師の作品として貴重で、練り供養に用いられた菩薩面として全国的にも重要な作例である。

室町時代に製作されたとみられるB群（一号〜三号・一一号〜一七号・二二一号・二四号・二五号）は、十三面と最も多い。作風や構造はA群のそれと似通っている。A群が本来全六面で構成されていたか、もともと二十五面あり何らかの理由で六面のみが残ったのか様々な状況が想定されるが、B群がA群を手本として造り足された一群であることは確かだろう。地髪の彫り口がやや単調で、面長でのつぺりした顔などA群との造形感覚の差は大きい。B群の中でも作風が異なり、複数の仏師が参加したことをうかがわせる。

C群（五号・一九号・二〇号）三面は、江戸時代にA及びB群を手本に補ったものである。D群（四号・二三号）二面は、他の面とは作風を異にし、この二面を対として用い、何か特別な役割があったのかもしれない。江戸時代後期から明治初期頃の作とみられる。E群（一八号）一面は、C群に形状は似るが、構造が能面状にできており、他面とは一線を画す。C群をもとに近代に造られたものか。C〜E群の菩薩面は、近世〜近代にかけて製作されたものとみられ、何らかの事情で数が足りなくなつたために造り足されたものであろう。練り供養が近世近代を通して、行われていたことを示す作品として貴重である。

昭和四十三年（一九六八）、愛媛県の重要文化財に指定される。なお、指定の員数は二十四面とするが、二十五面であることを確認した。

天童面（行道面） 木製 彩色 二面 鎌倉時代（彫り）

童子形の仮面。一号は縦四一・九cm、二号は縦四四・三cmである。

本面は二面とも、髪を左右に振り分け両耳上にみずら（すべて後補）を結び、目は二重で、顎のくくりをあらわす。天冠（金属製、後補）を付け、頭頂から長くうねった飾りもしくはまげ（後補）をあらわす。構造は、それぞれ一材から彫り出し、裏面をさらって布貼りのうえ漆をかけ、瞳部及び鼻孔をくりぬく。左右のみずらおよび頭頂の飾りは別材を短ぎ付ける。各面で表情が造りわけられており、一号はやや口をひらき上歯をみせ、もう一方の二号は目を三日月状にひらき、口をとじて左右にえくぼをあらわす。彩色にも色の違いがあり、天童面中でも丁寧な造られた作品である。

昭和四十年（一九六五）、愛媛県の重要文化財に指定される。指定名称では天人面とするが、大阪・菅田八幡宮に本面とよく似た童子形面（弘安二年（一二七九）製作）があり、面裏に「天童」とあることから、本面も行道面の天童面にあたとみられる。

天童面は、これまで菩薩面と一具であることは指摘されていたが、具体的な部分については言及されてこなかった。本調査の結果、菩薩面中のA群六面と作風や構造が似ていることから、同時代に一具として製作された可能性が高いことが確かめられた。

最後に、石手寺に伝わる絵画や史料からこれらの行道面を見ていこう。注目されるのは、江戸時代に製作されたとみられる当社祭祀図と当山往古図である。前者には練り供養の様子が祭祀図のように描かれたもので、この頃の法会の形態を知りうえて貴重である。菩薩及び天童に扮した人物が二十五人と四人描かれていることから、天童面はさらに二面存在したかもしれない。また後者の末尾にみられる豫洲安養寺伽藍濫觴に興味深い記述があり、「土御門院 元久元（甲子）年三月三日権現祭礼十二所本地菩薩影向音楽儀式（附）大頭小頭人氏子渡供養從河野四郎通信始能毎月三日」と、

土御門天皇の元久元年（一二〇四）三月三日、熊野権現十二所権現の祭礼として十二所本地菩薩影向音楽儀式が河野通信によって始められたという。この記事は永祿十年（一五六七）の奥書をもつが、史料の信頼性は低いことが指摘されており注意が必要で、もとより元久元年に河野通信が始めたかどうか真偽を確かめることは難しい。現存する行道面や当社祭祀図から、近世に数種の仮面を使用し熊野権現の影向をあらわす練り供養が行われたことは事実と認めてよいだろう。

これらのことから、石手寺で行う練り供養は、一般的な阿弥陀如来をともなう来迎会というよりも、神仏習合を背景とした熊野権現の影向を行道であらわす全国的にもほとんど例をみない形態だったと指摘できる。残念ながら、ほとんど史料が残っていないため、中世にまでこの形態が遡ることができるかどうかは不明である。しかし、鎌倉時代後期の慶派仏師の手になる菩薩面や天童面が残ることから、その頃にはなんらかの行道をともなう法会がはじまっていたと推測される。

【参考文献】

- 桐山宗吉『菩薩の面』（兵庫県観光連盟 一九六六年六月）
- 田辺三郎助『行道面と獅子頭』（『日本の美術』二八五号 至文堂 一九八一年十月）
- 西田多江「天人面」解説（『国宝弘法大師空海』展実行委員会他編『国宝弘法大師空海』図録 『国宝弘法大師空海』展実行委員会他 一九九九年九月）
- 岩佐光晴「行道面 天童」解説（東京国立博物館編『美術の中のこどもたち』図録 東京国立博物館 二〇〇一年十月）
- 龍谷大学龍谷ミュージアム他編『極楽へのいざない―練り供養をめぐる美術―』図録（龍谷大学龍谷ミュージアム他 二〇一三年九月）

（まつばら・きよし／普通寺宝物館学芸員）
 （じんの・ゆうた／神奈川県立歴史博物館学芸員）



石手寺阿弥陀堂調査



石手寺講堂調査



彫 2-1 阿弥陀堂・阿弥陀如来坐像



彫 1-1 本堂・薬師如来坐像



彫 2-2-2 同・天部形立像（右方像）



彫 2-2-1 阿弥陀堂・天部形立像（左方像）



彫3-1-1～3 三重塔・釈迦如来及び両脇侍坐像



彫3-1-1 同・像底



彫3-1-1 同・釈迦如来坐像



彫 3-1-3 同・普賢菩薩坐像



彫 3-1-2 三重塔・文殊菩薩坐像



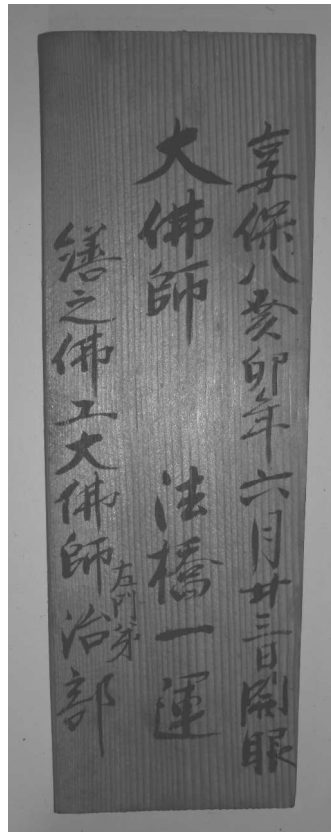
彫 13-1-1 同・像底



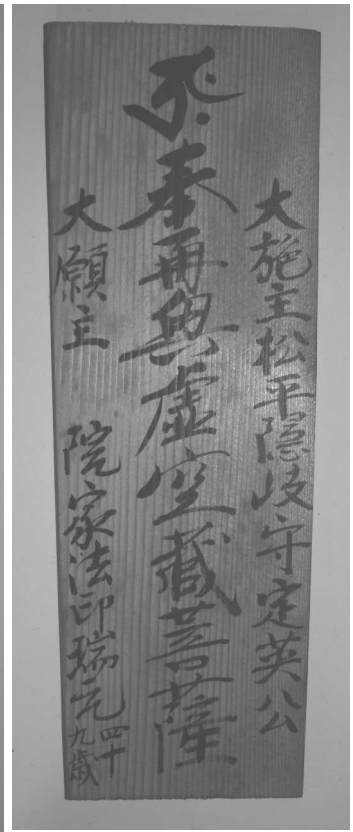
彫 13-1-1 講堂・虚空蔵菩薩坐像



彫 13-1-2 講堂・虚空藏菩薩坐像 (胎内仏)



同・裏面



彫 13-1-1 同・像内木札表面



彫 13-3 同・毘沙門天立像



彫 13-2 講堂・不動明王立像



彫 15-1-2 宝物館・獅子頭 (2号)



彫 15-1-1 宝物館・獅子頭 (1号)



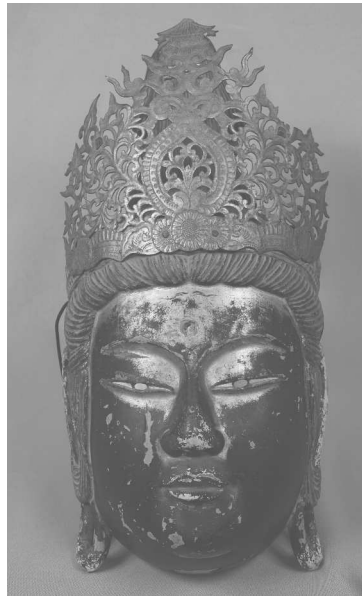
彫 15-4-2 宝物館・狛犬 (吡形)



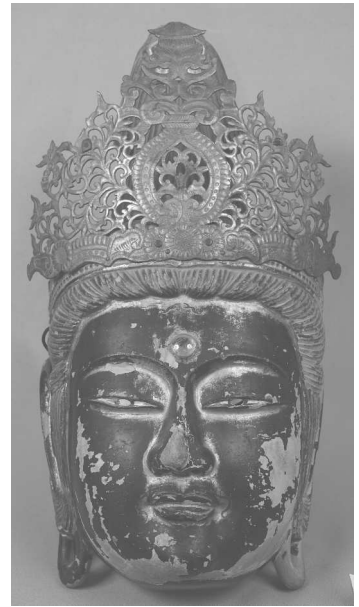
彫 15-4-1 宝物館・獅子 (阿形)



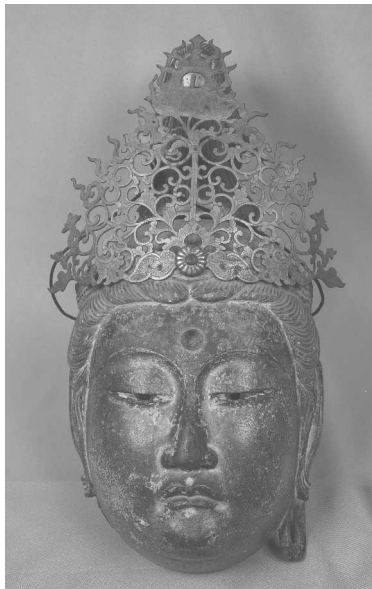
彫 15-16-3 同 (3号)



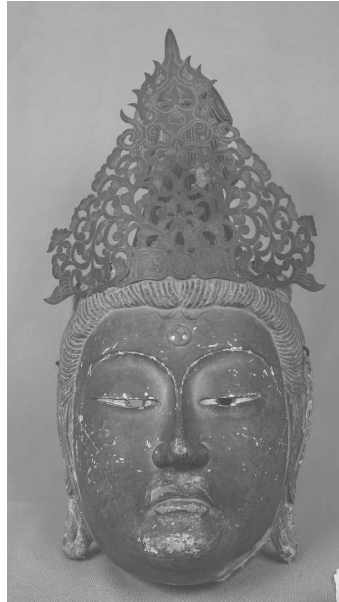
彫 15-16-2 同 (2号)



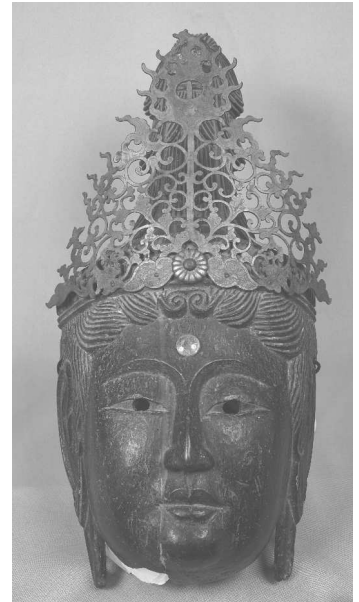
彫 15-16-1 宝物館・菩薩面 (1号)



彫 15-16-6 同 (6号)



彫 15-16-5 同 (5号)



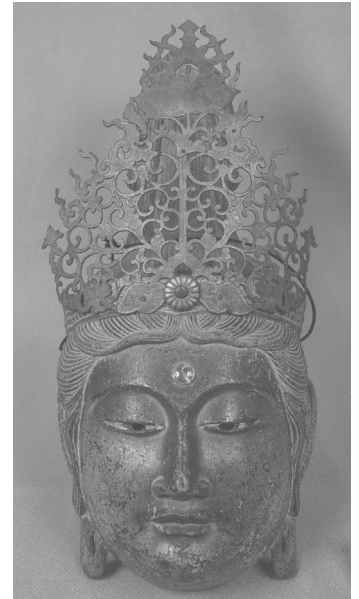
彫 15-16-4 同 (4号)



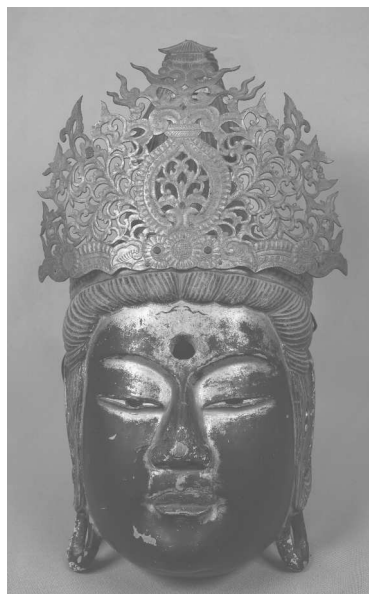
彫 15-16-9 同 (9号)



彫 15-16-8 同 (8号)



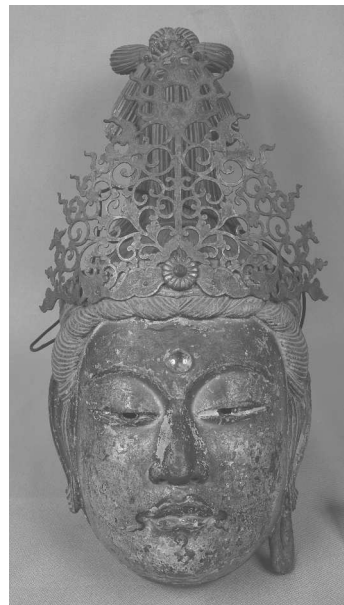
彫 15-16-7 同 (7号)



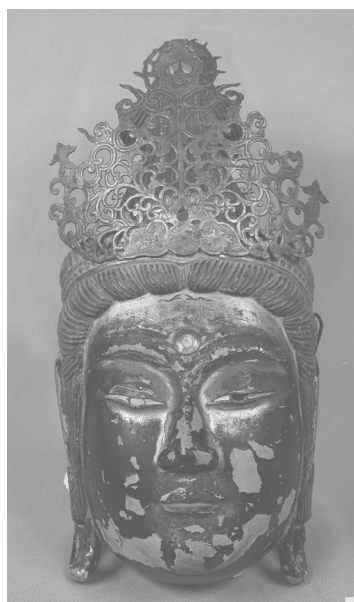
彫 15-16-12 同 (12号)



彫 15-16-11 同 (11号)



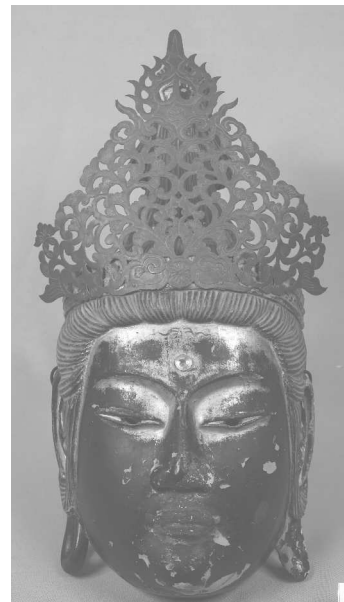
彫 15-16-10 同 (10号)



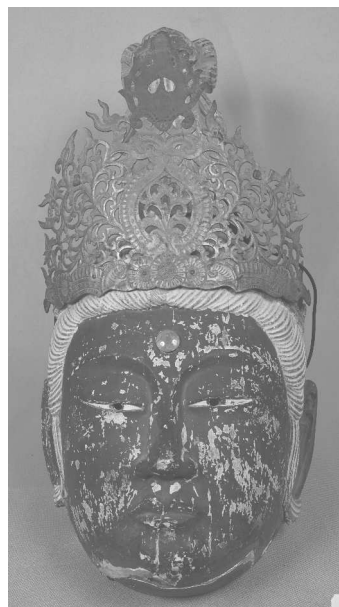
彫 15-16-15 同 (15号)



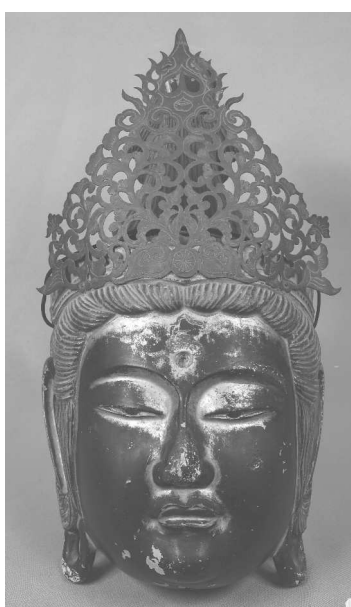
彫 15-16-14 同 (14号)



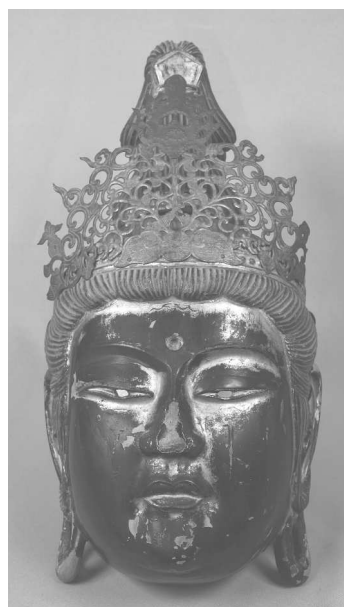
彫 15-16-13 同 (13号)



彫 15-16-18 同 (18号)



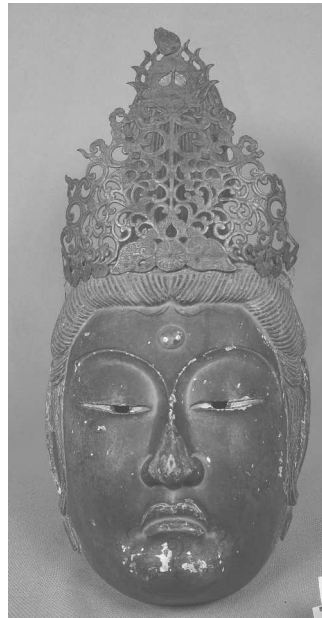
彫 15-16-17 同 (17号)



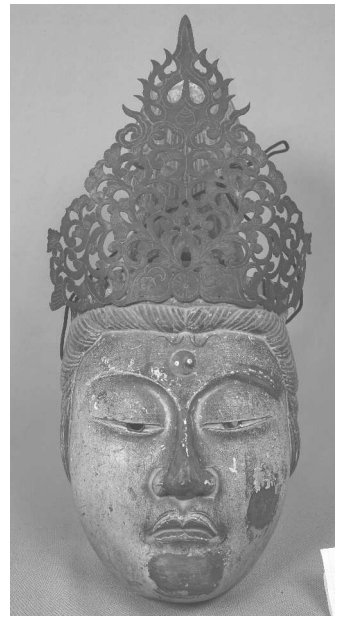
彫 15-16-16 同 (16号)



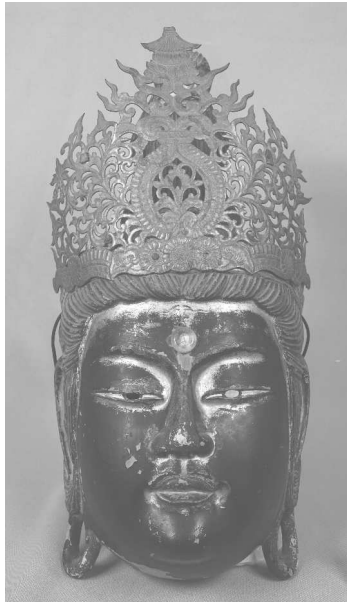
彫 15-16-21 同 (21号)



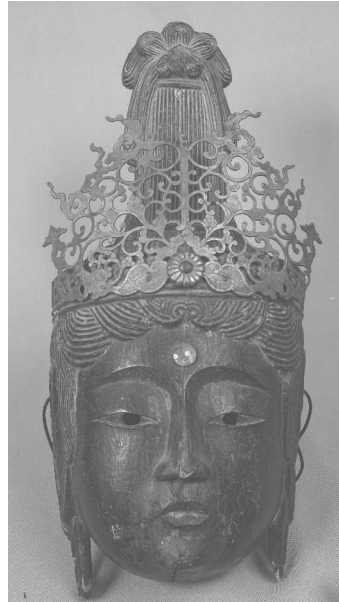
彫 15-16-20 同 (20号)



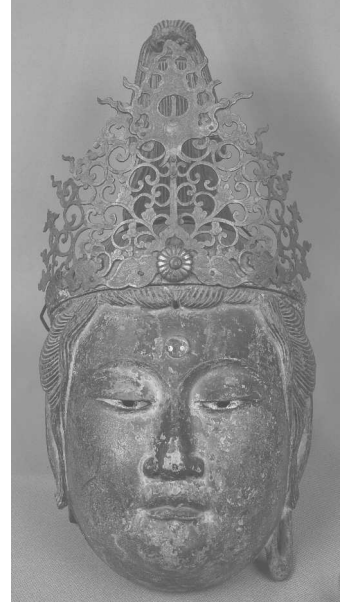
彫 15-16-19 同 (19号)



彫 15-16-24 同 (24号)



彫 15-16-23 同 (23号)



彫 15-16-22 同 (22号)



彫 15-17-2 同 (2号)



彫 15-17-1 天童面 (1号)



彫 15-16-25 同 (25号)

石手寺彫刻目録

本堂

調査番号	名称	員数	品質・構造	法量(cm)	製作年代	作者	備考
彫1-1	薬師如来坐像	1	寄木造 玉眼 現状古色	像高:67.2	南北朝～室町時代(面部は江戸時代の後補)		解説参照
彫1-2-1	日光菩薩立像	1	寄木造 彫眼 肉身金泥、衣部漆箔	像高:45.5(現状)	江戸時代		
彫1-2-2	月光菩薩立像	1	寄木造 彫眼 肉身金泥、衣部漆箔	像高:44.6(現状)	江戸時代		
彫1-3-1～12	十二神将立像	12	木造 彫眼 現状古色	像高:40.0～36.1	室町時代		

阿弥陀堂

彫2-1	阿弥陀如来坐像	1	寄木造 彫眼 現状素地	像高:107.4	平安時代		解説参照 銘記あり
彫2-2-1	天部形立像(左方像)	1	一木造 彫眼 現状素地	像高:150.9	平安時代		解説参照
彫2-2-2	天部形立像(右方像)	1	一木造 彫眼 現状素地	像高:154.4	平安時代		解説参照

三重塔

彫3-1-1	釈迦如来坐像(中尊)	1	寄木造 玉眼 金泥塗・彩色・截金文様	像高:53.2	南北朝時代		解説参照
彫3-1-2	文殊菩薩騎獅子像(右脇侍)	1	寄木造 玉眼 金泥塗・彩色・截金文様	像高:36.2	南北朝時代		解説参照
彫3-1-3	普賢菩薩騎象像(左脇侍)	1	寄木造 玉眼 金泥塗・彩色・截金文様	像高:37.3	南北朝時代		解説参照

経蔵

彫7-1-1	傳大士像	1	寄木造 玉眼 彩色	像高:52.1	江戸時代		
彫7-1-2	普建像(左脇侍)	1	寄木造 玉眼 彩色	像高:47.0	江戸時代		
彫7-1-3	普成像(右脇侍)	1	寄木造 玉眼 彩色	像高:48.0	江戸時代		

護摩堂

彫8-1-1	不動明王立像(中尊)	1	木造 玉眼 肉身現状古色 衣部には截金文様	像高:52.5	鎌倉時代		愛媛県指定文化財
彫8-1-2	矜羯羅童子像(左脇侍)	1	木造 彫眼 現状古色 衣部に截金	像高:26.0	鎌倉時代		愛媛県指定文化財
彫8-1-3	制多迦童子(右脇侍)	1	木造 彫眼 現状古色 衣部に截金	像高:27.0	鎌倉時代		愛媛県指定文化財

講堂

彫13-1-1	虚空蔵菩薩坐像	1	寄木造 玉眼 彩色 白土地	像高:81.9	江戸時代・享保8年[1723]6月23日	大仏師法橋一運	解説参照 銘記あり 像内に木造虚空蔵菩薩坐像(彫13-1-2)を納入
彫13-1-2	虚空蔵菩薩坐像(胎内仏)	1	木造 玉眼 肉身体は素地仕上げ	像高:27.2	江戸時代		解説参照 銘記あり 木造虚空蔵菩薩坐像(彫13-1-1)の像内に納入
彫13-2	不動明王立像	1	一木造 彫眼 現状古色	像高:98.8	平安時代		解説参照
彫13-3	毘沙門天立像	1	一木造 彫眼 現状古色	像高:94.6	平安時代		解説参照
彫13-4	覚鑿上人坐像	1	寄木造 玉眼 彩色	像高:53.8	江戸時代		

彫13-5	阿弥陀如来立像	1	一木造 彫眼 肉身部金泥塗、衣部漆箔	像高:19.5	江戸時代		
彫13-6	如来坐像	1	寄木造 彫眼 現状古色	像高:19.0	江戸時代		社殿型厨子は転用か 厨子右扉内側墨書銘「石手寺住持法印雲龍ノ于時寛文十三癸丑年八月朔日権現下遷宮ノ伽藍御再興 松平隠岐守定長公ノ普請大奉行ノ門口〔寫〕加口口ノ石橋八兵衛ノ吉村三口門」
彫13-7	僧形坐像	1	銅製鑄造 彫眼 鍍金	像高:15.8	江戸時代あるいは近代以降		木箱は転用か 13-7と13-8は同じ木箱に納められる 木箱背面墨書銘「十二社権現ノ内ノ石手寺ノ大正六年四月新調ノ現住大本」
彫13-8	閻魔王坐像	1	銅製鑄造 彫眼 鍍金	像高:15.2	江戸時代あるいは近代以降		木箱は転用か 13-7と13-8は同じ木箱に納められる 木箱背面墨書銘「十二社権現ノ内ノ石手寺ノ大正六年四月新調ノ現住大本」
彫13-9	善如龍王・弁才天・水天像	3	一木造 彫眼 素地に金泥彩	【善如龍王】像高:12.6(現状)【弁才天】像高:9.4【水天】像高:5.6	江戸時代・宝暦7年(1757)		上框裏面朱書銘「辨才天ノ善女龍王ノ水天ノ宝暦七丁丑歳夏干魃ニテ當山ニテ請雨祈念兩度勤行之處兩度ノ共忽ニ瑞雨有右兩度之内一度ハ温泉一郡ノ請雨也瑞雨限一ノ郡不及他郡諸人爲奇異思召祈念砌忽有瑞雨川上脇之淵ニノ社建立永代當山奥院ト奉崇祈誓ス依之郡方ヨリ社建立シ同年十一月四日彼地ニ奉遷座ノ願成就ノ遷宮當日郡方ノ役人ノ手代大庄屋ノ出合ノ石手寺廿二世瑞澄誌、木箱正面墨書「脇之淵ノ三所権現」、木箱背面墨書「寶暦七丁丑歳ノ十一月四日ノ熊野山虚空蔵院ノ瑞澄造之」、木箱底面墨書「毎年四月初辰巳祭日ニ定」
彫13-10	千手観音坐像	1	寄木造 玉眼 金泥塗	像高:14.3(現状)	江戸時代		
彫13-11	歓喜天像	1	銅造 彫眼 鑄造	像高:7.5	江戸時代		
彫13-12	阿弥陀如来立像	1	寄木造 玉眼 肉身部は金泥塗 衣部は漆箔仕上げ	像高:59.0	江戸時代		台座裏墨書銘①「西口〔雲〕宗閑ノ口〔方〕口〔雲〕妙西ノ一譽浄心ノ口〔助〕信善」、台座裏墨書銘②「信山仰圓信士ノ覺源妙種信女」、台座裏墨書銘③「妙源ノ常心ノ光岸ノ浄口〔悦〕ノ妙智ノ浄口〔界〕ノ来三ノ可月ノ口〔霞〕源ノ智口〔界〕ノ妙三ノ妙正ノ休是ノ宗清ノ妙宇ノ妙性ノ智浄ノ是光」、台座裏墨書銘④「一譽専口口ノ妙林心清宗津ノ祐意妙怒智仰」
彫13-13	行者立像	1	鉄製鑄造(前後合せ型) 彫眼	像高:27.3	江戸時代あるいは近代以降		
彫13-14	弘法大師坐像	1	寄木造 玉眼 彩色	像高:27.5	江戸時代あるいは近代以降		
彫13-15	菩薩形像断片a、b、c、d	4	木造 漆箔仕上げ 針葉樹材製(ヒノキ材か) 寄木造	【断片a】像高(現状):27.3【断片b】像高(現状):10.3【断片c】像高(現状):18.4【断片d】像高(現状):10.2	江戸時代	松田善慶	断片a,b,c,dは同じ木箱に入れられる 断片bは断片aの一部か 茶堂に安置の厨子入り菩薩像(未調査)と本来一具か(要確認) 松田善慶は『京羽二重』[貞享2年(1685)]所収の「法橋善慶」か 近世仏師事績データベース参照 【断片a】像内墨書銘「運慶作 前口」、【断片c】裏面墨書銘「運慶作 京都法橋松田善慶口〔定か〕」、「口〔定か〕智ノ作之」
彫13-16	地藏菩薩坐像	1	木造 彫眼 現状古色	像高:17.2	江戸時代		

宝物館

彫15-1-1	獅子頭	2	一木造 彫眼 彩色 一部漆箔	全高:32.9,最大幅: 45.0,奥行:49.2	鎌倉時代		解説および高嶋氏論稿参照 愛媛県指定文化財
彫15-1-2	獅子頭	2	一木造 彫眼 彩色 一部漆箔	全高:31.8,最大幅: 40.8,奥行:48.2	鎌倉時代		解説および高嶋氏論稿参照 愛媛県指定文化財
彫15-2	閻魔王坐像	1	寄木造 彫眼 彩色	像高:76.2	江戸時代		
彫15-3	奪衣婆坐像	1	寄木造 玉眼 彩色	像高:48.7	江戸時代		
彫15-4-1	狛犬(阿形・獅子)	1	一木造 彫眼 彩色	像高:53.5	鎌倉時代		解説参照
彫15-4-2	狛犬(吽形・狛犬)	1	一木造 彫眼 彩色	像高:53.0	鎌倉時代		解説参照
彫15-5	大黒天立像	1	一木造 彫眼 古色	像高:45.5	江戸時代		
彫15-6	薬師如来坐像	1	寄木造 玉眼 彩色	像高:40.3	室町時代		
彫15-7-1	狛犬(阿形・獅子)	1	木造 彫眼 彩色	像高:47.0	江戸時代		
彫15-7-2	狛犬(吽形・狛犬)	1	木造 彫眼 彩色	像高:45.2	江戸時代		
彫15-8	阿弥陀如来坐像	1	木造 玉眼 肉身金泥 衣部漆箔	像高:34.1	江戸時代		
彫15-9	蔵王権現立像	1	寄木造 玉眼 彩色	像高:42.4	江戸時代		
彫15-10	不動明王立像	1	一木造 彫眼 古色	像高:42.5	江戸時代あるいは近代以降		
彫15-11	薬師如来立像	1	寄木造 玉眼 古色	像高:47.3,厨子高: 105.0	江戸時代		
彫15-12	地藏菩薩立像	1	寄木造 彫眼 彩色	像高:81.5	江戸時代		
彫15-13	僧形像頭部	1	木造 彫眼	高さ:19.5	江戸時代		
彫15-14	大黒天立像	1	一木造 彫眼 古色	像高:25.5	江戸時代あるいは近代以降		
彫15-15	阿弥陀三尊懸仏	1	銅造 鍍金	面径:57.0	室町時代・応永 22年(1415)		裏面墨書「奉造立御躰／應永廿二年乙未七月十三日／大願主慶通／敬白」松山市指定文化財
彫15-16-1 ～25	菩薩面(行道面)	25	木造 彫眼 彩色	全高:43.5～39.5	鎌倉時代～江戸時代		解説参照 愛媛県指定文化財
彫15-17-1	天童面(行道面)	2	木造 彫眼 彩色	全高:41.9	鎌倉時代		解説参照 愛媛県指定文化財
彫15-17-2	天童面(行道面)	2	木造 彫眼 彩色	全高:44.3	鎌倉時代		解説参照 愛媛県指定文化財

凡例

- ・本データは2014年2月11日から2016年12月6日までの石手寺文化財調査において確認された彫刻および工芸資料の一部を集成した。
- ・旧字体・異体字は、現在のPC環境で表記可能な限りにおいてそのまま使用した。
- ・現在のPC環境で表記できない異体字は正字に改めた。
- ・表記の難しい文字記号等は〔 〕内に説明した。
- ・未読文字のうち字数がわかるものは□で表し、推定可能な場合は〔 〕内に表記した。
- ・文字数が確定できない未読部分は〔 〕で表記した。
- ・改行は「／」で表した。また、記述の順序は原則文意に沿った。
- ・品質(樹種や素材)は目視による判断である。

石手寺の木造獅子頭について

高嶋 賢二

愛媛県松山市の石手寺にある「木造獅子頭」（愛媛県指定有形文化財（彫刻））について、その基礎データと所見は本報告書の松原稿をご参照いただくとし、ここでは俯瞰的な視点からその特徴について述べてみたい。

獅子頭の研究史

獅子舞をはじめ獅子が登場する芸能は、古代から現在まで全国各地にさまざまな形態で伝えられている。それらにほぼ等しく使用される獅子頭の研究は、決して多いとは言えないが、中世以前に遡る遺品を対象に、おもに美術史の分野から調査研究が進められてきた。

むろん以前から仮面研究の中で獅子頭についての言及や⁽¹⁾、地域を限定した獅子頭研究⁽²⁾などはあったが、獅子頭に特化し、全国的な視野で俯瞰的に網羅した研究は、彫刻史の面から田辺三郎助氏の先駆的な研究⁽³⁾が挙げられる。その後、田辺氏の総論も所載した町田市立博物館の企画展⁽⁴⁾等を機に、獅子頭を対象とする研究も増え、代表的なものに奈良・手向山人幡宮の木造獅子頭を取り上げた伊東史朗氏の研究⁽⁵⁾や、近年では、建長四年（一一五二）銘が発見され、正倉院以外では在銘最古となった愛知県愛西市日置八幡宮の木造獅子頭に関連して、蔭山誠一氏が考古学の視点から型式学的手法で編年を試みた研究⁽⁶⁾などが注目される。本稿ではこれらの成果もふまえつつ、民俗芸能としての視点も交えて、石手寺の木造獅子頭についての所見を整理しておきたい。

獅子の芸能と菩薩の芸能

獅子の芸能が日本にもたらされたのは七世紀前半。大陸から伝来した伎楽や舞

楽といった仮面芸能の中ではじめに現れるのが「師子」であった。例えば、正倉院に現存する木造師子頭九面⁽⁷⁾は、天平勝宝四年（七五二）四月九日の東大寺の大仏開眼会において演じられた伎楽で使用されたことが分かっている。

その後、諸大寺の法会や儀式が整備される中で、行道という列をなして練り歩く儀式が定着していくが、その行列の先導や式の冒頭に現われる一群の中に獅子が出る記録が散見される。例えば、元永元年（一一一八）の「最勝寺供養式」⁽⁸⁾（統群書類従⁹）では、僧侶や公卿たちが揃うと、式の冒頭に楽人たちが乱聲を発し、獅子が現われて舞台の東南と西南の隅に伏せ、「師子舞」を舞っている。また同記録にはその後、舞台上に迦陵頻・胡蝶各八人とともに、「菩薩一六人」も登場している。類似した例は承保四年（一〇七七）の「法勝寺供養次第」⁽¹⁰⁾（同）等、いくつか確認出来る。獅子と大勢の菩薩が同じ場に登場する行道の形式が、寺院の法会や儀式の場でおこなわれていた事例があることは周知のことではあるが、石手寺に伝来する獅子頭と、天童面や一部の菩薩面も同じ時期に制作されたとみられ、当初は似たような行道がおこなわれていたことも考えられよう。

一方で菩薩の登場する芸能といえ、阿弥陀如来を中心に観音・勢至をはじめとする二十五菩薩が現われ、臨終に際した衆生を救済する様を演じる来迎会（迎講・練り供養）があり、奈良・當麻寺や岡山・弘法寺などが著名だが、四国には伝承例が少ない。四国内での菩薩面の遺品は、高知県日高村の小村神社に平安期とする木造菩薩面二面（重要文化財）があり、そのほか時代は下るが、高知県宿毛市鶏神社⁽¹¹⁾や山田八幡宮⁽¹²⁾、愛媛でも東温市浮島神社⁽¹³⁾などに各一面が伝来する。いずれも行道面と思われるが、かつてどのように使用されていたのかは不詳である。石手寺のまとまった菩薩面群は詳細不明ながら貴重な例といえる。なお、獅子頭や菩薩面がそろって残されている例は、関連不詳の例もあるが、奈良・法隆寺、広島・御調八幡宮、和歌山・上花園神社⁽¹⁴⁾、などが知られる。石手寺で両者が共存した芸能環境が、如何なるものであったのかは、今後の課題のひとつであろう。

と量感のある一群と、御調八幡宮から丹生神社・石川白山神社・山梨諏訪神社・花尾八幡宮・熊野座神社などのやや扁平な感のある一群である。主流は前者とみられ、後者は古い作に扁平な趣は目立たず、やや彫りが弱く前後の寸がやや延びたくらいだが、時代が下がるにつれて扁平さが際立ってくるのだという。

さらに田辺氏は、石手寺頭に関しては、理由についての言及はないが、「中間的な形態のもの」⁽¹⁴⁾と位置付けている。石手寺頭の抑揚ある肉付き、鎌倉期以降の頭に顕著になるといふ太い眉、裏面を丁寧に削って漆を塗る仕上げなどは、この時期のかさ高の一群にも通じるものがあり、特にこの時期の頭に、下脛の弧が上昇し眉に沿って伸びる上脛に近づいて切れ長い目尻を形作る造形の多い中で、上下脛が共に近づいて丸くまとまった形をなす目尻の形状は、山口・防府天満宮それとたいへん近い。ただし、かさ高の一群に比して鼻頭部と頭頂部の高低差が少ないものの、扁平とまでは言い難いという意味の「中間」であろうか。

(三) 伊東史朗説から

田辺氏のかさ高・扁平の分別に関連して、伊東氏は二つの観点で捉えなおす興味深い提案をしている⁽¹⁵⁾。すなわち、基本構造となる頭と下顎の連結方法と、舌を別製とするか、下顎と共彫りとするかという点である。

連結方法は二通りあって、かさ高の正倉院・手向山等の頭にみられる「両頬部の内側に下顎部から出た二本の柄が入り軸棒で両者を貫くもの」と、扁平な御調・丹生などの頭にみられる「両頬部と下顎部が上下に合口重ねとなり、下顎部に打たれた環金具または共木彫出の爪形突起に両頬から横棒を通す」ものである。もちろんこれのみがかさ高と扁平の区別点ではないが（例えばかさ高とされる防府天満宮の連結は後者）、石手寺頭の連結方法は、下顎部後部から出た二本の柄に付けられた環金具に軸棒が通されており、奇しくも両連結方法の折衷型ともいふべき手法が見て取れる。ある意味でこれも中間形態といえよう。

また舌の別製の有無は、これも例外はあって明確な分別基準ではないが、正倉院・法隆寺などの場合、下顎後端と舌後端をU字に湾曲した金具で連結して固定

し、口の開閉にあわせて口腔内で舌が浮いて揺れているように見えるという工夫がなされており、伊東氏は「これは広い像内、つまりかさ高いつくりだからこその出来る仕様と推定され」と指摘し、正鶴を射ている。翻って石手寺頭に舌はなく、下顎部（彫「口」は後補）の後端には割れを補修した鏝こそあれ、舌と連動する金具が付いた跡も確認できない。舌はあったとしても軸棒に結ぶなど別の設置方法が採られていたと思われる、ここでもやはり、かさ高の基準作例とは異なる造形をみる事ができる。

(四) 蔭山誠一説から

蔭山氏は田辺氏の研究を参考に、獅子頭の正面から見た形態と、側面から見た形態をそれぞれ以下の三形式に分類した⁽¹⁶⁾。すなわち正面観は、獅子型・半球型・箱型と推移し、側面形態（上顎部の縦断面形）は、鼻先―鼻梁―額にかけての高さや傾斜（徐々に平坦になる）、上唇部周辺の抑揚（強いうねりが徐々に抑えられ、膨らみが前に移り角張った印象を与える）、眼と眉の側面後方の伸び（徐々に短くなる）などを基準にA型・B型・C型とし、東海地域や中国地方西部の在銘品を中心に作例を検討する中で、やや中間的な形態や例外もあるが、おおむね正面・側面の三形式（とくに前二者）が時代順に推移すると論じた。とりわけ最も古い正面観獅子型と側面形態A型は、一四世紀前半頃までの作例に主であり、続く正面観半球型と側面形態B型が一四世紀後半以降に続くとした。

石手寺頭については、正面観は、やや扁平ながら、「猫科動物の骨格や肉付きを反映」し、「頭部頂部が比較的平坦かやや丸みをもつもので、頭部の左右と上顎頬部がやや張り出した形態」と規定する「獅子型」に該当しており、側面形態は鼻梁の肉付き等に固体差はあるが、上唇のうねりや目の造形を考慮するとA型に該当すると思われる、古形を示す造形で遜色ないと思われる。

さらに蔭山氏は、獅子頭の植毛の位置や数量とともに、その表現も植毛から線刻・彩色・彫刻などへの変遷があるとするが、石手寺頭の場合、眉・上下唇などに植毛痕が確認され、古い獅子頭の表現がなされていることが確認できる。

以上、三氏の論考から石手寺頭の位置づけを試みた。石手寺頭は作例の古さに加え、かさ高と扁平という獅子頭を二形態でみる流れのある中で、その中間型にあたるという特徴が見て取れた。

まとめにかえて

詳述する紙幅がないが、私見によれば、獅子頭のかさ高と扁平の二形態の出現は、最も古い正倉院頭を範として前代の形態をおおむね踏襲することに主眼を置いて造像を重ねたかさ高の系譜に対し、獅子の視界や獅子頭の動かし方等に応じて、少しずつながら柔軟に形態を変容させる中で扁平となっていた系譜の一群があるということかと考える。

扁平な獅子頭の一群は、獅子頭が他の仮面と異なる最も大きな違いのひとつである「開閉する口」という特徴を、特化し淘汰していく過程で、頭全体としては扁平に見えてくる形態を獲得していったものということができまいか。

大きな口を際立たせた頭+胴衣に包まれた胴体という、二人立ち獅子特有の全身像としての存在が求められた獅子の姿は、寺社の行道や神幸行列、またはそれを基盤とした獅子舞等の神事芸能、一部の田楽・田遊びや獅子神楽以外の神楽等で、現行事例の中でも見ることができるとは、ここでは獅子の全身像をみる中で、獅子頭の細部の形態変容には比較的寛容な一面もあつたのかもしれない。

その一方で、四足を伴う獅子の全身像こそ崩れてくるが、獅子頭の内部や後方に把手などを作り込み、可動する口で激しい歯打ちをすることを特徴として、室町期以降に猿楽能を取り入れて発生する東北地方の山伏神楽・番楽⁽¹⁷⁾、さらにそうした獅子神楽の流れを組んで、逆に獅子頭内部に演者の頭を入れて仮固定して両手を使える工夫を生み、近世初頭頃に放下と合わさる形で確立して全国的に流行する大神楽などは、いずれもかさ高な獅子頭の一群から発生していることを考慮すれば、両者のその後の変遷はまったく対照的であるといえよう。

獅子頭に特徴的な大きく動く口を、外観的に特化させた扁平形の頭と、機能

面で特化させたかさ高の頭。両者はさらに各地に伝播していく過程で、形態の細分化や置換・変容等を各地で繰り返しながら、現在の多様な獅子の芸能の一端を形成していったものと考えられる。

石手寺の木造獅子頭は、四国では最古となる古作である点もさることながら、二頭が一对揃いである点、ほぼ同時期の作と思われる天童面や一部の菩薩面とも現存である点もあわせて、往時の芸能の姿をたどることができる数少ない好例であつた。加えて、その獅子頭の形態は、かさ高から扁平へと移る移行期の形状ともいえる中間的なもので、後の獅子頭造形の二分化を予兆する一例として、まことに貴重な作例のひとつでもあつたということができるのである。

(たかしま・けんじ／伊方町立町見郷土館)

註

(1) 野間清六『日本假面史』(藝文書院、一九四三年)、山内登貴夫『民俗の仮面』(鹿島研究所出版会、一九六七年)、後藤淑『中世仮面の歴史的・民俗学的研究』(多賀出版、一九八七年)、同『民間仮面史の基礎的研究』(錦正社、一九九五年)など。

(2) 司東真雄・沼山源喜治編『岩手の獅子頭(権現さま)』(北上史談会、一九七五年)、白杵華臣『防長の獅子頭』(防府天満宮、一九九四年)など。

(3) 田辺三郎助「先導者の系譜」同編『行道面と獅子頭』(日本の美術第一八五号)(至文堂、一九八一年)、同「獅子頭の変遷―形態と技法―」『季刊悠久』第二六号(桜楓社、一九八六年)、同「日本の獅子頭の変遷―形態と技法―」『獅子頭―西日本を中心に―』(町田市立博物館、一九九七年)など。

(4) 町田市立博物館平成八年度企画展『獅子頭―東日本を中心に―』・同九年度企画展『獅子頭―西日本を中心に―』。および同展図録。

(5) 伊東史朗「転書会所用の仮面 付 獅子頭の史的概観」『南都佛教』八〇号(南都仏教研究会、二〇〇一年)

(6) 蔭山誠一「愛知県日置八幡宮所蔵木造獅子頭考」『愛知県埋蔵文化財センター研究紀要』第九号(愛知県埋蔵文化財センター、二〇〇八年)

- (7) 近年、そのうちの一面に天平勝宝四年(七五二)を示す銘文が発見され、東大寺大仏開眼会で使用されたことが改めて明確になった。『正倉院紀要』第三〇号(正倉院事務所、二〇〇八年)の「年次報告」「調査」のうち、伎楽面の木彫第一三〇号(獅子頭)の報告(執筆は西川明彦・山片唯華子・成瀬正和・中村力也・飯田剛彦)参照。
- (8) (1) 後藤一九八七年、四八八頁
- (9) (1) 後藤一九八七年、四九二頁
- (10) (1) 後藤一九八七年、四八〇頁
- (11) 松岡久美子「高野山「和歌山県」とその周辺」解説『極楽へのいざない―練り供養をめぐる美術―』(龍谷大学龍谷ミュージアム・毎日新聞社・京都新聞社、二〇一三年) 八八頁
- (12) 『「仮面の神々―土佐の民俗仮面展―」展示解説図録』(財団法人高知県文化財団歴史民俗資料館、一九九二年) 二七頁
- (13) (3) に同じ。
- (14) (3) 田邊一九八六年、および田邊一九九七年一一頁。
- (15) (5) に同じ。
- (16) (6) に同じ。
- (17) 山路興造「山伏神楽・番楽の源流」『民俗芸能研究』第六号(民俗芸能学会、一九八七年)

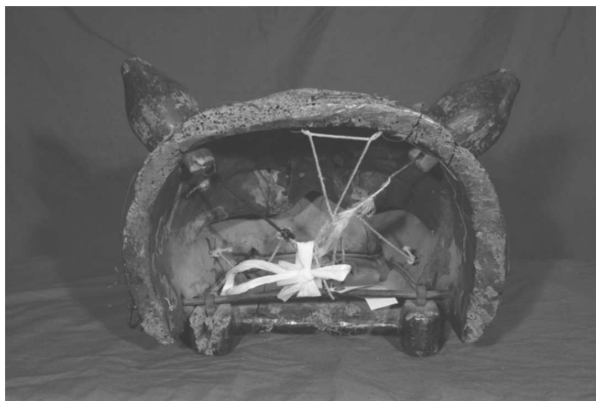


石手寺蔵 木造獅子頭 (彫刻15-1-1)





石手寺蔵 木造獅子頭 (彫刻15-1-2)



石手寺の仏画

武田 和昭

はじめに

石手寺における本格的な文化財調査（絵画）は、昭和三十九年に文部省文化財保護委員会により実施された「四国八十八箇所を中心とする文化財調査」⁽¹⁾が最初である。その際に石手寺の涅槃図も新たに見出され、調査後、間もない昭和四十年四月に「絹本及び毛髪地著色仏涅槃図」の名称で愛媛県の文化財（絵画）に指定された。調査当時の報告書⁽²⁾には「石手寺の毛髪織込みの仏涅槃図で、鎌倉時代の作」との簡単な記述があるのみで、詳しい内容は記されていない。その後は、特に詳しい調査が行われた報告書などはない。今回、宝物館内に納められている涅槃図やガラスケース内に懸垂されている仏画数点、さらに別の箱に納められていた仏画一点を調査する機会に恵まれたので、簡単に報告することとした。

一 宝物館安置の仏画

(1) 展示ケース内懸垂の仏画

現在、石手寺の宝物館には高野四社明神像、薬師三尊十二神将像、執金剛神像など数点の仏画が確認される。これらの仏画は版木や仏像など数多くの他の宝物が並べられている陳列台の後壁面に常時、懸垂されている状態である。今回の調査では、これらの仏画をガラスケースの中から搬出することができず、ガラス越しに目視しての調査であった。したがって、法量なども計測できず、ここでの調査報告はあくまで概略的なものであることをご了解いただきたい。

絹本著色薬師三尊十二神将図 一幅

本図は薬師如来を中央に大きく描き、その下辺に日光・月光菩薩を置き、さら

に両辺に十二神将を配した通例の図様である。薬師如来のやや精彩に欠ける面貌表現や文様の簡略化がみられることから、その制作は室町時代末期～江戸時代初期頃かと推察される。

著色高野四社明神像 一幅

通例の高野四社明神像と変わりなく、画面向かって右上に丹生明神、左上に高野明神、下段向かって右下に気比明神、左下に巖島明神を配している。形式化した像容や彩色から江戸時代中期頃かと思われる。

絹本著色将軍地藏像 一幅

本図は右手に錫杖（先端に三弁宝珠付き）を持ち、左手に宝珠を捧げ持ち、白馬に乗る甲冑を着けた像が描かれている。これは中世以降にみられる戦勝を祈願する将軍地藏で、比較的珍しい作例である。制作は江戸時代中～後期頃かと思われる。

絹本著色菩提樹神像（図1） 絹本著色執金剛神像（図2） 二幅

図1は画面向かって左下に「菩提樹神右四」とあり、本図が菩提樹神であることが判明する。頭部に宝冠を戴き、着衣は內衣を着け、その上に襦袢を着けて合掌する。その後方に花瓶を持つ像と布に包まれた箱状のものを持つ像の二体の侍者が描かれる。

図2は画面向かって左下に「執金剛神左五」とあることから、本図は「執金剛神」であることが判明する。右手に金剛杵を持ち、忿怒の形相で背後に白く長い刀のようなものを持つ人物、他の一体は牛頭のような頭部を表している。これら二幅の仏画は最新の研究⁽³⁾から「金光明懺法」に用いられる諸天図の内の二尊であることが判明した。本図は先記のとおり、ガラスケース越しの調査の為、制作地や制作年代については渡来画（宋元画）または日本での制作（南北朝～室町時代頃）とするに留め、詳しくは今後の調査・研究をまちたい。全国的にも珍しい本図の伝来などが興味深い。

(2) 展示ケース内保存の仏画
絹本及び毛髪地著色仏涅槃図 一幅

縦二〇六・五cm 横一五七・五cm 鎌倉時代

本図は宝物館の陳列台上に木箱に納められ、保護されているが、先記したとおり愛媛県の指定文化財として、よく知られた涅槃図である。『愛媛の文化財』⁽⁴⁾ (愛媛県教育委員会、昭和五十七年刊)の解説では「鎌倉期の優れた仏画で、画絹には全面にわたって女性の長い髪を織りこんでいる。」「画面の中央に横臥した釈迦如来を配し、その周囲に摩耶夫人・弟子・大衆・鳥獣虫魚などが嘆き悲しむ有様をまた上部には沙羅双樹を描いている。」と記されている。

さて涅槃図は釈迦入滅の二月十五日に涅槃会(常楽会とも云う)の本尊として用いられるが、この涅槃会は宗派を問わず、広く行われるため、涅槃図の遺品は仏画と云われる中では極めて数多い。現在、わが国に残されている涅槃図は応徳三年(一〇八六)の高野山金剛峯寺所蔵本を最古として、平安時代の作が数点余、鎌倉時代の作は和歌山・浄教寺本など数多く知られる。さらに室町時代以降江戸時代の作は、まさに膨大な数の涅槃図が残されている。

これらの涅槃図は様々の図様に描かれているが大きく二つに分けられる。平安時代から鎌倉時代初期の作品は、画面が横長、あるいはほぼ正方形に作り、画面中央に釈迦如来を大きく表す。釈迦は身体を真っ直にして、両手を体側に添え、宝台の上に仰臥あるいは横臥して描かれる。宝床台は右側面を見せるように表す。つまり釈迦如来の足元から見た構図となり、宝床台周辺に集まる会衆人物や動物の数が少ない。これを第一形式⁽⁵⁾という。

一方、鎌倉時代前期以降の涅槃図は一般的に画面が縦長となり、宝床台上の釈迦如来は第一形式に比べて小さくなり、釈迦は手枕をして右脇を下にして横臥し、両膝を曲げている。また宝床台は左側面をみせており、釈迦の頭部側からの視点となり、会衆人物や動物が数多く、その表現もやや大げさに描かれる。この変化は鎌倉時代前期に中国南宋から伝わった涅槃図の影響と考えられ、これを第

二形式⁽⁶⁾と呼んでいる。なお、この両者を折衷する形式もみられ、涅槃図の様式が一樣⁽⁷⁾でないことがいえよう。

次に本図を見てみると、まず縦長い画面で、図の中央やや下に宝床台上に釈迦如来が身体を真っ直にして横臥し、両手は体側に添わせ、宝床台は左側面を見せられている。(図3・図4)ここでいえることは縦長の画面と宝床台の左側面を見せることは第二形式で、蓮台の上に頭部を乗せ、両手を体側に添わずすことは第一形式である。つまり第一形式と第二形式を混淆した、いわゆる折衷様式で、京都国立博物館本(鎌倉時代中期)に近いことが指摘できよう。

会衆人物は菩薩・仏弟子・八部衆・俗人など数多く見られ、第二形式とし、さらに鳥獣虫類も数多く描かれていることから、これも第二形式を踏襲している。ただ本図は画面の傷みが激しく、一々の尊名や動物名を確認できないことは、まことに残念である。

次に本図の図像的な特徴をみてみたいと思う。まず図上部には通常は釈迦如来の母である摩耶夫人が阿那律に導かれ、降下する様子が描かれるが、本図は画面両端から雲に乗り、それぞれ降下する天部形が描かれている。向かって左の天部(図5)は三目とし、右手に金剛杵を持ち、左手は拳を握り、両脇に童子が配されている。向かって右側には両手とも拳を握り両脇には同じく童子が描かれている。この二体のいずれかを摩耶夫人とみることはできず、一対としての尊像とみなされよう。ここで参考となるのが、和歌山・浄教寺本⁽⁸⁾にみられる梵天(向かって左)と三目を有する帝釈天(向かって右)で本図と酷似している。したがって本図に描かれる二天は向かって右が梵天、左が帝釈天(三目)と考えられよう。通例の涅槃図では梵天・帝釈天は宝床台の周辺に数多くの会衆中にみられるが、浄教寺本や本図のように独立して描かれる例は極めて珍しい。なお本図には摩耶夫人は描かれていないことが確認されるが、京都国立博物館本など鎌倉時代の涅槃図では、ままみられることである。

次に釈迦の足元に配される人物は涅槃図の多くは毘舍離城老女⁽⁹⁾とされるが、

本図では僧形人物である。これは釈迦十大弟子の迦葉尊者で、京都国立博物館本などが知られるが、原本となる涅槃図が異なることを意味しており、留意すべきことであろう。

また本図の画面の部分的に長い黒髪が確認されることは、誠に興味深い。(図6) 仏画に人の髪を用いることは、香川・金刀比羅宮蔵の絹本着色阿弥陀来迎図⁽¹⁰⁾にもみられるが、極めて珍しい。この来迎図は阿弥陀如来の頭髪部に人間の髪を刺繍しているが、その意図はおそらく、より写実感を表そうとの意識、あるいは願主が自らの頭髪を刺繍して、この阿弥陀如来に来世の極楽往生を祈願し結縁したものである。ただ本図のように画面のある部分に長い髪が確認されることは、ほとんど例がない。本図を子細にみれば絹と髪とを織り合わせるのではなく通常の絹地の上に黒髪を貼りつけたようにみえる。これが制作当初からのものか、後補のものかは俄かに判断しがたいが、類例稀な涅槃図といえよう。おそらく願主あるいは、本図と深く関わる人物が結縁し、来世の安穩を祈願しての行為であろうか。

制作年代は顔の輪郭線や三道の描線(図7)が極めて謹直に淀みなく引かれ、さらに各会衆人物も写実的で、表情豊かに表されている。また釈迦の袈裟にみられる文様も細かく表されており、鎌倉時代(十三世紀)とすることに問題はなない。愛媛県下はもとより、四国内でも数少ない古例の涅槃図といえようが、画面の傷みが多いのが惜しまれる。

二 旧土蔵収蔵の仏画

絹本着色大勝金剛像 一幅 縦七二・三cm 横三九・九cm 南北朝時代

本図は宝物館とは別に木箱に納められた数多くの画幅のひとつとして保蔵されていた。まず本図の尊名であるが、像容をみると獅子座の上に大きな円相を作り、その中に蓮台上に坐す一面十二臂の菩薩形が描かれており極めて珍しく、直ちに尊名の確定には至らない。ただ菩薩形の二手が智拳印を結んでいることや宝珠・金剛鈴・金剛杵などの持物を元に探索すると大勝金剛であると判明する。(図

8・図9・図10)

大勝金剛は金剛智訳『金剛峯楼閣一切瑜伽瑜祇経』(『大正新脩大藏経』第十八巻・二五三(二六八頁)第七・「一切如来大勝金剛心瑜伽成就品」に、次のように説かれる。「復現身手。具十二臂。持智拳印。復持五山峯金剛蓮華摩尼羯磨鉤索鎖鈴智剣法輪十二大印。身住千葉大白蓮花。身色如日。五髻光明。其光無主遍於十方。」とあり、これを本拠とするが、天台宗では大日如来より変じたものであるとし、一方、真言宗では金剛薩埵より変化し、愛染明王と関係するという。

ここで本図に描かれた像容を詳しくみてみたい。まず図下部には六(八)角台上に獅子が五頭描かれているのが興味深い。台座に獅子を用いる例は栃木・光得寺や大阪・金剛寺など木造大日如来坐像など仏像彫刻⁽¹¹⁾に確認され、本図が大日如来と大きく関わることを推測させる。獅子の頭数は多くは七頭であるが、本図では五頭である。おそらく背面部の獅子は描かれなかったであろう。

次に台座上に大きく円相をめぐらし、その中に蓮弁が細い金泥線で整然と描かれている。これは先記した『金剛峯楼閣一切瑜伽瑜祇経』(以下、『瑜祇経』という)の「身住千葉大白蓮花」を表したものである。この蓮華座の上に五智宝冠を戴き、下半身には群青の裙、左肩から右脇に条帛がかけられているが、そこにも群青が塗られ、金泥による文様が細やかに描かれている。胸前には胸飾がみられるが、胸飾の下部から下に向かって金剛杵を用いて飾りが数多く垂れており、華やかな印象を与える。腕に臂釧・腕釧を金泥で描かれ、髪は大きく髻を結び、肩に長く三条の垂髪がみられる。像の肉身部は赤く塗られているが、これは『瑜祇経』の「身色如日」とあり、肉身部が太陽のように赤いということに関係するであろう。

さて問題の十二臂であるが、まず胸前で左人指し指を右手で握る智拳印を結んでおり、これが金剛界大日如来との関係を示しているとみてよい。そして、その他の手は右手上から宝珠、金剛鉤、金剛鎖、金剛剣、胸前に金剛杵。左手上から蓮華、羯磨、金剛索、輪宝、金剛鈴が持たれている。この内、右手に金剛杵を持

ち胸前に置き、左手は左膝上で金剛鈴を持ち、一對のように配されているが、これは金剛薩埵の両手の構えであり、さらに愛染明王も同様の構えを示すことから、本図が真言系の大勝金剛であると認識できる。

この大勝金剛の像容については、平安く鎌倉時代の次の諸本が参考となる。

『図像抄』(『大正新脩大藏経』図像・第三卷・一八頁)・図11

『別尊雜記』(『大正新脩大藏経』図像・第三卷・二九六頁)・図12

『曼荼羅集』(『大正新脩大藏経』図像・第四卷・三七〇三頁)・図13

『覚禅鈔』卷第十六(『大正新脩大藏経』図像・第四卷・一七五頁)・図14

以上の諸本の大勝金剛とは持物そのものについては本図とほぼ同様であることが確認できる。ただ右手金剛杵と左手金剛鈴の位置が本図では金剛薩埵のように、右手胸前、左手膝上に構える像容は全ての図像類に見出せないことは留意したい。

なお先記の図像類以外に大勝金剛の古例を探索すると神奈川県立歴史博物館本⁽¹²⁾(図15)と京都・東寺本⁽¹³⁾が見出せた。前者は『図像抄』や『別尊雜記』と同様の像容で鎌倉時代、十三世紀に遡る優作である。後者は『覚禅鈔』と同様の像容を示し、鮮やかな朱色の肉身部が印象的である。また曼荼羅図としては大勝金剛曼荼羅図の古例が、いくつか確認できる。

まず彩色本として高知・金剛福寺に絹本着色大勝金剛曼荼羅図⁽¹⁴⁾が所蔵されているが、これは二重構造で中央に大勝金剛を置き、その四方に勝金剛宝、金剛蓮華鈎、金剛宝大庫、金剛大染蓮を配し、その間に三昧耶形が置かれる。その外の内院には四隅に内四供養菩薩、さらにその外に外四供養菩薩、四摂菩薩が配されている。中央の大勝金剛は五智宝冠を戴き、胸前で智拳印を結び、白蓮華上に坐している。右上から、金剛杵、宝珠、金剛鈎、金剛鎖、金剛劍、左手は上から蓮華、羯磨、金剛索、金剛鈴、輪宝としており、興然撰『曼荼羅集』や『覚禅鈔』の「大勝金剛」とほぼ同様としており、本図と異なることは興味深い。小幅ではあるが、緻密な描写で鎌倉時代中期の作と考えられている。

次に京都・悲田院本は紺絹本大勝金剛曼荼羅図⁽¹⁵⁾で細金泥線を描かれており、

金剛福寺本とほぼ同様の曼荼羅形式であるが、大勝金剛を囲む菩薩に相違がみられる。これは『別尊雜記』に基づくものと見られ⁽¹⁶⁾ている。さらに詳細に見れば、大勝金剛の金剛杵を持つ右手が胸前に置かれ、それに相對する左手は左膝上に置いて金剛鈴を持つように描かれており、本図と同様であることは極めて興味深く意義深い。悲田院本は平安時代末期から鎌倉時代初期と考えられており、『図像抄』や『別尊雜記』などの図像類で確認できなかったことが、ここで明確に証されたことは本図の像容の原本を探る上で重要といえよう。

次に本図の制作年代についてみてみたい。目の細やかな絹地に持物や胸飾などが細密に描写されている。また五智宝冠や持物の金泥が室町時代の作のように盛り上げることなく、薄く平滑に塗られ、両眼の表現もなかなか厳しく描かれており、南北朝時代、十四世紀頃ではないかと思われる。ただ細やかな文様などを見れば、さらに遡る可能性もある。

以上、述べてきたように本図は独尊の彩色本として、現在のところ筆者が知り得る範囲では全国的にも極めて数少ない作例として貴重な存在といえよう。

なお大勝金剛は息災、敬愛、刀兵の難を除くことに効果があるとされているが、興味深いのは鎌倉時代から室町時代には、「大勝」という文言に関わり戦勝祈願に用いられた⁽¹⁷⁾らしい。例えば横浜・称名寺蔵『諸尊同秘訣』⁽¹⁸⁾(元亨四年一三二四)には、源平の兵乱の時、伊豆山の甲斐阿闍梨が頼朝に對面し、兵難を逃れる修法を尋ねられた時、大勝金剛法に、その験があることを伝えた。さらに大勝金剛の真言を袖下に書き、種子をかたどつたものを鎧の袖上に打ち、「勝」の字を袖に付けたと記している。また永享六年(一四三四)の「足利持氏血書願文」⁽¹⁹⁾によれば、鎌倉・鶴岡八幡宮に足利持氏が等身の大勝金剛尊を武運長久、子孫繁栄などの為に造立したことが知られている。

一方、京都では建武三年(一三三六)六月十四日に東寺に入った足利尊氏⁽²⁰⁾は翌日戦勝を祈願して、河内国新開庄を寄進したが、やがてこれを料所として大勝金剛供が始められたという。以上のように中世には大勝金剛は兵難や戦勝祈願の

本尊として武士階級で大いに信仰されたことが分かる。

本図の伝来については不明で、石手寺の中でのどのように位置付けすべきかは、なかなか難しい。石手寺は鎌倉時代後頃から河野氏と強く結びつくようになったと⁽²⁾云われる。本図が制作当初から石手寺に存在したと仮定すれば、河野氏の武運長久を祈願して本図が制作されたと考えたいが、それを証するものは、現在のところ確認することはできていない。今後の新出資料に期待したい。

おわりに

四国霊場第五十一番札所・石手寺は古い歴史を持ち伊予の古刹としてよく知られている。また重要文化財や県指定文化財の建造物や仏像なども数多いが、指定以外の文化財についてはほとんど知られていなかった。今回の調査では県指定の涅槃図を詳しく拝見することができ、新たな視点で見つめ直すことができた。さらに全国的にも珍しい絹本着色大勝金剛像が見出されたのは大きな成果であった。今後これらについて、さらに詳しい研究・検討が必要と考えられるが、それは石手寺の歴史を明らかにする一面を持ち合わせているように思われる。

註

- (1) 『愛媛の文化財』(愛媛県教育委員会、昭和五七年三月) 七八頁を参照。
- (2) 『四国八十八箇所を中心とする文化財』(文化財保護委員会、昭和三九年二月) および『愛媛の文化』(愛媛県文化財保護協会、昭和四〇年四月) 参照。
- (3) 『聖地寧波』展図録(奈良国立博物館、平成二二年七月)。谷口耕生「清凉寺釈迦如来立像旧厨子扉絵考―金光明懺法諸天図の一遺例―」『機能論―つくる・つかう・つたえる』、竹林舎、平成二六年四月) 三七二〜三九七頁。参照。
- (4) 前掲注1、『愛媛の文化財』七八頁。
- (5) 中野玄三『日本の美術9・涅槃図』(至文堂、昭和六三年九月) 参照。
- (6) 前掲注(5) 中野玄三『日本の美術9・涅槃図』参照。

(7) 前掲注(5) 中野玄三『日本の美術9・涅槃図』四四頁。

(8) 武田和昭「和歌山・浄教寺蔵涅槃図考―明恵上人との関係をめぐって―」『MUSEUM』NO490、東京国立博物館、平成四年一月。

(9) 『大涅槃展』図録(九州国立博物館、平成二七年一月) 参照。

(10) 武田和昭『讃岐の仏教絵画』(本田書林、昭和五九年一月) 三〇頁。

(11) 山本勉『日本の美術7・大日如来』(至文堂、平成九年七月)。

(12) 『館蔵美術工芸名品展』図録(神奈川県立歴史博物館、平成一七年四月) 図版番号三参照。神奈川県立歴史博物館所蔵大勝金剛は縦六三・九cm、横四一・八cm。鎌倉時代一三世紀の作。

(13) 『東寺と「太平記」』展図録(東寺宝物館、平成三年、九月) 二二頁。ここでは、その制作年代を南北朝より少し時代が下る頃とされている。

(14) 京都国立博物館編『王朝の仏画と儀礼』展図録(京都国立博物館、平成一〇年一〇月) 一三八頁。

(15) 前掲注(14) 『王朝の仏画と儀礼』展図録三三一頁。

(16) 前掲注(14) 『王朝の仏画と儀礼』展図録一三九頁。

(17) 『鎌倉・密教』展図録(鎌倉国宝館、平成二三年一〇月) 一一五頁。

(18) 『諸尊同秘訣』は前掲注(17) 『鎌倉・密教』展図録・図版番号五三参照。

(19) 「足利持氏血書願文」は前掲注(17) 『鎌倉・密教』展図録・図版番号六〇参照。

(20) 前掲注(13) 『東寺と「太平記」』展図録、二〇〜二二頁。および同図録中の上島有氏による「東寺と「太平記」の論考(五八頁)」を参照。

(21) 川岡勉「中世の石手寺と四国遍路」(四国遍路と世界の巡礼研究会編『四国遍路と世界の巡礼』法蔵館、平成一九年五月) 六二〜八二頁。

【付記】

本論作成につき、奈良国立博物館・谷口耕生氏、泉涌寺・西谷功氏に種々のご教示を戴きました。また神奈川県立金沢文庫・梅沢恵氏から大勝金剛に関する資料、九州国立博物館・森實久美子氏から涅槃図などに関する資料を数多く提供して戴きました。記して感謝申し上げます。

(たけだ・かずあき／圓明院住職)



図2 執金剛神・部分（石手寺蔵）



図1 菩提樹神・部分（石手寺蔵）



図4 仏涅槃図・部分（石手寺蔵）

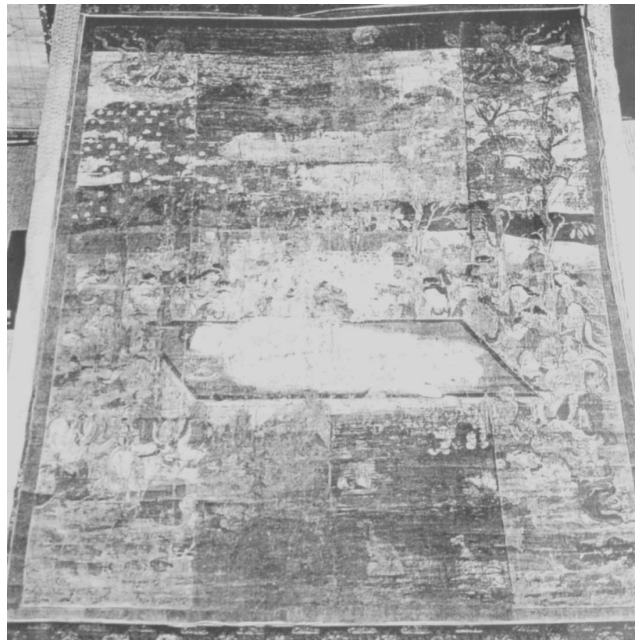


図3 仏涅槃図・全図（石手寺蔵）

『愛媛の文化財』（愛媛県教育委員会、昭和57年3月）
から転載



図5 仏涅槃図・帝釈天（石手寺蔵）



图8 大勝金剛像・全図 (石手寺藏)

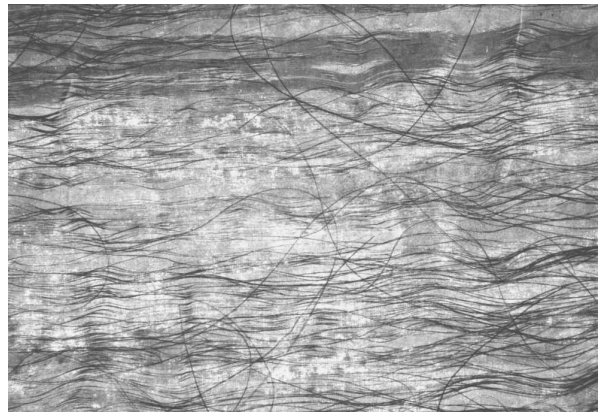


图6 仏涅槃図・毛髪部 (石手寺藏)



图7 仏涅槃図・部分 (石手寺藏)



图10 大勝金剛像・部分 (石手寺藏)



图9 大勝金剛像・部分 (石手寺藏)

図12 大勝金剛（『別尊雜記』第二十九）

『大正新脩大藏經』・図像第三卷（大藏出版、昭和63年11月）から転載

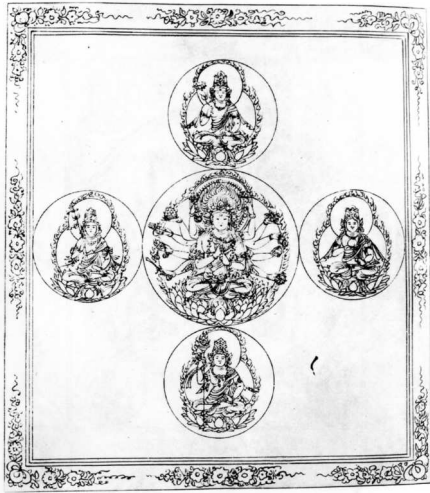


図13 大勝金剛（『曼荼羅集』卷上）

『大正新脩大藏經』・図像第四卷（大藏出版、昭和63年11月）から転載



図11 大勝金剛（『図像抄』卷第四）

『大正新脩大藏經』・図像第三卷
（大藏出版、昭和63年11月）から転載



図15 大勝金剛像（神奈川県立歴史博物館蔵）
『館蔵美術工芸名品展』図録
（神奈川県立歴史博物館、平成17年4月）から転載



図14 大勝金剛（『覚禅鈔』卷第十六）

『大正新脩大藏經』・図像第四卷（大藏出版、昭和63年11月）から転載

石手寺の祭礼絵巻

高嶋 賢二

本絵巻は石手寺の宝物館に収蔵されていたもので、巻留の墨書は「當社祭祀圖」と読める。「當社」は熊野十二所権現社を指すかと思われるが、現段階では不詳。おもな画面は、寺伝で元久元年（一二〇四）に始まる（↓）とされる当寺の練供養行列で、そこに通常の神幸行列のような御輿や獅子が伴うところに特徴がある。当寺に遺る菩薩面・天童面・獅子頭などが使用された往時を考える上で興味深い。

法量等の基本情報は以下のとおり。

絵巻 紙本著色 表紙裂は浅葱地金雲文

（巻留 墨書）布（破損）に直接墨書、題箋なし

「 當社祭祀（圖） 」 （以下、単位はcm）

法量 縦 三九・八 （軸含め全長 四一・二 / 軸径 二・一）

横 一〇一五・九 （左記の合計） 八双は欠失

内訳（見返し） 二八・五 金箔裝飾

（本紙・第一紙） 一二〇・四

（本紙・第二紙） 一三一・八 裏面隅に墨書「七」

（本紙・第三紙） 一九・二 裏面隅に墨書「六」

（本紙・第四紙） 一九・四

（本紙・第五紙） 一八・六

（本紙・第六紙） 一八・八

（本紙・第七紙） 七四・八 裏面隅に墨書「五」

（本紙・第八紙） 一三二・二 裏面隅に墨書「四」

（本紙・第九紙） 一三二・四 裏面隅に墨書「五」と「口」

（本紙・第一〇紙） 四九・二

（本紙・第一一紙） 一二六・六 裏面隅に墨書「二」

（本紙・第一二紙） 一二五・〇

（巻末紙・第一三紙） 一一・五 白紙（現状は本紙と外れる）

（巻末紙・第一四紙） 七・五 白紙

紙料は第三・四・五・六・七・一〇紙が極端に短く、絵も一部切れており、寸断されている。また全紙サイズのもの裏面隅に漢数字などを記したものが見られるが、それらによれば絵の番号は、七・六・五：と逆順であり、一部には錯簡が生じている。現状では絵は菩薩らを含む行列の一行が、画面右から左方向へ進む向きで描かれるが、本巻子は右から開くため、石手寺境内を出立する行列の最後尾から先頭を追うかたちで見開くこととなる。裏面の番号等と併せ、本来の状態より再表装されている可能性が考えられよう。

絵の詳細は後掲するが、降臨する二十五菩薩や獅子の姿は、同寺所蔵の『當山往古圖』の冒頭に小さく描かれている点も併せて留意したい。ただし本絵巻では、例えば菩薩の持つ本来胡弓と思われる楽器が太鼓のように描かれる等、個々の細部描写は粉本から書写される段階でやや崩れた箇所が一部ある。今後さらに文書史料や現存する諸道具類等との照合の中で、更なる精査が俟たれる。

制作は江戸時代中後期頃であろうか。本絵巻中の二頭の獅子は、本寺に現存する木造獅子頭には存在しない一本角で描かれるが、それ以外にも巻毛とならない鬘や丸文を並べた胴衣の模様など、独特の風貌をなしている。実はこうした獅子の絵は、延宝五年（一六七七）の『七小町』²⁾、貞享三年（一六八六）井原西鶴の『好色五人女』、元禄十五年（一七〇二）『神道名目類聚抄』など、十七世紀後半から十八世紀初頭の版本に散見されるものと酷似する。粉本の制作時期を考える上で参考となろう。

（たかしま・けんじ）伊方町見郷土館

（1）『石手寺』『愛媛県の地名』（日本歴史地名体系三九）（平凡社、一九八〇年）

（2）『七小町』『古浄瑠璃正本集』（角太夫編第一）（大学堂書店、一九九〇年）



(第一紙) 前半の白紙部分は省略

【参考】 卷留部分 (拡大)



冒頭は石手寺と思われる境内。人物の大きさに比べ個々の建物が小さい。同寺所蔵の『當山往古圖』では、現在と同じく山門から境内に入つて右手に三重塔と鐘樓が建つが、本絵巻では左手(奥)に描かれる。

【参考】

『當山往古圖』(部分)



(第二紙)



侍烏帽子・直垂・袴姿で裸足、腰に刀を一本佩いた人物、五人で一組。うち一人は御幣、一人は角樽（中身は御神酒カ）を持つ。
全部で五組

挟み箱
刀一本を佩き、裾を絡げ赤禊・裸足。二人一組。
刀二本を佩き、紋付を羽織る人物。

刀二本を佩き、袴・脚絆・足袋姿の人物。

馬一頭。虎皮の障泥・鞍・鐙・轡を着ける。
手綱を取る口取り役は、腰に刀一本佩き、裾絡げ赤禊・裸足。
馬の奥に見える人物と二人一組。



毛槍。腰に刀二本佩き、裾絡げ赤禪・裸足。口にヒゲ。草履取りカ。腰に刀一本佩き、裾絡げ赤禪・裸足。

(第三紙)

挟み箱。腰に刀一本佩き、裾絡げ裸足。口にヒゲ。

袴姿。腰に刀二本佩く人物四名。うち先頭の一名のみ脚絆・白足袋。ほかは裸足。

(第四紙)

若衆鬻の人物二名。裾絡げ腰に刀一本。前側の人物、左手に草履、右肩に棒状のものを担ぐ。

(第五紙)

奥の三名は袴・刀二本・裸足。手前右は若衆鬻で裾絡げ刀一本、左手に草履、裸足。手前二名とその前の一名は、若衆鬻・袴・刀二本・白足袋。

(第六紙)

僧侶、五名。
直綴・袈裟・足袋。

(第七紙)

僧侶。石手寺住職カ。
輪宝紋の法衣・袈裟・裳・袴・襪。右手に中啓。

門の傍らに、自然石を半肉彫りした不動明王像。



五輪塔。
川に橋を架ける。

山伏。五名。
頭襟・結袈裟。腰に刀二本。袴・
脚絆・足袋。法螺貝を持つ者も。

警固二名。手に棒を持つ。
黒毛のシャグマ、腰に刀一本、
袴・脚絆・足袋。

獅子。二人立ち。獅子頭は赤色
で角一本。胴衣は赤。袴・足袋。
左【参考】図参照。

(第八紙)

締め太鼓。
黒毛のシャグマ、腰に刀一本、
両手に撥、赤袴・脚絆・足袋。
締め太鼓は従者(刀一本・赤禪)
が持ち支える。

【参考】『好色五人女』(部分)



【参考】『神道名目類聚抄』





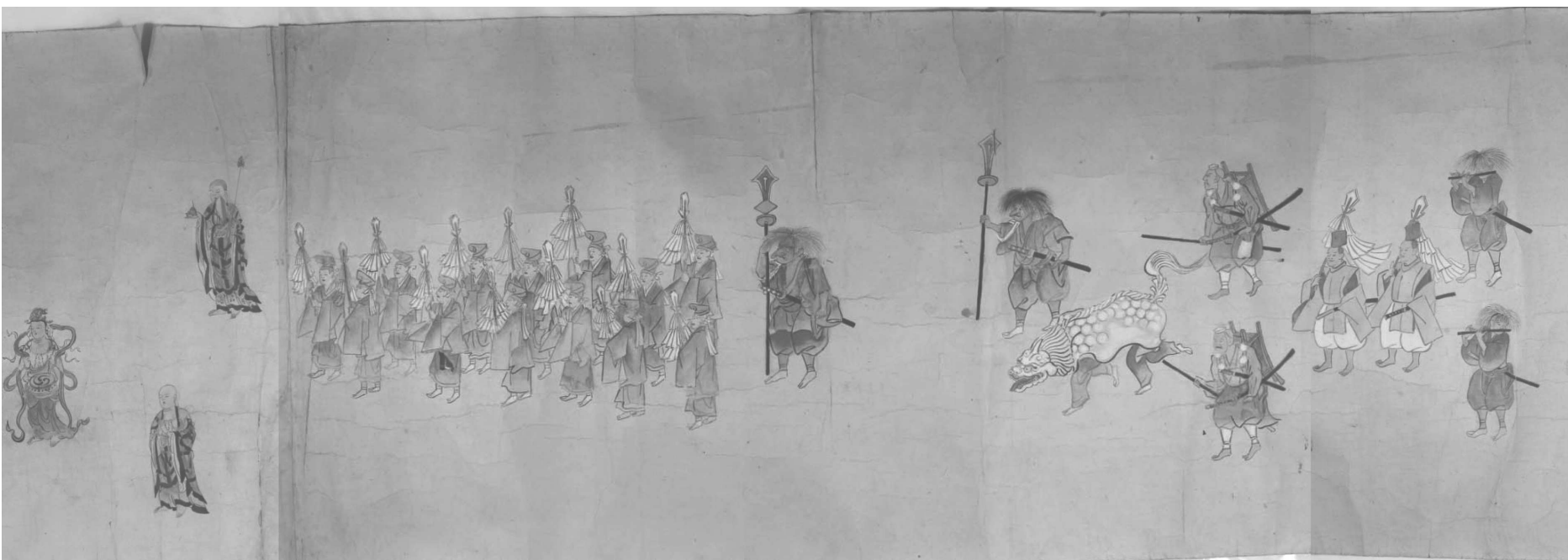
御輿。全部で六基。

屋根の頂部に鳥・隅に蕨手・垣・担ぎ棒二本。

担ぎ手は四名。前後二名ずつ。茶笥鬻に手拭を鉢巻か頬彼りに着け、着物を片肌脱ぎまたは諸肌脱ぎにして裾を絡げ赤禪。脚絆に裸足。

担ぎ棒の後方に紐を結びつけて後方に伸ばし、それぞれ子供たち五名が引く。

(第九紙)



横笛を演奏。
黒毛のシヤグマ、腰に刀一本、袴・脚絆・足袋の人物二名。

御幣を担ぐ人物二名。
立烏帽子・狩衣・袴。腰に刀一本、足は裸足。

山伏、二名。
頭襟・結袈裟。笈を担ぐ。腰に刀二本。袴・脚絆・足袋。手に棒を持つ。

獅子。二人立ち。獅子頭は白色で角一本。胴衣は白。袴・足袋。

鼻高面・黒毛のシヤグマ・襷掛け・腰に刀一本・袴・脚絆・足袋。手に鉾を持つ。

鼻高面・黒毛のシヤグマ・襷掛け・腰に刀一本・袴・脚絆・足袋。手に鉾を持つ。

御幣を担ぐ人物一三名。
引立烏帽子・足袋。

(第一〇紙)

比丘二名。地藏と龍樹カ。
一は錫杖と宝珠。一は合掌。



二十五菩薩。天冠・菩薩面・瓔珞・天衣・裙などまとう。以下、持物のみ挙げる。

楷鼓。両手に撥。

華籠に蓮華カ。

天衣を持って舞う。

腰鼓。手に撥なし。

鶏婁鼓。右手に鼗(ふりつづみ)左手に撞木を持つ。

(第二一紙)

角笛。

本来は胡弓の図と思われるが、胴部に巴紋を描き、左手に弓でなく撥を持ち、太鼓のよう。

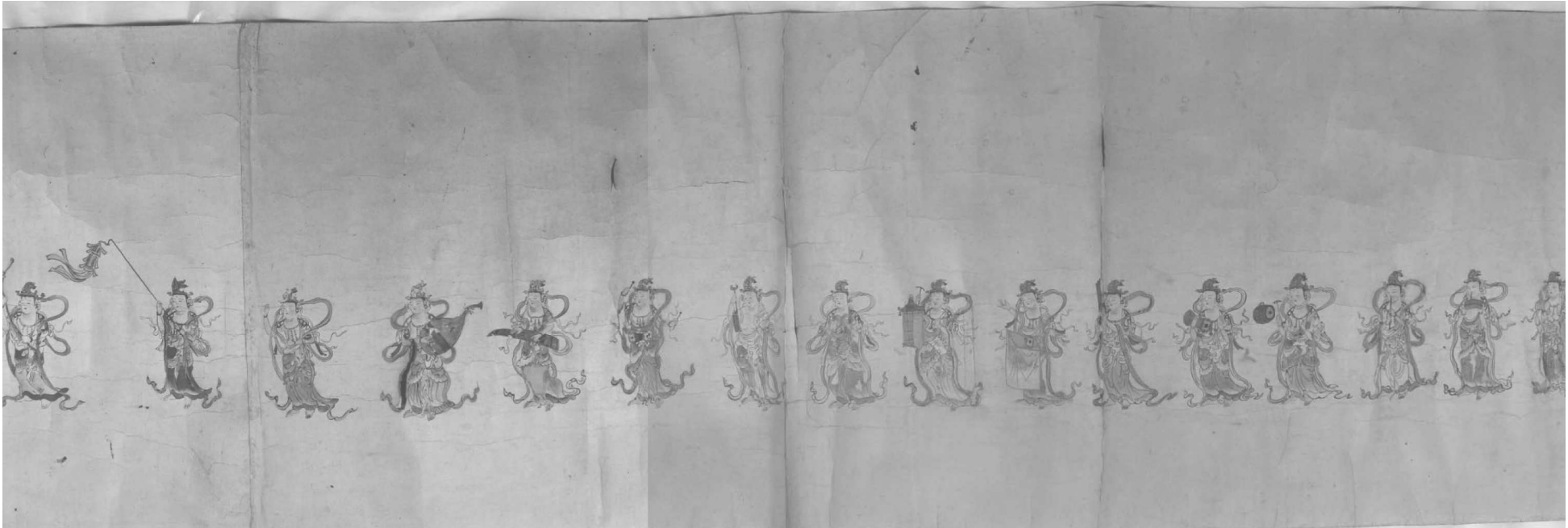
横笛。

拍板。

簫。

篳篥。しかしやや長いので、あるいは尺八カ。

不明。両手に撞木。宙に浮く太鼓のような楽器は、鉦鼓を描くつもりで台が省略されて、形が崩れたものカ。



不明。右手で鼓状の樂器を抱えて、左手に撥なし。

笙。

羯鼓カ。台に載った鼓状の樂器（革面のみ胴部剥落）。本来は手に撥を持つカ。

方響。

銅拍子。

空篳。やや崩れる。

不明。腰に鼓状の樂器。両手に撥。

箏。

琵琶。

手の構えのみ。本来は幡か蓮華などを持ったカ。

(第二紙)

幡。



蓮華。

合掌。

(勢至菩薩カ。ただし通常は一对で描かれる蓮台を持った観音菩薩は見当たらない)

天童カ。

天冠・緒袖のついた衣・袴姿で散華の入った華籠を持つ。

天童カ。

衣裳は同右。柄香呂を持つ。

天童カ。

衣裳は同右。幡を持つ。

天童カ。

衣裳は同右。天蓋を持つ。

小さい屋形と人形?二体。娑婆堂になぞらえたカ。

奥に敷物を敷いて男三人。羽織・袴・刀一本。一名は手に扇子を持つ。

傍らに袖搦み・刺又・突棒を立てる。

癒見系の面・黒毛のシヤグマ。腰に刀一本・袴・脚絆・足袋。手に棒を持つ。

(建物。詳細不明)

仮屋の中で坐して待機中の袴姿の人物四名。傍らに長刀・毛槍など

(第一三紙) 以下は巻末紙

(終)

石手寺所蔵の常滑焼三筋壺と松葉双鳥鏡

石岡 ひとみ

はじめに

石手寺にはさまざまな工芸品が所蔵されているが、本稿では石手寺の歴史を解明する上で重要な資料と考えられる灰釉陶器の壺と和鏡について紹介したい。灰釉陶器壺と和鏡は、愛媛県美術館で二〇一四年に開催した特別展「四国霊場開創一二〇〇年記念 空海の足音 四国へんろ展愛媛編」で展示させていただいた⁽¹⁾。

一、資料の概要

壺(図1、4)の大きさは口径10.5cm、器高24.2cm、胴部径17.3cm、底径7.8cmを測る。頸部はまっすぐ立ち上がり、口縁部はやや外反して広がる。口縁端部上面に凹線が巡る。胴部には三つの凹線が巡り、一部凹線が重なっている。肩部が大きく張り、底部に向かってすばまる形である。上部から肩部にかけて自然釉(オリーブ黄5G/4)が掛かり、一部胴部まで下がり、景色となっている。胴部には他の製品の熔着痕が見られる。胴部下側は黄褐色(10YR5/6)、胎土は灰白(7.5YR8/0)で焼き締まっている。

これらの特徴から、産地は愛知県の常滑焼と見られ、中野晴久編年⁽²⁾の第一段階の2型式期(一一五〇〜一一七五年)の三筋壺の器形に相当し、十二世紀後半の年代観が考えられる。平安時代後期の常滑焼三筋壺と推定される。

和鏡(図8)は銅製で外径は9.8cm、内径は9.4cm、外縁の高さは0.4cmを測る。鏡背には縁と紐の間に界線が巡り、松葉状の葉を十四葉配し、嘴を上に向けた尾の長い小鳥が二羽左右に飛んでいる文様が鋳出されている。紐座は振り菊花状である。鏡面の三分二の部分にひび割れが生じている。平安時代後期の松葉双鳥鏡と考えられる。

三筋壺、和鏡ともに表面には土が付着していることから出土品と推定され、ほぼ完形資料のため、埋納品の可能性が高い。

二、石手寺経塚

経塚とは平安時代に末法思想が広まり、仏法が廃れ、後世に仏法を伝えるために、仏教経典を地中に埋納するために造営された遺跡である。

石手寺ではかつて経塚から中国産陶磁器が出土したとされている。石手寺経塚出土遺物(図2)⁽³⁾には、白磁四耳壺二点、白磁壺一点、青白磁小壺一点、青白磁合子一点、口縁部に玉縁を有する白磁碗片一点が現存しており、いずれも中国産のやきもので、生産年代は一二世紀前半代に収まるものと考えられている。現在、奈良国立博物館に所蔵されている。

出土状況について伝承によると、松山市石手寺の裏山に位置する、一辺約二mの方形の経塚の四隅に、青白磁四耳壺などの陶製経筒が各一本ずつ埋納されていた。経塚中央には川原石を積んで石室を作り、内部には青白磁合子が納置されていた。石室上には径約四〇cmの円形花崗岩を置いて蓋とした。白磁四耳壺の口縁部には藤原末期の松喰鶴鏡をはめ込み蓋とし、内部には紙本墨書法華経一巻を蔵していた。あわせて、石手寺経塚では白磁四耳壺と白磁合子とともに保元元年(一一五六)銘の経筒が相伴していたとされる⁽⁴⁾。現在、銅製経筒の実物は不明である。

さらに、石手寺裏山経塚からは、銅製経筒、藤原鏡とともに、十二世紀の渥美焼の袈裟襷文壺が完形で出土したと伝えられる⁽⁵⁾。『世界陶磁全集』によると壺の大きさは高さ27.5cm、口径11.2cm、胴径23.6cm、底径9.0cmを測る。「肩部と胴部に二条の平行沈線をめぐらし、その間と上部に段違いに縦の平行沈線を引いた袈裟襷風の文様を描いている。(中略)肩から胴にかけて刷毛塗りによる灰釉を施している」⁽⁶⁾。現在は残念ながら渥美焼の壺も所在不明である。石手寺経塚出土遺物の記述が、一九七〇年代以降の刊行物に確認できるため、経塚は一九六〇年代に発見されたものと考えられる。

石手寺経塚の出土遺物は十二世紀前半代までに生産されたものと考えられ、保元元年銘の銅経筒の年代を考慮すると十二世紀後半以降に埋納された可能性がある。

三、平安・鎌倉時代の経塚

愛媛県内の平安時代の経塚は、標高一〇四二mの今治市檜原山山頂で発見された奈良原山経塚出土品が著名である。石積みの塚の下から、平らな石を敷いた上に経巻を納めた銅製宝塔に十瓶山焼甕を被せた経塚と、底に草花双鳥鏡を使用した銅経筒に十瓶山焼甕を被せた経塚2基が検出された。短刀20口、青白磁小壺2点、檜扇、桜菊双鳥鏡、銅鏡、金銅筭、鰐口、銭貨などが埋納されており、出土品は国宝に指定されている。銅宝塔は屋根に相輪を持ち、軒下には四方に瓔珞や風鐸を吊り下げた豪華な造りで、京都鞍馬寺経塚出土銅宝塔と双壁をなす。十瓶山焼甕の年代から十二世紀前半の経塚と考えられている⁽⁷⁾。

以下、愛媛県内における平安から鎌倉時代の主な経塚を見ていくと、四国中央市村山神社経塚では、塚の中から石を組んだ経塚が発見され、刀剣2口、短刀10本、鉄鏃、燧金、山吹双鳥鏡、青白磁小壺2口、青白磁合子、瓶、崇寧重宝が出土した⁽⁸⁾。新居浜市古宮経塚では石室の中から経塚が検出され、陶製外容器、銅経筒が出土し、西条市実報寺経塚では、陶製外容器と銅経筒が出土した。松山市沖の中島に所在する五本松経塚では蓋に相輪が付き、筒部に突帯が二本付く九州系の銅経筒と山吹双鳥鏡、松葉双鳥鏡、沢瀉鏡が出土した。松山市沖の興居島に所在する興居島経塚から、青白磁経筒、秋草双鳥鏡、山吹双鳥鏡、湖州六花鏡、湖州素文鏡、短刀が出土した。この経筒は、経巻を納めるため専用で作られた無縫塔形の青白磁で、福岡県西油山経塚出土の経筒と類似する。松山市岩子山北山経塚からは磁器製外容器、寿永二年(一一八三)銘のある銅経筒、銅鏡2面が出土したが出土遺物は現在不明である。松山市北条蓮台寺経塚からは、白磁四耳壺、和鏡が出土した。松前町の伊予神社経塚からは、「いらすの森」と称される場所の五輪塔の下から銅経筒6口、東播系捏鉢2個、東播系甕、亀山系甕、常

滑焼甕2個、白磁四耳壺、瓦質土器壺、短刀、土師器杯が出土した。多様な出土遺物から経塚群と推定される⁽⁹⁾。伊予市堂ヶ谷経塚からは、石室の中から、久安六年(一一五〇)の銘が刻まれた銅経筒が出土している。中には経巻八巻が残存していた。大洲市の慶雲寺経塚からは、銅経筒、土師器、刀子が出土した。西予市三島神社経塚から銅経筒三口、和鏡三面、建久五年(一一九四)銘の陶製外容器が出土した。西予市松溪経塚から、経巻が入った徳治三年(一一三〇八)銘のある銅経筒が出土した。2口の経筒は甕に入れられ、上部は川原石で覆われていたという。法華経四十七巻の経巻が入っていた。

以上、愛媛県内の経塚は不時発見が多く出土状況も不明な点が多いが、丘陵や神社、寺院の境内に経塚が造営されていたことがうかがえる。経塚の埋納遺物のすべてが採集されていないが、中国産陶磁器や銅鏡、刀剣を伴った銅製経筒が多く見つかったことがわかる。県内の経塚出土の陶磁器では、中国産陶磁器が多く、石手寺以外では常滑焼三筋壺、渥美焼壺は確認されていない。

四、三筋壺と鏡

現在、愛媛県内における常滑焼三筋壺、渥美焼壺の出土事例は石手寺出土の事例が唯一である⁽¹⁰⁾。中野晴久氏の研究によると、常滑焼三筋壺は十二世紀の中葉までに成立し、経塚や墓地から多く出土しており、渥美焼袈裟襷文もあわせて、三筋文と仏塔、法華経との関連が強いとの指摘がある⁽¹¹⁾。三筋壺は末法思想に基づき造営された経塚資料の一部と考えられている。

石手寺に伝来した常滑焼三筋壺と松葉双鳥鏡はともに十二世紀後半のもので、前述の石手寺経塚出土の中国産陶磁器の年代観と近いことから、経塚の埋納品の一部と考えられる。中国産陶磁の壺や東海産の常滑焼や渥美焼の壺を埋納して経塚を造営していたことは、受容階層を説明するうえで重要な手がかりになる陶磁器といえる。松葉双鳥鏡は、経典を守るために埋納された銅鏡と推察されるが、第二節にみえる白磁壺の蓋に使用された「松喰双鶴鏡」とは文様が異なるもの

の、経筒用の壺の蓋に使用された「藤原鏡」の可能性も考えられる。

結びにかえて

江戸初期に描かれたとされる《紙本著色石手寺往古図》(石手寺蔵)には、石手寺本堂や熊野十二社権現社の建物の背後に丘陵が形成されている景観が認められる(図10)。石手寺経塚出土遺物と考えられる多彩なやきものの存在から、石手寺裏山には、平安時代後期における経塚群の造営が想定され、常滑焼三筋壺と松葉双鳥鏡は、石手寺の歴史や石手寺周辺の歴史的環境を解明する上で重要な歴史資料といえる。

註

- (1) 筆者は愛媛県美術館で二〇一四年に開催した特別展「四国霊場開創一二〇〇年記念 空海の足音 四国へんろ展愛媛編」を担当し、石手寺から灰釉壺と和鏡を出品いただいた(愛媛県美術館二〇一四『四国霊場開創一二〇〇年記念 空海の足音 四国へんろ展愛媛編』)。
- (2) 中野晴久二〇一三『中世常滑窯の研究』、『愛知県史 別編窯業3』
- (3) 石岡ひとみ・小玉亜紀子二〇一五「奈良国立博物館所蔵 石手寺経塚出土資料」『鹿園雑集 奈良国立博物館研究紀要』第15・16号
- (4) 奈良国立博物館一九七三『新館落成記念 経塚遺宝展』、奈良国立博物館編一九七七『新館落成記念 経塚遺宝展』東京美術
- (5) 檜崎彰一九七七『世界陶磁全集三 日本中世』小学館
- (6) 註5前掲書。
- (7) 今治市教育委員会二〇一〇『国宝伊予国奈良原山経塚出土品』
- (8) 愛媛県史編纂委員会一九八六『愛媛県史資料編 考古』、岡田敏彦二〇〇六「愛媛県内経塚覚書1」『紀要愛媛』6号(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター、
- (9) 野口光比古一九八二「愛媛県伊予神社経塚」『古代研究』24号
- (10) 首藤久士二〇一五「愛媛県内出土の東海系中世陶器について」『紀要愛媛』第一一〇号 公益財団法人愛媛県埋蔵文化財センター
- (11) 註2前掲書。

(いしおか・ひとみ/愛媛県教育委員会専門学芸員)

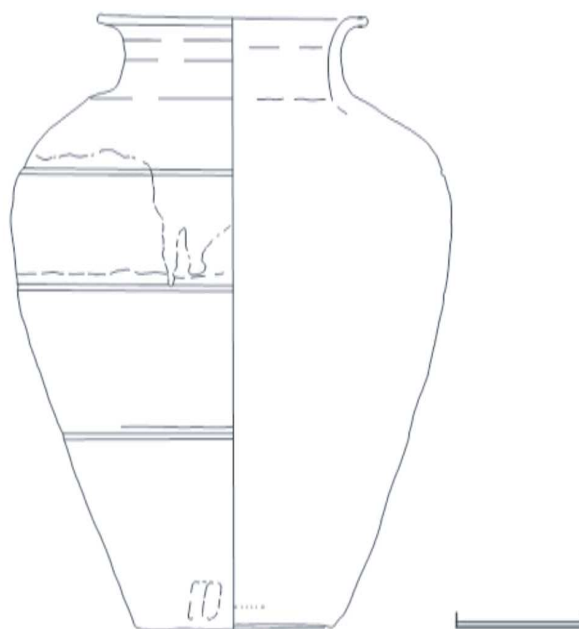


図1 常滑焼三筋壺(石手寺蔵)

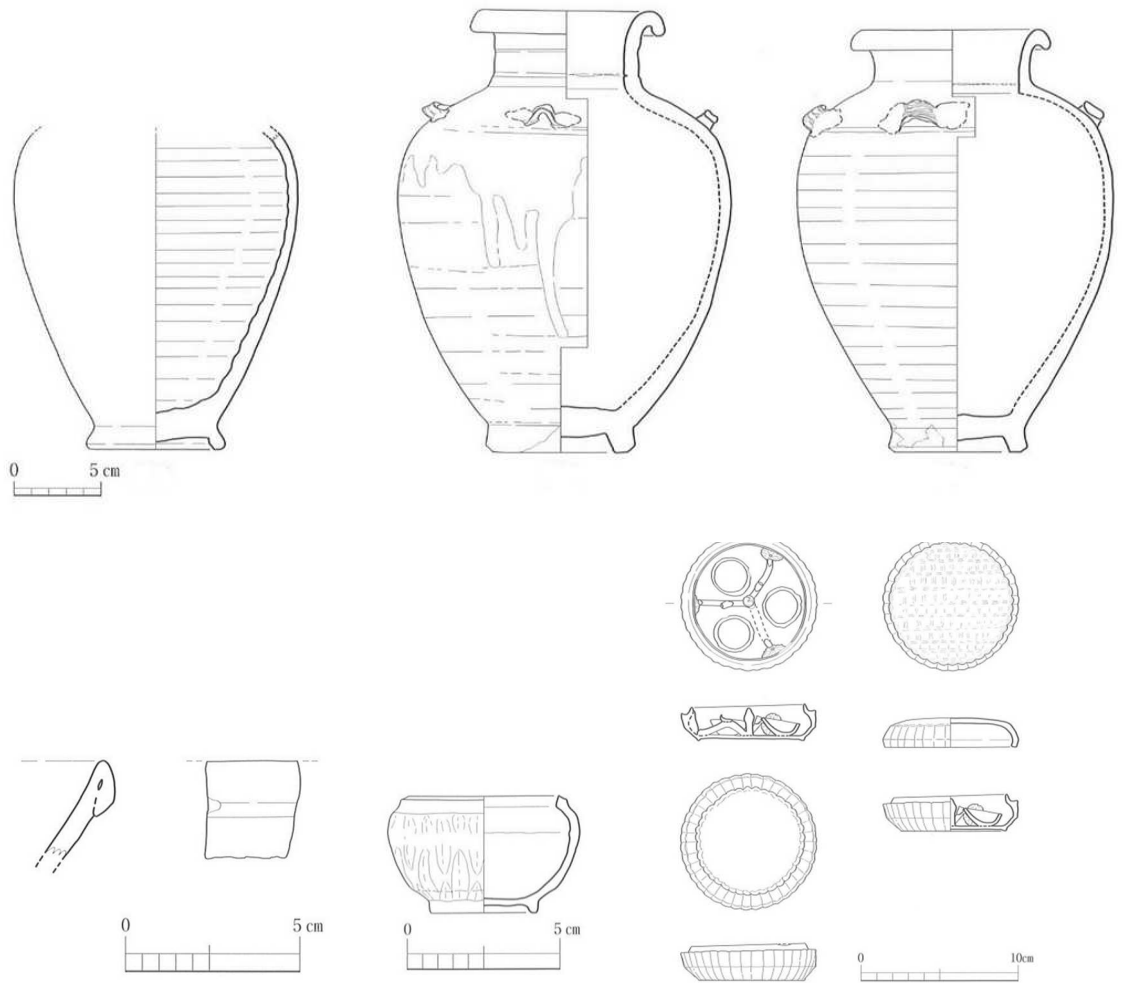


図2 石手寺経塚出土中国産陶磁器（奈良国立博物館蔵）（出典：石岡・小玉 2015）



図3 石手寺の境内の裏山の様子（《紙本著色石手寺住古図》石手寺蔵）



图4 常滑烧三筋壺（石手寺蔵）



图5 松葉双鳥鏡（石手寺蔵）

石手寺所蔵の版木について

今村 賢司

はじめに

平成二十八年九月十七〜十九日にかけて、筆者は四国霊場第五十一番札所石手寺に伝わる版木の調査を行った。今回、筆者が確認できた石手寺所蔵の版木は、23件47点を数えた。

版木の内容は、(ア)縁起・勸進、(イ)仏絵・御影、(ウ)護符・経文、(エ)御神籤、に分類して一覧表にまとめた。版木の多くは年代が記されていないが、刻字や墨書などによる紀年銘のある版木はわずかに8点確認できた。年号では享保、宝暦、安永、寛政、天保、元治、大正期の版木が見られたが、現存確認できた石手寺版木の多くは江戸時代の版木が中心である。

以下、石手寺版木資料の中から、特徴的なものをいくつか紹介する。

一 縁起・勸進

安永十年(一七八一)の「豫州石手寺衛門三郎略縁起」版木(M11)がある(図1)。裏面には「利主尊者依求彫／表文之縁起蔵熊野山令知萬邦也于時／安永十辛巳年春二月初三／山内氏藤久周」と刻まれている。

勸進関係では、天保七年(一八三六)の「石手寺茶堂勸奨録」版木(M22)(図2)、「元治二年(一八六五)の「石手寺茶堂再建勸奨萬人講」版木(M10)(図3)などが確認できた。

ちなみに北川淳一郎『熊野山石手寺』(昭和三十七年)によると、現在の石手寺の茶堂は元治元年の建立とされる。寛政十二年(一八〇〇)の『四國遍禮名所圖會』には茶堂は紹介されていないが、松浦武四郎による天保七年(一八三六)の『四國遍路道中雜誌』(弘化元年執筆)には「門を入茶堂、(略)茶堂等美々敷立たり」とある。

二 仏絵・御影

石手寺に伝わる最古級の版木として考えられるものに同寺宝物館に展示されている室町時代中期の「不動明王立像(妙沢不動)」版木(H1)がある(図4)。力強い憤怒相の不動尊立像で、背に火炎、弁髪を左肩から前に垂らし、右手に利剣、左手には羂索を持ち、磐座の上に立つ。匡郭外の上欄に「龍湫不(欠損)」、下欄に「願主権少僧都信禪 版木作人次郎」の刻印がある。

龍湫周沢(一三〇八〜一三八八年)は甲斐国出身で南北朝時代の臨濟宗の僧で、夢窓疎石の高弟として建仁寺、天竜寺などの住持を務めた。特に不動明王の像を能くした。世に「妙澤不動」と称し珍重された。

『熊野山石手寺』によると、欠損部分には「龍湫不動奉再興 長享元丁未 閏十一月二十一日」と明記されていたことがわかる。武田和昭氏の指摘では、石手寺本堂の棟札などから、信禪は室町時代中期の石手寺の僧侶であり、この版木の制作は長享元年(一四八七)信禪五十八歳の時で、この版木以前にも同様の妙澤不動の版木が存在していたとされている。

密教における胎藏界曼荼羅の蓮華部院に在す観音菩薩の化身身とされ、この菩薩を念じてその真言を誦誦すれば、衆生の求願に随い施し与えたとされる「大随求菩薩坐像」の版木(M13)(図5)がある。刻字に「豫州熊野山石手寺第廿二世沙門瑞澄印施□」とあり、石手寺第二十二世の瑞澄の時代(宝暦〜明和年間頃か)のものであることがわかる。裏面には墨書で「大坂心斎橋筋□□坂口太兵衛」とあり、施主は大坂の商人であろうか。版木に見る大随求菩薩は、慈悲深い円満相で、化仏の付いた宝冠を被り、八本の腕を持ち、右手には金剛杵・剣・鉞斧など、左手には法輪・三股戟・経典などを持つ。

「弘法大師御影」版木は3種類確認できた。いずれも真如様の弘法大師御影で「豫州石手寺」、「五十一番伊豫國熊野山石手寺」と札所名が明記されている。弘法大師御影の上部に胎藏界大日如来を示す梵字(アーンク)を記すもの(M1オ)(図6・1)、弘法大師御影単体のもの(M1ウ)(図6・2)、上部に我昔

遇薩埵偈を記すもの（M12）（図7）である。

他に、「興教大師覺鑿御影」版木（M2）（図8）、「地藏菩薩三尊像」版木（M5）（図9）などがある。

三 護符・経文

「空海」の文字と御手判がある「南無阿弥陀仏（宝珠名号）」版木は宝物館に展示されている。両面版木で表面には円形に近い宝珠の形をした南無阿弥陀仏の六字名号と、上部に「光明遍照／十方世界／念佛衆生／撰取不捨」（『観無量寿経』の「真身観文」）が陽刻されている（H2才）（図10・1）。裏面の内容も同様であるが南無阿弥陀仏の文字が梵字で陰刻されている（H2ウ）（図10・2）。四国霊場第五十二番札所太山寺にも「南無阿弥陀仏（宝珠名号）」版木が存在し、伊予の四国霊場における隔夜信仰や念仏信仰との関係が注目される。

また、多聞天関係の護符の版木がある。両面版木で表面に「多聞天御札地藏院」（M4才）（図11・1）、裏面には「（宝珠）奉修多聞天供養安全祈所／石鉢山大権現／諸神□□／別當石手／地藏院」（M4ウ）（図11・2）と刻まれている。裏面は磨滅しており相当数刷られたことが推察される。側面に刻字「（宝曆）十辰天四月現住良恕書刻之也」がある。地藏院は石手寺の塔頭で「石手寺往古図」にも描かれ、現在は石手寺仁王門の前に所在する。

さらに、山上にある愛宕社の護符として「愛宕山御札 別當 地藏院」版木（M6才）（図12・1）、「（宝珠）石手愛宕山大権現守護所／諸難即滅／如意成就」（M6ウ）版木（図12・2）、がある。これらの版木に見る地藏院の名前から石手寺の護符の管理に地藏院が関与していることが読み取れる。

この他に、熊野山常住の久保與左衛門が寄附したことが墨書からわかる「随求加持之札 石手寺」版木（M7）（図13）、「奉修不動明王護摩八千枚供如意満足所」版木（M15）（図14）、「奉修天神本地供如意満足祈所」版木（M16）（図15）、「勝手宮奉御祈祷中臣菟息災延命子孫繁昌祈所」版木（M17）（図16）などを確

認した。

経文関係として、享保十一年（一七二六）の「奉讀誦仁王般若経全部／般若心経数卷／秘密咒各數遍」版木（M9）（図17）がある。刻字に「多聞院不出」、「三寶寺本瑞法印求之」とある。他に、法玄大和尚御筆による安永九年（一七八〇）の「奉讀誦辟鬼珠経全部」版木（M8）（図18）、沙門瑞澄による「普遍光明清浄織盛如意寶印心無能勝大明王大随求陀羅尼」版木（M14）（図19）がある。

四 御神籤

「元三大師御神籤」版木（M23）（図20）は両面版木で二五枚を数える。一枚の版木の表裏には連番の御神籤が四枚ずつ記され、二五枚で第一番から百番まであり全て揃っている。延暦寺の中興の祖とされる元三大師（良源、角大師）はわが国におけるおみくじの元祖とされる。

石手寺の「元三大師御神籤」には、各版木の匡郭外（上欄）に「豫州石手寺」とある。そのうち、何枚かの版木の柱刻には、以下のとおり施主の名前が記されている。

「施主 湊町扇屋吉右エ門」、「施主大唐人町随求講中」（第一・二番御神籤。以下、御神籤番号を示す）、「施主大唐人町随求講中」、「施主午年男」（第三・四）、「施主 越府 河本又七」（第五・六）、「施主魚町一丁目森本屋安右エ門同丁福屋新助」（第七・八）、「施主 □□魚町灰屋□□」、「施主魚町一丁目亀屋長兵衛」（十一・十二）、「施主 魚町一丁目和泉屋半右エ門」、「施主岩井町大工与太郎」（十三・十四）、「施主湊町二丁目河内屋幾治郎」（十五・十六）、「施主 湊町二丁目米屋喜兵衛」（十七・十八）、「施主子年男西年男」（十九・二十）、「施主柳井町山本屋嘉兵衛」（二十一・二十二）、「施主大唐人町油屋重兵衛」（二十七・二十八）、「施主大唐人町富田屋篤兵衛」（二十九・三十）、「施主 米屋安兵衛」（四十一・四十二）、「施主川原町米屋身助」（四十三・四十四）、「施主夷子町新屋為

蔵」、「施主柳井町角屋九兵衛店」（四十七・四十八）、「施主魚町一丁目高木屋庄助」（六十一・六十二）、「施主 子年男 午年男」（八十一・八十二）。

これらからわかるように、おもに松山城下の町人らが施主となって石手寺に奉納している。

幸いなことに、この版木で擦られた元三大師御神籤の刷り物が石手寺に数枚ほど確認することができた（図21）。なお、「元三大師御神籤」は愛媛県内の四国霊場では第五十二番札所太山寺に同種のもものが現存する。

おわりに

今回の調査で筆者が確認できた石手寺の版木の概要について紹介した。現存する版木は江戸時代のもものが中心であるが、全国的にも珍しい室町時代中期の「不動明王立像（妙沢不動）」版木（H1）の存在や、念仏信仰の影響が見られる、「空海」の文字と御手判がある「南無阿弥陀仏（宝珠名号）」版木が確認されるなど、石手寺のもつ多様な信仰と歴史がうかがえる。

石手寺の院家宗徒である多門院や地藏院の銘記がある版木を確認することができ、版木の開板・管理と院家との関係についても注目される。

興味深いのは、第二十二世の瑞澄（明和三・一七六六年寂）によって「大随求菩薩坐像」版木、「普遍光明清浄織盛如意寶印心無能勝大明王大随求陀羅尼」版木などが相次ぎ開板されている点である。瑞澄の時代に人々から苦難を取り除き福徳を与え、子授けの功徳があるとされる大随求菩薩への信仰を広めようとしたことが推察される。また、今回確認できた石手寺版木の中に「随求加持之札 石手寺」版木（図13）や、「元三大師御神籤」版木の最初一枚（第一〜四番）には「施主大唐人町随求講中」とある。現在、石手寺裏山の地四国の中に随求堂があり、堂内には大随求菩薩坐像（手や持物等欠損）が厨子に安置されている（図22）。（これらとの関係が注目され、石手寺随求堂や大随求菩薩坐像の調査が待たれる。

小稿で紹介した石手寺版木で擦られた刷り物の発見に期待したい。また、各版木の内容の検討については、今後の課題といたしたい。

【謝辞】

石手寺の文化財調査に際しては、調査を快くお許しいただいた石手寺の加藤俊生住職、ご教示いただいた喜代吉榮徳氏、武田和昭氏に深謝申し上げます。

【参考文献】

- ・北川淳一郎『熊野山石手寺』石手寺発行、昭和三十七年
- ・喜代吉榮徳「伊予における隔夜信仰と辺路信仰」『四国辺路研究』創刊号、平成五年
- ・武田和昭「妙澤不動について」『普通寺教学振興会紀要』第3号、普通寺教学振興会、平成八年
- ・今村賢司「太山寺伝来の版木と札挟み・納め札」『二〇一四年度 四国遍路と霊場研究 1 四国霊場第五十二番札所太山寺総合調査報告書（1）』愛媛大学法文学部日本史研究室、平成二十七年

（いまむら・けんじ／愛媛県歴史文化博物館専門学芸員）



图1 「豫州石手寺衛門三郎略縁起」版木



图2 「石手寺茶堂勸奨録」版木

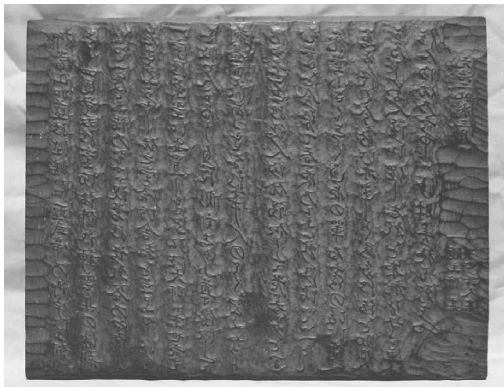


图3 「石手寺茶堂再建勸奨萬人講」版木



图5 「大随求菩薩坐像」版木



图4 「不動明王立像(妙沢不動)」版木



图 6-1 「弘法大師御影」 版木



图 6-2 「弘法大師御影」 版木

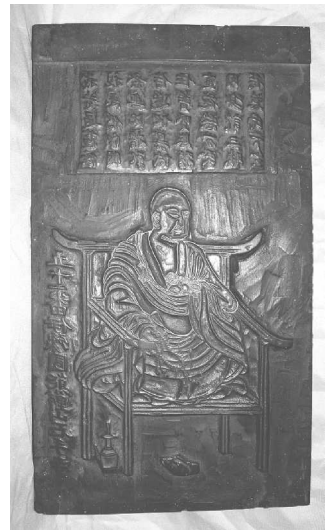


图 7 「弘法大師御影」 版木



图 8 「興教大師覺鑊御影」 版木



图 10-1·2 「南無阿彌陀仏（宝珠名号）」 版木



图 9 「地藏菩薩三尊像」 版木



图 11-1·2 「多聞天御札地藏院」 版木



图 12-1·2 「愛宕山御札」 版木



图 13 「隨求加持之札」 版木



图 14 「奉修不動明王護摩八千枚供如意滿足所」 版木



图 15 「奉修天神本地供如意滿足祈所」 版木



图 16 「勝手宮奉御祈禱中臣拔息災延命子孫繁昌祈所」 版木



図 17 「奉讀誦仁王般若經」版木



図 18 「奉讀誦辟鬼珠經」版木



図 19 「大随求陀羅尼」版木



図 20 「元三大師御神籤」版木



図 21 「元三大師御神籤」刷り物



図 22 石手寺随求堂の大随求菩薩坐像

石手寺所蔵の版木一覧表

No.	資料番号	分類	年代	法量(cm)			版木の内容 ※「」は刻字、/は改行、()は図像、梵字		備考
				縦	横	厚さ	表面	裏面	
1	M11	縁起・勸進	安永10年 (1781)	27.4	41.7	2.0	「豫州石手寺衛門三郎略縁起…」	刻字「利主尊者依求彫/表文之縁起蔵熊野山令知萬邦也于時/安永十辛巳年春二月初三/山内氏藤久周」	図1
2	M19～ M21	縁起・勸進	天保4年 (1833)	25.2	35.7	1.2	「前世の善根に依て…天保四口集癸巳九月良辰」	「大願發主石手寺現法印優章謹識」	3枚
3	M22	縁起・勸進	天保7年 (1836)	26.9	39.2	1.0	「抑當山伽藍濫觴…」	「…豫州/天保七丙申年二月 石手寺/石手寺茶堂勸奨録」	図2
4	M10	縁起・勸進	元治2年 (1865)	24.7	31.4	1.0	「抑當山伽藍の濫觴は…/元治二己丑歳三月/願主僧某/世話人某」	「石手寺/茶堂再建勸奨萬人講」	図3
5	H1	仏絵・御影		134.3	47.5～ 48.2	3.4	(不動明王立像)「龍湫不(欠損)」、 「願主権少僧都信禪 版木作人次郎」		上部破損。図4
6	M1	仏絵・御影		32.4	17.3	1.9	(梵字アーク)(弘法大師御影)、「豫州石手寺」	(弘法大師御)、「豫州石手寺」	図6-1、図6-2
7	M2	仏絵・御影		36.7	25.4	3.3	(興教大師覺鑊御影)、「昇仙瑞雲印施」		図8
8	M5	仏絵・御影		24.7	12.5	1.6	(地藏菩薩三尊像)	(地藏菩薩坐像)	図9
9	M12	仏絵・御影		43.4	24.9	2.0	「我昔遇遍薩埵/親悉伝印明/発無比誓願/侍邊地異域/住普賢悲願/昼夜愍万民/肉身證三昧/待慈氏下生/(弘法大師御影) 五十一番伊豫國熊野山石手寺」		図7
10	M13	仏絵・御影		43.0	24.5	1.7	「(大随求菩薩坐像)豫州熊野山石手寺第廿二世沙門瑞澄印施□」	墨書「大坂心斎橋筋□□□/坂口太兵衛」	御影(縦38.0×横21.2)。図5
11	H2	護符・経文		95.6	27.0	0.7～ 1.7	「光明遍照/十方世界/念佛衆生/撰取不捨」(『観無量寿経』の「真身観文」)、「南無阿弥陀仏」(宝珠名号)、「空海(印判)」	「光明遍照/十方世界/念佛衆生/撰取不捨」(『観無量寿経』の「真身観文」)、「梵字(南無阿弥陀仏)」、「空海(印判)」	表面(陽刻)、裏面(陰刻)。南(9.8×9.0cm)、無(9.9×9.1cm)、阿(9.8×8.7cm)、弥(10.1×9.0cm)、陀(9.5×9.3cm)、仏(10.2×9.2cm)。空海印判(5.7×4.7cm)。表面の字高(0.1cm)。上部の匡郭幅2.4cm。 図10-1、図10-2。
12	M3	護符・経文	大正15年 (1926)	26.4	6.3	1.7	「(梵字パン) 奉修弘法大師密供悪虫退散五穀成就攸/熊野山/石手寺」	墨書「大正十五年三月新調 現住大本」	

13	M4	護符・経文	宝暦10年 (1760)か	37.4	11.1	1.6	「多聞天御札地藏院」	「(宝珠)奉修多聞天供養安全祈所/石鉄山大権現/諸神□□/別當石手/地藏院」	側面に刻字「(宝暦)十辰天四月現住良怨書刻之也」。裏面は磨滅。図11-1、図11-2。
14	M6	護符・経文		37.3	11.1	2.4	「(欠損)愛宕山御札 別当 地藏院」	「(宝珠)石手愛宕山大権現守護所/諸難即滅/如意成就」	図12-1、図12-2。
15	M7	護符・経文		40.7	9.7	2.9	「随求加持之札 石手寺」	墨書「久保與左衛門寄附/熊埜山常住」	図13
16	M8	護符・経文	安永9年 (1780)、 寛政12年 (1800)	28.8	39.6	2.8	「御祈所/奉讀誦/(梵字)辟鬼珠經全部/(梵字)/諸真言各數遍/右抽猶誠意趣者護持/施主息延命家内安穩/心中祈誓如意如件」	刻字「五枚ノ内/法玄大和尚/御筆/安永九庚子年二月」。墨書「寛政十二字年/石手寺/什□」	図18
17	M9	護符・経文	享保11年 (1726)	24.9	43.7	2.1	「祈願所/奉讀誦/(梵字)仁王般若經全部/(梵字)般若心經數卷/(梵字)秘密咒各數遍/右為護持信心施主息矣/延命家内安全衆人快樂/所抽精誠仍而如件」 刻字「多聞院不出」、「享保十一丙午六月/三宝寺本瑞法印求之」	墨書「石手□□門院預」	図17
18	M14	護符・経文		14.4	22.1	1.7	「普遍光明清淨織盛如/意寶印心無能勝大明/王大随求陀羅尼/(梵字)/(梵字)/(梵字)/右之真言每朝九遍□/念誦不可解怠□□/沙門瑞澄授与之」		図19
19	M15	護符・経文		31.9	7.3	0.8	「(梵字カーン)奉修不動明王護摩八千枚供如意満足所」	墨書「八千枚護摩□札澄源/命伽者」	図14
20	M16	護符・経文		33.3	5.6	1.1	「(梵字)奉修天神本地供如意満足祈所」		図15
21	M17	護符・経文		27.3	4.5	0.9	「勝手宮奉御祈禱中臣祓/息災延命/子孫繁昌/祈所」		図16
22	M18	護符・経文		17.3	5.3	1.7	「(梵字)」		
23	M23	御神籤		20.4 (枠入 22.6)	39.5 (枠入 42.7)	1.5	元三大師御神籤		両面版木25枚(第一～第百番)、柱刻に施主名あり。匡郭外に「豫州石手寺」と刻む。刷り物あり。図20、図21。

石手寺の棟札

高嶋 賢二

棟札は、建築物の上棟・再建・葺替などの際、神仏への祈願文や主題とあわせ、当時の施主・為政者・世話人、大工や左官の名前等を木の札に記して、棟木に打ち付けたり取り置かれるもので、現存の建物だけでなく、かつて存在した建物の棟札も保存される場合が多く、当時をうかがう一次史料として有効であることは、すでに周知のことであろう。

石手寺の棟札は、重要文化財（建造物）の附として、

石手寺本堂（明治四十年五月二十七日指定） 附 銘札一枚 棟札三枚

石手寺三重塔（明治四十年五月二十七日指定） 附 棟札一枚

石手寺護摩堂（昭和二十八年三月三十一日指定） 附 棟札二枚

また、松山市指定有形文化財（歴史資料）として、

石手寺二王門棟札（昭和四十年十一月八日指定）二枚

石手寺訶梨帝母天堂棟札（昭和四十年十一月八日指定）一枚

があることが知られており、これらも含めた同寺の一六六の棟札（銘札一を含む）は、すでに『社寺の国宝・重文建造物等 棟札銘文集成——中国・四国・九州編——』（非文献資料の基礎的研究（棟札）—報告書）（国立歴史民俗博物館 平成五年）（以下、『集成』）に翻刻掲載されている。

本稿では、今回調査した石手寺宝物館収蔵の木製の棟札二〇点・祈禱札三点の調査結果について概説する。ただし、時間等の都合で、先に挙げた「石手寺本堂」附の銘札一枚に該当する文明十三年（一四八二）の本堂並びに三門再興銘札と、「石手寺護摩堂」附で、同堂の解体修理時に発見された⁽¹⁾寛文十三年（一六七三）の大師堂再興建立棟札は確認していない。それ以外の指定文化財に係る棟札七枚を含め、今回確認することができた棟札は次頁の表のとおりである。

このうち最古の年号を記した表No.01は、十二所権現社の以下六棟の再興上葺一枚に記している。（以下は現資料の記載順）

建物名	年（西暦）	願主
若殿	寛正四年（二四六三）	三味僧慶信四郎左衛門
證誠殿	寛正三年（二四六二）	一和尚信快七郎右衛門
西御前	長祿二年（二四五八）	隆圓信勢
護法堂	寛正四年（二四六三）	（読不能）
八社東	嘉吉三年（二四四三）	慶口
八社西	寶徳四年（二四五二）	弘賢

これに続いて「大工式部太夫 小工左郷以下八人」とあり（裏面は槍鉋の削り面だけで墨書はなし）、いくつかの上葺を後にまとめて記したものかもしれないが、一四四〇〜六〇年代の二〇年あまりで、相次いで上葺したことがうかがえる。未指定ではあるが室町期に遡る棟札史料としても貴重である。

年代順に並べた次頁の表で明確なように、石手寺の建造物建立には、大きく①慶長期（一六〇五〜一六一一）・②寛文〜元禄期（一六七三〜一六九八）・③寛延期（一七四九・一七五〇）と、おおよそ三期ほどピークがあったことがわかる。当時の石手寺住持は①實雄、②雲龍または瑞岩、③瑞章などの名前がうかがえる。

本稿では、未指定で『集成』にも未掲載のため、今後拝見する機会も少ないと思われる棟札六点と、あわせて保管されていた祈禱札三点の翻刻を、以下に掲載する。建造物の基礎情報を得るにはやや不明瞭な箇所もあるが、慶長期の棟札も含まれており、寺院史・地域史を知る上で一助となれば幸いである。

また祈禱札などは、従来翻刻の対象でもなかったが、慶長期のものが含まれ、宗教・信仰史の一面を伝える原資料でもあり、将来古文書等から明らかとなる事実と符合することもあるかも知れないので、ご参照いただければ幸いです。

（たかしま・けんじ／伊方町見郷土館）

（1）『重要文化財石手寺護摩堂外二棟修理工事報告書』（同修理委員会、一九五八年）

石手寺 棟札・祈禱札調査目録

【棟札】										
No.	仮題	年号	西暦	全長	上幅	下幅	厚	備考	仮No.	
01	十二所権現社 上葺	嘉吉～寛正	1443等	64.0	13.0	12.5	1.3	『集成』掲載。	08	
02	安養寺 造立	慶長10	1605	140.7	17.5	17.4	1.0	『集成』掲載。	02	
03	安養寺薬師堂 建立	慶長14	1609	164.7	18.3	17.7	1.5	重要文化財附。『集成』掲載。	11	
04	安養寺	慶長18	1613	142.2	16.4	15.5	0.8		01	
05	安養寺	慶長16	1611	89.2	14.0	12.5	1.3		04	
06	石手寺	元和7	1621	81.5	13.8現	13.0	1.0		15	
07	中門 再興建立	寛文13	1673	58.9	12.2	10.6	1.1	松山市指定有形文化財(歴史資料)。『集成』掲載。貼紙痕。	07	
08	薬師堂 上葺	寛文13	1673	90.3	19.8	18.5現	1.2	重要文化財附。『集成』掲載。貼紙「四」。	22	
09	観音堂	元禄8	1695	65.1	14.3	12.6	0.5	『集成』掲載。	09	
10	転輪蔵	元禄9	1696	48.0	12.2	11.1	0.6		06	
11	薬師堂 落成	元禄11	1698	77.0	90.0現	9.5現	0.6	重要文化財附。『集成』掲載。貼紙「五」。	18	
12	十二所権現社殿 修補	元文元	1736	109.2	150.0現	15.0現	1.0	松山市指定有形文化財(歴史資料)。『集成』掲載。半分欠失。貼紙痕。	03	
13	三重塔 再興上葺	寛延2	1749	70.6	8.6	8.6	0.9	重要文化財附。『集成』掲載。貼紙「六」。	13	
14	大師堂 修理	寛延2	1749	66.3	13.3	12.0	1.0	重要文化財附。『集成』掲載。貼紙「七」。	20	
15	中門 修補	寛延2	1749	66.0	13.7	12.0	0.9	『集成』掲載。松山市指定有形文化財(歴史資料)。現状二分。貼紙「二」。	14	
16	阿弥陀堂 修補	寛延3	1750	77.2	15.0	13.3	0.9	『集成』掲載。	12	
17	観音堂 修補	寛延3	1750	66.3	13.7	12.0	0.8	『集成』掲載。	19	
18	本坊門 再建	寛政元	1789	95.5	18.6	19.0	1.6	『集成』掲載。	21	
19	水天宮 再興	寛政8	1796	45.7	11.4	9.5	0.8		17	
20	奥書院・居間 再建	嘉永4	1851	84.8	14.1	12.6	0.7		10	
※このほか、今回は調査できなかったが、寛文13年(1673)の大師堂再興建立棟札(重文附)と、文明13年(1481)の本堂並びに三門再興銘札(重文附)がある。いずれも『集成』には掲載。				単位はcm。「現」は現状の意。				『集成』:『社寺の国宝・重文建造物等 棟札銘文集成—中国・四国・九州編—』(国立歴史民俗博物館 平成五年)		
【祈禱札】										
No.	仮題	年号	西暦	全長	上幅	下幅	厚	備考	仮No.	
1	修線求聞持法	慶長12	1607	39.4	9.5現	8.8	0.7		16	
2	不動護摩	寛文4	1664	52.0	11.5現	8.5現	0.7		05	
3	虚空蔵求聞持秘法	寛延元	1748	78.5	15.2	13.3	1.2		23	

※ 棟札のうち、トーンをかけた(04.05.06.10.19.20)が、本稿で翻刻掲載したもの。

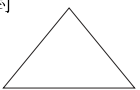
棟札翻刻 (◆は梵字、◇は花押、□は判読不能)

04 安養寺

表面

封

封



安養寺

聖主天中天 大檀那大梵天王 大檀那賀藤□ 佐殿 封
 迦陵頻伽聲 翼宿 □ 慶長十八年 丑六月五日 月曜 壬辰日 大工十右衛門
 哀愍衆生者
 我等今敬礼 勸進者帝釋天王 造立者住持實雄法印 封

裏面

◆ 大唐青龍寺棟札写
 此神殿籠所共ニ實雄只主力ニテ有之□時此
 材木志津川山内ニ一所ニ集メ石手へ諸事材木ハ
 難遣候然者左馬佐様ハ關東ニ在江戸表御座候ニ
 左馬介さま御実子あり男式部殿へ歳廿一ノ人實雄申上候へば 實雄◇
五辰ノ歲十八
 鑊炮衆八百九十人斗御申付候而只今ニ未ノ剋ニ皆々石手へ着キ
 了候間□時ニ寅年役彼代住持遠ヲ見テ世上ノ御才覚候て
 造営尤にて御請集居屋敷ニテ年貢ヲ御調申候、只主力仕力居立卒

05 安養寺

表面



石手安養寺愛宕山

聖主天中天 大檀那大梵天王 □ □ 檀那下野衆 与左衛門殿 □ □
 迦陵頻伽聲
 于時□□慶長九□念歳也此堂立者慶長十六 勸進_モ堂立_モ二度共實雄
 哀愍衆生者
 我等今敬礼 勸進者帝釋天王 建立者権大僧都法印實雄◇
辰ノ年五十六才

裏面

大唐青龍寺棟札写之實雄僧都◇
 □□入善七郎右衛門五匁佐々船一郎三匁下喜長□五□□□善右衛門式匁一柳与□□
 式匁当日忠左衛門六匁此者角兵へ式匁佐藤十右衛門壹匁杉田藤七式匁□□
 敷板一間十□□左衛門□□□□□□□□時三郎右衛門米三山□
 瓦ノ他ノ分者賀藤左之介御内ノ敷与左衛門尉卜長
 安太夫□□与州人足六人一人大工□□又一人二而右衛門又一人十八年五郎

06 石手寺

表面

封

聖主天中天

大檀那大梵天王

国主者佐馬介殿

封

封



石手寺

迦陵頻迦聲

哀愍衆生者

元和七年二月七日

柳宿 壬午日
木曜

大工善兵衛

我等今敬礼

勸進者帝釈天王

造立者法印實雄

封

裏面

一切日皆善 一切宿皆賢 諸佛皆威徳

虚空藏院住満廿四年目ニ之ヲ立乎以上合廿六棟数ヲ十五廿三年ノ□十五

新ク立テ佛ヲ三十八躰造リ京佛師ニ健造クラセ自身カイ眼宅シテ権現

中ニ安チシテヲキ其ノ外ニ塔ヲモ葺カエニ玉門ヲモフキカエツイチウモ半立ニ

ヲクマテ瓦ニ葺乎廿三年間一年モケタエ十三造営仕候てゴンケン斗ニ廿三年

造立ノ人目千十五石一斗三升三合七勺元和六年ニ自身京都へ上リ百日斗

逗留候て三宝院十四人印可被仕ダイコエ上リ逗留了金貸付同年ニ高野金□

奥院者常燈ヲ板銀三貫五百目ノ□□□自力ノ金修御行□□實雄

羅漢皆断漏 以此誠實言願我常吉祥

◆ 大唐青龍寺棟札写

10 轉輪藏

表面

聖主天中天

大檀那大梵天王

大檀那松平隱岐守定直

迦陵頻伽聲

元禄九^丙子春三月良辰

哀愍衆生故

我等今敬礼

勸進者帝釋天王

勸進者石手寺瑞岩

轉輪藏

裏面

熊野山石手寺伽藍轉輪藏經者予每ニト与ニ山林ノ多土一談シ

及一草レ庵レ為レ憾一念萌^{ヨリ}之胸次^ニ蓋シ有^レリ年奈^ニカセン持^レ縁ノ弗^レヲ遇徒^ニ有^テ

其願^ニ不^レ絶^レ為^レ力^ヲ時^ヤ乎三好氏之末裔投^ニ多般ノ之財宝^一請^ニ先掛^三籤^ノ

說^一ヲ轉輪藏不日^{シテ}而創造之此功豈唐指乎

元禄八^{乙亥}秋八月良辰

熊野山石手寺住職瑞岩

19 水天堂 再興

表面

聖主天中天 大檀那大梵天王 普請奉行
 迎陵頻伽聲 大檀那太守松平隱岐守源定威公 白石弥三次只見
元野中善右衛門
同永井金藏
同中村由右衛門
同渡部金兵衛
同山浅平右衛門

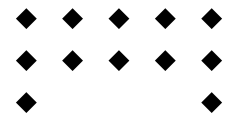
◆ 奉再興水天堂

哀愍衆生故 大願主當山現住院家法印音澄 同 房田儀兵衛政迫
 我等今敬礼 大願主帝釋天王 同 千賀喜兵衛勝矩
手代久保弥平次
同梅木和佐右衛門
大工棟梁代平次

裏面

若末法世人 長誦此真言

寛政八丙辰年九月晦日豫州熊野山石手寺水天堂棟札



刀兵不能害 水火不焚漂

20 奥書院兼居間 再建

表面

如 円 塔 一切日皆善 一切宿皆賢 諸佛皆威德 嘉永四辛亥歲



羅漢皆断漏 以斯誠實言 願我成吉祥 四月二十九日

相 種 界

裏面

◆ 南無堅牢地神與樂眷属 南無五帝龍王待者眷属
 再建奥書院兼居間 一宇山務完洲 棟梁 村上善市兵衛
 領光源少将定穀公 同 堀本与太良
 玉善寺住兼最勝院 榮真

祈祷札翻刻 (◆は梵字、□は判読不能)

1 「祈祷札」

表面

於嚴嶋弥山行之 護持院

◆ 奉修線求聞持法都合十四座攸

慶長十二年八月吉日 宥賢◆

裏面

御寶前
御寶前

2 「祈祷札」

表面

當病平癒 寛文三年

◆ 奉念誦不動護摩供三夜三月祈所

息灾延命 七月吉日

裏面



3 「祈祷札」

表面

寛延元年 於岩屋寺求聞持堂

◆ 奉修虚空蔵求聞持秘法第一度如意成辨祈所

九月吉日 泰秀房瑞興修行焉

裏面

聞持法開白七月二日□□
翼宿結願九月十一日□□
壁宿

修中都七十箇日一百落又悉地成就訖

阿闍梨法印齋秀謹誌

石手寺の歴代住持位牌について

今村 賢司

はじめに

筆者は四国霊場第五十一番札所石手寺の歴代住持の位牌について調査する機会を得た。石手寺の位牌については北川淳一郎氏による昭和三十三年の「法流位牌調」『熊野山石手寺』が報告されている。今回、筆者が歴代住持位牌の実物を調査したところ、前述の「法流位牌調」の内容と異なる箇所を確認し、また、位牌の制作年代に関する新たな知見を得た。

小稿では石手寺歴代住持位牌の銘文、法量、形状などを調査し一覧表にまとめた。以下、その概要について紹介したい。

一 歴代住持位牌について

石手寺歴代住持の位牌は講堂内に安置されている。調査した位牌は43基あり、そのうち初代道圓から四十二代俊行までの42基の歴代住持位牌を確認することができた。

(ア) 位牌の銘文

歴代住持の各位牌に記された僧侶名、戒名などの銘文の内容について、箇条書きで歴代順に記す。なお、すべての位牌の冒頭には通種子の「梵字(ア)」が記されている。

- ・ 當山密教開祖法印道圓大和尚位
- ・ 第二世信圓大和尚
- ・ 第三世賢信大和尚

- ・ 第四世全信大和尚
- ・ 第五世秀任大和尚
- ・ 第六世權僧正信禪大和尚
- ・ 第七世信通大和尚
- ・ 第八葉宥惠大和尚
- ・ 第九世善任大和尚
- ・ 第十葉弘監大和尚
- ・ 第十一世玄贖大和尚
- ・ 第十二葉善榮大和尚
- ・ 第十三世榮鏡大和尚
- ・ 第十四代贈權僧正實雄 法身位
- ・ 第十五代權大僧都法印實秀 承應二曆五月十九 不生位
- ・ 第十六世權大僧都法印真龍大覺位 天和二壬戌季九月十九日 和州於久米寺入家當寺隱居

(裏) 与州石手住寺

- ・ 第十七世法印權大僧都雲龍 不生位

(裏) 元禄五壬申年正月十七日寂

- ・ 第十八世 權僧正瑞巖大和尚 不生位

(裏) 寶永六己丑八月十八日入滅

- ・ 第十九世 法印權大僧都雲恕 不生位

(裏) 正徳四甲午年十二月四日寂

- ・ 第二十世 法印權大僧都瑞元大和尚

- ・ 第廿一葉法印瑞章大和尚

- ・ 第廿二世瑞澄大和尚位

- ・ 第二十三葉澄如大和尚位

(裏) 法師澄如在病牀年于爰□於是自慮壽領西因茲調位牌以候於縁謝而已

維時安永七戊戌七月僧自恣日

・第二十四世法印尊榮大和尚 不生位

・第二十五世法印洗瑞大和尚 不生位

・第廿六葉法印薰章大和尚

・第廿七葉法印音澄大和尚

・第二十八葉法印榮天 大和尚

(裏) 享和元辛酉年七月十七日

・第二十九世法印浄宝 和尚位

(裏) 文化九壬申正月廿六日

・第三十世權僧正榮山 和尚位

(裏) 文政十一戊子三月廿三日 豊山小池坊住

・第三十一世法印章安和尚

(裏) 天保六未年五月十三日寂

・第三十二世權僧正蓮恕 不正位

(裏) 第三十

・第三十三世法印有章 不正位

(裏) 弘化三年四月十九日 字智瑞房

・第三十四世法印完洲不生位

(裏) 明治十三年陰曆正月九日入寂 行年八十有二歳 當國伊豫郡高柳村

清水寛右エ門四男

・當山第三十五世傳燈大阿闍黎法印章榮 不生位

(裏) 明治三年六月廿九日 乙訓寺ヨリ當山江住

・第三十六世法印全章 不生位

(裏) 明治八年十二月三日 字 泰順房

・當山第三十七世傳燈大阿闍梨前長者大僧正大了 本不生位

(裏) 明治三十一年八月廿五日陰七月九日

・當山第三十八世少僧正章純 不生位

(裏) 明治三十一年戊辰二月二十日 河之内金毘羅寺ヨリ轉住

・當山第三十九世權中僧正隆俊 不生位

(裏) 明治三十三年十一月十五日寂

・當山中興第四十世集議一等司教權大僧正大本 不生位

(裏) 昭和八年九月十二日寂

・當山第四十一世法印俊章 不生位

(裏) 昭和三十六年十月六日寂 權大僧正三位勲二等九州帝国大学名誉

教授 重松俊草字道整

・當山第四十二世法印俊行 不生位

(裏) 平成十六年七月十八日寂 加藤俊行

十五代實秀、十六代真龍、十八代瑞巖、二十三代澄如、三十代榮山、三十四代完洲、三十七代大了、三十八代章純の銘文は、北川氏の「法流位牌調」の内容と異なり、一部に誤記・誤植が見受けられる。

(イ) 寂年について

歴代住持位牌のうち、遷化の年月が記載されている最初の位牌は十五代實秀のもので「承應二曆五月十九」とある。ちなみに承應二年(一六五三)といえ、京都の智積院の僧・澄禪が四国遍路を行い、「四国辺路日記」が書かれた年にあたる。澄禪が石手寺を訪れた際にはすでに實秀は亡くなっている。

十五代實秀以後、江戸時代では十六代真龍(天和二・一六八二年九月十九日)、十七代雲龍(元禄五・一六九二年正月十七日)、十八代瑞巖(寶永六・一七〇九年八月十八日)、十九代雲恕(正徳四・一七一四年十二月四日)、二十三代澄如(安永七・一七七八年七月)、二十八代榮天(享和元・一八〇一年七月十七日)、二十九代浄宝(文化九・一八一二年正月廿六日)、三十代榮山(文政十一・一八

二八年三月廿三日)、三十一代章安(天保六・一八三五年五月十三日)、三十三代有章(弘化三・一八四六年四月十九日)、明治時代以降は三十四代完洲から四十二代俊行までの位牌に寂年が記されている。

(ウ) 形状・品質

石手寺歴代住持位牌を牌身と台座(框)の形状などで大別すると、AとDの四種でA1とA5、B、C1・C2、Dの九タイプに区分できる。ほとんどの位牌の文字は陰刻字廓内金泥によって記されている。

A形は金箔などの装飾がない長方形の木製黒漆塗のシンプルな位牌で、台座が三段である。そのうち、牌身頭部が円弧で隅丸、牌身幅が下部に向けてすぼむタイプのA1(図1)、牌身頭部が円弧で弓状、牌身幅の上部と下部が同一幅のタイプのA2(図2)、牌身頭部がゆるやかな円弧で弓状、牌身幅が幅広なタイプのA3(図3)、頭部が円弧で弓状、牌身幅が幅広でないタイプのA4(図4)、牌身頭部が平頭で隅丸なタイプのA5(図5)に区分できる。

B形(図6)は牌身頭部が円弧隅丸、下部にすぼむA1のタイプに準ずるが、牌身の内側に宝珠文のような縁取りが施され、蓮華須弥壇の台座は五段で反足が付き、位牌の表側は金箔などで装飾されている。

C形は位牌の上部に日輪と雲形の意匠が付き、総高が高く、牌身は縁取りされ、牌身幅の上部と下部が同一幅で袖がないタイプのC1(図7)と、重厚な袖付きのタイプのC2(図8)がある。いずれも位牌の表側は上部から蓮華須弥壇に至るまで金箔や彫刻などの装飾が施されている。とりわけ、五段の蓮華須弥壇をもつC2は細部に金属板による細かな装飾があり、石手寺歴代住持位牌の中で傑出している。

D形(図9)は頭部に屋根が付き、牌身は上部と下部が同一幅で縁取りされ、石手寺歴代位牌中、最も幅広である。位牌の表側は装飾されている。

全体的に見ると、42基中A形が35基で大半を占め、なかでもA1タイプは

21基(50%)で最も多い。

初代道圓から十三代榮鏡まではA1タイプが連続しているが、初代道圓のものは総高、牌身幅などが比較的大きい造りとなっている。

十四代實雄、十五代實秀、十六代真龍、十七代雲龍、十八代瑞巖、十九代雲怒、二十代瑞元までの位牌は、形状が雲形位牌(C形)、屋根形位牌(D形)、牌

身縁取り(B形)などの装飾が施され、他の位牌とは異なった格式の高いものとなっている。

(エ) 位牌の制作年代

前述のとおり、初代道圓から十三代榮鏡までは同じ形状の位牌であり、おそらくある時期に一斉に位牌の整備が行われたものと推察するが、今回の調査で新たに、初代道圓、十三代榮鏡、二十二代瑞澄の三僧侶の位牌の牌身のほぞ部分に次の墨書銘を確認し、その謎が明らかとなった。

道圓牌身のほぞ(表)に「開山御位牌始第十三世榮鏡マテ□宝曆七丁丑八月造之灵檀ニ安置スル者也」(図10)、同(裏)に「第二十二世 瑞澄」と記されている。また、榮鏡位牌のほぞ(表)には「宝曆七丁丑歳八月、同(裏)に「瑞澄造之十五本之内」とあり、さらに、瑞澄位牌のほぞ(表)

表 石手寺歴代住持位牌の形状

形状	分類	牌身頭部	牌身幅	台座(框)	歴代住職
A	A1	円弧隅丸	下部にすぼむ	三段	1~13、21~28
	A2	円弧弓状	上部と下部が同一幅	三段	29~33
	A3	円弧弓状	上下同一幅で幅広	三段	34
	A4	円弧弓状	上部と下部が同一幅	三段	35~40
	A5	平頭隅丸	上部と下部が同一幅	三段	41、42
B	B	円弧隅丸	下部にすぼむ・装飾付	五段反足・装飾付	17~20
C	C1	雲形	上下同一幅・装飾付	三段・装飾付	14
	C2	雲形	上下同一幅袖付・装飾付	五段・装飾付	15
D	D	屋根形	上下同一幅幅広・装飾付	三段隅足・装飾付	16

には「宝曆七丁丑八月代々先師位牌造立之砌為逆修造立之者也 瑞澄五十九歳」(図11)と記されている。

つまり、これらの墨書銘から、宝曆七年(一七五七)八月に五十九歳であった二十二代瑞澄の命によって代々先師位牌(初代道圓から十三代栄鏡までの)は造立され、檀に安置されたもので、瑞澄が造らせた位牌の数は十五基あり、逆修のため自らの位牌もあわせて造立していることがわかる。

おわりに

今回の調査で歴代住持位牌の実物を確認しそれらの銘文、法量、形状などについて明らかにした。新たな知見として、江戸時代の宝暦年間頃、二十二代瑞澄の時代に石手寺の歴代住持の位牌が整備されていることが判明した。形状分類からも同時期に位牌の整備が行われたことがうかがえる。さらに筆者が担当した石手寺の版木調査においても、瑞澄の時代に制作された「大随求菩薩坐像」版木、「大随求陀羅尼」版木などを確認した。位牌や版木から見ると二十二代瑞澄の時代に石手寺の歴史的環境の整備、護符類による布教活動が図られたものと考えられる。なお、時間的制約から、瑞澄造立の十五基の位牌のうち残り一基を発見することはできなかった。今後の課題としたい。

謝辞

石手寺の文化財調査に際しては、調査を快くお許しいただいた石手寺の加藤俊生住職に感謝申し上げます。

参考文献

・北川淳一郎『熊野山石手寺』石手寺発行、昭和三十七年

(いまむら・けんじ／愛媛県歴史文化博物館専門学芸員)



图 1 初代道圓位牌 (A1)



图 2 二十九代浄宝位牌 (A2)



图 3 三十四代完洲位牌 (A3)



图 4 三十七代大了位牌 (A4)



图 5 四十一代俊章位牌 (A5)



图 6 十七代雲龍位牌 (B)



图 7 十四代實雄位牌 (C1)



图 8 十五代實秀位牌 (C2)



图 9 十六代真龍位牌 (D)

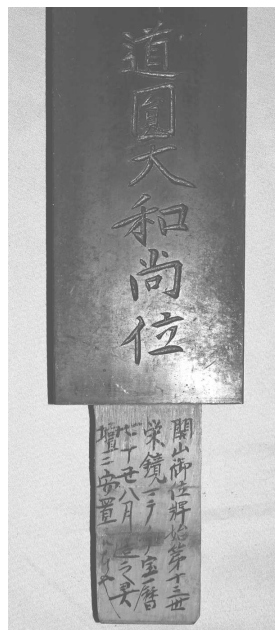


图 10 初代道圓牌身銘

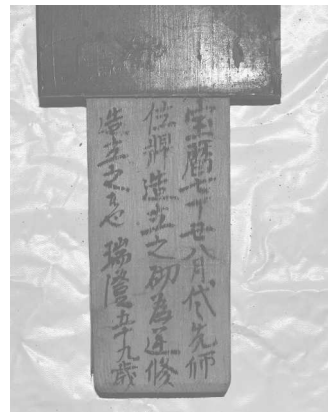


图 11 二十二代瑞澄牌身銘

石手寺所蔵歴代住持位牌一覽

番号	歴代	僧侶名	形状	総高cm	牌身高cm	牌身幅cm	牌身厚cm	框(幅×奥行)cm	銘文	時代	備考
位牌1	1	道圓	A1	62.8	47.7	上9.3 下8.5	上1.5 下1.8	16.3×9.7	【表面】(梵字ア) 當山密教開祖法印道圓大和尚位	江戸	【位牌】ほぞに墨書銘あり
位牌2	2	信圓	A1	57.5	43.7	上8.8 下8.2	1.7	15.3×8.6	【表面】(梵字ア) 第二世信圓大和尚	江戸	
位牌3	3	賢信	A1	57.4	43.7	上8.8 下8.1	1.6	15.5×8.4	【表面】(梵字ア) 第三世賢信大和尚	江戸	
位牌4	4	全信	A1	57.2	43.6	上8.9 下8.2	1.6	15.7×18.6	【表面】(梵字ア) 第四世全信大和尚	江戸	
位牌5	5	秀任	A1	57.3	43.6	上8.8 下8.3	1.6	15.2×8.1	【表面】(梵字ア) 第五世秀任大和尚	江戸	
位牌6	6	信禪	A1	57.6	43.8	上8.9 下8.2	1.6	14.5×8.7	【表面】(梵字ア) 第六世權僧正信禪大和尚	江戸	
位牌7	7	信通	A1	57.0	43.6	上8.9 下8.2	1.6	14.8×8.8	【表面】(梵字ア) 第七世信通大和尚	江戸	
位牌8	8	宥恵	A1	57.0	43.5	上8.9 下8.3	1.7	15.0×8.5	【表面】(梵字ア) 第八葉宥恵大和尚	江戸	
位牌9	9	善任	A1	57.4	43.6	上8.8 下8.3	1.6	14.7×8.4	【表面】(梵字ア) 第九世善任大和尚	江戸	
位牌10	10	弘監	A1	56.7	43.6	上8.9 下8.4	1.4	15.4×8.6	【表面】(梵字ア) 第十葉弘監大和尚	江戸	
位牌11	11	玄贛	A1	57.0	43.5	上8.8 下8.1	1.6	14.4×8.5	【表面】(梵字ア) 第十一世玄贛大和尚	江戸	
位牌12	12	善栄	A1	58.5	44.3	上9.1 下8.4	1.7	15.1×8.9	【表面】(梵字ア) 第十二葉善栄大和尚	江戸	【寂年】天正14(1586)年8月24日
位牌13	13	栄鏡	A1	58.4	44.3	上9.3 下8.3	1.7	15.5×9.0	【表面】(梵字ア) 第十三葉栄鏡大和尚	江戸	【位牌】ほぞに墨書銘あり
位牌14	14	實雄	C1	71.2	29.6	8.7	1.3	20.5×10.0	【表面】(梵字ア) 第十四代贈權僧正實雄 法身位	江戸	【位牌】頭部分離、虫喰 【寂年】寛永3(1626)年4月10日
位牌15	15	實秀	C2	73.6	27.4	6.3	1.8	21.0×11.2	【表面】(梵字ア) 第十五代權大僧都法印實秀 承應二曆五月十九 不生位	江戸	【位牌】頭部分離。金工の裝飾付(一部欠損)。底部に墨書、刻字あり 【寂年】承応2(1653)年5月19日 【墓】舟形塔(五輪塔線刻)
位牌16	16	真龍	D	46.7	28.8	13.0	1.7	20.0×8.5	【表面】第十六世(梵字ア)權大僧都法印真龍大覺位 天和二壬戌季九月十九日 和州口久米寺入家當寺隱居 【裏面】与州石手住寺	江戸	【寂年】天和2(1682)年9月19日 【墓】舟形塔(五輪塔線刻)
位牌17	17	雲龍	B	57.0	39.8	上9.1 下8.3	1.6	16.2×8.4	【表面】(梵字ア) 第十七世法印權大僧都雲龍 不生位 【裏面】元禄五壬申年正月十七日寂	江戸	【寂年】元禄5(1692)年1月17日 【墓】未確認
位牌18	18	瑞巖	B	58.6	41.3	上9.3 下8.4	1.8	14.7×8.9	【表面】(梵字ア) 第十八世 權僧正瑞巖大和尚 不生位 【裏面】寛永六己丑八月十八日入滅	江戸	【寂年】宝永6(1709)年8月18日 【墓】宝篋印塔
位牌19	19	雲恕	B	57.8	41.3	上9.2 下8.5	1.6	16.0×7.8	【表面】(梵字ア) 第十九世 法印權大僧都雲恕 不生位 【裏面】正徳四甲午年十二月四日寂	江戸	【寂年】正徳4(1714)年12月4日 【墓】五輪塔
位牌20	20	瑞元	B	57.8	40.2	上9.4 下8.7	1.7	16.5×8.5	【表面】(梵字ア) 第二十世 法印權大僧都瑞元大和尚	江戸	【寂年】享保16(1731)年8月7日 【墓】宝篋印塔
位牌21	21	瑞章	A1	58.8	44.4	上8.8 下8.4	1.6	15.4×8.9	【表面】(梵字ア) 第廿一葉法印瑞章大和尚	江戸	【寂年】宝暦11(1761)年10月19日 【墓】無縫塔
位牌22	22	瑞澄	A1	58.3	44.1	上9.0 下8.3	1.7	15.2×9.0	【表面】(梵字ア) 第廿二世瑞澄大和尚位	江戸	【位牌】ほぞに墨書銘あり 【寂年】明和3(1766)年8月18日 【墓】無縫塔
位牌23	23	澄如	A1	58.2	44.5	上8.9 下8.4	1.4	15.7×9.1	【表面】(梵字ア) 第二十三葉澄如大和尚位 【裏面】法師澄如在病牀年于爰口於是自慮壽領西因茲調位牌以候於緣謝而已 維時安永七戊戌七月僧自恣日	江戸	【寂年】安永8(1779)年8月6日 【墓】無縫塔

位牌24	24	尊栄	A1	58.9	44.4	上9.0 下8.5	1.3	15.7×9.2	【表面】(梵字ア) 第二十四世法印尊栄大和尚 不生位	江戸	【寂年】天明6(1786)年4月10日 【墓】無縫塔
位牌25	25	洗瑞	A1	59.0	44.8	上9.0 下8.4	1.3	15.8×9.2	【表面】(梵字ア) 第二十五世法印洗瑞大和尚 不生位	江戸	【寂年】天明6(1786)年9月24日 【墓】無縫塔
位牌26	26	薫章	A1	57.5	44.5	上9.0 下8.4	1.4	15.7×9.0	【表面】(梵字ア) 第廿六葉法印薫章大和尚	江戸	【寂年】寛政6(1794)年9月2日 【墓】無縫塔
位牌27	27	音澄	A1	58.1	44.8	上8.9 下8.2	1.4	15.8×8.6	【表面】(梵字ア) 第廿七葉法印音澄大和尚	江戸	【寂年】寛政10(1798)年10月9日 【墓】無縫塔
位牌28	28	栄天	A1	57.0	43.8	上8.9 下8.3	1.6	15.3×8.6	【表面】(梵字ア) 第二十八葉法印栄天 大和尚 【裏面】享和元辛酉年七月十七日	江戸	【寂年】享和元(1801)年7月17日 【墓】無縫塔
位牌29	29	浄宝	A2	59.9	45.6	8.8	1.4	16.3×9.4	【表面】(梵字ア) 第二十九世法印浄宝 和尚位 【裏面】文化九壬申正月廿六日	江戸	【寂年】文化9(1812)年1月27日 【墓】無縫塔
位牌30	30	栄山	A2	59.6	45.6	8.8	1.4	16.3×9.2	【表面】(梵字ア) 第三十世權僧正栄山 和尚位 【裏面】文政十一戊子三月廿三日 豊山小池坊住	江戸	【寂年】文政11(1828)年3月23日 【墓】五輪塔
位牌31	31	章安	A2	59.5	45.6	8.7	1.4	16.5×9.1	【表面】(梵字ア) 第三十一世法印章安和尚 【裏面】天保六未年五月十三日寂	江戸	【寂年】天保6(1835)年5月13日 【墓】五輪塔
位牌32	32	蓮恕	A2	61.0	46.9	8.8	1.4	16.4×8.7	【表面】(梵字ア) 第三十二世權僧正蓮恕 不正位 【裏面】第三十	江戸	【寂年】天保13(1842)年5月26日 【墓】五輪塔
位牌33	33	有章	A2	60.7	46.6	8.7	1.4	16.4×8.6	【表面】(梵字ア) 第三十三世法印有章 不正位 【裏面】弘化三年四月十九日 字智瑞房	江戸	【寂年】弘化3(1846)年4月19日 【墓】五輪塔
位牌34	34	完洲	A3	62.5	47.7	9.6	1.1	20.7×18.6	【表面】(梵字ア) 第三十四世法印完洲不生位 【裏面】明治十三年陰曆正月九日入寂 行年八十有二歳 當國伊豫郡高柳村清水覚右工門四男	明治	【寂年】明治12(1879)年2月18日 【墓】五輪塔
位牌35	35	章榮	A4	61.2	46.8	8.8	1.6	17.2×8.8	【表面】(梵字ア) 當山第三十五世傳燈大阿闍梨法印章榮 不生位 【裏面】明治三午年六月廿九日 乙訓寺ヨリ當山江住	明治	【寂年】明治3(1870)年6月29日 【墓】五輪塔
位牌36	36	全章	A4	59.8	45.7	9.0	1.4	15.9×9.2	【表面】(梵字ア) 第三十六世法印全章 不生位 【裏面】明治八年十二月三日 字 泰順房	明治	【寂年】明治8(1875)年12月3日 【墓】自然石
位牌37	37	大了	A4	61.2	46.6	上8.7 下8.5	1.6	16.9×8.9	【表面】(梵字ア) 當山第三十七世傳燈大阿闍梨前長者大僧正大了 本不生位 【裏面】明治三十一年八月廿五日陰七月九日	明治	【寂年】明治31(1898)年8月25日 【墓】五輪塔
位牌38	38	章純	A4	60.0	45.6	9.0	1.4	16.4×9.2	【表面】(梵字ア) 當山第三十八世少僧正章純 不生位 【裏面】明治三十一年旧二月二十日 河之内金毘羅寺ヨリ	明治	【寂年】明治32(1899)年3月12日 【墓】自然石
位牌39	39	隆俊	A4	60.0	45.8	9.2	1.8	16.4×9.2	【表面】(梵字ア) 當山第三十九世權中僧正隆俊 不生位 【裏面】明治三十三年十一月十五日寂	明治	【寂年】明治33(1900)年11月15日 【墓】五輪塔
位牌40	40	大本	A4	61.0	46.7	8.8	1.7	17.0×8.9	【表面】(梵字ア) 當山中興第四十世集議一等司教權大僧正大本 不生位 【裏面】昭和八年九月十二日寂	昭和	【寂年】昭和8(1933)年9月12日 【墓】五輪塔
位牌41	41	俊章	A5	62.2	47.1	9.1	1.5	18.0×9.5	【表面】(梵字ア) 當山第四十一世法印俊章 不生位 【裏面】昭和三十六年十月六日寂 權大僧正三位勲二等九州帝国大学名誉教授 重松俊草字道整	昭和	【墓】五輪塔
位牌42	42	俊行	A5	63.5	47.3	9.1	1.5	18.0×10.0	【表面】(梵字ア) 當山第四十二世法印俊行 不生位 【裏面】平成十六年七月十八日寂 加藤俊行	昭和	【墓】五輪塔

註

- ・寂年の記載は明治24年1月39代好山隆俊新調「熊野山石手寺法流世代」(北川淳一郎『熊野山石手寺』石手寺発行、昭和37年)による。
- ・歴代住職墓は筆者の確認調査による。
- ・歴代住持位牌とともに講堂に安置されているその他の位牌として、僧侶周本の位牌が一基ある。銘文は表面に「(梵字ア) 法印周本 不生位」、裏面に「昭和十四年五月二十一日 補教試補 向井周本 二十五歳」とある。法量は総高23.2cm、牌身高15.2cm、牌身幅5.4cm、牌身厚1.4cm、框(幅8.8×奥行4.9)cm。

石手寺の古文書

胡 光

一 石手寺調査の歴史

四国霊場第五十一番札所石手寺における最初の「文化財」調査は、明治三十年（一八九七）古社寺保存法発布に伴い、同三十三年（一九〇〇）内務省から派遣された小杉楹邨（徳島県出身）ら古社寺保存国宝計画委員によるものであった。詳細は不明ながら、その成果は、明治四十年（一九〇七）二王門・本堂・三重塔・鐘楼、大正元年（一九一三）銅鐘が国宝（現在の重要文化財）に指定されたことにかがえる。戦後、文化財保護法が施行され、昭和二十八年（一九五三）訶梨帝母天堂・護摩堂が重要文化財に指定された時、鐘楼とともに修理工事が行われ、修理報告書が作成された。これらは、建造物調査が中心であったが、棟札が発見され、報告されるなど、史料紹介も含まれていた。

次に国・県の調査が行われたのは、昭和三十九年（一九六四）の文化財集中地区特別総合調査であり、『四国八十八箇所を中心とする文化財 愛媛県下』が刊行された。本調査は、札所だけでなく県内主要寺社を対象に、調査一〇日間、準備・刊行一年間という緊急概要調査で、各文化財への解説は少ない。石手寺では、金剛力士立像・不動明王と二童子立像・天人面・獅子頭・仏涅槃図・金銅薬師三尊懸仏・三鈷鈴・大壇・礼盤・銅鐘・鑄鉄燈籠基台が収録されている。これらは翌年以降、県指定文化財になった。

石手寺文書の調査は、戦前すでに伊予史談会創設者の一人西園寺源透氏によって行われており、伊予史談会文庫（愛媛県立図書館保管）にその写本が伝わる。これらを用いて、本格的な石手寺研究を展開し、成果を広く公開したのは、北川淳一郎氏を嚆矢とする。北川氏は、元松山中学校教諭で、石手寺惣代を務め、先の修理工事や宝物館建設に関わった。宝物館が開館した昭和三十七年（一九六二）に刊行されたのが『熊野山石手寺』である。本書の特徴は、写本中心なが

ら、多数の文書を全文掲載していることにあり、資料集としての価値も高い。

続いて一九八〇年代には『愛媛県史』四一巻が編纂され、通史・部門史・資料編の各巻で、貴重な中世文書を含む石手寺文書が活用・紹介された。近年では、天理大学文学部・愛媛大学教育学部の合同調査により『熊野山石手寺調査概報』がまとめられたが、刊行や研究には至っていない。

これまでの調査では、建造物を除けば、ほぼ宝物館内の調査であった。今次調査では、宝物館はもとより、諸堂全ての調査を行い、彫刻・絵画・工芸品・古文書などを総合的に研究した。従前の文化財調査では不十分であった、詳細情報を提示し、新発見資料も多数掲載している。

古文書類については、宝物館五〇五点、旧土蔵五〇二四点を確認した。この中から、『愛媛県史』に収録されているものを除き、主要文書の一部を以下に翻刻した。全点の情報は、目録を参照されたい。

二 石手寺文書翻刻解題

加藤明成禁制【宝物館西五三・七】慶長十一年（一六〇六）・豎紙

文祿の役の功により、文祿四年（一五九五）正木に入った加藤嘉明は、慶長五年（一六〇〇）の関ヶ原合戦に東軍として参戦し、加増を受け伊予半国を領した。同年一二月二日には藤堂高虎と伊予領国の協定を結び、翌年五月二日付で家臣への知行宛行や寺社への寺領寄進を行い、石手寺へも二〇〇石の寺領が安堵された（宝物館西五三・八）。その後、嘉明の子明成が本書によって、当寺の花を折らぬよう保護を加えた。旧暦二月末は現在の三月末頃にあたり、桜の季節である。「當山往古図」（宝物館西五六）によると、石手川から道後温泉に向かう道の両側は当寺領であり、桜が咲き誇る様子が描かれる。領主も認めた桜の名所であった。また、本書からは、嫡男明成が藩政を分担していたことが分かる。

加藤明成居屋敷免許状【宝物館西五三・九】慶長二〇年（一六一五）・豎紙

石手寺と塔頭五坊の居屋敷石高が書き上げられ、居屋敷所持の許可がなされ

た。往古三十六坊と言われるが、近世初頭には五坊であったこと、石高制が貫徹していたこと、嫡子明成の藩政分担が読み取れる。本年、改元し元和となる。

加藤家奉公人連署奉書【宝物館西五三・一〇】元和八年（一六二二）・堅紙

石手寺の経営を安定させるよう十四世實雄に命じた奉書。藩にとつても、石手寺の盛衰は重要であったことがうかがえる。

威徳院坊屋敷売渡証文【宝物館西七一】寛永元年（一六二四）・堅紙

威徳院から石手寺に屋敷地を売り渡した証文。寺地の範囲が明確に記され、寺地の売買が存在したこと、石手寺が寺地を拡大していく実態がよく分かる。

蒲生忠知家臣書状【宝物館西三四】寛永十一年（一六三四）・折紙

加藤と入れ替わって寛永四年（一六二七）に入部する蒲生忠知時代の家臣書状。年次不詳であったが、発給者の高瀬為右衛門・不破庄右衛門・浅井権右衛門の名は、寛永十二年（一六三五）の景観を描き、蒲生・松平両家臣屋敷を記した「山城下町図」に見えることから、蒲生家臣であることが確定する。高瀬は、同七年の大洲藩との替地交渉にも登場し、本文書でも寺領に関与することから、三名は郡奉行ではないかと目される。最上の敬意をほらつた様式で書かれた本書状は、石手寺へ寺領二〇〇石の戌年物成（年貢）等を以前の通り保証するものであり、寺領は加藤時代と同じであった。また、本書が発給されたのも戌年＝寛永十一年と比定され、ちょうど蒲生騒動落着後、大洲藩との替地交渉の最中であり、領内の仕置きを幕府奏者番松平勝隆と勘定頭曾根吉次に断わっていることも注目される。忠知は同年八月に没し、御家断絶となるため、短い蒲生治世を伝える貴重な文書と言えよう。その後、松平勝隆と曾根吉次は松山城引渡にも関わる。

石手寺代々記録【宝物館西四四】寛永十二年（一六三五）・堅紙

寛永十二年七月、松平定行が桑名から松山へ加増転封となった。本書は、新領主に当寺の保護を訴えるため、由緒を報告した下書か写。刻板文書の表記と異なり、仁徳天皇開基、聖武天皇再興という古い歴史、徳川家につながる源氏からの保護という由緒を主張し、前代の河野家の時には、六六坊、三〇〇貫の寺領が

あったとする。発給者は、当寺十五世「實秀」。位牌中の没年記載も彼から始まる。当寺の宝物・歴史を整理し、近世化の基礎を築いた。松平家からは少くとも一〇〇石の寺領を得た。

石手寺實秀書状案【宝物館西二四】寛永十五年（一六三八）成・一紙

江戸幕府は中世寺院の特権を剥奪する一方で、各宗派の本山を確定して末寺への支配力を強めさせ、全ての寺院を本山―末寺の組織に組み込んだ。各宗派別にこの寺院法度が制定されたのは、慶長六〇元和二年（一六〇一―一六）であり、寛永二年（一六三五）頃には寺請制度も始まった。当寺の宗派が分かる最古の史料は、永祿十年（一五六七）刻板（宝物館西八六）で、弘仁四年（八一三）に法相宗から真言宗に改宗されたという。現在の石手寺は、真言宗豊山派である。本書は嵯峨大覚寺に宛てた末寺許可への礼状で、江戸時代には大覚寺派であったことが分かる。聖教中には法相宗系のものも伝来し、当寺の宗派変遷を知ることができる。

石手寺法印実秀讓状案【宝物館西四二】寛永十六年（一六三九）・一紙

河野氏治世下、暦応二年（一三三九）以来、道後湯月八幡宮（伊佐爾波神社）の神役も務めており、当寺の支配が道後温泉付近まで及んでいたことを知る。その後、末寺正傳寺に神役を務めさせていたところ、天正年間に衰退したため、鳥谷若狭守が預かっていた。本書は、鳥谷に神職を讓る讓状の写。

道後八幡宮神主役覚【宝物館西五九】寛永十六年（一六三九）・一紙

右の讓状の添状。道後湯月八幡宮の神事について引き継ぐ。これまでは、石手寺が管轄していた証左でもある。

大覚寺宮二品親王令旨【宝物館西二七】天和二年（一六八二）・堅紙

石手寺が大覚寺末寺であることを認める二品親王令旨。大覚寺から発給された文書では、最も重要なもので、大高檀紙が使用されている。

補僧録御免状【宝物館西八二】元禄十一年（一六九八）・堅紙

五代將軍徳川綱吉に抜擢された江戸護持院隆光から、石手寺が伊予国の触頭に命じられた。松平家菩提寺四ヶ寺と同等の寺格を有した。

瑞元代記録【旧土蔵三四一】享保十六年（一七三二）・豎帳

二十世瑞元による正徳五く享保十六年（一七一五く三一）の住持記録。瑞元は三色の色衣を許可され、院室を兼帯して、石手寺の「二国之惣本寺」化を進めた。本書からは、幕府や藩との親密な関係がうかがえる。

石手寺願書【宝物館西六四】宝暦十二年（一七六二）・継紙

真義真言宗の触頭として、程應という僧を罰しようとしたところ、程應が古義真言宗の高野山金剛三昧院へ改宗したため、争論となった。本書からは、江戸時代の本末制度や触頭の役割がうかがえる。

衛門三郎略縁起【宝物館西三〇】江戸時代後期（一八世紀頃）・卷子本

衛門三郎略縁起【宝物館西三三】江戸時代後期（一八世紀頃）・卷子本

石手寺に縁深く、四国遍路の開創伝説にもつながる衛門三郎の説話は、古くは永禄十年（一五六七）刻板（宝物館西八六）に見られる。刻板の内容を忠実に卷子本縁起に仕立てた両書は、江戸時代の古い形態と、多くの人が見聞したことに よる損傷が認められ、この説話が流布する原本のひとつであった可能性が高い。以来、様々な内容の衛門三郎像が創作され、木版本として広まった。

三 石手寺文書目録凡例

一、古文書・古記録・聖教類の基礎データについて

原則として標題（史料名）、年代、受給関係（作成者・宛所）、形態、点数、備考（内容）、の項を設けた。標題は、原則として原史料に記載がある場合はこれを採用した「標題」であり、古文書学・史料学に基づいて確定された「史料名」ではない。便宜的に仮題をつけた場合は「」内に記した。情報の伝達を期待された「文書」類については、「書状」の概念を広義に解釈し標題とした。但し、「史料名」を確定できる史料についてはこの限りでない。文書の形態は、豎紙・折紙・一紙・横折・半折・豎帳・横帳などに分類している。綴紐で簡易に結ばれた冊子類でも、紙片が各々独自に機能せず、一冊として史料的作用を果たしてい

るものは「帳」とした。別々の発給者によるものなど、元来独自で機能していたものを綴った史料については、元の史料形態を記すとともに（綴）の表記をした。多様な形態を有する近代文書については、原史料に即した形態表現を採用した。備考には伝来一括状況も記した。書籍の年代の項に記したのは、発行年月日であるが、写や編集、序文などに依拠する場合はそれを註記した。書籍の形態は、袋綴本・大和綴本の場合は特大本・大本・半紙本・中本・小本などの判型を採用し、その他の場合は折本・粘葉装・綴葉装・洋装本などの装丁によって分類した。備考欄には奥書・印記・伝世・整理状況などを示す情報を記したが、紙幅の関係上、簡略化したものもある。聖教のうち、柱書がなく、内容の特定が難しいものには「聖教」の仮標題を付した。一部の法量・丁数については割愛した。

一、古文書・古記録・聖教類の収蔵と目録について

古文書・古記録・聖教類を石手寺文書と総称する。石手寺文書は、宝物館収蔵分と土蔵旧蔵分の二種からなる。宝物館収蔵分は、中央・東・西のケースごとに史料番号を付した。『愛媛県史資料編』『熊野山石手寺』収録史料は「県」「寺」の記号を目録に記した。土蔵旧蔵分は、収蔵順に一〇四〇号の函番号を付し、現状記録を行った。この中には、仏画等が含まれていたが、本目録に収録した。史料番号は函内の収蔵順に付し、函番号に続けて記した。

【参考文献】

『重要文化財石手寺護摩堂外二棟修理工事報告書』（同修理委員会、一九五八年）、北川淳一郎『熊野山石手寺』（石手寺、一九六二年）、『四国八十八箇所を中心とする文化財 愛媛県下』（文化財保護委員会、一九六四年）、『郷土古資料集（二）松山古地図・資料』（東雲書店、一九八一年）、『愛媛県史』資料編古代・中世（愛媛県、一九八三年）、『愛媛県史』資料編学問・宗教（愛媛県、一九八三年）、『愛媛県史』資料編近世上（愛媛県、一九八四年）、『愛媛県史』学問・宗教（愛媛県、一九八五年）、『愛媛県史』資料編近世下（愛媛県、一九八八年）、『熊野山石手寺宝物調査概報』（石手寺宝物緊急調査団、二〇〇八年）（えべす・ひかる／愛媛大学法文学部教授）

石手寺文書翻刻

加藤明成禁制【宝物館西五三一七号】慶長十一年（一六〇六）・豎紙

其寺之花、猥折取之由不及是非候、向後之儀、不寄老童不可折旨相断、押而於手折者其段可被告越候也

慶長十一

二月廿九日明成（花押）

石手寺

加藤明成居屋敷免許状【宝物館西五三一九号】慶長二十年（一六一五）・豎紙

石手寺坊中居屋敷目録

一、九斗壺升者

花王坊

一、壺石四斗三升者

地藏院

一、壺石三斗者

新坊

一、壺石者

定現坊

一、式石六斗者

増林坊

一、式石六斗者

石手寺法印

合八石式斗四升者

右永代令免許之也

慶長廿年乙卯 加藤式部少輔

十一月五日 明成（花押）

石手寺

加藤家奉公人連署奉書【宝物館西五三一〇号】元和八年（一六二二）・豎紙

石手寺掟之事

一、堂塔、伽藍造営等不可退転事

一、経論、聖教并仏具、寺家雜具等不可失之事

一、後代之住持、実弟甚賢可被相続事

右條々、為衆分門徒相改、堅可守此赴旨、所被 仰出也、仍執達如件

元和八壬戌年

三上又右衛門入

正月廿七日

桃庵（花押）

二神修理進入

瑞庵（花押）

石手寺

実雄法印

威徳院坊屋敷売渡証文【宝物館西七一七号】寛永元年（一六二四）・豎紙

売渡威徳院坊屋敷之事

東ハ先規ヨリ山際目有之、南ハ堰限り、但ワキハ福義院ヨリ仕成候事

西ハをそ河のせきかきり、北ハ堰石かき共ニ成蔵院之南面ノ方、此方ヨリ仕成候事、

一、此屋敷ノ未申ノ方ノ井ツ、ノ各ノ年貢米壺斗式升ニテ多聞院ヘヤリ申候

一、此坊舎ヘ取申候各ノ年貢米八升、中谷ノ名主ヘ渡可申者也

右坊舎、永代限銀子合三貫三百目ニ売渡事明鏡也、然上者不可有余人之妨者也、

仍為後日証文如件

仍為後日証文如件

威徳院

寛永元年甲子十二月十六日

長音（花押）

与州道後

石手寺実雄法印との

蒲生忠知家臣書狀【宝物館西三四号】寛永十一年（一六三四）カ・元折紙卷子装

以上

一書致啓上候、然者石手寺御寺領之義、松平出雲守殿、曾根源左衛門殿、於江戸被為得 御意候へハ、如前々貳百石分戊戌物成無相違可相渡旨被仰下候、一段儀二候、皆共迄大慶存知候、為其申上候、恐惶謹言

高瀬為右衛門

正月廿三日 二郎（花押）

不破庄右衛門

兵衛（花押）

浅井権右衛門

貞吉（花押）

石手寺

御同宿所

以上

一筆致啓上候、然者石手愛宕山社領之儀、於江戸松平出雲殿、曾根源左衛門殿被為得 御意候へハ、如前々戌年現米五石可相渡旨被 仰下候、皆共迄大慶存知候、為其申入候、恐惶謹言

高瀬為右衛門

正月廿三日 二郎（花押）

不破庄右衛門

兵衛（花押）

浅井権右衛門

貞吉（花押）

石手愛宕山別当

石手寺代々記録【宝物館西四四号】寛永十二年（一六三五）・豎紙

石手寺代々記録

一、抑熊野山石手寺者、仁王拾七代之帝仁徳天皇之御宇之御開基、其後仁王四拾五代聖武天皇之御再興、供養之導師者行基菩薩、其後又白川之天皇御再興并勅額明鏡之處二而御座候

一、伽藍之棟敷、大小廿八

一、從頼朝公之御朱印者、三代以前之住持榮鏡法印持參仕走被申候

一、尊氏將軍之御朱印者、至今御座候

元弘三年九月三日御在判

一、河野殿代々之御判形も、三代已然之榮鏡法印持參仕走被申候

一、河野殿御代者、石手寺之脇坊之敷六拾六坊也

付、從先頃河野殿代々通（宣）直没落迄者三千貫之寺領二而御座候

石手寺

寛永十式年九月廿四日

實秀（花押）

石手寺実秀書狀案【宝物館西二四号】寛永十五年（一六三八）成・一紙

（貼紙）「嵯峨先門様へ實秀指上置被申候末寺狀之写」

（貼紙裏）「此張リツケハ、雲龍直書ノ扣ニ相見へ」

（貼紙）「寛永十五ヨリ本年迄式百四十八年ニナル」

石手寺之儀、向後御末寺成被下候段、難有承奉存候、自今以後対 御門跡様疎意

奉存間敷候、是等之趣御披露奉頼候、仍為後日如件

寛永十五年 豫州石手寺

十月十七日 実秀判

大勝院殿

石手寺法印実秀書状案【宝物館西四二二号】寛永十六年（一六三九）・一紙

抑道後湯月八幡宮之神主職者、有深旨故、当地大守河野對馬守通治殿迄、代々數百年相勤、雖然四方兵乱々々蜂起故為武家、神前祭礼丁寧勤不任心、神慮依及疎意、曆応二年彼職於附屬我寺、其以來当院之主彼神役相勤、然当寺末寺正傳寺、幸其郷之為祈院故、附彼寺神前不怠国家安泰之令祈願処、彼寺天正年中退転畢、依去又自当寺其方先考烏谷若狭守彼職相預、就其神殿鍵等相授、其神役者先正月牛王加持、八月祭礼御幸之時、玉躰於移御輿、其外神殿内陣備物等捧宝前、是皆神主職之役也、其方數年間彼職永代授与之望故、唯今無滯末代相渡者也、仍如件

石手寺

寛永十六己卯年八月十日 法印實秀

烏谷主馬守殿

道後八幡宮神主役覺【宝物館西五九号】寛永十六年（一六三九）・一紙

道後八幡宮神主役之事

一、神前之鍵致取持事

一、正月元日、開神前之御戸、若水御鏡之餅御雜煮等備宝前、国家安全之御祈禱
仕事

一、同三日、牛王、致加持社家共へ相渡事

一、八月御祭礼之時、十一日之朝、内神之開御戸、同十二日、遷玉体御輿成御幸、

還御之時令本所安座事

一、正月松莊、其外節句々々其時々致逢物、御祈禱仕事

一、宮作之時、上遷宮、下遷宮、其外末社迄仕事

石手寺

寛永十六己卯年八月十日 法印實秀

烏谷主馬守殿

大覺寺宮二品親王令旨【宝物館西二七号】天和二年（一六八二）・豎紙

伊豫州温泉郡熊野山石手寺虚空藏院、從先規依為 大覺寺宮御末寺、弥可抽伽藍繁榮佛法興隆之誠精之旨

二品親王御氣色之所候也、仍執達如件

天和二年九月八日（花押）

石手寺法印

御坊

補僧録御免状【宝物館西八二二号】元禄十一年（一六九八）・豎紙

（包紙）「石手寺」（包紙貼紙）「僧録御免状并四箇寺方添状人」

豫州石手寺者、國中無双之古跡、至于今伽藍嚴麗而寺門繁昌、是偏依為太守之祈禱所也、依之自今以後於太守之領内補僧録之條、可治罰非法之僧侶、察拳好學之沙門者也、仍而如件

元禄十一戊寅年十月十二日（花押）

瑞元代記録【旧土蔵三四、一号】享保十六年（一七三二）・豎帳

（表紙）「瑞元代記録」

（朱書）「從正徳五乙未至嘉永四辛亥年百三十六年、此記至享保十六年、都十六年」

余、生年參拾六歳二而、伊豫郡松前村金蓮寺江入院、住職五年、彼寺法流五、

六代義、附法断絶之故、本寺高野山金剛三昧院江罷越、從中宣僧都重位之法

脈蒙許可畢、但シ從是以前、初瀬住山拾弐年、醍醐住山壹年、京都儒字壹年、

如斯相務畢、

一、当寺住職之儀、正徳五未年二月八日被 仰付候、 太守定直公御在府、御家

老服部源左衛門宅二而、御横目岡部惣左衛門被出合候、余、年四拾壹歳也、

一、同月十七日入院、当日上下芸御賄二而、御饗応御馳走人大賄皆川武大夫、郡

奉行奥平弥兵衛、御横目山内升右衛門、御代官高木苗藏、歩行目附城野文右衛門、下目付近藤達大夫、諸改河村与一左衛門、御茶道改橋田林可、御茶道高川岩石、証文改秋山小助、御料理人岡嶋太左衛門、松浦茂兵衛、次料理人友沢伝介、岡徳左衛門、小役人杉山紋左衛門、吉田七助、松本忠七、其外、郡奉行手寄仙波善右衛門、当郡手代田房右衛門、持筒拾人横目付キ之手寄等、

一、当日、御使者厚木弥七郎、為入院之御祝義、銀三枚昆布一台被下置之、
一、入院当日人数、菅生山大寶寺、其外本寺格拾三人、門末寺院拾九人、法縁之僧拾壹人、右小者三拾壹人、金蓮寺方召連候、伴僧五人、小姓貳人、納所壹人、下男九人、都合僧俗上下百人余、御料理被下置候、但シ大寶寺ハ書院二而、院主之相伴、

一、当日御料理後段之後、御家老中御奉行中江入院届二罷出、但、御月番御老中江、御使者御礼申述ル供二、僧貳人侍壹人、入院為御礼、江戸二而 太守公江披露状御家老中迄遣ス并御老中へ別紙其外、番頭、奏者番、御用人、御横目、何茂格通書状遣ス、江戸僧録護持院江披露状并両役者江別通、同四ヶ寺格通、右何茂金百疋宛遣之、本寺嵯峨 御所江披露状、金貳百疋、院家中江格通、坊官中江書状、両山能化江披露状、醍醐法務江披露状并両役者江書状、右何茂金百疋宛遣之、京大坂御留主居へ書状格通、

一、入院之節進物、御家老中、番頭、御奉行、御用人、奏者番迄、三本入扇子、白木台、郡奉行、大賄、諸郡御代官、御横目、町奉行、三津町奉行并御船奉行、宗門奉行、歩行目付、当郡手代、御奉行手寄、郡奉行手寄迄、式本人、家中檀那、市中郷中旦那、其外当郡庄屋等至迄、皆扇子式本人遣、三ヶ寺、法華寺、三本入、白木台、千秋寺、天徳寺、龍徳寺、浄徳寺、蓮福寺以上六ヶ寺江者、扇子、一派之寺院、本寺格江ハ、三本入扇子、末寺門徒之寺院へハ、扇子箱式本人遣、

一、同年同月晦日釜大鳴ル、

一、同年六月 太守公、江戸御発足、海陸諸祈祷、如旧例被仰付、

一、同年久米郡醫王寺住持良雲、依不行蹟之儀、六月廿一日追院、尤脱衣也、

一、同年八月十九日 太守公御成、講談御所望二付、心経題号以下、一段講之金子五百疋拝領、

一、当日寅之刻、釜大二鳴ル、

一、同年九月、從江戸、僧録衣体三色之許状頂戴之、当寺之儀者、前往雲惣迄者、皆以江戸僧録方之免許二色也、然處今度、依為一国之惣本寺、三色免許之旨、愛宕円福寺方之添状有之、後日二伝へ聞候處、御朱印地之談林格之由、

一、同年未(朱書)「正徳五末」十二月、於当地、始而寺社奉行被 仰付、稻川八右衛門、高木忠左衛門兩人也、横目所方手紙二而、向後諸事、寺社奉行江対談可致旨申来ル、

一、享保元年正月廿五日 太守公御成、論議御聴聞、異題六大法身、金三百疋 拝領之、

一、同年二月、從江府、触頭申来ル、新義一派本末并末寺門徒相改之印形帳面有之、從是、以前者於当地末寺門徒之差別無之、此度急度相定者也、條目在別二

一、同年四月、疫病流行二付、從 公儀祈祷被 仰付、十一日方一七日執行之初夜、迦楼羅鳥王法、普門品、後夜、心経法、般若心経、日中、不動護摩、大般若経、諸祈祷料式拾俵、

一、同年五月、古義方依違背、從 公儀御書出有之、古義方法義之事、從高野山可触之、向後、国法之触事并諸願之節、添簡、其外裏判等ハ如前之、從当山可仕旨、双方江被仰渡候、寺社奉行方為使、伊藤弥一左衛門、矢野与左衛門兩人、当寺江被參、右被 仰出之趣、演説有之義、兩人者宗門奉行也、右之趣、古義寺院へ被申渡、若違候僧有之者、当領之任職無用之由、被申聞候へハ、各早速、致領掌之由、拜修

一、同年九月、本寺嵯峨大覚寺御所江、為繼目御礼上京、銀子貳貫目許借願之、

遠山三郎左衛門方願之通、被下置候旨、被 仰出候、寺社奉行奥平小左衛門、遠山氏宅江被出合候、

一、右、上京之節、御船被下候、但シ是者不願被 仰付候、船中御賄上下五人、伴僧老人、侍老、草履取老、中間老、大坂御屋敷御長屋三三日逗留、但シ是ハ当地ニ而願之也、大坂伏見迄川船、大坂御留主居大河原三郎大夫方出之、御手船也、

一、京着、以後嵯峨江參候節乗物等、京都御藏屋敷御留主居村松彦左衛門方借用、
一、嵯峨御所江御礼物金千疋、覺勝院、大正院各式百疋宛、室乘院江金百疋、索麵老箱、坊官中江各百疋宛、御小姓中へ金百疋、御侍中江金百疋、御下男へ鳥目五百文、覺勝院内、中川主計江銀貳両、同円昌房江銀貳両、御仏殿預智教房へ銀三匁、覺勝院家来江鳥目百文宛、

一、右上京之節、覺勝院殿取持ニ而、院室兼帯被成下候、為証人小池坊隱居前護国寺前大僧正亮貞法春之由書状、嵯峨院家中江被遣之、首尾相濟、早速、京都方江府僧録、又者、両山能化并江戸四ヶ寺江右之届書状遣之、太守公在府故、右之趣披露状遣之、国許寺社奉行江も相達畢、右院室兼帯御礼物、御所江金卅両、院家中江金三百疋宛、室乘院坊官中江各金貳百疋宛、惣小姓中江金貳百疋、惣侍中江金貳百疋、御仏殿預智教房江銀壹両、下男衆へ鳥目壹貫文、覺勝院内円昌房へ銀貳両、中川主計銀貳両、中川長太郎江銀壹両、家来兩人江鳥目貳百文宛遣之、

一、享保二酉年二月、諸寺院格式年頭御礼之前後次第ヲ以、相定、条自在別、
一、同年四月入院、灌頂、庭儀、為入用、八木式拾俵被下置、
一、同年、嵯峨御所御修復奉加申来リ、当院方銀拾枚、当山門末方銀三枚、菅生山大寶寺方銀貳枚、其外御末寺銀壹枚宛、

一、同四亥年二月上旬方三月下旬迄、菅生山觀音并岩屋寺不動仙人等、於当山開帳、

一、同年、野間郡遍照院末寺大井寺、同門徒明浄寺浄論之儀有之、七月七日、明浄寺住持泰恕、赤穂江令追放、勿論脱衣也、海陸御祈禱故、於最勝院申渡御檢〔見〕使、宗門奉行伊藤弥一左衛門、步行目付中江八大夫、赤穂江之押へ、松浦勘右衛門、同七月十日二大井寺呼寄、蟄居申付、其後、押込隠居申付、星浦村成道寺住持退院申付、

一、同五年子年正月、両山能化方諸国江御触有之、新義一派成就之僧、初法談執行、於当地、初法談始而有之、自今以後懈怠無之、記録在別ニ

一、同年三月、菅生山大寶寺上京之節、網代乗物之事、嵯峨坊官中迄窺之候処、腰黒網代御免有之、

一、同年九月、太守定直公、於江戸御病氣、依之御祈禱、飛州公方被 仰付、初夜、不動法心經五百卷、後夜、不動經心經五百卷、日中、不動護摩般若經、右御祈禱料銀三拾枚、

一、同年十月廿五日、於江戸 定直公御遠行、十二月八日、大林寺ニ而御焼香、四ヶ寺千秋寺、当寺、天満寺、正宗寺、龍穩寺等、太山寺、金蓮寺、大寶寺右御焼香之節、塔頭五ヶ寺者、院主之跡ニ而、引続キ御焼香、太山寺脇坊式ヶ寺、菅生山脇坊惣代式ヶ寺、各本寺之跡ニ而、御焼香有之、装束者、能化分法服七條、門末之能化分者、直綴二七條、平僧分ハ直綴ニ如法衣、当寺、太山寺、金蓮寺、大寶寺、右四ヶ寺者、旧格ニ而、從公儀之御触無之、御法事中日ニ罷出、御焼香相勤之、其外、自他宗諸寺院者、御法事結願之日御焼香可仕旨、御触有之候、御焼香之節、院主香箱懷中、御碑前ニ而礼拝無之、直ニ焼香、香箱（マツ）をは覆紗ヲ敷、跡江直罷立、次ニ地藏院其外寺中、其香箱ニ而、御焼香相務之、終リニ増林坊、香箱ヲ仕舞懷中而罷立、納經法花卷本一部、小口ヲ銀箔ニ而、袖ヲハ金箔、台柳盤下ヶ札ニ石手寺院家法印ト書之、太山寺、大寶寺、右同斷、金蓮寺、石手愛宕別當、又ハ太山寺脇坊、大寶寺脇坊、此分ハ頓写之理趣經、白木箱入ニシテ、上ニ不空真実三摩耶經ト書之、台ハ柳盤也、但、此等茂皆法

花經卷本ノ筈也、然共、經無之故如此、

一、享保六丑年五月廿五日方廿九日迄、請雨祈禱、諸郡方頼来ル、

一、同年七月十九日、飛州公御家督御相続、隱岐守公卜御改、御入国、

一、同閏七月二日方風鎮祈禱、二夜三日諸郡方頼来ル、仁王經大法修之、

一、同閏七月十五日、依 太守公之嚴命、止雨之御祈禱二夜三日、

一、同閏七月十八日、御家督之為御祝義、御礼被為請之、

一、同八月九日、御祝義御触拜覽被 仰付、

一、享保七寅年五月廿三日方同廿七日迄、請雨御祈禱被 仰付、開白翌日雨降、

結願之朝、大雨、

一、同年、古藏及大破、自分ニ而建立、

一、享保八卯年、本尊虚空藏御再興、古来之本尊至テ小仏故、此度、願之大仏ニ

作立畢、御首ハ春日之作也、右之小仏、此度之本尊御拔籠ニ作込置也、六月廿

三日、入仏供養、時之寺社奉行佃九兵衛、取次之大御目付三戸權左衛門、大賄

稲川四左衛門、但シ本尊御再興始終之取持、稲川四左衛門江被仰付候、兩脇士

不動毘沙門者、自力ニ而再興之、

一、同年冬、当村御藏之前ニ有之、惣門南之土手添江引之、

一、享保九辰年、方丈居間、一間二三間半、自力ニ而建立畢、再建嘉永三庚戌年、

是迄百二十七年ニナル、

一、同年、風早郡光徳院并末寺永福寺与浄論之事有之、四月十三日、双方呼寄、

永福寺追院申付、光徳院、蓮台寺、蓮生寺ハ、五月朔日迄蟄居申付也、

一、享保十巳年正月方太山寺年頭御礼、八日中書院被 仰付、去辰依頼如此、

一、同年、定観坊江米拾五俵、為瑞長追善寄付、法幡院江米五俵、□瑞祠堂料卜

シテ寄付之、

一、享保十一年正月方菅生山大寶寺年頭御礼、八日中書院被 仰付、去冬年始御

祈禱、五日迄仕度由、依頼相濟、

一、同年、太山寺塔頭年頭御礼、八日中書院被 仰付、去巳歲、太山寺方依頼
此、

一、同年、窪田村安樂寺儀、垣生村長樂寺為門徒之處、從 公儀、離未被 仰付、

同年四月、遂上京、東寺法菩提院末寺ニ成、当寺方添簡差遣相濟、

一、同年三月、窪田村光明寺新法ニ安樂寺門徒ニ成ル依頼之、

一、同年七月、風鎮祈禱諸郡方頼来ル、

一、享保十二未年九月、伝法灌頂以執行、但シ門末中方依頼之也、

一、享保十三申年四月 大樹將軍公、日光御社參ニ付 太守公、日光山道筋

之御国被 仰付、依之從 太守公御祈禱被 仰付、為御祈禱料、銀五枚被下置、

一、同年四月 若殿御疱瘡ニ付、御祈禱被 仰付、為御祈禱料、銀子五枚被下置

之、

一、同年六月、日光山御用御仕廻、為御祝義、以御使者、金子五百足被下置之

一、享保十四酉年六月朔日方同五日迄、御領内並御預所迄風雨、順時五穀成就之

御祈禱被 仰付、為御祈禱料、銀子拾枚、

一、同年七月、九尺ニ式間之醬油藏建立之、

一、同年閏九月十九日、当秋每度之風損ニ付、家中并寺社領迄、御引米百石ニ付、

五割四分御引、

一、享保十五戌年、太山寺并塔頭式箇寺出入之事有之、八月廿九日、円光坊地藏

坊追院被 仰付、於当寺、式箇寺江申渡ス、

一、同年九月、依相論之儀、末村金毘羅新法二道後八幡之末社ニ被 仰付畢、

一、享保十六亥年正月廿二日、山城守公、御叙爵、依之為御初穂、金三百足遣之、

御使者山本源之丞、右御使者江戸江罷帰候節ニ老枚箱入、江府江遣之、

一、同年二月六日、隱居ノ願、寺社奉行杉田六左衛門迄差出ス、

一、同月晦日、於寺社奉行杉田六左衛門宅、随病身ニ而太儀候、今暫住職仕候旨

被 仰渡、

已下遺弟追加之

一、同八月三日、方丈病氣大切二付、後任之願、宗門奉行御用番大道寺簇之助江

差出之案文、猶別紙有之、寺社奉行御用番戸田吉助、宗門奉行所江使僧地藏院、

一、同月四日、病氣為 御見舞、御使者有之候趣、歩行目附中申來、手紙之趣、

如左、

以手紙致啓上候、然者、方丈御病氣為御尋、只今御使者馬嶋沢右衛門被遣候、

右御内意、為御承知如斯御座候以上、

八月四日

歩行目附中

最勝院

地藏院

右之通、簡左之通、

御手紙致拜見候、然者、方丈病氣為 御尋、御使者馬嶋沢右衛門殿被下置候

旨、御儀向之趣申聞候処、難有奉存候、以上、

八月四日

地藏院

最勝院

御歩行目附中

一、同日巳刻、御使者馬嶋沢右衛門被參、挨拶人浄明院其外法類并寺中共出向、

御使者病家江御通御対面有之、御請、浄明院申上ル、

一、同日午刻、右為御礼、御用番竹内久右衛門殿、寺社奉行御用番戸田吉助、右

両所江、浄明院罷越、但シ伴僧老人、駕籠、御使者馬嶋沢右衛門江者、為一礼

使僧遣之、

一、同月七日夜半前後、遷化、同八日卯刻、地藏院へ引越届之案文如左、

使僧法憧院

口上

石手寺儀、病氣及至極候付、於地藏院養生仕候、右為御届如此御座候、以上、

八月八日

最勝院判

地藏院判

一、同日辰之刻、遷化之届如左、使僧法憧院

口上

石手寺住持瑞元、於地藏院只今死去仕居、右為御届如此御座候、已上、

八月八日

最勝院判

地藏院判

一、同日 公儀江死去之届相濟下後 祈祷且那分之御年寄中江支配人迄、口上書

二而、申遣ス 家中祈祷且那分、其外知音之衆中へも口上書二而、申遣ス 郷

中并諸山諸寺院者、向寄二廻状相認申遣 菅生山大寶寺、野間郡遍照院、周布

郡浄明寺へ、別而書状相認、大宿迄遣ス、

一、九日八ツ時、御送葬 御臨終方御送葬之時刻迄、不断経 遺弟并門末、其外

有縁僧勤之 送葬二者、近辺之諸山并菅生山出席有之、於地藏院御法事、理趣

中曲三昧、導師大寶寺、表向三蔵院、経頭法雲寺、讚頭常願寺、返頭円満寺、

灑水福正寺、打鳴法壽院、諸山并末寺能分、法服七條、看坊門徒之僧者、如法

衣、門徒之内、役付之仁者、甲衆袈裟着用 焼香之事、大寶寺、次遺弟、次孫

弟、次諸山門末等、就中、諸山末寺へ焼香之唱之、但在家有縁之衆中之焼香、

机別二二ヶ所儲之、

送葬場東之河原也、地藏坊方行列

尤、諸山之僧侶も不残在列 庭之幡、八流四本幡、天蓋、小幡等、白箔、龍

頭、不残新造、棺覆之蓋并水引、白箔、挟箱覆、傘袋等者、晒布、二方幕者、

木綿也、右之内、庭之幡、二流挟箱之覆、傘袋、其外野道具等、下手二遣ス、

一、一七日迄、碑前二而、三時執行、供養法、理趣経、

一、送葬之節、方丈留主居、最勝院、地藏院、

一、一七日、法事送葬之節、出合之寺院遺弟、子之僧迄不残施濟 帳面有別、布

施、半紙三二一束等、他日、遺弟之内、致持參、謝儀申伸、在家有縁之衆中并出入之者共不殘、前日非時申付ル 料理二汁三菜、菓子

一、送葬、当日諸山其外之料理一汁三菜、但シ、送葬前、至着次第、追々出之、

一、施物之事、座頭仲間へ鳥目老々文、使番之座頭へ銀式匁、下手ニ黒米式斗、

鳥目老々、非人仲間へ頭四人ニ鳥目百文、其外へ式百文遣之、

一、銀式拾五匁 右者、地藏院座敷表替之代物として遣之、

一、江戸愛宕圓福寺役者江遣候、書状如左、

石手寺瑞元儀、当夏已来病氣ニ罷在候處、養生不相叶、当月七日ニ死去仕

候、為御届如斯御座候、恐惶謹言、

伊与国石手寺塔頭

地藏院

八月十日

最勝院

円福寺御役者

儀測房様

一、嵯峨御所江遣書状如左、

石手寺瑞元儀、当夏已来病氣ニ罷在候處、養生不相叶、当月七日ニ死去仕

候、為御届如斯御座候、恐惶謹言、

八月十日

最勝院

嵯峨御所

地藏院

御坊官中

一、遷化已後、寺役勤方届趣如左、

当山方丈無住之間、御祈祷并寺役等之儀ハ、最勝院其外塔頭中相勤之候、

右為御届如斯御座候、已上、

石手寺役者 最勝院

亥八月八日

同

地藏院

石手寺願書【宝物館西六四号】宝曆十二年（一七六二）・継紙

乍恐御伺願奉申上候

一、豫州松山領石手寺申上候、拙寺共一件御吟味是迄度々被 召出候得共、双方難相分ヶ筋ニ御座候処、去ル五日一件被 召出、段々御糾明被成下、難有承知得心仕候、然処相手程應儀、金剛三昧院之会下ニ相成、此度出訴仕候趣、乍恐難得其意段、先達而奉差上候書付ニも奉申上候処、是迄御尋も無御座候ニ付、

差控罷在候得共、最早御吟味之儀も乍恐段々御仕寄被為成候様奉存候ニ付、申上度儀共申承候而者、如何ニ奉存、左ニ奉申上候、

一、程應儀ニ付、段々御 上之御苦勞ニ相成、甚恐入奉存候、拙寺儀松山領為禄所、程應罪科有之、脱衣追院申付候処、本寺金剛三昧院致荷担、拙寺江何之聞合も不仕、直ニ為致改派入衆住山申付、脱衣之儀不相糺法衣着用差免、剩東光院差添御室御所江差遣、坊官中方添翰申請、程應召連公訴為仕候事、乍恐難得其意奉存候、諸宗共寺法格式等有之儀者能乍存、程應答之儀拙寺方ニ相糺候上

二而、改派等ハ格別之儀ニ御座候得共、無其儀為致公訴候者、全以高野山本寺職ニ不似、我意之仕方与奉存候、此段拙寺方方相手取御願申上候筋二者無御座候得とも、向後如何様之子細有之右躰之儀も御座候節、其意味糺も不仕、当人任申為致改派、添翰等差添公訴為仕候而者、寺格相納不申、何共欲敷奉存候、

右之段々被為 聞召分御慈悲を以、意味合相立候様御沙汰被成下候ハ、拙寺儀者一代之儀ニ御座候得とも石手寺格之儀者永旧之御儀ニ御座候得者、右躰之我俣不法無之様、何方御賢慮之上相納候様、被為仰付被下置ハ、難有奉存候、

以上、

豫州松山領

宝曆十二年三月

石手寺（印）

御奉行所様

衛門三郎略縁起【宝物館西三〇号】江戸時代後期（一八世紀頃）・卷子本

衛門三郎略縁起

昔當国浮穴郡荏原の郷に□あり、名を衛門三郎と云けるに、其家代々富さかふ、然に此人の性たらく、慳貪邪見にして、財宝をむさほり、悪逆無覚、神を蔑し佛を嫌ふ大悪人なり、然に自なす孽ハ逃へきに地なし思ハさりき、八人の男子俄に皆悉く死に失たり、夫子を思ふは人の情なれハ此程強剛の衛門三郎も、頓而地に入思ひに堪す、即時に邪見を翻し、家をして、身を忘れ、四国順禮幾度といふ敷をしらす、時天長八辛亥年、阿州焼山寺、麓にして、病て其身まさに終らんとするにおよんで、不思議成哉、弘法大師一寸八歩の石に衛門三郎と割ミ附、両手□授け給ふ、夫より幾許□月を経てか、河野息利□男子に生れ来り、遂に家を継、息方と名乗り、此国を領せり、此人誕生の時、日数経るに左の手を開事なし、依茲当山におみて祈願ありけれハ、頓而左の手を開かれしに、件の石掌の中あり、則此石を當山に納む、夫迄寺号を安養寺と申けるをあらためて石手寺と名くとそ申伝へ侍りき

熊野山石手寺先師尊榮和尚一首を詠しけるに

名にしほふ 石手の寺の 石の玉

くちすくすれぬ しるしなるらん

(裏書)「昭和十一年十一月二日修理」

衛門三郎略縁起【宝物館西三三三号】江戸時代後期（一八世紀頃）・卷子本

衛門三郎略縁起

昔當国浮穴郡荏原の郷に人あり、名を衛門三郎と云ける、其家代々富さかふ、然に此人の性たらく、慳貪邪見にして、財宝をむさほり、悪逆無覚、神を蔑し佛を嫌ふ大悪人なり、然るに自□□孽ハ逃□□に地なし思ハさりき、八人の男子俄に皆悉く死に失た□、それ子を思は人の情なれ□、斯程強剛の衛門三郎も、頓而地

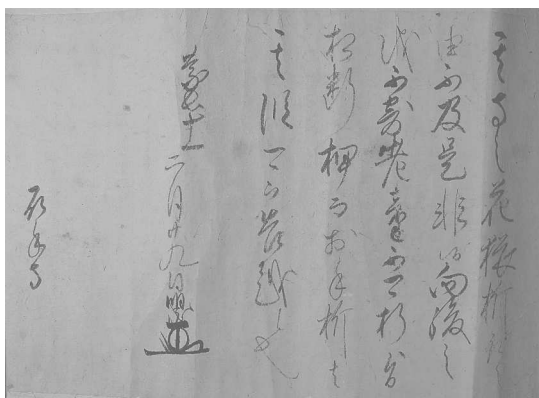
に入おもひに堪す、即時□邪見を翻し、家をして、身を忘れ、四国順禮幾度と云□敷をしらす、時天長辛亥年、阿州焼山寺、麓にして病て其身まさに終らんとするにおよんで、不思議成□、弘法大師一寸八歩の石に衛門三郎ときさみ附、両手□授け給ふ、夫より幾許の年を経てか、河野息利□男子生れ来り、遂に家を継き息方と名乗り、此国を領せ□、此人誕生の「時」日数経るに左□手を開事なし、依茲当山□おひて祈願ありけれハ、頓而左の手を開かれしに、件の石掌の中あり、則此石を當山に納む、夫迄は寺号□安養寺と申けるをあらためて石手寺と名くとそ申伝へ侍りき

豫州熊野山石手寺先師尊榮和尚一首を詠せしけるに

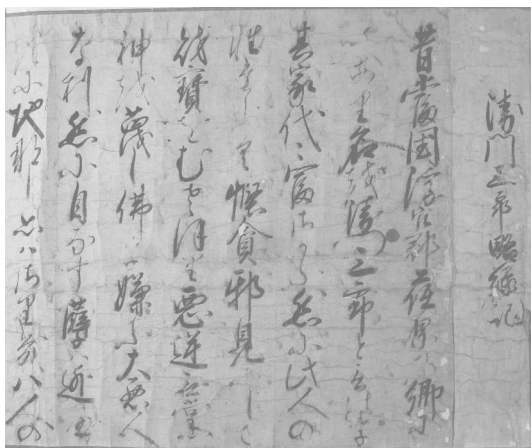
名にしほふ 石手のてらの いしの玉

くちすくすれぬ しるしなるらん

(裏書)「昭和六年五月修繕」



加藤明成禁制



衛門三郎略縁起

石手寺文書目録(宝物館)

面	史料番号	標題	形態	員数	年代	作成者→宛所	内容注記	法量	所収
中	1	本尊仏御納箱	木板	1 枚	江戸	—	「地藏大士」「薬師如来」「釈迦牟尼」	49.0*63.2	
中	2	石手寺御伽藍本尊再興の由緒	木板	1 枚	宝暦8.2.13	—		48.7*63.0	
中	3	求聞持作壇之作法	一紙	1 通	天明2.7	大阿闍梨権現大僧郡昭衆→阿闍梨洗瑞	包紙有	27.3*40.0	
中	4	伝法灌頂三摩耶戒作法二部	半紙本	1 冊	享保12	末資瑞春29	(写奥書)於石手寺道場(本奥書)正徳3.閏5於醍醐寺豫州沙門瑞元、弘安10.於石山、教舜	24.0*15.5	
中	5	宗初功元建	半紙本	1 冊	享保13.12.18	野末資山産寛實快	(本奥書)永仁1.10.18、於金剛三昧院、勸達(朱印)「千秋万葉熊野山金剛蔵不許讓与」	24.0*16.5	
中	6	灌頂張佛供之事附許可之事堂上口摩耶戒等道具目録伝法灌頂口三貼之内	半紙本	1 冊	享保12.4.2	恵明房瑞晨生年21、湖北沙門義等房澄如印	於惣持寺	24.0*16.0	
中	7	金剛界七集 上	半紙本	1 冊	—	—	—	24.5*17.0	
中	8	四度土代	半紙本	1 冊	享保3	—	「当灌四度加行」	24.0*17.0	
中	9	御遺告釋疑鈔	半紙本	1 冊	寛永20	—	「各住房義道」	21.0*17.5	
中	10	開心秘訣 一二	半紙本	1 冊	—	—	「瑞元」、水損	23.0*17.0	
中	11	開心秘訣 三四	半紙本	1 冊	—	—	「瑞元」、水損、開不能	23.5*16.8	
中	12	開心秘訣 七八	半紙本	1 冊	—	—	「瑞元」、水損、開不能	23.5*17.0	
中	13	大疏第三重 第四	木版大本	1 冊	—	—	—	26.5*18.0	
中	14	釋摩阿衍論破難鈔	半紙本	1 冊	宝暦12	—	—	23.5*15.0	
中	15	大疏第三重之卷評判林常記	半紙本	1 冊	天保14	—	「土州文教」	23.5*16.3	
中	16	大乘宝苑義林章黒甜記第一	半紙本	1 冊	文政8.正月	—	「土州文教」	25.0*16.5	
中	17	大乘宝苑義林章黒甜記第五第六	半紙本	1 冊	文政7.11中旬	—	「土州文教」	25.0*16.5	
中	18	大乘宝苑義林章黒甜記第二	半紙本	1 冊	文政7.11下旬	—	「土州文教」	25.0*16.5	
中	19	釋摩阿衍論見聞記 坤	半紙本	1 冊	—	—	朱印有	23.5*17.0	
中	20	大疏第三重第八評 全	半紙本	1 冊	—	—	—	24.0*17.0	
中	21	大乘法苑義林黒甜記 三	半紙本	1 冊	文政7.12.中旬	豊山沙門土州珪山覚信	—	25.0*16.5	
中	22	大疏第三重第十快道記	半紙本	1 冊	文化11.6.16	会陽沙門義澄房	(奥書)会津神輿隆俊	24.5*16.5	
中	23	大疏第三重第八聞者 下	半紙本	1 冊	寛保2.7中旬	澄寛幢怒	(奥書)澄寛	24.0*17.0	
中	24	疏草第三重五有慶記乾合二	半紙本	1 冊	寛延2.10.9	化主僧正信怒(印)	(奥書)安永8.9.6、深毫豊山三省端寮、土州太了栄天、(表紙)「イヨ智端」	23.5*16.5	
中	25	諸軽常用集卷之上下 完	半紙本	1 冊	明治34	池田春ノ江	(奥書)蓮阿、破損大	23.0*15.0	
中	26	大疏第三重第五餘義勘文下	半紙本	1 冊	寛政元	—	「瑞章」、表紙題箋無、綴はずれ	24.0*16.5	
中	27	要法授訣鈔 中	半紙本	1 冊	元禄13	—	「瑞章」	24.5*16.7	
中	28	要法授訣鈔 上	半紙本	1 冊	元禄13	—	「土陽瑞山」	24.0*16.7	
中	29	大乘法苑義林章黒甜記 二	半紙本	1 冊	文政8.1中旬	豊山沙門土州珪山覚信	朱印有	25.0*16.5	
中	30	釋摩訶衍論見聞記 乾	半紙本	1 冊	宝永3.3.15	—	内題「釋論聞書」	23.5*17.0	
中	31	灌頂義記 全	半紙本	1 冊	—	—	「豫洲大寂主智體主」、水損、破損、一部開不能	23.5*16.5	
中	32	大疏第三重第六	木版大本	1 冊	—	—	—	27.0*16.8	

中	33	大疏第三重 五	木版大本	1冊	—	—	「宿善無共許慈光坊」	26.5*18.0	
中	34	大疏第三重第三打分	豎帳	1冊	文化3.10.4	与州慈光房、豫陽智勝房	「於大音寺打分」	24.3*17.0	
中	35	求聞持	豎帳	1冊	文化10.11.20	豫州松山石手寺塔頭地藏院住瑞雲蓮恕(朱印)	(本奥書)永和2.5.26、於醍醐寺地藏院、權僧正道快33	20.8*14.0	
中	36	光明真言護摩 私記	粘葉装	1帖	—	賢重房澄海<精順>	—	14.5*15.3	
中	37	增益護摩	粘葉装	1帖	寛文3.8	求清沙門鏡蔽(朱印)	—	16.5*17.0	
中	38	金剛界胎藏界并伝法灌頂受者作法	粘葉装	1帖	—	—	綴はずれ	17.0*17.0	
中	39	[敷物]	布製品	1枚	[明治以降]	—	「十四番」	96.5*128.0	
中	40	大乘妙典	漆箱	1箱	宝永5.1	熊野山石手寺瑞蔽	漆箱、二段、蓋裏記載有	35.0*22.0*18.5	
中	41	妙法蓮華經常不輕菩薩品 第二十	紺紙金泥卷子装	1軸	—	—	はがれ有	26.0*27.0	
中	42	妙法蓮華經譬諭品 第三	紺紙金泥卷子装	1軸	—	—	挟み込み有	26.0*715.5	
中	43	妙法蓮華經觀音菩薩普門品 第二十五	紺紙金泥卷子装	1軸	—	—	—	30.0*1031.5	
中	44	妙法蓮華經如來壽量品第十六	紺紙金泥卷子装	1軸	—	—	—	30.2*1007.0	
中	45	妙法蓮華經藥州諭品 第五	紺紙金泥卷子装	1軸	—	—	—	28.4*935.0	
中	46	妙法蓮華經序品 第一	紺紙金泥卷子装	1軸	—	—	—	30.0*832.0	
中	47	妙法蓮華經五百弟子受記品 第八	紺紙金泥卷子装	1軸	—	—	—	30.4*800.0	
中	48-0	大日本仏教全書	木箱	1合	大正5	—	48-1、2収納	27.0*10.0*6.7	
中	48-1	十卷抄第六觀音部下	紙本墨書卷子装	1軸	-12-	—	—	23.0*832.5	
中	48-2	十卷抄第二諸仏部下	紙本墨書卷子装	1軸	—	—	—	23.0*666.0	
中	49-0	[經函]	經函	1函	—	—	49-1~8収納	22.8*20.5	
中	49-1	妙法蓮華經 卷第一	折本	1帖	[寛政3.3.15]	—	「寄附在田屋喜助」	28.0*9.0	
中	49-2	妙法蓮華經 卷第二	折本	1帖	[寛政3.3.15]	—	—	28.0*9.0	
中	49-3	妙法蓮華經 卷第三	折本	1帖	[寛政3.3.15]	—	—	28.0*9.0	
中	49-4	妙法蓮華經 卷第四	折本	1帖	[寛政3.3.15]	—	—	28.0*9.0	
中	49-5	妙法蓮華經 卷第五	折本	1帖	[寛政3.3.15]	—	—	28.0*9.0	
中	49-6	妙法蓮華經 卷第六	折本	1帖	[寛政3.3.15]	—	—	28.0*9.0	
中	49-7	妙法蓮華經 卷第七	折本	1帖	[寛政3.3.15]	—	—	28.0*9.0	
中	49-8	妙法蓮華經 卷第八	折本	1帖	寛政3.3.15	心念寺十三世真流代	(木版奥書)元禄5.2、慈海宋順校正、洛東書師岡村元春樓敬書写、洛陽書林伊藤次郎兵衛刊行	28.0*9.0	
中	50	弘法大師全集	印刷上製本	6冊	明治43	吉川弘文館刊	木箱有	22.8*15.4	
中	51-0	大日本仏教全書	木箱	1合	大正6.9	—	51-1、2収納	27.0*10.0*10.4	
中	51-1	十卷抄第七觀音下	紙本墨書卷子装	1軸	—	—	(蔵書印)「洛西鳴滝常樂院蔵」	23.6*676.0	
中	51-2	十卷抄第九諸天下	紙本墨書卷子装	1軸	—	—	(蔵書印)「洛西鳴滝常樂院蔵」	23.6*1193.0	
中	52-0	大日本仏教全書	木箱	1合	大正	—	52-1、2収納	27.0*9.8*6.7	
中	52-1	十卷抄第一諸仏部	紙本墨書卷子装	1軸	—	—	(蔵書印)「洛西鳴滝常樂院蔵」	23.0*419.0	
中	52-2	十卷抄第八忿怒部	紙本墨書卷子装	1軸	—	—	(蔵書印)「洛西鳴滝常樂院蔵」「直樹蔵書」	23.2*935.0	
中	53-0	大日本仏教全書	木箱	1合	—	—	53-1、2収納	27.0*10.0*8.6	

中	53-1	十卷抄第三諸經法	紙本墨書卷子装	1軸	—	—	(藏書印)「洛西鳴滝常樂院蔵」	23.5*660.0	
中	53-2	十卷抄第五諸菩薩下	紙本墨書卷子装	1軸	—	—	(藏書印)「洛西鳴滝常樂院蔵」直樹蔵書」	23.5*660.0	
中	54	奉納三説超過之妙点全部	紙本墨書卷子装	8軸	—	—	経函有	38.4*20.4*12.6	
中	55-0	木箱	木箱	1箱	—	—	55-1~3収納	84.6*10.2*5.0	
中	55-1	大般若波羅密多經卷第一	折本	1帖	—	—	—	27.2*8.5	
中	55-2	大般若波羅密多經理趣分	折本	1帖	—	—	—	27.2*8.5	
中	55-3	大般若波羅密多經第六百	折本	1帖	—	—	—	27.2*8.5	
西	1	[文箱]	木箱	1合	元禄11.11.12	豫陽僧録初瀬居住二十七年免許状帯之石手寺現住瑞岩	(貼紙)「河野家系図」、(箱書)「護持院大僧正隆光者、新義一派之僧録、因茲当寺之儀千有余年之古梵刹、國中無双之靈地、殊者依為 邦君御祈願所拜、僧録職、当城 太守松平隠岐守定直公、当住職之衲子瑞岩、元禄年中許状落手、来且從太守公御領内為僧録之許状令拜受之了、当院之規模、唯在此職者也」、西2~27号入り	44.6*12.0*5.4	寺
西	2	会下領受状	豎紙	1通	明治19.10.7	常法談林太山寺住職権少僧正秀清(印)→常法談所石手寺住職権大僧都章純殿	会下御分与、御引讓の事	39.5*52.2	
西	3	[書状]	一紙2枚継	1通	-.12.2	稲川八右衛門、蜂須賀太郎兵衛→大乘院様	石手寺僧録祝儀物	16.5*60.0	寺
西	4	別紙之目録	折紙	1通	亥.11.21	根生院、円福寺、真福寺、弥勒寺→諸本寺中	色衣懇望之仁書付覚	36.5*51.3	
西	5	[書状]	折紙	1通	亥.11.21	根生院(印)、円福寺(印)、真福寺(印)、弥勒寺(印)→真言新義諸本寺	知足院僧正御事及び田舎本寺名付の事	37.0*52.0	
西	6	[書状]	折紙	1通	-.7.25	圓福寺智興(花押)→石手寺法印	一国惣本寺として三色免許、付札はずれ	39.0*53.0	
西	7	[書状]	折紙	1通	-.閏1.19	護持院前大僧正快意(花押)→石手寺法印御房	京都千本蓮台寺隠居に付、入院の事	39.0*52.0	寺
西	8	[書状]	折紙	1通	-.12.6	圓福寺覚眼(花押)→石手寺法印房	御領内僧録御礼として白銀壹枚受納	31.0*42.5	
西	9	[補任奉書写]	横折	1通	明和1.8	小池坊無住故監事教圖代印、智積院僧正浄空(花押)→太山寺	太山寺常法談所免許	27.2*20.4	
西	10	[書状]	折紙	1通	-.閏1.19	大乘院→瑞岩法印様	入院御礼の件	32.5*46.0	寺
西	11	[書状]	折紙	1通	-.10.21	日輪院源光(花押)他3院→石手寺様	色衣三色御免状の件	30.5*43.0	
西	12	[書状]	折紙	1通	-.4.28	大洲曹溪院→松山石手寺御役者中	当領書院谷上山并門葉出入に付、山内村福見寺、北高井村西林寺掛合の件	36.0*48.5	
西	13-0	[包紙]	包紙	1枚	-	横目中→石手寺	「東野観音堂被仰付候時ノ状」	26.5*20.2	
西	13-1	[書状]	一紙	1通	宝永6.1.13		東野観音堂に於いて御弟子中菅人勤経の事	16.4*35.0	
西	14	[書状]	折紙	1通	-.閏1.19	大乘院雲恕(花押)→石手瑞岩法印様	蓮台寺後住の事	30.5*42.7	
西	15	[書状]	折紙	1通	-.10.12	月輪院精海(花押)日輪院栄誉(花押)→石手寺法印御房	石手寺僧録職仰願事	39.0*53.0	寺
西	16	[書状]	折紙	1通	-.10.19	月輪院精海(花押)日輪院栄誉(花押)→石手寺様	石手寺僧録御礼及び披露	34.4*50.2	
西	17	[書状]	折紙	1通	-.11.1	根生院→豫州石手寺	石手寺衣許状の祝儀、目録の通り受納	31.5*43.5	
西	18	[書状]	折紙	1通	-.12.6	護国寺僧正快意(花押)→石手寺法印	領内の僧録仰付に付、祝辞を目録の通り受納	36.0*50.0	

西	19	[書状]	折紙	1 通	-10.12	根生院栄与(花押)、弥勒寺亮貞(花押)、真福寺性遍(花押)、円福寺覚眼(花押)→石手寺	石手寺御領内僧録として違乱無き事	38.5*53.1	寺
西	20	[書状]	折紙	1 通	-4.14	大洲曹溪院→石手寺御役位中	谷上山一件	35.0*47.0	
西	21	[書状]	折紙	1 通	-10.21	高木忠左衛門信守(花押)→石手寺御報	石手寺院室兼帯	33.5*47.0	
西	22	[書状]	折紙	1 通	-10.28	円福寺智興(花押)→石手寺法印	石手寺三色御免に付、御礼預り、(端裏書)「三色免許返酬 瑞元」	36.0*49.6	
西	23	[書状]	折紙	1 通	-11.26	遠山三郎左衛門(花押)、奥平藤左衛門(花押)、水野甚左衛門(花押)→石手寺瑞岩法印	御領内僧録補任の事	39.0*52.8	
西	24	[末寺状写]	豎紙	1 通	寛永15.10.17	豫州石手寺実秀判→大勝院殿	(貼紙)「嵯峨先門様へ実秀指上置被申候末寺状之写」	32.0*46.0	
西	25	[御当流御附法伝授]	一紙	1 通	-		(貼紙)「元禄五壬申ヨリ明治十九年迄百九十五年也」(端裏書)「雲龍之記」	31.0*44.7	
西	26	[書状]	一紙2枚継	1 通	-12.2	稲川八左衛門、蜂須賀太郎兵衛→大乘院様	石手寺僧録祝儀物	16.5*47.6	
西	27	[令旨]	豎紙	1 通	天和2.9.8	(花押)→石手寺法印	大覚寺宮御末寺、二品親王御気色	33.2*52.5	
西	28	[箱蓋]	木箱	1 箱	寛文5.12		(箱書)「奉寄進 豫州温泉郡道後 湯月八幡宮御宝前 法華経 一部、西29~52号入り」	36.8*25.5*3.2	
西	29	熊野十二社権現	紙本著色卷子装	1 軸	正徳2.冬	現住雲恕法印春秋60歳、菅原良當図之(落款)		17.8*184.1	
西	30	衛門三郎略縁記	紙本墨書卷子装	1 軸	[江戸]		「昭和十一年十一月二日修理」	29.8*236.1	
西	31	廿五菩薩迎接讃	紙本墨書卷子装	1 軸	-			36.8*151.4	
西	32	[一行書]	紙本墨書掛幅装	1 幅	-	輝運做書	「南無天満大自在天神」	34.3*170.0	
西	33	衛門三郎略縁記	紙本墨書卷子装	1 軸	[江戸]		「昭和六年五月修繕」	28.8*200.0	
西	34-1	[蒲生忠知家臣書状]	元折紙卷子装	1 通	[寛永11].1.23	高瀬為右衛門(花押)、不破庄右衛門(花押)、浅井権右衛門(花押)→石手寺御同宿中	寺領寄附、34-2と共に卷子装1軸	35.2*51.0	寺
西	34-2	[蒲生忠知家臣書状]	元折紙卷子装	1 通	[寛永11].1.23	高瀬為右衛門(花押)、不破庄右衛門(花押)、浅井権右衛門(花押)→石手愛岩山別当	社領寄附	34.8*51.0	寺
西	35	権現祭礼道具修復之砌寄進物	紙本墨書卷子装	1 軸	寛保1.3	熊野山石手寺現住瑞章(花押)		35.5*278.0	
西	36	誓戒之事	紙本墨書卷子装	1 軸	-			25.0*53.5	
西	37	[祈禱録]	豎帳	1 冊	宝暦4.春	法印瑞章(花押)		28.0*22.0	
西	38	河野系図	豎帳	1 冊	-		(貼紙)「石手寺所持 当掛へ借受」(表紙)「指」(朱印)「千秋萬葉不許譲与熊野山金剛蔵」	25.5*18.5	
西	39	三平等観功能	紙本墨書卷子装	1 軸	明治22.4		(貼紙)「護国寺高志大了為石手寺什物寄附」	28.0*161.5	
西	40	[林丘寺宮光子内親王御染筆観音尊像並偈讃解題]	紙本墨書卷子装	1 軸	宝暦3	石手寺二十一世現住瑞章、奥平藤左衛門源貞継寄附	宝永4.9、前大僧正了海による解題を卷子装	29.5*33.0	
西	41	厳有院様御條目	継紙	1 通	寛4	奉行血判	全十三ヶ条、「日本諸国諸寺院中血判」の証有	35.5*398.5	
西	42	[道後八幡宮神主職之事]	豎紙	1 通	寛永16.8.10	石手寺法印實秀→烏谷主馬守殿	神主職永代授与	30.0*53.8	寺
西	43	奉観条々	横折	1 通	-	慈雲→御近習中迄	支木の事等全15ヶ条	29.0*44.0	
西	44	石手寺代々之記録	豎紙	1 通	寛永12.9.24	石手寺實秀(花押)		35.5*60.0	

西	45	預り申銀子之事	豎紙	1 通	元和9.7.5	高野山小田原上蔵院秀算(花押)、谷上三蔵院重昌(花押)→与州湯郡石手寺住持實雄法印様參		34.0*46.0	
西	46	定	豎紙	1 通	宝永4.9	熊野山石手寺僧録瑞岩(花押)、塔頭五箇寺僧徒、庄屋五左衛門久	御祈禱米・石手寺新田作徳米等	33.4*50.0	
西	47	[書状]	折紙	1 通	-9.2	石手寺瑞元(花押)→西連律師拜	貴院名画式紙の件に付、茶碗進覧の事等	32.8*45.0	
西	48	法華梵篋宝塔碑并序	折紙	1 通	元禄5.11.24	熊野山石手寺瑞岩謹誌		38.8*53.5	
西	49	[厨子入木像裏書写]	一紙	1 通	寛永2.6.21	豫州石手寺	實雄上人70歳敬白の写	31.2*24.0	
西	50	[高野山奥院御廟橋内燈籠堂前石階右側五輪石碑文写]	一紙	1 通	-		「施主 伊予国石手寺 法印實雄 元和六申八月宿坊小田原上蔵院」	29.5*24.1	
西	51	熊野山血脈	紙本墨書めぐり	1 枚	-			90.5*35.5	
西	52	[諸願留]	豎帳	1 冊	-		温泉郡正円寺村正円寺関連	27.5*20.0	
西	53-1	[伊予国宣]	豎紙	1 通	元弘3.9.3	左衛門尉茂定奉	袖判、53-1~53-10まで卷子装	32.5*51.5	県・寺
西	53-2	[河野弾正少弼通直安堵状]	豎紙	1 通	天文8.7.22	弾正少弼(花押)→石手寺地藏院信憲律師	地藏院并中林坊其外進退之在所之事	31.7*39.5	県・寺
西	53-3	[河野晴通安堵状]	豎紙	1 通	天文11.閏3.晦	晴通(花押)→地藏院	保童院之事、地藏院之事并坊職等進退等之事	31.6*45.5	県・寺
西	53-4	[河野弾正少弼通直安堵状]	豎紙	1 通	天文13.6.22	通直(花押)→石手寺地藏院深宗	地藏院并中林坊其外進退之在所之事	33.0*51.4	県・寺
西	53-5	[来島通康安堵状]	豎紙	1 通	永禄元.9.22	通康(花押)→石手寺參		28.0*46.5	県・寺
西	53-6	[河野通直住持職補任状]	豎紙	1 通	天正12.9.18	通直(花押)→重尊房		31.8*44.0	県・寺
西	53-7	[加藤明成禁制]	豎紙	1 通	慶長11.2.29	明成(花押)→石手寺		28.8*45.2	寺
西	53-8	[加藤嘉明寄進状]	折紙	1 通	慶長6.5.21	左馬助(花押)→石手寺法印御坊	高二百石寄付	33.7*51.7	県・寺
西	53-9	石手寺坊中居屋敷目録	豎紙	1 通	慶長20.11.5	加藤式部少輔明成(花押)→石手寺		33.8*50.5	寺
西	53-10	石手寺掟之事	豎紙	1 通	元和8.1.27	三上又右衛門入桃庵(花押)、二神修理進入瑞庵(花押)→石手寺		33.8*52.4	寺
西	54	河野綱	紙本墨書卷子装	1 軸	享保3.6.上旬	豫州石手寺第20世法印瑞元謹識		32.5*544.5	
西	55	當社祭礼図	紙本著色卷子装	1 軸	[江戸]			43.0*989.3	
西	56	當山往古図	紙本著色卷子装	1 軸	[江戸]			45.0*744.8	
西	57	[文箱]	木箱	1 箱	-		蓋無。西58~85号入り	17.0*55.0	
西	58	法度條目	繼紙	1 通	元禄12.11	(花押)→豫州松山石手寺僧録法印瑞岩御房	包紙有、(包紙)「條目 石手寺」	31.0*56.0	
西	59	道後八幡宮神主役之事	繼紙	1 通	寛永16.8.10	石手寺法印實秀→烏谷主馬守殿		35.0*49.0	寺
西	60	覚	豎紙	1 通	享保1.10.3	豫州松山領石手寺第廿世法印瑞元(花押)→覚勝院殿	院室兼帯に付、護国寺前大僧正亮貞添簡差上	43.0*59.5	
西	61	[許可奉書]	豎紙	1 通	安政2.1.21	(花押)奉→小池坊役者峯殿章純御房	色衣御免許、嵯峨御所御気色	36.0*72.0	
西	62	定	繼紙	1 通	慶長8.5	奉行一諸寺院中	切死丹吟味の事等	39.5*48.0	
西	63	高野山金剛峰寺奥院常燈祈事	豎紙	1 通	天正15.7.14	寶壽院(印)他11院	「施主豫州河野通直御母儀、為月溪宗圓大居士」	32.0*80.0	
西	64	乍恐御伺願奉申上候	繼紙	1 通	宝曆12.3	豫州松山領石手寺(印)→御奉行所様	程應の咎に付、御沙汰願	30.8*57.0	
西	65	定	豎紙	1 通	寛文5.7.11		諸宗法式の事等	45.0*40.0	
西	66	[奉書]	豎紙断簡	1 通	安政2.5.23	(花押)奉→章榮房	前欠、総法務宮御気色	44.0*38.0	
西	67	[許可奉書]	豎紙	1 通	享保1.10.3	(花押)→豫州石手寺	寶輪院兼帯、大覚寺殿御気色	44.0*59.0	
西	68	預申米之事	豎紙	1 通	天保3.12	温泉郡御代官所(印)	正圓寺村正圓寺、元米250俵預置事、包紙有	28.0*43.5	

西	69	[許可奉書]	豎紙	1 通	-		二色着用許可	47.0*59.5	
西	70	[許可奉書]	豎紙	1 通	安政2.1.21	(花押)奉→法印章純御房	法印御免許、嵯峨御所御気色	44.0*59.5	
西	71	壳渡威徳院坊屋敷之事	豎紙	1 通	寛永1.12.16	威徳院長音(花押)→道後石手寺実雄法印		32.0*37.0	
西	72	[寄進奉書]	一紙	1 通	天和4.2.13	遠山三郎左衛門村口原(花押)→石手寺三拾七世雲龍法印御房	狩野永真法印筆跡西王母の図一幅寄進	23.0*64.0	
西	73	色衣御免之式目	継紙	1 通	元禄8.11.12	護持院僧録大僧正隆光(花押)→諸本寺中	(端裏書)「色衣御免之式目」	35.0*260.0	
西	74	願書之事	豎紙	1 通	安永4.4	従四位下源定静	心願成就の為、和歌一首献上	45.0*66.5	
西	75	[許可状]	豎紙	1 通	明治13.12.20	豊山貫首大教正守野秀善(花押)→権少教正高志大了	常法談所許可	45.0*55.0	
西	76	[許可奉書]	豎紙	1 通	寛文5.11.20	(花押)奉→龍海御房	権大僧正御免、惣法務宮御気色	37.0*52.0	
西	77	條々	豎紙	1 通	寛文5.7.11	大和守、美濃守、豊後守、雅樂頭	僧俗衣体等	38.0*49.0	
西	78	新義一派諸寺院可相守儉約之條々	継紙	1 通	寛文8.9.1	小池坊僧正在判、智積院僧正在判→豫州石手寺諸寺院中	全三ヶ条	38.0*95.0	
西	79	[宣旨]	豎紙	1 通	宝暦5.4.27	主殿頭兼左大史小槻宿祿章弘奉→権大僧都瑞巖	任権僧正	36.5*56.0	
西	80	真言宗諸法度	継紙	1 通	元和3.9.1	御朱印	継目「法務(花押)」	34.0*103.0	
西	81	新義一派諸寺院可相守儉約條々	継紙	1 通	寛文8.9.1	小池坊僧正在判、智積院僧正在判	全五ヶ条	33.0*160.0	
西	82	[補任奉書]	豎紙	1 通	元禄11.10.12	(花押)	領内僧録補任	42.0*56.0	
西	83	[許可奉書]	豎紙	1 通	正徳5.7.23	(花押)→石手寺瑞元法印	三色免許	39.0*55.0	
西	84	願書	継紙	1 通	安永4.6	伊賀惣左衛門善尹他15名	五穀豊穰等祈願	37.0*140.0	
西	85	当山縁起	継紙	1 通				27.0*72.0	
西	86	[安養寺石手寺由緒書并寺領寺宝目録]	刻板	1 面	永禄10.4.	伊豫守通宣(花押)	両面板刻	40.8*153.5	県・寺
東	1	四国八拾八ヶ所納経帳	豎帳	1 冊	文政4.1			27.8*19	
東	2	奉納石手寺観音霊場の由来	半紙本	1 冊	昭和48.1.1		箱有、箱書「大師降誕千二百年祭記念」	24.2*16.2	
東	3	四国霊場第四十五番伊豫国浮穴郡海岸山岩屋寺勝景大略図	木版絵図	1 鋪	明治39.5.11		「佐伯完口」	37.0*52.5	
東	4	四国徧禮図	木版着色絵図	1 鋪	-			53.8*38.2	
東	5	奉納 四国八十八ヶ所霊場	掛袋	1 袋	大正2.3	京都 西村その	麻袋、挟み札・巾着など在中	27.0*25.6	
東	6	[木箱]	木箱	1 箱	昭和46.12		空箱、大山積神社祭礼用面を保存の記載有	40.2*21.0*11.4	
東	7-1	四国徧禮	木版絵図	1 鋪	-			52.0*40.0	
東	7-2	御修行 弘法大師御影	木版多色刷掛幅装	1 幅	-			48.0*18.8	
東	8-1	三國伝来之図	木版絵図	2 鋪	-	御免開板所書林向榮堂(印)		38.8*30.0	
東	8-2	四國遍路道中図	活版彩色絵図	1 鋪	昭和14.2.15	四国第十番切幡寺石門内 イナリヤ総本店	裏「四國八十八ヶ所御詠歌」	39.4*54.4	
東	9	四國遍路道中図	活版彩色絵図	1 鋪	-	高知市クンテキ様門前 乾仏具店	裏、四国霊場八十八箇所案内	38.8*53.6	
東	10	巡禮八十八箇所明細四國全図	活版彩色絵図	1 鋪	-	赤西萬有堂発行	包紙有	39.4*53.0	
東	11	四國遍路道中図	活版彩色絵図	1 鋪	-	徳島県撫養港口商店	裏「四國八十八ヶ所御詠歌」	38.0*54.0	

東	12	[御尊像札]	木版等	257 枚	-		大日如来・薬師如来・弘法大師像など	13.8*8.4	
東	13	[布]	布	1 枚	-		稲穂の縫い付け有	31.0*15.4	
東	14	[記]	一紙	1 枚	-		石手寺所蔵蛇骨について	14.0*8.0	
東	15	[聖天尊鍵・□□明鍵]	鍵	2 本	-		金属製、紐結、木箱有、(木箱)「石手寺空蔵院」	16.0*1.0	
東	16	[木箱]	木箱	1 箱	-		空箱、「石手寺」	36.4*6.8*3.5	
東	17	西國順禮靈験記	木版中本	1 冊	明治12.1.27	浅草北東仲町松本喜三郎編	大阪府新町通田中文次郎出版	17.8*12.0	
東	18	四國徧禮道案内	木版小本	1 冊	弘化4.3	讃州金ひら小坂柏屋仲助他3名	「岐阜県吉城郡神岡村朝浦組大坪安兵衛持之」	15.4*11.0	
東	19	四国八十八ヶ所霊場出開帳	パンフレット	1 部	-	南海電車		37.2*51.8	
東	20	昭和版 四國遍路同行二人	活版並製本	1 冊	昭和17.1.5	安達忠一著、大阪市南区横堀此村庄助発行	徳島市西新町蔵谷次平商店販売	10.4*14.8	
東	21	増補第二十五版 四國遍路同行二人	活版並製本	1 冊	昭和4.5.10	徳島県麻植郡森山村大字山路村三好廣太著	大阪市南区安堂寺町西横堀南入此村庄助発行、大阪此村欽英堂発売	10.4*14.8	
東	22	四國霊場大観	活版並製本	1 冊	昭和11.8.15	愛媛県南宇和郡東海村四国霊場大観刊行会編	帙有、東外海村蓮乗寺弘法協会本部発行、東京市神田区須田町四国霊場大観刊行会発売	26.6*19.2	
東	23	[台座]	木製品	1 台	-		木製	15.4*15.4*9.5	
東	24	[木箱]	木箱	1 箱	-		空箱	31.2*20.8*5.5	
東	25	輪島上塗位牌	木箱	1 箱	-	輪島漆工所謹製(印)	空箱	34.2*20.6*8.5	
東	26	絵入四國八十八ヶ所弘法大師山開	活版並製本	1 冊	昭和12.12.20	徳島県阿波郡八幡町大字切幡浅野明二		15.6*11.0	
東	27	四國徧路御詠歌 道中記全	木版小本	1 冊	文化11.9	大坂心齋橋南佐々井治郎右工門		15.0*11.2	
東	28	四國徧路御詠歌 道中記全	木版小本	1 冊	文化11.9	大坂心齋橋南佐々井治郎右工門	(裏表紙裏)「御香料 徧禮本 酒井萬市」	15.4*10.6	
東	29	四國徧禮道指南増補大成	木版小本	1 冊	文化4.5	大坂心齋橋南佐々井治郎右工門		15.6*10.8	
東	30	四國霊場略縁起道中記大成序	活版並製本	1 冊	明治35.11.21	発行宇和島町本町石崎忠八、印刷東京市神田区仲猿楽町藤澤外吉	「阿波国柳之水」朱印有	15.2*10.4	
東	31	四國八拾八ヶ所納経帳	竖帳	1 冊	天保15.2			25.4*16.0	
東	32	四國八十八ヶ所霊場順拝奉納経	竖帳	1 冊	明治43.3	西村その		25.0*16.4	
東	33	[和歌]	一紙	3 枚	-		一、七十二、八十八番	25.0*34.6	
東	34	開運 星祭祈念帳	活版様式竖帳端紙	1 枚	-	四国第十九番札所準別格本山立江寺(印)	表紙、(墨書)「壹円五十五銭 人見引 京都元栄講 西村ソノ」	22.8*15.8	
東	35	[開運 星祭祈念帳]	活版様式竖帳端紙	1 枚	-	[四国第十九番札所準別格本山立江寺(印)]	34の一部	22.8*31.0	
東	36	[白山妙理大菩薩御尊像札]	木版	1 枚	-	四国四十五番岩屋寺		27.0*10.0	
東	37	[蔵王大菩薩御尊像札]	木版	1 枚	-		「弘法大師御依」	19.8*9.2	
東	38	[納札]	活版	17 枚	-	施主山本真海	「奉納四国西國霊場中遍禮」「南無大師遍昭金剛」	16.2*5.5	
東	39	衛門三郎略縁起	活版	1 枚	-			24.4*33.2	
東	40	[釈迦三尊像]	木版	1 枚	-			31.2*29.4	
東	41	福成智満虚空蔵尊	活版	1 枚	-	伊勢朝熊岳		27.0*13.0	
東	42	四国八十八ヶ所集印帖 全	竖帳	1 冊	昭和14.4		(表紙)「(各お札実収)」	28.2*19.5	
東	43	四国第六十一番 子安講	様式竖帳	1 冊	-	四国第六十一番霊場伊予小松町香園寺子安講本部(印)		23.8*16.4	
東	44	粟粒般若心経 肉眼真筆	扇面額装	1 面	-	-	扇面額装	15.6*21.0扇面	

石手寺文書目録(旧土蔵)

史料番号	標題	形態	員数	年代	作成者→宛所	備考
1-0	[經函]	木箱	1 函	明和6.9.1	法印澄如	「石手寺什物、法印澄如求之」中身寸法異なる
1-1	秘抄	卷子本	18巻 25 軸	文化1.4.	萬福寺現住園明	建久3年等東福寺・醍醐山、貞享3年真摩法建立、林長本奥書
1-2	異尊	卷子本	2巻 2 軸	享和4.3.25	萬福寺現住園明	文永10年三寶院、貞享3年真摩法建立、林長本奥書
1-3	諸尊護摩	卷子本	4 軸			貞享3年真摩法建立、林長本奥書
1-4	諸尊支度	卷子本	1 軸			
1-5	駄都秘決	卷子本	1 軸			
2-0	[經函]	木箱	1 函	—	—	—
2-1	大日經疏指心鈔卷	木版大本	2巻 2 冊	—	—	(奥書)文永11、於高野山丈六堂葵坊、金剛資頼生年49歳他
2-2	大日經疏指心鈔	木版大本	14巻 17 冊	寛文1.	—	巻1~16(巻2・4欠、巻6・9・16は2冊)(巻1奥書)文永11於高野山丈六堂葵坊、頼生ほか。(巻16奥書)寛文1.9、烏丸通下立売下ル町野田庄右衛門板行、伊豫大仁主、寛永12.9、石黒庄太夫板本
2-3	秘蔵 寶鑰纂解鈔	木版大本	5巻 4 冊	宝永6.9.3	東大寺別当兼華嚴宗長史沙門道恕書(印)	2・4・5・7・8巻
2-4	唯識論了義灯	木版大本	6巻 10 冊	—	緇洲大雲寺沙門恵沼撰	巻第2本・2末・3・4本・4末・5本・5末・6本・6末・7本
2-5	起信論教理鈔十四・十五	木版大本	1 冊	—	寓光聖比丘・辨如	「華嚴末葉辨如写之、寓光聖比丘校訂」
2-6	論阿毘達磨俱舍論卷一之二	木版大本	1 冊	—	尊者世親造、磨三蔵法師玄奉詔訳	—
2-7	莊子 一	木版大本	1 冊	—	—	「莊子虞齊口義発題」
2-8	疏指鈔 三	木版特大本	1 冊	—	—	表紙・裏表紙無し
2-9	大日經疏指南鈔鈎物巻第一	木版大本	1 冊	—	—	—
3-0	[經函]	木箱	1 函	—	—	奥30.0*幅20.0*高43.5木製二段
3-1	大日經疏	木版半紙本	20巻 20 冊	—	—	(巻20奥書)弘安1.良和(巻20奥書)元禄15.於長谷寺英岳僧正傳受智瑞房瑞元(巻2奥書)慶安2.9、於高野山開板(表紙朱印)「千秋萬葉、熊野山金剛蔵、不許讓與」
3-2	大日經疏 上	木版半紙本	1 冊	—	零妙寺僧釋不可思議撰	(表紙朱印)「千秋萬葉、熊野山金剛蔵、不許讓與」
4-0	[經函]	木箱	1 函	—	—	31.0*23.8*83.2、(貼紙)「方雜部」
4-1	釈論開解鈔	木版大本	35巻 35 冊	承応2.10	洛陽吉田助之進刊行之	全36巻(巻24欠)(巻22奥書)文永10.3.1、於醍醐寺桜町書写俊英
4-2	三寶大事 口意	枳形本	1 帖	寛永1.5.16	各任房栄増	—
4-3	大毘盧遮那經疏一	木版半紙本	1 冊	—	沙門一行阿闍梨記	(表紙)「石手寺什物」、「瑞口」
4-4	要法授訣鈔 下	半紙本	1 冊	—	雛下比丘慈運隆營	(表紙)「瑞章」
4-5	開心秘史 五六	半紙本	1 冊	—	—	(表紙)「瑞元」
4-6	釈摩訶衍論打集問書 全	木版半紙本	1 冊	—	—	—
4-7	毘釋論百條第二重	木版半紙本	1 冊	寛永13.12	—	3冊合綴尺・上一・中一、「上洛佳勿板」
4-8	中肝驚心 下	折本	1 帖	—	—	(奥書)元文3.1、於豊山、以実快法印御本拝写、仏子瑞澄(表紙朱印)「千秋萬葉、熊野山金剛蔵、不許讓與」
4-9	普遍光明大隨水陀羅尼經上	折本	1 帖	—	—	—
4-10	新刻兩部曼陀羅附言 全	木版大本	1 冊	天保5.3.21	豊山衆徒等謹言	(奥書)文政12.5、東寺一長者法務権僧正淳心謹識
4-11	口真密三学録	木版大本	1 冊	慶安1.11.25	高野山往生院谷<(印)>	—
4-12	要法授訣鈔	大本	3巻 3 冊	—	—	4-4と関連
4-13	釋論開解鈔 第二十四論五之四	木版大本	1 冊	—	—	(表紙)「荒」、4-1と関連

4-14	(梵字)(梵字)秘記 私	半紙本	1冊	—	—	—
4-15	論場旗鼓	木版半紙本	1冊	天明6.7.	京師堀川通錢屋莊兵衛発行	(表紙)「備州辨純」、南紀根山領蓮華院蔵板(写奥)寛政3.3、泊瀬留学沙門栄性
4-16	野護鈔 全	半紙本	1冊	享保12.5.18	探春	(本奥書)慶安2、以醍醐寛口僧正書写之轉本一校了
4-17	[大疏二]	木版半紙本	1冊	—	—	前後欠
4-18	釋論百條第二重	木版半紙本	1冊	寛永13.12	—	4-7と関連、「上洛佳勿板」
4-19	大流管絃相成義隨筆 上	半紙本	1冊	寛政3.8	雲井蓮阿	—
4-20	願文 根來寺中□□	大本	1冊	万治2.3.	前大僧正寛斎	(本奥書)喜元(ママ)2.2.6、頼淳、於敬白中性院(写奥書)万治2.3、前大僧正寛斎
4-21	水丁支度私記	半紙本	1冊	—	瑞岩	(表紙朱印)「千秋萬葉、熊野山金剛蔵、不許讓與」
4-22	首書舍利禮註参考再治本完	木版大本	1冊	天和3.12.上	前川茂右衛門板行	(表紙)「石手寺什宝」(奥書)享保7.1.中旬、豫章寶輪密院会場、端口房瑞旭
4-23	住心論大綱記 全	木版大本	1冊	—	沙門澄榮記	(表紙)「持」(表紙朱書)「イヨ[犀]佳瑞阿」(奥書)延宝4.5、中村七兵衛開板
4-24	首書舍利禮註参考再治本完	木版大本	1冊	天和3.12.上	前川茂右衛門板行	(表紙)「毘」、題箋外れ
4-25	雜書 全	大本	1冊	—	—	—
4-26	遍口鈔	大本	1冊	—	—	(奥書)天福1.11.4、権大僧都道教
4-27	阿弥陀	枳形本	1帖	—	—	(表紙)「初」、「小野」、綴外れ
4-28	五種軍茶	半紙本	1冊	—	仁海	式道房にて金資、剛宝、澤宝、写本
5-0	[經函]	木箱	1函	—	—	—
5-1	大日經疏	木版大本	6巻 8冊	—	—	第一末鈔上半下半、第二本鈔上半2冊・下半之終、第二末鈔上半下半2冊
5-2	般若寺大日經疏鈔 下	木版大本	1冊	—	般若寺觀賢著	(奥書)寛平3.9.3、於真言院
5-3	御請来目錄	木版大本	1冊	—	妙道写	大師御筆、(奥書)正安4.11.20、高野山愚考沙門慶賢(表紙)「龍尊」
5-4	北蔵大明三蔵聖教目錄 南蔵函号附	木版大本	3巻 2冊	—	—	「乾」「坤」
5-5	宗義決擇集	木版大本	5巻 5冊	—	—	巻2欠(巻3奥書)明応2春、観心寺禅房権大僧都十遍判(巻6裏表紙)松蘭山快実之
5-6	薬師經纂解	木版大本	4巻 4冊	寛文10.7.上	沙門亮汰述	書林前河茂右衛門、村上勘兵衛、松井勝兵衛
5-7	木目八三水 三帖之内	半紙本	1冊	—	—	(表紙)「石什物」
5-8	新判秘蔵記鈔	木版大本	2巻 2冊	—	—	(奥書)享徳2.10.11、於東寺観智院、末学佛委生年廿九、表紙外れ
5-9	秘蔵寶鑰纂解	木版大本	4巻 4冊	元禄3	—	書林前河茂右衛門、村上勘兵衛、同姓権兵衛、序・2・5・6巻存
5-10	秘蔵寶鑰勸注	木版大本	5巻 5冊	—	—	—
5-11	秘蔵寶鑰纂解 巻第二	木版大本	1冊	—	瑞應山沙門運敬撰	5-9と関連
5-12	釋大乘論講引	半紙本	1冊	—	—	一丁目「南海豫州求法釋沙門慈雲桂蔵」
5-13	秘密漫荼羅十住心論 共六	木版大本	1冊	—	—	—
5-14	[悉曇三密鈔]	木版大本	1冊	—	—	(表紙)「大」、「序」、「巻上」開不能
5-15	五輪九字 一卷	木版大本	1冊	—	—	—
5-16	菩提心論初心鈔 上下	木版大本	2巻 2冊	—	—	(表紙)「伊州通玄」、洛陽四条寺町梓、前川茂右衛門尉
5-17	命息鈔	木版大本	10巻 20冊	—	—	—
5-18	慈恩寺三蔵傳	木版大本	10巻 5冊	享保4.1	—	(表紙)「隆俊」、洛陽寺町五条上ル町中野宗左衛門他1名
5-19	大日經疏指心鈔	木版特大本	3巻 3冊	—	—	巻10・15・16存(第10奥書)建治2.頼生(第16奥書)文永4.高野山馳筆
5-20	大疏第八巻有事記不審	半紙本	1冊	—	—	(表紙)「観晃隆俊」
5-21	[三省録]	木版大本	1冊	—	—	志賀忍輯～明良洪範
5-22	畔字義探宗記 上下	木版大本	2巻 3冊	—	—	(裏表紙)「自春」、(下巻奥書)弘安3.高野山伝法院別院中別所、頼瑜
5-23	聲字義開秘鈔	木版大本	2巻 5冊	—	—	(奥書)弘安3.11.上旬、於高野山傳法院、醍醐院報恩院末資金剛佛子頼瑜

5-24	[菩提心論初心鈔 下]	木版大本	1冊	—	—	(表紙)「持」、洛陽四條寺町前川茂右衛門尉梓行(裏表紙)「勢陽 自春」
5-25	六物図纂註	木版大本	2巻 2冊	延宝6.8	—	二條通二王院町長尾平兵衛刊行、巻之一之二、巻之三之四
5-26	不動講秘式	木版大本	1冊	—	—	(表紙)「第二之巻」
5-27	第三之巻	木版大本	1冊	—	—	障子文、真言密行問答、秘密莊嚴不二義、十九執金剛秘譯、一朝大要秘密集
5-28	第四之巻	木版大本	1冊	—	—	(表紙)「釋摩訶衍論指事、秘鍵略注」
5-29	第五之巻	木版大本	1冊	—	—	(表紙)「[]五大願秘釈、大願秘釈、[]聞持表白、[]金剛弟子、愚安鈔」
5-30	[口八之巻]	木版大本	1冊	—	—	(表紙)「口書掌義釈[]心釈、口遍表白、頌、口嚴兩部一心頌」開不能
5-31	[第七之巻]	木版大本	1冊	—	—	(表紙)「寶劍事、虚空蔵寶鍵、自受法樂讚」
5-32	第九之巻	木版大本	1冊	—	—	(表紙)「月輪觀頌口月輪秘釋口嚴単土略観」
5-33	大疏八之巻評判 快道上	半紙本	1冊	天保13.6.中	豫州産智賢章榮誌	於初瀬(本奥書)天保3.9.下旬、武陽調布沙門釈臣玄
5-34	二教論指光鈔	木版大本	5巻 8冊	—	—	(2巻末朱書)「武城良翁」(朱印)「五智山」
5-35	宗義決擇集 第二	木版大本	1冊	—	—	5-5と関連「桑門 快実之」
5-36	二教論指光鈔	木版大本	2巻 2冊	—	沙門空海撰	巻第1・2存「伊州 通玄」
5-37	大疏第三重	半紙本	2巻 2冊	享保2.10.6	化主権僧正秀慶	3・10巻(表紙)「石手寺 瑞澄」
5-38	[大佛頂・尊勝]	半紙本	1冊	宝永5.4.6	—	—
5-39	密宗血脈鈔 上	木版大本	1冊	—	—	「幸和(梵字)」(表紙)「神」
5-40	大疏指心鈔 巻十一	木版大本	1冊	—	—	5-19と関連(奥書)高野山伝法会談、文永10.理性院上野会令清書畢、同9.頼瑜加點
5-41	即身義顯得鈔	木版大本	3巻 5冊	—	—	巻1・3、2冊(巻3奥書)正嘉1.12.21作、同5.頼瑜加點(裏表紙)「共二十四」上廿 秀典
5-42	俱舍論頌釋疏二十四・二十五	大本	1冊	—	—	表紙のみ
5-43	大日經開題 全	木版大本	1冊	—	—	—
5-44	頼瑜・頼慶四十九院鈔	木版大本	1冊	—	—	(奥書)慶長5.7.9、南山桑門頼慶記之
5-45	萬記録	豎帳	1冊	—	熊野山第三十哲口智城栄 口	—
5-46	増訂習文録 甲乙判 上	木版半紙本	1冊	—	平安皆川原心伯泰著	一丁目「明治八年次乙亥初秋調之、良旨行盛処用」
5-47	習文録	木版中本	3巻 3冊	—	—	「明治四年正月二日菅来之進、明治八年初秋良音行盛処用所持」
5-48	日月行品台麗孝 下	木版半紙本	1冊	明治14.8	熊本県平民佐田介石	下京区西玉水町寄留、京都府下京区下珠敷屋町平民西村九郎右衛門刊
5-49	咩字義鈔	木版大本	10巻 3冊	—	—	一之三・四之六・七之十(表紙)「持」
5-50	菩提心論初心鈔 一	木版大本	1冊	—	—	—
5-51	二百五十戒略頌	半紙本	1冊	宝曆9.3	密来勸息秀如慈詮護持	—
5-52	疏科 一	木版大本	1冊	—	—	一丁目「金蓮寺什物」
5-53	[佛説阿弥陀経略解]	木版大本	1冊	—	呉郡沙門大佑述	「持主釋良恵」、明曆3.5、五條橋通扇屋町丁子屋西村九郎右衛門新板
5-54	俱舍論頌釋疏	木版大本	4巻 2冊	寛永7.2	—	巻26~29「書林道伴梓行」、5-42と関連
5-55	開奩編辨疑 附三密観辨疑	木版大本	1冊	貞享5	洛東岡元春謹書	書肆、永昌坊前川茂右衛門壽梓(表紙)「那」
5-56	密嚴諸秘釋第六目錄	大本	1冊	—	—	—
5-57	口口第九亮貞記	半紙本	1冊	—	—	(表紙)「二十三之内」元禄16年小池坊亮貞僧正、御判談の三性前後説
5-58	仁王経集要鈔	木版大本	5巻 5冊	—	—	(巻5奥書)延宝9、沙門龍範
5-59	木目八三水 三帖之内	半紙本	2冊	—	—	5-7と関連(表紙)「石什物」「一、随種々趣」、「一、第九証文」等
5-60	秘蔵寶鑰纂解鈔 五	木版大本	1冊	—	—	5-9と関連泰運の記名
5-61	即身義鈔	木版大本	10巻 4冊	—	—	—
5-62	聲字義鈔 上中下	木版大本	1冊	—	—	(表紙)「持」

5-63	研心鈔	木版大本	8巻 3冊	—	—	卷1・2、3・4、7・8・9・10存、巻5・6欠(表紙)「持」
5-64	勝宗十句義論釋	木版大本	1冊	安永8.7	皇都書林寺町通五条上ル町中野宗左衛門他4名	(表紙)「日」、「イヨ大量」(本奥書)安永2.8、於興福寺慈門院、沙門基辨
5-65	住心品疏	木版大本	1冊	—	—	—
5-66	佛頂尊勝陀羅尼勸信記 全	木版大本	1冊	天保12.7	—	撰宗川邊郡米谷邑蓬萊山清澄寺蔵板
6-0	大般若經	木箱	1函	—	—	39.0*61.8*66.2「御寄附大般若經 初百内」、「熊野山石手寺」
6-1	大般若波羅密多經	木版折本	42帖	延宝3-7.	黄檗山寶蔵禪院識沙門鐵眼	6・7函並び替え。18巻～299巻収納。墨書(23巻見返)「石手邑(梵字)為先祖代々菩提也、覚右工門、次郎左工門」、(23巻奥書)「最勝院兼住、嘉永丑年正月、栄真代」(26巻見返)「石手邑(梵字)為先祖代々菩提也、真七」、(26巻奥書)「最勝院兼住、嘉永丑年正月、栄真代」(27巻見返)「石手邑、(梵字)為先祖代々菩提也、与右工門、丑之助」、(27巻奥書)「最勝院兼住、嘉永丑年正月、栄真代」(80巻見返)「最勝院兼住、嘉永五子年十二月、栄真代」、(80巻奥書)「施主東野御園内惣蔵、同瀧次」
7-0	大般若經	木箱	1函	—	—	39.0*62.0*65.8。「御寄附大般若經 貳百内」、「熊野山石手寺」
7-1	大般若波羅密多經	木版折本	60帖	延宝5-7.	黄檗山寶蔵禪院識沙門鐵眼	6・7函並び替え。7函は306巻～598巻収納388巻前欠
8-0	[経函]	木箱	1函	—	—	27.0*37.0*63.0
8-1	如来壽量品	木版折本	1帖	享保2.11	雲母入紙紙屋庄左衛門板	—
8-2	六字經	折本	1帖	—	—	挿入「上座咒願文」佛説六字神呪王經、惣持寺」。(本奥)文曆2.梵字黒点加
8-3	権頒初夜教授手鏡	折本	1帖	宝曆12.4	—	京智積教院在山之砌、御門[]
8-4	虚空蔵菩薩求聞持	小本	1冊	享保19.12.4	豊山柿寮義勇瑞春66	(本奥書)元禄8.9.10、武都北岡雲浄蔵57
8-5	聞持法要抄 共三	小本	1冊	享保19.12.7	豊山領柿軒末資義勇瑞春	—
8-6	虚空蔵法私	折本	1帖	—	—	—
8-7	壇具等内證事	枳形本	1帖	—	—	—
8-8-0	[包紙]	包紙	1枚	—	—	「庭儀汀会奉行用意、仁和寺後汀愚聞記、諷誦行用」
8-8-1	諷誦行様	横折	1通	—	—	—
8-8-2	庭儀灌頂会奉行用意就澤流	枳形本	1帖	—	—	(奥書)延享4.7.4、江州小谷明王院、金剛佛子義勇瑞澄
8-8-3	仁和寺御灌頂愚見記	枳形本	1帖	元禄5	秀慶	—
8-9-0	日増月大事	包紙	1枚	—	—	「写傳房探瑞」
8-9-1	日増月大事	粘葉装	1帖	—	高岩	—
8-9-2	撥遣	罫紙	1通	—	—	—
8-10	諸観音	粘葉装	6帖	—	—	「正観音、千手、馬頭、十一面、准胝(月に互)、不空羂索」、「四」、包紙有
8-11	幸心法頂堂作法私記	粘葉装	1帖	—	—	(奥書)安永6.8書写、卓盈房宝瑞
8-12	口佛頌大陀羅尼	折本	1帖	—	—	表紙のみ
8-13	壇具等内護事	粘葉装	1帖	—	法如	—
8-14-0	[包紙]	包紙	1枚	—	—	「土公供次第并表白等十回帖、同壇并幣函、同莊山函、龍伏事、屋敷點定函等」
8-14-1	土公条文別表	粘葉装	1帖	—	昇仙房龍海	(奥書)頼四法即以御本写了、栄増」
8-14-2	土公通略祭文	粘葉装	1帖	—	—	(本奥書)筑波山知足院住師王栄増以本書写、正保12.栄慶、(写奥書)享保12.1寛映
8-14-3	土公供 貞観寺	粘葉装	1帖	—	—	(奥書)「石山内供成就院僧正成賢」
8-14-4	土公供 貞観寺	粘葉装	1帖	—	—	(本奥書)貞享5.1.21、隆意(書写奥書)宝曆3.2、瑞章法御本伝授書写、辨章
8-14-5	土公供 貞観寺	粘葉装	1帖	—	—	(奥書)「石山内供成就院、成賢」
8-14-6	土公別表	粘葉装	1帖	—	—	(奥書)正保2.2.12、以栄増之本写之了
8-14-7	土公供 貞観寺	粘葉装	1帖	—	—	(奥書)「成賢」

8-14-8	土公供作法	粘葉装	1帖	—	—	—
8-14-9	土公供作法	粘葉装	1帖	—	—	「石手寺雲船」(奥書)元禄4未祀福泉寺
8-14-10	土公通略祭文	粘葉装	1帖	—	—	—
8-14-11	土公供作法	粘葉装	1帖	—	—	—
8-14-12	土公供	粘葉装	1帖	—	元海	(奥書)永応3.6.16、醍醐寺報恩院尊宜、慶宜
8-14-13	土公莊嚴図	折本	1帖	元禄4.8.15	—	(奥書)天正18.1
8-14-14	龍伏事柱立次第屋敷點定図	粘葉装	1帖	—	—	(奥書)随逐石手寺瑞岩和上而傳受了、元禄4.8既明王曰瑞元
8-15-0	水了	包紙	1枚	—	自春房亮貞	「初後夜散念誦、初後夜并庭贊、三衣種子、綵帛之本、合六種、合葉包紙、散花机等記、外二香葉等ノ秘口一帋、亮瑞加之」
8-15-1-0	[包紙]	包紙	1枚	—	自春房亮貞	結縁水丁次第第一紙、結縁水丁初夜作法折本、小壇略作法一紙、所用三十七尊印言一冊
8-15-1-1	結縁水丁次第	横折	1通	—	—	—
8-15-1-2	結縁水丁初夜作法 金界	横折	1通	—	有雅	—
8-15-1-3	結縁水丁小壇略作法	横折	1通	—	—	—
8-15-1-4	結縁灌頂庭儀図	絵図	1鋪	—	—	(朱書)宝永5.8.23、於醍醐山以報恩院寬順大僧正御直本、求法俊榮写、有慶、法如
8-15-2-0	法須初後散念誦之事	包紙	1枚	—	亮貞	—
8-15-2-1	法須初金散念誦遍数	一紙	1通	正保4.7	前大僧正寬濟	包紙有
8-15-2-2	後胎散念誦	横折	1通	正保4.8	前大僧正寬濟	包紙有
8-15-3	散花机	一紙	1通	—	—	「幸心院御道具拝見ノ時記之」、包紙
8-15-4-0	水丁初後夜并庭讚	包紙	1枚	—	—	—
8-15-4-1	幸心灌頂讚次第	一紙	1通	—	汀贊	包紙有
8-15-5-0	散華机記録二 香葉包帋	包紙	1枚	—	亮瑞	—
8-15-5-1	散花机	一紙	1通	—	—	「幸心院御道具拝見ノ時記之」
8-15-5-2	香葉	包紙	1枚	—	—	「此処ニ如此書付アリ」三点封入
8-15-6	三衣種子 三	包紙	1枚	—	—	包紙内、梵字9文字、封入三枚
8-15-7	表白	小横帳	1冊	—	—	「右取香品」
8-16	傳初重	粘葉装	4帖	—	—	こより入り
8-17	厚雙紙	大美濃切本	1冊	—	—	(奥書)「座主前大僧都元海」「周盛」(表紙)「熊野山」「瑞澄」
8-18	厚雙紙	大美濃切本	1冊	—	—	(奥書)「座主前大僧都元海」(表紙)「澄如」
8-19-0	薄二重三經部二帖	包紙	1枚	—	阿蔵	—
8-19-1	熾威光	粘葉装	1帖	—	—	—
8-19-2	守護国界經念誦次第	粘葉装	1帖	—	—	—
8-19-3	止風雨	粘葉装	1帖	—	—	—
8-20	後夜念誦作法七月精進作法	粘葉装	1帖	—	佛子高巖	—
8-21	灌沐佛像作法	粘葉装	1帖	—	—	(奥書)享保3 法務大僧正寬順ノ御本拝写事、堯瑞、同12.3.20写了、円瑞
8-22-0	汀畏 五冊	包紙	1枚	—	—	—
8-22-1	無畏三蔵禪要	枡形本	1帖	—	—	—
8-22-2	阿闍梨大曼荼羅灌頂儀軌	枡形本	1帖	—	—	—
8-22-3	傳法灌頂三昧耶戒作法	枡形本	1帖	—	—	(奥書)元暦1.12.22、於大聖院奉授御室了、道法、
8-22-4	金剛界傳法灌頂作法	枡形本	1帖	—	—	—
8-22-5	胎蔵界傳法灌頂作法	枡形本	1帖	—	—	—

8-23	行法通軌	粘葉装	1帖	—	—	(奥書)天明5.8.2、口海律師以私記ヲ求書写(表紙)「土サ現覚、遺第太覚」
8-24	後夜念誦	粘葉装	1帖	—	純信	—
8-25	三宝院并遍智院灌頂道具 図五種鈴事	粘葉装	1帖	—	—	—
8-26-0	薄初重二番	包紙	1枚	—	文意房快秀	—
8-26-1	初重二番一字金輪三宝院薄	粘葉装	1帖	—	文意房快秀	—
8-26-2	初重二番尊勝法三宝院薄	綴葉装	1帖	—	文意房快秀	(本奥書)弘長2.1.15、報恩院、僧正御房奉
8-27	幸心院鎮守読経作法	粘葉装	1帖	天明7	最勝院音澄	(包紙)天明7.8.15傳法汀勤、9.21鎮守読経、最勝院音澄(本奥書)宝永5、於長谷書 写、同、於醍醐山西谷、寛順大僧正自筆本、延享1.俊栄・有慶・法如写
8-28	佛生會法則	小横帳	1冊	—	本列	—
8-29-0	出砂加持	包紙	1枚	—	瑞澄	—
8-29-1	[仏法帳]	粘葉装	1帖	—	瑞澄	印、勸請、発願、結界、礼佛、讚、本尊讚について
8-29-2	後三止風雨	粘葉装	1帖	—	瑞澄	—
8-29-3	守護国界経念誦次第	粘葉装	1帖	—	瑞澄	—
8-29-4	[守護経]	粘葉装	1帖	—	瑞澄	前後欠
8-29-5	二重三重薄守護経法之内	粘葉装	1帖	—	瑞澄	—
8-29-6	初金剛童子	粘葉装	1帖	—	瑞澄	—
8-29-7	初鴈口沙摩	粘葉装	1帖	—	瑞澄	—
8-29-8	(梵字)卅七尊	粘葉装	1帖	—	瑞澄	—
8-29-9	初愛染王通用	粘葉装	1帖	—	瑞澄	—
8-29-10	初金剛薬刀	粘葉装	1帖	—	瑞澄	—
8-29-11	初大威徳	粘葉装	1帖	—	瑞澄	—
8-29-12	初軍荼利	粘葉装	1帖	—	瑞澄	—
8-29-13	共九属星供	粘葉装	1帖	—	諦信、瑞澄	(表紙朱書)「共九」「瑞澄」
8-29-14	初心経	粘葉装	1帖	—	瑞澄	—
8-29-15	食略作法	一紙	1通	—	佛子弘恕、瑞澄	—
8-29-16	[光明真言法]	粘葉装	1帖	—	瑞澄	表紙標題無し
8-29-17	愛染明王法私	粘葉装	1帖	—	快秀、瑞澄	奥書、延宝～寛保年間に書写英岳・超海・圓瑞・瑞春・齊秀・快秀の名
8-29-18	[知病者死生法]	粘葉装	1帖	—	瑞澄	(奥書)永仁6.9.2、中性院次報恩院御本書写、金剛佛子頼瑜
8-29-19	注文	粘葉装	1帖	—	瑞澄	(表紙)「折紙四通内八千枚助衆目編数同用意佛典等」
8-29-20	辨才天法自明	粘葉装	1帖	—	瑞澄	(奥書)享保9.5.25、瑞元
8-29-21	光明真言法	粘葉装	1帖	—	空用房栄秀、瑞澄	—
8-29-22	奥入棺作法無所授作法臨 終後水作法	粘葉装	1帖	—	重盛、瑞澄	—
8-29-23	開眼供養作法略	粘葉装	1帖	—	賢栄、瑞澄	(本奥書)元龜4、金資順英、(書写奥書)天明6、真明
8-29-24	療痔病経	粘葉装	1帖	—	瑞澄	(本奥書)享保6、護持院権僧正、(書写奥書)享保14、法印亮瑞
8-29-25	仁王経法自明	粘葉装	1帖	—	瑞澄	(奥書)享保6.7.2、風鎮祈禱秘抄等書出、瑞元
8-29-26	大勝金剛法自明	粘葉装	1帖	—	瑞澄	「初心始行私書之了」(奥書)享保9.6.28、瑞春
8-30	諸佛項	粘葉装	4帖	—	利忍房龍山	包紙有「薄後重二番」「大佛項 大勝金剛 熾盛光 白傘蓋」
8-31	三宝院并遍知院汀道具寸 尺五種鈴立様事	粘葉装	1帖	—	—	(奥書)「天正十四年四月朔日於東寺書写頼心房性盛」

8-32	愛染明王法表白	美濃二ツ切本	1冊	—	宥辨	—
8-33	當流四度并印可灌頂別行日数事	一紙	1通	享保3.2.17	瑞春	(本奥書)以幸心院前大僧正寛順和尚之御本書写之、正徳3.3.28、法印瑞元
8-34	加持土沙法	粘葉装	1帖	延享4.5	鑲海	挟込多数「秀清」
8-35	[次同印 光明真言]	一紙	1通	—	—	—
8-36	初夜表白 結縁	横折	1通	—	—	—
8-37	丁地佛頂印明	横折	1通	—	—	(奥書)「享保12.7、瑞春、包紙有
8-38-0	明九十 汀表白等	包紙	1枚	—	—	—
8-38-1	召魂	一紙	1通	宝曆11.9	義等	秘鈔伝授の時、有雅僧正御口伝招魂作法について
8-38-2	傳法水丁誦經導師作法	粘葉装	1帖	万治3.9.15	幸心院尊恕	(本奥書)正嘉1、於三宝院勝舜
8-39-0	灌頂誦經導師作法	包紙	1枚	—	—	8-39-1-0の包紙
8-39-1-0	灌頂誦經導師作法	包紙	1枚	—	—	8-39-1-1~3の包紙
8-39-1-1	[梵字]	横折	1通	—	—	—
8-39-1-2	灌頂誦經導師法則	粘葉装	1帖	—	—	(奥書)正徳2.5、智瑞房瑞元
8-39-1-3	教授用意	折本	1冊	—	—	(奥書)明暦3.9.14、金剛佛子尊如
8-40	不忘記 羈族	罽紙竖帳	1冊	—	—	「梅雨六月十一日、旧四月廿四ニアタル」等記述
8-41	[覚]	横折	1通	明治16.旧3.27	→仏子明殿	仏事の諸作法
8-42	佐頂初夜表白 三	折本	1冊	—	—	(奥書)万治3.9.20、上門門西谷法務尊如、包紙有
8-43-0	印可口授	包紙	1枚	享保17.4.27	瑞春	—
8-43-1	行時慈救免 還時心經	一紙	1枚	—	—	—
8-43-2	[諸作法]	横帳	1冊	—	—	—
8-44	鎮守読経作法	粘葉装	1帖	—	—	(奥書)康正2.10.13、大阿闍梨報恩院隆濟僧正
8-45	弁才天事	粘葉装	1帖	—	—	—
8-46	謹考十重算法	横折	1通	元文5.7.5	最上吉辰	—
8-47-0	招魂	包紙	1枚	—	—	8-47-1~8の包紙、反故紙使用
8-47-1	鉢作法	横折	1通	—	—	—
8-47-2	切紙 已上十八	一紙	15枚	—	海慶	東寺報華院亮惠僧正作包紙
8-47-3-0	文殊童形大事	包紙	1枚	—	—	8-47-1・2の包紙
8-47-3-1	文殊童形大事	一紙	1通	元禄7	瑞元	—
8-47-3-2	五種両障事	一紙	1通	—	龍海	(奥書)明暦4.3、報恩院前大僧正寛濟以御本写了
8-47-4	七月行大事	綴葉装	1帖	—	与州之教任房	—
8-47-5	地藏菩薩四箇秘印	綴葉装	1帖	—	—	(奥書)寛政3年、於狼命山、末流澄瑞
8-47-6	地藏護摩私記	横折	1通	—	—	包紙
8-47-7	(梵字)上人御作次第	包紙	1枚	—	瑞澄	「上人御作次第一巻并諸大事口決書一巻」
8-47-8-0	赤箭晷天麻晷一紙 周尺異説晷一紙	包紙	1枚	—	—	8-47-1~3の包紙
8-47-8-1	周尺異説図	一紙	1通	—	—	—
8-47-8-2	天麻図	一紙	1通	—	瑞旭	天正18年性盛、元禄4年瑞元、享保6年瑞春の奥書
8-47-8-3	赤箭図	一紙	1通	—	—	—
8-48	[神道問答集]	竖帳	1冊	—	—	—

8-49	悉曇印鑑	堅帳	1冊	—	江州順真	—
8-50	[表紙端紙]	端紙	1枚	—	—	—
8-51	玄秘鈔	粘葉裝	4卷 4帖	寛文12.7.13 ~21	英岳	報恩院有雅僧正伝授、(1卷本奥書)文永4.2.4、於遍智院、法印良濟生廿六、(3卷本奥書)康治2.10.11、阿闍梨権大僧、郁法眼和尚位
8-52	玄秘鈔 四卷	粘葉裝	4卷 4帖	正徳3.5.23	智端房瑞元	於醍醐寺、(帙)「豫州熊野山石手寺常什物」、(帙貼紙朱書)「地」「石」、(1卷本奥書)天養.7.6、行事大法師、(2卷本奥書)文永4.1.17、於遍智院、法印良濟26、(3卷本奥書)文永4.2.21、於遍智院、金剛仏子良濟26、(4卷本奥書)元享2.4.27、誂人
8-53-1-0	初重一 諸仏	包紙	1枚	—	—	「都合五冊」、53-1~8帙一括、53-1-1~-1-7を包む
8-53-1-1	初重目錄普通	柵形本	1帖	—	—	—
8-53-1-2	初薬師法	柵形本	1帖	—	勇瑞	—
8-53-1-3	初阿弥陀法小野	柵形本	1帖	—	快賢	(本奥書)明暦3.4.12、於醍醐寺幸心院、舜良房尊如、(書写奥書)寛文1.12.13、於長谷寺菊寮
8-53-1-4	初阿弥陀道場観一説	柵形本	1帖	—	快賢	(奥書)明暦3.4.12、於醍醐寺幸心院、求法沙門舜良房尊如
8-53-1-5	釈迦法	柵形本	1帖	—	快賢	(本奥書)明暦3.4.12、於醍醐寺幸心院、舜良房尊如、(書写奥書)寛文1.12.13、於和州長谷寺菊寮、隨逐尊如周梨伝受
8-53-1-6	初光明真言	柵形本	1帖	—	快賢	(本奥書)明暦3.4.13、於上醍醐幸心院、就寛濟大僧正伝受、舜良房尊如、(奥書)寛文1.12.13、於長谷寺菊寮、隨法印尊如伝受
8-53-1-7	仏眼寺	柵形本	1帖	—	快賢	(本奥書)明暦3.4.13、於上醍醐幸心院、舜良房尊如、(書写奥書)寛文1.12.13、於長谷寺菊寮、隨尊如闍梨校合
8-53-2-0	初重二	包紙	1枚	—	—	「都合二冊」、53-2-1~-2-2を包む
8-53-2-1	初 金輪	柵形本	1帖	—	快賢	(本奥書)延宝5.5.29、於幸心院、有雅御本校合、(書写奥書)寛文1.12.14、於長谷寺、沙門観如、隨観如伝受之快賢
8-53-2-2	初 尊勝	柵形本	1帖	—	快賢	(本奥書)明暦3.4.13、於醍醐寺幸心院、舜良房尊如、(書写奥書)寛文1.12.14、於長谷寺、沙門尊如
8-53-3-0	初重三 諸教	包紙	1枚	—	—	「都合十二冊」、53-3-1~-3-14を包む
8-53-3-1	法花法	粘葉裝	1帖	延宝5.5.29	又隨勝如 快賢	(本奥書)明暦3.4.4、於醍醐幸心院、舜良房尊如
8-53-3-2	心経法	粘葉裝	1帖	—	快賢	(奥書)寛文1.12.16、幸心院、沙門尊如
8-53-3-3	理趣経法	粘葉裝	1帖	延宝5.5.29	又隨勝如 快賢	(本奥書)明暦3.4.中旬、於醍醐山幸心院、舜良房尊如
8-53-3-4	理趣経段々印	粘葉裝	1帖	延宝5.5.29	沙門隨勝如	(本奥書)明暦3.4.中潮、於醍醐寺、沙門尊如
8-53-3-5	童子経書'写作法	粘葉裝	1帖	延宝5.5.29	隨勝如快賢	於醍醐寺、(本奥書)正平9.7.21、寛洞院、憲深
8-53-3-6	童子経書'写作法註釈	粘葉裝	1帖	延宝5.6.1	隨勝如快賢	(本奥書)長享2.26、賢源
8-53-3-7	寿命経 小野	粘葉裝	1帖	~<5>6.1	又隨勝如 快賢	(本奥書)寛文1.12.18、幸心院、隨法印尊如
8-53-3-8	咒賊経	粘葉裝	1帖	延宝5.6.1	隨勝如快賢	(本奥書)明暦3.4.中旬、於醍醐寺、舜良房尊如
8-53-3-9	無垢浄光陀羅尼法	粘葉裝	1帖	延宝5.6.初	隨勝如快賢	(本奥書)明暦3.4.中5、上醍醐、沙門尊如
8-53-3-10	菩提場経法	粘葉裝	1帖	延宝5.6.1	隨勝如快賢	(本奥書)明暦3.4.15、於醍醐寺、舜良房尊如
8-53-3-11	宝篋印経	粘葉裝	1帖	延宝5.5.29	隨勝如快賢	於上醍醐、(本奥書)明暦3.4.15、於上醍醐幸心院、舜良房尊如
8-53-3-12	雨宝陀羅尼法	粘葉裝	1帖	—	隨勝如快賢	(本奥書)明暦3.4.中4、於醍醐寺幸心院、舜良房尊如
8-53-3-13	六字経法	粘葉裝	1帖	延宝5.5.29	又隨勝如 快賢	於醍醐、(本奥書)明暦3.4.中潮、於醍醐幸心院、求法沙門尊如
8-53-3-14	宝楼閣	粘葉裝	1帖	延宝5.5.29	隨勝如快賢	於醍醐、(本奥書)明暦3.4.中潮、於醍醐幸心院、求法沙門尊如、(本奥書)明暦3.4.14、於醍醐寺、舜良房尊如
8-53-4	薄初重六番	粘葉裝	9帖	寛永7	文意房快秀	「都合九帖」(奥書)長享2.7.28、賢深
8-53-5-0	薄二重一番 阿闍 宝生 定光 善名称	包紙	1枚	—	文意房快秀	—

8-53-5-1	二重二番 薄二重目錄	粘葉装	1帖	—	—	(表紙)「二重一番」、(奥書)寛永14.3..21、僧正寛澄
8-53-5-2	二重一番 阿闍	粘葉装	1帖	—	—	(表紙)「二重一番」
8-53-5-3	二重一番 宝生尊	粘葉装	1帖	—	—	(表紙)「二重一番」
8-53-5-4	二重一番 定光仏	粘葉装	1帖	—	—	(表紙)「二重一番」
8-53-5-5	二重一番 善名称	粘葉装	1帖	—	—	(表紙)「二重一番」
8-53-6	薄二重二番	粘葉装	4帖	—	文意房快秀	(表紙)「大仏頂、大勝金剛、熾盛光、白傘益」、包紙有
8-53-7	薄二重四番	粘葉装	10帖	—	文意房快秀	包紙有
8-53-8	薄初重 八番	粘葉装	11帖	—	—	包紙有「都合十一帖」
8-54-1-0	初重四 諸観音	包紙	1枚	—	—	正観音、千手、十一面、准胝、不空羼索 都合六冊帙(一～六)
8-54-1-1	正観音	粘葉装	1帖	—	—	(本奥書)於醍醐寺幸心院 明暦三年四月沙門舜良房尊如 (書写奥書)醍醐住山章海房勝如(表紙朱書)一 「初 快賢」
8-54-1-2	千手	粘葉装	1帖	—	—	(本奥書)於醍醐寺幸心院 寛文元年十二月沙門尊如 (書写奥書)於醍醐寺幸心院 延宝五年六月勝如(表紙朱書)二 「初 快賢」
8-54-1-3	馬頭	粘葉装	1帖	—	—	(本奥書)於醍醐寺幸心院以御本校合了(書写奥書)於上醍醐 延宝五年六月(表紙朱書)三 「初 快賢」
8-54-1-4	十一面	粘葉装	1帖	—	—	(本奥書)於醍醐寺幸心院 明暦三年四月沙門尊如 (書写奥書)於上醍醐山 延宝五年六月勝如(表紙朱書)四 「初 快賢」
8-54-1-5	准胝	粘葉装	1帖	—	—	(本奥書)於醍醐寺幸心院 寛文元年十二月観如 延宝六年二月快賢(表紙朱書)五 「初 快賢」
8-54-1-6	不空羼索	粘葉装	1帖	—	—	(表紙朱書)六 「初 快賢」
8-54-2-0	初重五 諸文殊	包紙	1枚	—	—	八字文殊 都合三冊入、五字文殊、通用文殊
8-54-2-1	八字文殊	粘葉装	1帖	延宝6	快賢	(本奥)於醍醐寺傳受、明暦3.4.舜良房尊如(写奥)於上醍醐寺幸心院、随有雅僧正校合傳受、延宝6.快賢(表紙朱書)五(表紙)「初」
8-54-2-2	五字文殊	粘葉装	1帖	延宝6	快賢	(本奥)於醍醐寺幸心院 前大僧正寛濟傳受、明暦3.4.尊如(写奥)醍醐住山砌、傳授、延宝5.6.2.快賢(表紙)「初」(朱書)「五」
8-54-2-3	通用文殊	粘葉装	1帖	延宝6	快賢	(本奥)於醍醐山幸心院 前大僧正寛濟和尚傳受 明暦3.4.尊如→沙門観如 延宝6.快賢(表紙)「初」
8-54-3-0	初重七 諸明王	包紙	1枚	—	—	都合八冊
8-54-3-1	降三世	柵形本	1帖	—	快賢	(本奥書)於醍醐寺幸心院以御本令校合則伝受了尊如(書写奥書)寛文1.12.19 於長谷寺菊寮随法印尊如伝受、校合了(表紙)「初」
8-54-3-2	金剛夜叉	柵形本	1帖	—	快賢	於醍醐寺幸心院 大僧正寛濟校合伝受仏子尊如(書写奥書)寛文1.12.19 於長谷寺菊寮就尊如阿闍梨伝受、校合了(表紙)「初」
8-54-3-3	軍荼利	柵形本	1帖	—	快賢	於醍醐寺幸心院 大僧正寛濟校合伝受(書写奥書)寛文1.12.19 於長谷寺菊寮就法印尊如伝受、校合了(表紙)「初」
8-54-3-4	大威徳	柵形本	1帖	—	—	(表紙)「初」
8-54-3-5	金剛童子	柵形本	1帖	—	快賢	於醍醐寺 大僧正寛濟以御本校合伝受了(書写奥書)於長谷寺菊寮就尊如和尚伝受了(表紙)「初」
8-54-3-6	烏瑟沙摩	柵形本	1帖	—	快賢	於醍醐 大僧正寛濟以御本令校合伝受、仏子尊如(書写奥書)於長谷寺菊寮就尊如和上伝受、校合了(表紙)「初」
8-54-3-7	愛染王通用	柵形本	1帖	—	快賢	於醍醐寺 幸心院大僧正寛濟 明暦3.4.20沙門尊如(書写奥書)寛文1.12.19於長谷寺菊寮就法印尊如(表紙)「初」
8-54-4-0	薄二重 三番	包紙	1枚	—	文意房快秀	「守護経、止風雨経」
8-54-4-1	守護国界経念誦次第	粘葉装	1帖	—	—	(表紙)「二重三番」
8-54-4-2	止風雨	柵形本	1帖	—	—	(表紙)「二重三番」

8-54-5-0	薄二重五番	包紙	1 枚	—	文意房快秀	(表紙)「八字文殊、六字文殊、一字文殊」
8-54-5-1	八字文殊法	粘葉装	1 帖	—	—	(表紙)「二重五番」
8-54-5-2	六字文殊	粘葉装	1 帖	—	—	(表紙)「二重五番」
8-54-5-3	六字文殊	粘葉装	1 帖	—	—	(表紙)「二重五番」
8-54-5-4	一字文殊	粘葉装	1 帖	—	—	(表紙)「二重五番」
8-54-6	薄二重六番	枅形本	8 帖	—	—	包紙有
8-54-7-0	薄二重七番	包紙	1 枚	—	文意房快秀	54-7-1~4を包む
8-54-7-1	愛染	粘葉装	1 帖	—	—	(本奥書)建保4.12.7、沙門憲一生—25、(書写奥書)応永31.3.4、座主満濟
8-54-7-2	(梵字)(梵字)三十七尊	粘葉装	1 帖	—	—	—
8-54-7-3	不動	粘葉装	1 帖	—	—	(本奥書)建治2.9.10、於宝池院、金剛仏果、(書写奥書)弘安4.7.2、憲乘
8-54-7-4	安鎮	粘葉装	1 帖	—	—	(奥書)貞享2.秋
8-54-8	薄二重八番	粘葉装	19 帖	—	快秀	包紙有
8-55	金宝集	枅形本	10巻 10 帖	—	—	(本奥書)正応3.於仁和寺嘉祥寺、行與など。(写奥書)寛保3.9.23~寛保3.12.7、亮雄
8-56-1	七日千座 一時千座	一紙	3 通	正徳3.1.中旬	法印端海→瑞元	56-1~56-54帙入、「十七通内第一」、(表紙朱書)「十六イ」、包紙有
8-56-2	那々夜待大事	一紙	1 通	正徳3.1.中旬	法印端海→瑞元	「十七通内第二」、(表紙朱書)「四イ」
8-56-3	七月精進并一度大事	一紙	3 通	正徳3.1.中旬	法印端海→瑞元	「十七通内第三」、(表紙朱書)「三イ」、包紙有
8-56-4	帶加持并産児湯加持易産符并小兒夜啼止方	一紙	3 通	正徳3.1.中旬	法印端海→瑞元	「十七通内第四」、(表紙朱書)「十四イ」、包紙有
8-56-5	衣服加持	一紙	1 通	正徳3.1.中旬	法印端海→瑞元	「十七通内第五」、(表紙朱書)「五イ」、包紙有
8-56-6	火伏四方堅等札方違等札守文	一紙	1 通	正徳3.1.中旬	法印端海→瑞元	「十七通第六」、(表紙朱書)「十七イ」、包紙有
8-56-7	武具加持 具足加持	一紙	2 通	正徳3.1.中旬	法印端海→瑞元	「十七通内第七」、(表紙朱書)「十二イ」、包紙有
8-56-8	船祭法則	一紙	1 通	正徳3.1.中旬	法印端海→瑞元	「十七通内第八」(表紙朱書)「十一イ」(包紙)慶長20.7.28頼心法印→音心房
8-56-9	十五日行大事	一紙	2 通	正徳3.1.中旬	法印端海→瑞元	「十七通内第九」、(表紙朱書)「七イ」、包紙有
8-56-10	文殊五十萬遍	一紙	1 通	正徳3.1.中旬	法印端海→瑞元	「十七通内第十」、(本奥書)醍醐寺住人、以法務大僧正有雅御直筆本写、包紙有
8-56-11	観音経大事	一紙	1 通	—	瑞元	「十七通内第十一」、(表紙朱書)「一イ」、包紙有
8-56-12	立座之大事	一紙	1 通	正徳3.1.中旬	法印端海→智端房瑞元	「十七通内第十二」、(表紙朱書)「九イ」、包紙有
8-56-13	施愛染秘法	一紙	1 通	正徳3.1.中旬	端海→瑞元	「十七通内第十三」、(表紙朱書)「十三イ」、包紙有
8-56-14	灌頂讚次第	一紙	1 通	正徳3.1.中旬	→豫州瑞元	「十七通内第十四」、(表紙朱書)「二イ」
8-56-15	散杖之大事	一紙	1 通	正徳3.1.中旬	法印端海→瑞元	「十七通内第十六」、(表紙朱書)「十五イ」、包紙有
8-56-16	門開之大事	一紙	1 通	正徳3.1.中旬	法印端海→瑞元	「十七通内第十七」、(表紙朱書)「六イ」
8-56-17	臨終大事	一紙	2 通	正徳3.1.中旬	法印端海→瑞元	「三十三通内第一」、包紙有
8-56-18	不動極秘臨終大事	一紙	1 通	正徳3.1.中旬	法印端海→瑞元	「三十三通内第二」、包紙有
8-56-19	引導大事	一紙	4 通	正徳3.1.中旬	法印端海→瑞元	「三十三通内第三」、包紙有
8-56-20	自身引導大事	一紙	2 通	正徳3.1.中旬	法印端海→瑞元	「三十三通内第四」、包紙有
8-56-21	光明真言極秘印	一紙	3 通	正徳3.1.中旬	法印端海→瑞元	「三十三通内第五」、包紙有
8-56-22	破地獄曼荼羅	一紙	1 通	正徳3.1.中旬	大阿闍梨法印端海→瑞元	「三十三通内第六」、包紙有
8-56-23	施餓鬼一印作法水施餓鬼作法	一紙	2 通	正徳3.1.中旬	法印端海→瑞元	「三十三通内第七」、包紙有
8-56-24	諸宗通用施餓鬼作法	一紙	1 通	—	—	「二紙之内三十三通之内第八」、包紙有

8-56-25	御精進供作法	一紙	1 通	正德3.1.中甸	法印端海→瑞元	「三十三通之内十一」、包紙有
8-56-26	靈供作法	一紙	1 通	正德3.1.中甸	法印端海→瑞元	「三十三通之内第十」、包紙有
8-56-27	後夜念誦作法	一紙	1 通	正德3.1.中甸	法印端海→瑞元	「三十三通之内十二」、包紙有
8-56-28	宝一山大事	一紙	1 通	正德3.1.中甸	法印端海→瑞元	「三十三通内十三」、包紙有
8-56-29	廁作法	一紙	1 通	正德3.1.中甸	→瑞[元]	「三十三通内十四」、包紙有、後欠
8-56-30	開眼大事	横折	4 通	正德3.1.中甸	法印端海→瑞元	「三十三通内十五」、包紙有
8-56-31	古仏修復撥遣勸請	一紙	1 通	正德3.1.中甸	法印端海→瑞元	「三十三通内十六」、包紙有
8-56-32	身堅作法	一紙	1 通	正德3.1.中甸	法印端海→瑞元	「三十三通内十八」、包紙有
8-56-33	除魔大事	一紙	1 通	正德3.1.中甸	法印端海→瑞元	「三十三通内十九」、包紙有
8-56-34	惡夢消滅法	一紙	2 通	正德3.1.中甸	法印端海→瑞元	「三十三通内二十」、包紙有
8-56-35	疫病大事	一紙	2 通	正德3.1.中甸	法印端海→瑞元	「三十三通内二十一」、包紙有
8-56-36	四方電王事	一紙	1 通	正德3.1.中甸	法印端海→瑞元	「三十三通内二十二」、包紙有
8-56-37	弁才天八印一明大事	一紙	2 通	正德3.1.中甸	法印端海→瑞元	「三十三通内二十三」、包紙有
8-56-38	火伏大事	一紙	1 通	正德3.1.中甸	→瑞元	「三十三通内二十四」
8-56-39	心經大事	一紙	1 通	正德3.1.中甸	法印端海→瑞元	「三十三通内二十六」、包紙有
8-56-40	野狐放大事	一紙	1 通	正德3.1.中甸	法印端海→瑞元	「三十三通内二十五」、包紙有
8-56-41	仁王經大事	一紙	2 通	正德3.1.中甸	法印端海→瑞元	「三十三通内二十七」、包紙有
8-56-42	大日經疏印信	一紙	2 通	正德3.1.中甸	法印端海→瑞元	「三十三通内二十八」、包紙有
8-56-43	早念誦大事	一紙	1 通	正德3.1.中甸	法印端海→瑞元	「三十三通内二十九」、包紙有
8-56-44	諸社大事	一紙	1 通	正德3.1.中甸	法印端海→瑞元	「三十三通内三十一」
8-56-45	三部春日九社・大師・密嚴 拝見大事	一紙	1 通	正德3.1.中甸	法印端海→瑞元	「三十三通内三十二」
8-56-46	九字大事	一紙	1 通	正德3.1.中甸	大阿闍梨下総州廉嶋芳寿 房端海法印→予州智端房	「三十三通内三十三」、包紙有
8-56-47	心啼呪	一紙	1 通	元禄5.3.10	亮貞 於尾陽長久寺	(端裏)「烏枢沙摩止啼法呪」、包紙有
8-56-48	西大寺方宝篋印塔 二紙	一紙	1 通	天保7.6.24	金資端幸	(表紙)西大寺方、金資瑞幸、(本奥書)於豐山大龍院
8-56-49	小食作法・大食作法	一紙	2 通	—	金資端幸	(本奥書)文化11.秋.15、通濟(書写奥書)天保5.10.10写、亮惠馴龍包紙有
8-56-50	瘡病加持作法	横折	1 通	天保6.4.24	金剛受者瑞華	(奥書)文政9.4.6、從豐山慈眼院憲營師、金剛資馴龍包紙有
8-56-51	惠井土水加持	一紙	1 通	天保6.5.1	金資瑞幸	「辛心流」(本奥書)宝曆11.12受之了、沙門精澁
8-56-52	醍醐三寶院灌頂道場図	絵図	1 鋪	天保6.5.上旬	金剛仏資 實俊瑞幸	—
8-56-53	[鳥口寸法図]	絵図	1 鋪	—	—	包紙有
8-56-54	入佛三帖外棟札一紙合四種	一紙	1 枚	—	—	延宝8.6、洛東山以深快御房御本
8-57	諸尊要鈔	粘葉装	上下 2 帖	享保17.5	金剛山西室院法印隆貞	(表紙)「小野」、(上卷本奥書)建保6.2、於遍知院、金剛仏子憲—生年二十七—、(下卷奥書)享保6.2、於醍醐、東開求法比企端海
8-58	金宝集	柵形本	10卷 10 帖	元文1.12.22	瑞澄	(第一卷本奥書)永享6.5.30、於上長講、澄惠36歳、(第一卷書写奥書)元文1.12.22、於和州針邑觀音密寺、瑞澄38帙入、小破
8-59-1	当流四度土代 当流四度加 行法則	粘葉装	1 帖	正德3.1.11	瑞元	8-59帙入(帙)「諸次第十四卷」(表紙朱印)「千秋萬葉熊野山金剛蔵不許讓与」(奥書)応永28.12.中甸、於上醍醐書文隆瑜行樹院秘蔵
8-59-2	胎蔵勸請	粘葉装	1 帖	正德3.3.17	沙門法印瑞元	醍醐住山
8-59-3	灌沐仏像作法	粘葉装	1 帖	正德3.4.17	智端房瑞元	辛心院法務大僧正御自筆之本書写

8-59-4	觀自在王三摩地 少將上人作云云	粘葉装	1 帖	正德3.5.29	智端房瑞元	(本奥書)正嘉2.8.2、定一
8-59-5	東寺拾三流事	粘葉装	1 帖	正德3.3.15	求法沙門予章	於醍醐幸心院會下書寫
8-59-6	供養法々則幸心僧正憲一作	粘葉装	1 帖	正德3.5.13	智端房瑞元於上醍醐西谷	(本奥書)宝永1.7、於醍醐山、瑞元房宏英
8-59-7	五部三部	粘葉装	1 帖	正德3.5.5	瑞元	(本奥書)根來五坊賴心性盛法印以書寫
8-59-8	十度異名并十二合掌	粘葉装	1 帖	正德3.5.5	智端房瑞元	醍醐住山
8-59-9	大勝金剛法自明	粘葉装	1 帖	享保9.6.7	瑞元拜誌	—
8-59-10	不動十四根本印	粘葉装	1 帖	正德3.5.3	智端房瑞元	醍醐住山之日書寫
8-60	作法集并目錄	粘葉装	50 帖	—	—	—
8-61	作法集全部五拾四帖外目錄一	粘葉装	53 帖	—	利忍龍山	—
8-62	兩部広次第并大谷道場觀	粘葉装	3 帖	文化1.5.21~1.6.5	萬福寺住周明	帙入、「胎藏道場觀」(本奥書)僧正有權(奥書)元禄6.4.27、於下醍醐寺隨釈迦院、求法慈雲房隆譽、「金剛界念誦私記」「胎藏界與本念誦次第」(本奥書)承久3.12.12、於醍醐寺通智院、法眼道教廿二
8-63	[聖教]	粘葉装端紙	1 枚	—	—	雨乞
8-64	天等通用頌次第	粘葉装	1 帖	—	瑞元	—
8-65-1	金剛界念誦私記	粘葉装	1 帖	—	—	(表紙朱印)「千秋萬葉熊野山金剛藏不許讓与」、(奥書)承久3.12.12、於醍醐寺遍智院奉伝受了、法眼道教季正春廿二、秩有、(秩)「兩部熊野山二卷」
8-65-2	石藏界念誦次第	粘葉装	1 帖	—	—	(表紙朱印)「千秋萬葉熊野山金剛藏不許讓与」、(奥書)承久3.12.12、於醍醐寺遍智院奉伝受了、法眼道教季正春廿二
8-66-0	糸縫之大事	包紙	1 枚	—	—	小破
8-66-1	弁才天法	粘葉装	1 帖	—	—	—
8-66-2	理趣經段之印	粘葉装	1 帖	—	—	(表紙)「初重三」、(奥書)「寛濟御本ニテ書之」
8-66-3	求聞持作法	粘葉装	1 帖	—	口精	(表紙)「全四加一」
8-66-4	於幸心印糸縫拜見ノ時受取口説記之	一紙2枚繼	1 通	延宝5.9.14	章海房勝如	—
8-66-5	星万荼羅	繪図	1 鋪	—	有慶	(端裏)「七ノ内」
8-66-6	伝授目錄	横折	1 通	—	—	小破
8-66-7	糸縫作法	粘葉装	1 帖	—	—	(奥書)幸心方ノ灌頂令伝授之砌、以舜良房尊如御本書寫、(表紙)「香藥合作法、五瓶荘ル作法、闕伽水酌事、鎮守読經事」
8-66-8	糸縫作法・金剛線結様・香藥合様・齒木荘様・闕伽水加持・五瓶加持	中本	1 冊	—	—	(本奥書)宝永4.春、於洛東智積教院勸学院、隆譽口説記、(書寫奥書朱書)宝曆10.4、豊山
8-66-9	水丁 受者用意 印言表白	粘葉装	1 帖	明和5.3	—	—
8-66-10	糸縫之事・齒木之事・合香藥事・綵帛之事・五瓶荘様	美濃ニツ切本	1 冊	—	—	(本奥書)宝永辛亥2、慈運隆譽、(書寫奥書)元治1.8、伊与教深寺、顯勝深章
8-67-1	愛染王最深秘訣	柵形本	1 帖	元文5.2	豫州沙門義勇瑞澄四十二	8-67帙入、67-1帙有、「於江州小谷明王院以寛快和上之本模寫」、(本奥書)天和3.4、「熊野山石手寺虚空藏院經庫納之」、(帙)「澄如」、(帙裏)「瑞如」、(帙朱印)「千秋萬葉熊野山金剛藏不許讓与」
8-67-2	二重一 諸仏	粘葉装	6 帖	—	快賢	包紙有「目錄二冊入之 都合六冊」(帶封)「薄後重 第一」
8-67-3	二重二 諸佛具	粘葉装	4 帖	—	快賢	包紙有「都合四冊」、(帶封)「薄後重 第三」
8-67-4	二重三 諸經	粘葉装	3 帖	—	快賢	包紙有「都合三冊」、(帶封)「薄後重 第三」
8-67-5	二重四 諸觀音	粘葉装	10 帖	—	快賢	包紙有、「都合十冊」、(帶封)「薄後重 第四」

8-67-6	二重五 諸文殊	粘葉装	4 帖	—	快賢	(包紙)「八文文殊大字文殊二通一字文殊 都合四冊」(帶封)「薄後重 第七」
8-67-7	二重六	粘葉装	11 帖	—	快賢	(包紙)「金剛薩埵 五大虛空藏 求聞持 滅惡趣 般若菩薩 持世 葉五 馬鳴 竜樹 田滿金剛 都合拾冊」(帶封)「薄後重 第六」
8-67-8	二重七	粘葉装	4 帖	—	—	(包紙)「諸明王不動法安鎮愛染王 卅七尊 十七尊 一射觀 都合五冊」
8-67-9	二重八 諸天	粘葉装	20 帖	—	快賢	「都合廿一冊」、「大黒天神」(奥書)寛洞院勝賢僧正御自筆写之御本、金剛仏子憲深憲一、「水歡喜天頌次第」(奥書)寛永5.9.6、権僧正寛濟
8-68	諸尊要抄	粘葉装	15巻 14 帖	享保18.3.15~9.11、(9巻)享保21.3.7、(11巻)享保21.3.9	求法野末資 貫快 三十七、(9、11巻)金剛仏子 義勇瑞澄 於和州針邑神宮寺	1巻欠、(本奥2~9、12、15巻)建保6.2.12~27、於遍知院、金剛仏子憲一廿七、(10、14巻)建長2、極楽坊御本、求法沙門顯成廿二、(11巻)建保6.2.25、於遍知院、憲一廿七、(帙)「澄如」
9-0	大般若經	木箱	1 函	—	—	「御寄附 大般若經 肆百内」、「熊野山石手寺」39.0*62.0*65.8
9-1	大般若波羅蜜多經	木版折本	70 帖	—	黄檗山寶藏禅院識、沙門鐵眼募刻	9~11函並び替え。9函は巻1~98。木版奥書の年代は寛文13~延宝7、巻5・12~14・16・43・44・47・77~79は2帖ずつ巻94・95虫損11・13~15巻見返し「(梵字)先祖代々菩提也、(梵字)心中所願成辨也、施主石手邑松岡傳之助、五巻之内」、11~19・25巻奥書「嘉永六丑年正月、最勝院兼住栄真代」16~19巻見返し「(梵字)先祖代々菩提也、(梵字)心中所願成辨也、石手邑河野利右工門、五巻之内」20巻見返し「嘉永六丑年正月、最勝院兼住栄真代、(梵字)先祖代々菩提也、(梵字)心中所願成辨也、石手邑河野利右工門、五巻之内」25巻見返し「(梵字)先祖代々菩提也、石手邑与平次」71~77・79巻見返し「嘉永五子年十二月、最勝院兼住栄真代」71・72巻奥書「施主池内三郎右衛門」73・74巻奥書「施主東野御國內、宮本傳次郎」75巻奥書「施主東野御國內、白石藤次郎」76巻奥書「施主東野御國內并手虎助」77巻奥書「施主東野御國內、六右衛門、同瀧蔵」78巻見返し「嘉永五子年十二月最勝院兼住栄真代、(梵字)先祖代々菩提也、施主勢以、嘉永五子年十二月吉辰」、78巻奥書「施主東野御國內孫太郎、同勇蔵」79巻奥書「施主東野御國內伊八」
10-0	大般若經	木箱	1 函	—	—	「御寄附 大般若經 伍百内」、「熊野山石手寺」39.0*62.0*65.8
10-1	大般若波羅蜜多經	木版折本	46 帖	—	黄檗山寶藏禅院識、沙門鐵眼募刻	巻101~198巻103・107・111・118・134・135・146は2帖ずつ101~104・106・107・109・110巻奥書「嘉永五子年十二月最勝院兼主 栄真代」101巻見返し「(梵字)為口童子菩提也、施主村圓寺村、白石傳之進」102巻見返し「(梵字)為先祖代々菩提也、施主勢以女」103巻見返し「(梵字)為先祖代々菩提也、施主圓寺邑次良助」、104巻見返し「(梵字)為先祖代々菩提也、施主圓寺邑音右工門與八」、107巻見返し「(梵字)為先祖代々菩提也、施主圓寺邑、武巻之内澤田利右衛門」109巻見返し「(梵字)為先祖代々菩提也、施主圓寺邑野本良右工門」110巻見返し「(梵字)為先祖代々菩提也、施主圓寺邑野本徳右工門」
11-0	大般若經	木箱	1 函	—	—	「御寄附 大般若經 陸百内」、「熊野山石手寺」39.0*62.0*65.8
11-1	大般若波羅蜜多經	木版折本	45 帖	—	黄檗山寶藏禅院識、沙門鐵眼募刻	11函は巻242~599に並び替え、木版奥書は延宝2~7年
12-0	[經函]	木箱	1 函	—	—	(箱裏)「石手寺不出聖教入瑞澄登造焉」
12-1	參肝鈔 完	半紙本	1 冊	—	東寺座主大僧正弘直記之判	「仁王經法本尊事(印)(印)」
12-2	五塵大仏事	半紙本	1 冊	—	—	(本奥書)寛文3.7、於豊山、沙門英岳(書写奥書)享保20.2、和陽山辺郡針村春日社別当寺住義勇瑞春
12-3	[曼荼羅説]	半紙本	1 冊	—	—	開不能、前後欠
12-4	文箒之大事	豎帳	1 冊	—	—	小箒、鏝之大事
12-5	妙法王經 七	大本	1 冊	天保2.2.24	—	(本奥書)文政9.3.11

12-6	結縁灌頂作法 釈御記三	粘葉装	1 帖	—	—	「就三寶院道場記之」(奥書)正安4、東寺隆勝
12-7	[]院一添[]卷軍書御口決記之 第三	半紙本	1 冊	—	—	(表紙)「六之内新覺洞院伝受之所序書」
12-8	聖如意輪觀自在菩薩念誦次第	小横帳	1 冊	—	—	小破
12-9	四度聞書	半紙本	2卷 2冊	延宝3.9	—	上下卷(朱印)「千秋萬葉熊野山金剛藏不許讓与」
12-10	幸心院伝授目録 全	半紙本	1 冊	—	金剛仏子浄観、龍恵	(本奥書)弘治3.9、於醍醐寺幸心院源雅僧伝授、秀玄紹房62、(書写奥書)寛永14.3.26(表紙)「寄附于石手寺宝庫」(裏表紙)「根香寺智積院御房、表書云、智積院御房日秀ノ書也、玄紹房云云、前大僧正源雅」
12-11	伝授日記 初重後重薄	豎帳	1 冊	安永4.4	先瑞	(奥書)「僧正有慶御伝授席書了」豊山於小池坊、(表紙朱印)「千秋萬葉熊野山金剛藏不許讓与」
12-12	胎蔵界句義抄 本末	木版大本	2卷 2冊	貞享1.7	洛下書林井上忠兵衛	(表紙朱印)「千秋萬葉熊野山金剛藏不許讓与」
12-13	曼荼羅抄 胎	豎帳	1 冊	—	—	豎帳1冊固着、共に開不能
12-14	帰鈔 全	半紙本	1 冊	—	剛宝、浄宝	(本奥書)建武1.12.21、於室生寺閑寂堂、真海78(奥書)享保14.12、於豊山、實快33
12-15	秘蔵記末	木版半紙本	1 冊	—	熊野山	(表紙)「大」「佛」
12-16	伝法灌頂三昧耶戒体	豎帳	1 冊	—	—	小破
12-17	伝法灌頂三摩耶戒作法	大本	1 冊	—	—	(本奥書)弘安10.3「先師前大僧正并報恩院僧正御口決等記之畢」金剛仏子教舜(奥書)正徳3.閏5予州金蓮寺現住法印瑞元
12-18	兩部神道記	半紙本	1 冊	文政6.8	南海桑郷瑞澄	筑州福岡井露堂寓居
12-19	歎徳総標新草難問	豎帳	1 冊	—	—	表紙「石什」
12-20	薄草紙第二重口訣第七私	半紙本	1 冊	—	—	—
12-21	念誦真言理観啓白文註	半紙本	1 冊	—	—	—
12-22	野金口決鈔	半紙本	1 冊	—	日州自任	(本奥書)天曆6.7.3、求法沙門元果(奥書)正慶2.5.5、金剛仏子聖憲生年25(表紙朱印)「千秋萬葉熊野山金剛藏不許讓与」
12-23	高祖御作目録本願御製作日記	豎帳	1 冊	—	北湖	(表紙朱印)「千秋萬葉熊野山金剛藏不許讓与」
12-24	阿弥陀大呪心抄	豎帳	1 冊	—	亮瑞	(包紙)「頼瑜」(奥書)建治3、頼瑜、(表紙朱印)「千秋萬葉熊野山金剛藏不許讓与」
12-25	見聞記臆	半紙本	1 冊	—	昇住房瑞阿	(裏表紙朱書)「三界為家六趣不定或天堂為家或地獄為家」
12-26	薄初重五番	粘葉装	3 帖	—	文意房快秀	「文殊通用、八字文殊、五字文殊、都合二尊」、實深、隆助、寛濟等奥書
12-27	田夫秘法并口決 同灌頂	粘葉装	2 帖	—	馴竜	「田夫愛染灌頂」(朱書奥書)享保14.12、伊予周海「田夫秘法 伊予周海焉」(奥書)元禄11書写了
12-28	□(不偏に首)汀前加行 三輪山流 覚恕	横折	1 通	寛永7.3.16	大御輪寺高照	「吉野郡大蔵寺神祇水丁之砌書之」
12-29	妙法蓮華經如来寿量品第十六	折本	1 帖	—	恕元拜書	「奉為法印雲怒大和尚」、(端裏)「霜月十二日始之十四日了」
12-30	鎮守読経作法	小横帳	1 冊	—	密圓	(包紙)「榮真」
12-31	諸仏	粘葉装	4 帖	—	—	(包紙)「阿闍、宝生、定光、善名稱」
12-32	大谷道場観	枱形本	1 帖	文化4.4.27	金剛仏子龍鏤	(本奥書)幸心大僧正寛斎伝授(奥書)寛延3.3豫州願蓮寺寛際師一金剛仏子龍海
12-33	[仏事配置図]	絵図	1 鋪	—	—	受者、金台等配置、花瓶等用意の事
12-34	妙法蓮華經如来寿量品第十六	折本	1 帖	—	恕元拜書	「奉為法印雲怒大和尚」、(端裏)「霜月九日了、相濟」、12-29と同内容
12-35	法界調伏	一紙	1 通	宝曆13.12.29	伝燈大阿闍梨法印慧温→授与澄如	—

12-36	開眼略作法	一紙	1 通	—	宥禪	「前法務止丹丈僧正有雅以御自筆」
12-37	大般若波羅密多經 卷第五百二十二	折本	1 帖	—	—	—
12-38	後夜念誦法一、西吹風授樣	包紙	1 枚	—	—	枅形本4帖、一紙2枚一括、(包紙)「一、七月精進作法外二紙ソウ一、八幅輪一、日増月大事一、護身法一」
12-39	十八道加行作法	橫折	1 通	明治11.4	阿闍梨隆專仏子宣住房	小破
12-40	武具加持 具足加持	一紙	2 通	—	—	(表紙)「十七通之内第七」、包紙有
12-41	守護經法四箇切明 二童子之印	橫折	1 通	寛文12.1	昇仙房龍海	包紙有
12-42	十六尊印	一紙	1 通	寛文12.1	昇仙房龍海	—
12-43	勝軍地藏法頓得如意法師口聞記	一紙	1 通	宝曆2.1.10	金剛仏子実海	包紙有
12-44	[曼荼羅下書]	繪図	1 鋪	—	—	—
12-45	薄初重二番 諸仏頂金輪尊勝都合二尊	粘葉装	2 帖	—	—	(奥書)弘長2.1.15、於報恩院、頼—
12-46	[曼荼羅下書]	繪図	1 枚	—	—	包紙有
12-47	金剛界五解脱輪曼荼羅図	木版絵図	2 鋪	元禄7.7	沙門周観	「胎藏界三部曼荼羅観図位」同折
12-48	[奉書]	断簡	1 通	元文2.3.2	(花押)→尊榮	(裏書)「兩部曼荼羅図金剛名号二枚尊榮」
12-49	求聞持秘訣	粘葉装	1 帖	延享4.7.27	秀精	(本奥書)嘉元2.3.12、(書写奥書)阿闍梨円秀→秀精
12-50	大般若波羅密多經 卷第四百九十四	折本	1 帖	—	—	小破
12-51	[大般若波羅密多經]	端紙	1 枚	—	—	前後欠
12-52	求聞持次第覚(梵字)	粘葉装	1 帖	—	秀精	(表紙)「全四 加一」
12-53	[普通眞言藏]	折本	1 帖	—	—	前後欠
12-54	十八道念誦次第 私記	粘葉装	1 帖	—	行者完龍	(表紙)「不許他者」
12-55	秘蔵記本	半紙本	1 冊	—	熊野山石手寺	—
12-56	悉雲十八章建立生起	大本	1 冊	—	—	(本奥書)享保14.7.25、於山城州相楽郡瓶原—律寺、苾芻性善、(書写奥書)文化13.9.7、豊山頌華洞、純性 標題は内題に抛る
12-57	摩訶般若波羅密多心經	半紙本	1 冊	—	—	—
12-58	[悉曇 南天竺 用音]	半紙本	1 冊	—	—	—
12-59	四度加行用意條々	半紙本	1 冊	享保13.1.1	如来院住恕元	(奥書)僧正光口賢在判、法印光実御印
12-60	伝授目録	美濃二ツ切本	1 冊	享保3.5.14	端州房瑞麟	「醍醐山住之節此一帖写之了」
12-61	諸尊要抄第一	粘葉装	1 帖	—	—	(本奥書)建保6.2.12、於遍知院写、金剛仏子憲、(書写奥書)寛政8.4.26、阿闍梨讃州大興寺兼地藏院密柱
12-62	不動明王瑜伽要鈔 卷二	粘葉装	1 帖	元禄8.2.2	東都靈雲創基苾芻浄嚴	—
12-63	印融廿四帖 []外後記二帖 追加一帖 目錄一帖 通計廿九帖	粘葉装	29 帖	—	神賢	包紙有
12-64	系統図等四紙言ッ都合五種	一紙	6 通	—	亮瑞	(表紙)「外二本末結留形」、包紙有
12-65	金剛界念誦次第	粘葉装	1 帖	慶安3.8	菩提山徳蔵院白秀	(奥書)「報恩院御本僧正有俊御書写」
12-66	廁作法	一紙20枚繼	1 通	正徳3.1.中旬	法印瑞海→瑞元	(表紙)「三十三通之内十四」
12-67	入壇加行表白	一紙	2 通	寛文7.閏2.3	師王法印権大僧都公清	「釋論五重問答」同折

12-68	薄二重一 仏部四帖 同目錄一帖	枳形本	1 帖	—	知阿蔵	—
12-69	心經大事	一紙	1 通	享保3.7.中旬	法印瑞元→雲元	—
12-70	光明真言法	粘葉装	1 帖	万治4.3.16	賢重房精順	「御本云竹生島住僧余竹坊頼真御持宝宥算法印御自筆致借用令書写畢」
12-71	金剛界	卷子本	1 軸	—	熊野山	(奥書)三宝院権僧正御作
12-72	地藏菩薩本願經卷上	木版折本	1 帖	—	于闐国三蔵沙門實叉難陀	—
12-73	仁王經法則	旋風葉	1 帖	—	—	後欠
12-74	仁王般若經 卷上	木版折本	1 帖	—	—	「室岡山蓮花寺什物」、前後欠
12-75	守賀神持經廿部[]祭文根本式	木版折本	1 帖	—	—	後欠
12-76	諸經 經法用口	折本	1 帖	享保4.7.2	密乘沙門瑞州瑞麟	—
12-77	大明王大随求陀羅尼	木版折本	1 帖	宝曆-.10.1	恣菟洞泉性善	「東大寺真言院蔵板」、「皇都王泉堂經師伊兵衛敬刻」
12-78	図囊	絵図	4 鋪	—	智端房瑞元、淵龍	十二天壇図、星供幡台等図、星供幡之図、五壇護摩図内包
12-79	曳念誦作法	横折	1 通	—	—	包紙有
12-80	童形毎日所作 請布施作法 毎日灌頂法 御影供誓戒文	一紙	4 通	—	亮瑞	包紙有
12-81	仁王經法壇莊嚴図并十二天壇図二枚	絵図	2 鋪	—	陽山房瑞春	包紙有
12-82	仁王經大事	一紙	1 通	享保3.7.中旬	法印瑞光→雲元	(表紙)「三十三通内二十七」
12-83	五字功能	美濃二ツ切本	1 冊	—	真海	後欠、(本奥書)建長3.閏9.21、阿闍梨道範
12-84	銚口冬口度々来応 初重二番ヨリ聞書二	美濃二ツ切本	1 冊	—	—	—
12-85	金剛界念誦次第	美濃二ツ切本	1 冊	—	—	—
12-86	[遷宮上下作法支度]	小本	1 冊	—	—	—
12-87	妙法蓮華經五百弟子受記品第八四	木版折本	1 帖	—	—	後欠
12-88	瑜伽課誦 上	木版折本	1 帖	—	—	目次有
12-89	[加持祈禱作法等]	紙本墨書卷子装	1 軸	—	—	—
12-90	清書不動言广 第一貳卷内	紙本墨書卷子装	1 軸	—	—	—
12-91	清書金剛界口第三	紙本墨書卷子装	1 軸	—	—	—
12-92	[諸法作法]	紙本墨書卷子装	1 軸	—	—	—
12-93	[諸法作法]	紙本墨書卷子装	1 軸	—	—	「虚空蔵法」等
12-94	[蓮華図]	絵図	1 鋪	—	—	「裏打実秀僧都致口口善栄法印時書之絵」
12-95	薄初重 七番	粘葉装	8 帖	—	文意房快秀	(包紙)「島菟沙麼、金剛童子、愛染法、不動法、軍荼利、降三世、金剛葉刃、大威徳都合八帖」
12-96	八齋戒法	横折	1 通	—	瑞澄	—
12-97	縛賀	粘葉装	1 帖	延宝7.2	章海房勝如	—
12-98	水丁受者作法二種	一紙	1 通	—	自吞房亮貞	包紙有、(奥書)於醍醐寺書写、尊如
12-99	諸社通用珠呂并説草取金二丁	粘葉装	1 帖	—	—	—
12-100	壇鏡記并野沢血脈頌	大本	1 冊	—	瑞春	(奥書)享保2.1、陽山房、(表紙朱印)「千秋万葉熊野山、金剛蔵不許讓与」
12-101	十一面悔過	折本	1 帖	—	栄寿	—

12-102	[招魂作法・飛魂主知様事]	折本	2帖	—	—	包紙有
12-103	例時後夜貳之内	折本	1帖	—	—	—
12-104	[覺]	横折	1通	—	—	色・仏・梵字書上
12-105	新版仏名会法則	枡形本	1帖	—	和州知盛	「仏名導師作法」等
12-106	[転法輪]	粘葉装	1帖	—	—	前後欠
12-107	薄初重四番 六観音 不空 羂索 都合七帖	粘葉装	6帖	—	文意房快秀	包紙有、(「千手」書写奥書)寛永5、寛濟、(「准服一」「不一」「馬一」本奥書)長享27、賢深
12-108	熊野十二所権現印明	粘葉装	1帖	享保15.6.17	瑞章	「石手寺第廿一世院家法印瑞章御自筆之本書写之」(本奥)寛保1.瑞専(写奥)江北惣持寺蔵本写
12-109	伝法灌頂受者作法	枡形本	1帖	慶応2.2	栄真	包紙有、(奥書)寛延己巳.1.23、性善、於豊山
12-110	大仏頂	粘葉装	1帖	—	—	—
12-111	初重六	粘葉装	7帖	—	快賢	(包紙)「諸菩薩 五秘密 虚空蔵 普賢 普賢延命 延命 地藏 弥勒 勢至 隨求陀羅尼 都合九冊」(内、「虚空蔵」「地藏」欠)
12-112	諸経 守護経 止風雨経	粘葉装	5帖	—	—	包紙有
12-113	水天供表白 一紙	横折	1通	享保5.7.中旬	求法沙門陽山房瑞春	包紙有
12-114	[加持祈祷・香水作法等]	折本	1帖	—	—	前後欠
12-115	[南無仏説阿弥陀経]	木版中本	1冊	—	—	前後欠
12-116	[中本裏表紙]	中本端紙	1枚	—	—	—
12-117	弁才天八卯一明大事	一紙	1通	享保3.7.中旬	法印瑞元→雲元	(表紙)「三十三通内二十三」、包紙有
12-118	十八道加行作法	横折	3通	—	—	「施食作法」「鉢作法」(正徳3.1.中旬、法印瑞海→瑞元)
12-119	望天私記	一紙等	22点	—	—	包紙有、「両且本尊塗香」等22点包紙一括
12-120	妙法蓮華経薬草論品第五	木版折本	1帖	—	—	後欠、「石手寺権現不出」
12-121	譬喩問答標拳 第十卷	大本	1冊	—	—	—
12-122	初地即極	大本	1冊	天保10.10.16	快道記(印)	—
12-123	住心品第一	半紙本	1冊	元禄8.9	快範	—
12-124	印可口決 伝水	大本	1冊	—	—	(本奥書)元応1.12.8、法印大和尚位権大僧都實叡、(書写奥書)貞享5.7.9、真乘院法務大僧正御本写之了
12-125	切紙集	半紙本	1冊	—	宥鏡	「日想観」等
12-126	含光記并一尊法口訣 全	半紙本	1冊	—	義勇瑞春	(本奥書)宝永6.12.6、景運、(書写奥書)享保16.7.3、於江外惣持寺、瑞春、(表紙朱印)「千秋萬葉熊野山金剛蔵不許讓与」
12-127	野沢師記	半紙本	1冊	正徳3	瑞元	(奥書)延宝7、快隆
12-128	十八道口決 本末	半紙本	1冊	享保13.2	金剛仏子瑞旭	(本奥書)弘長1.6、於醍醐寺報恩院、金剛仏子頼瑜生年36、(書写奥書)文保2.3、於奥善寺、仏子浄意53才
12-129	未来星宿劫千仏名経巻下	大本	1冊	—	石手寺	「三巻之内」
12-130	胎蔵入理鈔 巻中	大本	1冊	—	—	(本奥書)明応3、於醍醐寺、(書写奥書)萬治2、於石手寺、姓宣房、(表紙朱印)「千秋萬葉熊野山金剛蔵不許讓与」
12-131	現在賢劫千仏名経 巻中	大本	1冊	宝暦9.12.18	密門末資先瑞	(表紙)「現在共三」
12-132	現在賢劫千仏名経 巻中	半紙本	1冊	—	石手寺	(奥書)宝暦6.12、第12世法印瑞澄石手寺奉納、書写金剛仏子覚丈房陽瑞
12-133	未来千仏名経 巻下	大本	1冊	宝暦7.12.4	当山元住第廿二世瑞澄	(奥書)江州総寺之法則礼仏伽陀錫杖等加
12-134	誕生講法則	半紙本	1冊	—	—	(裏表紙)「予州松山熊野山石手寺不出、石手寺什物」「虚空蔵宝輪院什物」「文政十一子年」

12-135	過去千仏名經 卷上	大本	3冊	—	石手寺	(本奥)宝曆5.12.4、虚空蔵院現住瑞澄、(写奥)宝曆8.12.5、尋流純澄、(表紙)「天」、「黄」、(裏表紙)「石手寺不出正月石手寺」「石手寺文化十三丙子年二過去誦
12-136	(梵字)田夫法	大本	3冊	宝永7.閏8	野末資智勝、23才	(奥書)元文3.3.2、快秀
12-137	等葉不葉密伝大師御遺戒并七十二箇條掟二十五條御託宣	半紙本	1冊	享保20	豫州義勇房瑞春	(本奥書)文亀3、東寺觀智院宗雄、(表紙朱印)「千秋萬葉熊野山金剛蔵不許讓与」
12-138	御流神道護身神法	一紙	3通	文政3.3.16	憲譽	護身神法、三部入、包紙有
12-139	菩提口体	豎帳	1冊	—	—	(表紙)「此之箱」「初丁破損 終モ不足」、小破、前後欠
12-140	妙經達多勸持品入疏卷四下	半紙本	1冊	—	—	(表紙朱印)「千秋万葉熊野金剛蔵不許讓与」、(表紙)「盧」「週計廿一紙」
12-141	遷宮式法	横折	1通	—	—	—
12-142	理趣經法滅罪印触作用法	一紙	1通	文政5.7	予家城東石手寺塔頭定觀坊住沙門昇住房心澄	「草海房勝如之御本書写」
12-143	縁起貳通資實兼經	一紙	3通	—	淵龍	包紙有、(日野資實縁起奥書)寛久22、於長谷寺、淵龍、(包紙)明曆3、榮慶、於醍醐寺幸心院
12-144	神分	横折	1通	—	—	—
12-145	如来寿量品	折本	1帖	—	怨元	「奉為法印雲怨大和尚」
12-146	愛染明王表白金二丁	一紙7枚繼	1通	文政5.7	豫州沙門昇住房心澄	小破
12-147	幸心院灌頂道具目錄	粘葉装	1帖	延享1.7	法如	(本奥書)正保2.10.20、寛濟記
12-148	鐘達札加持	横折	1通	—	瑞澄	包紙有
12-149	十七夜待大事	一紙13枚繼	1通	文政5.7	石手寺塔頭定觀坊住昇住	(奥書)「於豊山穿敵瑞書写」
12-150	呪願文事	一紙	1通	—	—	—
12-151	[覚]	横折	1通	—	—	幸心院壇供物之事等書上
12-152	伝法灌頂口決并聞書 第四	豎帳端紙	1枚	—	—	表紙のみ、中後欠、(表紙)「(梵字)臨終大事開眼作法」
12-153	[覚]	豎帳端紙	1枚	—	—	「鍛冶之大事」、「大鍛之大事」等
12-154	[覚]	小横帳端紙	1枚	—	—	「浄穢土」の記述有
12-155	結願作法	横折	1通	—	—	—
12-156	結願作法	横折	1通	明治12.9	仏子宣住房	—
12-157	垂迹権現本地説	中本	1冊	—	—	—
12-158	[聖教]	枳形本端紙	3枚	—	—	「庭儀讚願法則」「御本之奥書」等記述有
12-159	一切如来全身舍利宝篋印陀羅尼經	半紙本	1冊	—	龍光	(奥書)天保4.8.6、上総興雲師所持河内光明寺聖風上人印施快貞誌
12-160	大流百條第三重 第四	大本	1冊	—	—	(奥書)永正6.12、周防山口談義所集福寺、備後国深津光明寺住頭乘誠坊
12-161	標拳十地十六生 難答	豎帳	1冊	—	—	—
12-162	妙法蓮華經 卷四	折本端紙	1枚	—	—	表紙のみ
12-163	菩提戒本	木版中本	1冊	延宝5.5	日野屋半兵衛	(表紙朱書)「第三百七十三号」
12-164	諸徳三礼[]	卷子本	1軸	明治9.10	石手寺伽藍用	修復済
12-165	妙法蓮華經五百弟子受記品	折本	4卷 1帖	—	—	「第八 四」。第8~第11存、小破、後欠
12-166	瑜伽課誦 中	折本	1帖	—	—	後欠
12-167	[大般若經]	折本端紙	1枚	宝曆9.11	石手寺第二十二世沙門瑞澄(印)	前欠、「大願主室屋磯右衛門」「六親眷属七世父母貴賤靈等平等利益」
12-168	眞言修行鈔	大本	5卷 2冊	元禄11	井上忠兵衛蔵版	—

12-169	[改書]	折紙	1 通	寛延1.6.18	僧正圭賢(花押)	弥勒院への供料金寄附と、什物追加目録
12-170	光明真言法 三宝院	栴形本	4 帖	—	照應	「光明真言法 陽瑞」「印可榮真」「受者加持 高座加持 後夜附属 教誡」
12-171	[諸作法]	一紙等	47 点	—	—	包紙有「結願作法教誡詞」「施食作法 三十三通内第九」等47点包紙一括
12-172	旅中真俗雜記	蜀紙小横帳	1 冊	明治11.10~	玉石軒	買物品名、借用覚等の金銭書上
12-173	大雲輪請雨經	折本	2巻 1 帖	—	—	帙有、小破、(表紙朱書)「熊野山」、(本奥書)東寺沙門成一本書写校点、(奥書)寛文12.1、豫州石手之住侶、昇僊房龍海、「千秋萬葉熊野山金剛蔵不許讓与」
12-174	不動護摩私記	粘葉装	1 帖	—	—	後欠
12-175	醍醐住山日記	半紙本	5巻 5 冊	正徳3	智瑞房瑞元	(奥書)正徳3於上醍醐西谷下之坊、予州金蓮寺現住沙門瑞元拜(表紙)「灌頂部」
13-0	[ダンボール箱]	ダンボール	3 箱	—	—	—
13-1	伝法灌頂印信紹書	豎紙	1 通	—	→章榮	(血脈)大日如来~章榮、包紙有
13-2	法流記	一紙	1 通	享保1.12.8	伝燈大阿闍梨龍巖(花押)	包紙有、(包紙)「南江戸村大宝寺江法流付属遺之ヒカヘ書」
13-3	雙圓性海口伝	一紙	1 通	—	→瑞春	開不能
13-4	天長印信	豎紙	1 通	—	—	(本奥書)天長3.3.5、於東寺、真雅大法師
13-5-0	伝法灌頂印信 三一証一	包紙	1 枚	—	→阿禪	「初ノ二」、13-5-1、13-5-2の包紙
13-5-1	伝法灌頂阿闍梨位事	一紙	1 通	享保1.12.8	伝燈大阿闍梨法印大僧都龍巖(花押)→阿禪	—
13-5-2	[血脈]	一紙	1 通	—	—	大日如来~第50代秀禪
13-6-0	伝法灌頂印信	包紙	1 枚	—	→瑞春	—
13-6-1	伝法灌頂阿闍梨位職位事	豎紙	1 通	享保20.1.5	伝燈大阿闍梨法印有了	—
13-6-2	[印可状]	豎紙	1 通	享保20.1.5	伝燈大阿闍梨法印有了→瑞春僧都	於大和国山辺郡針邑観音寺道場
13-7	香衣着用之事	豎紙	1 通	享保1.10.3	(花押)→予州石手寺瑞元御房	大高檀紙
13-8	証文	一紙	1 通	享保1.12	大宝寺阿禪(花押)→浄明院龍巖法印	末寺仰付の事、包紙有、(包紙)「式通之内」
13-9	[書状]	一紙	1 通	享保1.12.8	大宝寺阿禪(花押)→本寺飯岡山浄明院龍巖法印	御法流之聴許御厚恩の事、包紙有、(包紙)「式通之内」
13-10	[書状]	一紙	1 通	天保2.10.19	左中将判→東寺諸門徒中	来午年、弘法大師千年忌の事
13-11	[印可状]	豎紙	1 通	天明1.8.17	伝燈大阿闍梨法印尊榮(花押)→伝燈大法師先瑞	—
13-12-0	悉曇灌頂印信	包紙	1 枚	—	→榮天	13-12-1~2の包紙
13-12-1	[悉曇灌頂印信]	豎紙	1 通	寛政2.3.12	悉曇阿闍梨高懂→榮天	於豊山鳳梧院、両部印可授与
13-12-2	[曼荼羅図下書]	絵図	2 枚	—	—	—
13-13-0	伝法許可灌頂印信	包紙	1 枚	—	→法印有章	13-13-1~2の包紙
13-13-1	伝法許可灌頂印信	豎紙	1 通	文政3.6.1	伝燈大阿闍梨権僧正唯阿→有章法印	—
13-13-2	[印可状]	豎紙	1 通	文政3.6.1	伝燈大阿闍梨権僧正唯阿→有章法印	於和州長谷寺好山道場
13-14-0	阿闍梨位	包紙	1 枚	—	—	13-14-1~2の包紙
13-14-1	阿闍梨位	一紙	1 通	宝暦9.7	伝燈大阿闍梨法印権大僧都堯憲→[榮]深大法師	—
13-14-2	次結定印	一紙	1 通	—	—	—
13-15	[補任奉書]	豎紙	1 通	寛政12.9.2	(花押)奉→童安御房	権大僧都御免許、惣法務宮御氣色、大高檀紙

13-16	伝法灌頂許可 西方	包紙	1 枚	—	→章榮法印	開不能
13-17	□鳥許可	一紙2枚継	通	万延1.7.20	—	大日～章榮の血脈有
13-18	[許可奉書]	豎紙	1 通	文化10.6.11	小池坊権僧正唯阿(花押)→瑞雲房	11年の留学後、談林において後進指導の事
13-19	[補任奉書]	豎紙	1 通	文政10.3.21	(花押)→伊予国温泉郡石手村蓮如御房	権律師御免許、嵯峨御所御気色、大高檀紙
13-20	[補任奉書]	豎紙	1 通	天保2.6.25	(花押)→伊予国温泉郡石手村蓮如御房	権少僧都御免許、嵯峨御所御気色、大高檀紙
13-21	御流神道許可	豎紙	1 通	天保14.9.28	伝燈神祇大阿闍梨法印榮祥→快洲	於長谷寺月輪院道場
13-22	伝法許可灌頂印信	豎紙	1 通	正徳3.3.29	大阿闍梨法務前大僧正法印大和尚位寛順→法印権大僧都瑞元	於醍醐山報恩院
13-23-0	伝法灌頂印信紹書	包紙	1 枚	—	→有章	13-23-1～2の包紙
13-23-1	[印可状]	一紙	1 通	文政3.6.1	伝燈大阿闍梨権僧正唯阿→有章	於和州長谷寺好山道場
13-23-2	伝法灌頂阿闍梨位事	一紙	1 通	文政3.6.1	大阿闍梨権僧正唯阿→有章	—
13-24	血脈	豎紙	1 通	—	—	大日如来～榮深大法師
13-25	御流神道附法印信	一紙	1 通	天保14.9.28	伝燈大阿闍梨法印榮祥→快洲	於長谷寺月輪院道場
13-26	御流神道灌頂附法状	豎紙	1 通	弘化3.3.27	神祇大阿闍梨榮祥→完洲	於大和国豊山ノ長谷寺月輪道場
13-27-0	伝法灌頂印信	包紙	1 枚	—	→法印榮深	13-27-1～2の包紙
13-27-1	伝法灌頂阿闍梨職位事	豎紙	1 通	宝暦9.3.28	伝燈大阿闍梨権大僧都法印寛英→榮深法師	—
13-27-2	[印可状]	豎紙	1 通	宝暦9.3.28	伝燈大阿闍梨権大僧都法印寛英→法師榮深	於土州長岡郡五台山竹林寺
13-28-0	伝法許可灌頂印信	包紙	1 枚	—	→僧都榮清	13-28-1～2の包紙
13-28-1	伝法許可灌頂印信	豎紙	1 通	享和3.2.6	大阿闍梨法印浄寶(花押)	—
13-28-2	[印可状]	豎紙	1 通	享和3.2.6	大阿闍梨法印浄寶(花押)→僧都榮清	於熊野山石手寺道場
13-29-0	伝法灌頂印信	包紙	1 枚	—	→章榮	—
13-29-1	伝法灌頂阿闍梨位事	豎紙	1 通	文政8.3.22	大阿闍梨法印隆映	—
13-29-2	[血脈]	豎紙	1 通	—	—	大日如来～隆映
13-29-3	[印可状]	豎紙	1 通	文政8.3.22	大阿闍梨法印隆映→大法師章榮	—
13-30-0	伝法灌頂許可印信	包紙	1 枚	—	→榮巖	—
13-30-1	伝法灌頂阿闍梨職位事	一紙	1 通	天保9.2.24	伝燈大阿闍梨権僧正法印大和尚位榮明→榮巖	—
13-30-2	[印可状]	一紙	1 通	天保9.2.24	伝燈大阿闍梨権僧正法印大和尚位榮明→榮巖	於長谷寺小池坊灌頂道場
13-31	[許可奉書]	豎紙	1 通	寛政5.1.5	小池坊権僧正法住(花押)→能持房	16年の留学後、談林において後進指導の事
13-32-0	伝法灌頂許可印信	包紙	1 枚	—	→榮寶	—

13-32-1	[印可状]	豎紙	1 通	寛政10.2.21	伝燈大阿闍梨権僧正大和尚位儀貞	於長谷寺小池坊灌頂道場
13-32-2	伝法灌頂阿闍梨職位事	豎紙	1 通	寛政10.2.21	伝燈大阿闍梨法印大和尚位儀貞	—
13-33	伝法灌頂印信	一紙	1 通	—	—	包紙有、開不能
13-34	傳法院相承血脈	一紙	1 通	—	—	大日如来～法印瑞澄、裏面「心蓮院」等書上
13-35	合行	一紙	1 通	—	→瑞春	開不能
13-36	血脈	一紙	1 通	—	—	大日如来～栄昌法印
13-37-0	三輪流(※)符法印可并血脈	包紙	1 枚	—	→快洲	13-37-1～2の包紙、※しめすへんに首
13-37-1	神道符法印可	豎紙	1 通	天保11.9.10	神祇大阿闍梨苾芻真祖(朱角印)→快洲	—
13-37-2	[血脈]	豎紙	1 通	—	—	開不能
13-38-0	許可	包紙	1 枚	—	—	—
13-38-1	伝法許可灌頂印信	豎紙	1 通	享保13.2.22	伝燈大阿闍梨法印大和尚位亮瑞→瑞章僧都	—
13-38-2	[印可状]	豎紙	1 通	享保13.2.22	伝燈大阿闍梨法印大和尚位亮瑞→瑞章僧都	於江州坂田郡総持寺道場
13-39	愛染明王大事	一紙	1 通	宝暦3.6.18	阿闍梨法印有慶	—
13-40	[印可状]	一紙	1 通	正徳5.10.29	伝燈大阿闍梨法印瑞元(花押)→伝燈大法師快瑞	於予州石手寺道場
13-41	大阿闍梨証文	一紙	1 通	文化7.4.19	金蓮寺現住瑞憲→金剛仏子榮清	13-42とこより一括
13-42-0	伝法灌頂印信	包紙	1 枚	—	—	「榮天重受印信」
13-42-1	伝法灌頂阿闍梨位事	一紙	1 通	宝暦9.6.4	伝燈大阿闍梨法印権大僧都堯憲	於土州常通寺道場
13-42-2	[印可状]	一紙	1 通	宝暦9.6.4	伝燈大阿闍梨法印権大僧都堯憲→大法師榮深	於土州常通寺道場
13-43	伝法灌頂印信	包紙	1 枚	—	→圓章	包紙のみ
13-44	血脈 義口口三意一	包紙	1 枚	—	—	包紙のみ
13-45	静心伝	豎紙	1 通	明和3.5.19	伝神苾芻法傘智蓋→剛寶法印	於東大寺真言院神御殿、神道授与
13-46	[薬師寺付法状写]	一紙	1 通	正徳5.10.29	熊野山石手寺第20世法印瑞元(花押)	—
13-47	[補任奉書]	豎紙	1 通	寛政8.5.7	(花押)奉→章安御房	権少僧都御免、惣法務宮御気色、大高檀紙
13-48	[補任奉書]	豎紙	1 通	文化1.11.25	(花押)→章安御房	法印御免、惣法務宮御気色、大高檀紙
13-49	[補任奉書]	豎紙	1 通	文化9.5.7	(花押)奉→瑞益御房	権少僧都御免、惣法務宮御気色、大高檀紙
13-50-0	[御]流神道附法印信	包紙	1 枚	—	→僧都蓮如	13-50-1～2の包紙
13-50-1	御流神道灌頂一流相伝許可	一紙	1 通	文化4.8.23	伝神大阿闍梨法印浄寶→僧都蓮如	於熊野山神御殿
13-50-2	始終伝	一紙3枚継	1 通	—	—	継目外れ、破れ有
13-51	伝法許可秘印	一紙	1 通	天明1.8.17	伝燈大阿闍梨法印尊榮(花押)	—
13-52-0	伝法灌頂印信紹書	包紙	1 枚	—	→榮巖	13-52-1～3の包紙

13-52-1	[印可状]	一紙	1 通	弘化3.4.2	伝燈大阿闍梨法印榮祥→法印榮巖	於長谷寺道場
13-52-2	伝法灌頂阿闍梨職位事	一紙	1 通	弘化3.4.2	伝燈大阿闍梨法印榮祥→榮巖	—
13-52-3	[血脈]	一紙	1 通	—	—	大日如来～榮巖
13-53	[補任奉書]	豎紙	1 通	宝暦5.11.7	(花押)→予州松山石手寺瑞澄御房	寶輪院院室兼帯、大覚寺御門跡御気色、大高檀紙
13-54	[補任奉書]	豎紙	1 通	文政12.4.22	(花押)→予州松山石手寺章安御房	寶輪院院室兼帯、嵯峨御所御気色、大高檀紙
13-55	[補任奉書]	豎紙	1 通	天保6.10.24	(花押)→伊予国温泉郡石手村石手寺蓮如御房	権大僧都御免許、嵯峨御所御気色
13-56	[補任奉書]	豎紙	1 通	享保1.12.5	(花押)→瑞元房	法印御免、御室宮御気色、大高檀紙
13-57	[補任奉書]	豎紙	1 通	弘化2.9.4	(花押)→石手寺有章御房	寶輪院院室兼帯、嵯峨御所御気色、大高檀紙
13-58	惣許可 三寶院	一紙	1 通	—	—	13-58～67こより一括
13-59-1	極秘 智位房	一紙	1 通	—	—	枝番の意味なし
13-59-2	伝法院流 即身義大事	包紙	1 枚	—	—	「高野中院明算流」、開不能
13-60	伝流三部経大事 二通	一紙	1 通	—	—	開不能
13-61-0	求聞持秘印中観上人相伝	包紙	1 枚	—	—	(朱書)「伝流」
13-61-1	求聞持大事	一紙	1 通	—	—	開不能
13-61-2	求聞持	一紙	1 通	—	—	—
13-62-0	伝三大唯授一人伝流	包紙	1 枚	—	—	13-62-1～3の包紙
13-62-1	伝法三重大事記	一紙	1 通	—	覚果	—
13-62-2	唯授一人大事記	一紙	1 通	—	—	開不能
13-62-3	大位三重	一紙	1 通	—	—	開不能
13-63-0	六大灌頂大事	包紙	1 枚	—	—	13-63-1～2の包紙
13-63-1	灌頂印信	一紙	1 通	寛政10.9.21	阿闍梨法印慈光→法印浄寶	於仁和寺南勝院道場
13-63-2	傳法院流相承	一紙	1 通	—	—	弘法大師～章光
13-64	伝流 釋論舍利大事	一紙	1 通	寛文4.6.17	法務前大僧正信遍在判→大僧都静守改孝源	「釋論大事 付舍利」
13-65-0	持戒清浄大事	包紙	1 枚	—	—	裏面に「持戒清浄秘印大事文言」、「天和1.12.5、介宏盛(写)」
13-65-1	[持戒清浄印信・血脈(写)]	豎紙	1 通	天文1.12.5	沙門宏盛判→弁智了	於桐尾観智院、裏面に孝源大僧正～法師章光の血脈有、天和1写
13-66-0	伝流 梯袋	包紙	1 枚	—	—	—
13-66-1	白毫	一紙	1 通	—	—	—
13-66-2	持明院梯袋秘法	一紙	1 通	—	—	—
13-66-3	持明院梯袋口決	一紙	1 通	—	—	開不能
13-67	口願方印信一紙血脈一紙	一紙	1 通	—	→章光	包紙有、開不能
13-68	伝法許可灌頂印信	豎紙	2 通	—	→榮深	包紙有、開不能
13-69	伝法灌頂阿闍梨職位事	豎紙	1 通	文化10.10.15	阿闍梨法印弘基→仏子瑞宣	作成者「弘基」は異筆、大日～第47代の血脈有
13-70	[補任奉書]	豎紙	1 通	文化10.8.4	(花押)→豫洲松山石手寺栄山御房	寶林院之室兼帯の事、大覚寺御門跡御気色

13-71	伝法	豎紙	2 通	文化3.3.9	伝燈大阿闍梨法印淨寶(花押)→伝燈大法師寂岸	包紙有
13-72	[補任奉書]	豎紙	1 通	文化13.5.7	(花押)奉→有章御房	権少僧都御免、惣法務宮御気色
13-73	御流神道灌頂一流相伝許可	豎紙	1 通	文化5.4.23	傳神大阿闍梨院家法印淨雲→僧都實瑞	於熊野山神御殿授与
13-74-0	伝法	包紙	1 枚	—	—	—
13-74-1	[印可状]	豎紙	1 通	享保13.2.22	伝燈大阿闍梨法印大和尚位亮瑞→瑞章僧都	破損大、於江州坂田郡総持寺道場
13-74-2	伝法灌頂阿闍梨職位事	豎紙	1 通	—	—	開不能
13-75	切文	一紙	1 通	—	—	開不能
13-76	[補任奉書]	豎紙	1 通	宝永4.9.16	(花押)奉→瑞元房	権少僧都御免、仁和寺宮御気色
13-77	[許可奉書]	豎紙	1 通	慶応2.1.20	(花押)奉→小池坊役者 大空章輪御房	色衣御免許、嵯峨御所御気色
13-78	[許可奉書]	豎紙	1 通	—	—	香色・浅青二色着用の事、大高檀紙
13-79	[補任奉書]	豎紙	1 通	寛文2.9.5	(花押)奉→龍海御房	権少僧都御免、惣法務宮御気色
13-80	[補任奉書]	豎紙	1 通	天保10.2.23	当直野路井刑部卿(花押)林石見守(花押)→蓮恕	伊予国温泉郡石手村石手寺住持職補任、朱印有
13-81	[補任奉書]	豎紙	1 通	元禄17.2.3	(花押)奉→瑞元房	権律師御免の事、惣法務宮御気色
13-82	[補任奉書]	豎紙	1 通	文化1.11.29	(花押)→法印奥章御房	包紙有、権大僧都御免許、大覚寺御門跡御気色
13-83	[補任奉書]	豎紙	1 通	寛政4.5.4	(花押)→予州松山石手寺薫章御房	寶輪院院室兼帯許可、大覚寺御門跡御気色
13-84	両部伝法血脈	豎紙	1 通	—	—	包紙有、大日台界金界→瑞澄法印、(端裏)「常喜院流大事伝流」
13-85	(梵字)(梵字)五種等至	豎紙	5 通	寛政2.3.12	悉曇阿闍梨法印高幢→榮天	包紙有、第一～第五等至
13-86	[許可奉書]	豎紙	1 通	文政10.5.2	(花押)奉→蓮恕御房	色衣御免、総法務宮御気色
13-87	[許可奉書]	豎紙	1 通	文政10.3	小池坊権僧正令法(花押)→瑞雲房	大高檀紙、16年の留学後、常法談所に於いて提誨の事等
13-88	[補任奉書]	豎紙	1 通	宝永7.3.9	(花押)奉→瑞元房	権大僧都御免、惣法務宮御気色
13-89-0	西院印可印信	包紙	1 枚	—	→法印章榮	—
13-89-1	[印可状]	豎紙	1 通	嘉永7.閏7.11	大阿闍梨権僧正永雅→法印章榮	於大和国長谷寺講堂
13-89-2	廣澤西院流相承血脈	豎紙	1 通	—	—	大日如来～章榮法印
13-90	[伝法灌頂血脈]	一紙2枚継	1 通	—	—	大日如来～剛宝
13-91	第二重 授与秘密灌頂	豎紙	1 通	天明1.8.17	伝燈大阿闍梨法印尊榮(花押)→先瑞阿闍梨	—
13-92	院主御伝受記	豎紙	1 通	—	—	標題は端裏書に拠る、(朱書)「傳流」、(本奥書)貞治5.4.21、於菩提院堂、末資守—融、年廿七、(奥書)文安5.11.9、自宝院法印慶—
13-93	御流神道灌頂一流相伝許可	一紙	1 通	文化5.4.23	伝神大阿闍梨院家法印淨宝→僧都榮秀	於熊野山神御殿、包紙有、(包紙)「御流神道附法印信」
13-94	許可密印	豎紙	1 通	文政9.2	大阿闍梨憲譽(花押)→仏子有章	於豊山慈眼院、包紙有、(包紙)「伝法灌頂許可 西大寺流 有章」
13-95-0	血脈 義能三意 快—	包紙	1 枚	—	—	—
13-95-1	伝法灌頂阿闍梨位事	豎紙	1 通	正徳5.10.29	伝燈大阿闍梨法印瑞元(花押)	—

13-95-2	[血脈]	豎紙	1 通	—	—	大日如來～芳雲同寺
13-96	瑜祇序分	一紙	1 通	享保20.1.5	伝燈大阿闍梨法印宥了→瑞春	(包紙)「梵字」
13-97	[齊元神道源底 一]	一紙	1 通	—	—	理装束趣座着座の事
13-98	五月十一日曼荼羅供職衆請狀	豎紙	1 通	明治<13>16.5<3>.8	法印完光<会奉行権訓導隆專>	—
13-99	[補任奉書]	豎紙	1 通	宝永1.11.25	(花押)→法印瑞元御房	権大僧都御免、大覚寺宮御気色、大高檀紙
13-100-0	忍辱山流大事	包紙	1 枚	—	—	破損大
13-100-1	[印可状]	一紙	1 通	天保12.3.2	大阿闍梨法印権大僧都快助→法印快州	於東大寺真言院、両部印可授与
13-100-2	忍辱山流血脈	一紙	1 通	—	—	大日如來～法印快洲
13-101	御流神道灌頂一流相傳許可	豎紙	1 通	文化5.4.23	伝神大阿闍梨院家法印浄宝→僧都龍榮	包紙有、於熊野山神御殿、(包紙)「御流神道附法印信」
13-102	惣許可印信	豎紙	1 通	寛政1.11.28	大阿闍梨法印薫章(花押)→實純阿闍梨	—
13-103-0	伝法灌頂印信	包紙	1 枚	—	→章光	—
13-103-1	伝法灌頂阿闍梨職位事	豎紙	1 通	—	大阿闍梨法印剛雄	—
13-103-2	[印可状]	豎紙	1 通	寛政6.11.13	大阿闍梨法印剛雄→大法師章光	於惠日山光徳院道場
13-104	持明院梯袋秘法	一紙	1 通	—	—	包紙有、裏面に文有、開不能
13-105	伝法許可秘印	豎紙	1 通	寛政1.11.28	伝燈大阿闍梨法印薫章(花押)	—
13-106	[印可状]	豎紙	1 通	文化5.3.16	伝燈大阿闍梨法印浄寶→大阿闍梨有章	於熊野山石手寺道場、両部灌頂授与
13-107	伝法灌頂阿闍梨職位事	豎紙	1 通	天保13.4.10	伝燈大阿闍梨法印宥恕(花押)→仏子玉瑩	大日如來～48代の血脈
13-108	[齊元神道源底 二]	豎紙	1 通	明和3.5.19	傳神主 新禪院苾芻智蓋→剛宝法印	於東大寺真言院神御殿
13-109	惣許可印信	豎紙	1 通	文化3.9.6	大阿闍梨法印浄宝(花押)→寂岸	包紙有、年代、作成者は貼紙に拠る、(包紙)「惣許可 三寶院」
13-110	附法状	豎紙	1 通	天明1.8.17	石手寺第24世傳燈大阿闍梨法印尊榮(花押)→[温泉郡味酒村仲々坊歆喜村示教坊先瑞]	包紙有、法流記有
13-111	御流神道一流相傳許可	一紙	1 通	文化4.8.23	伝神大阿闍梨法印浄寶→僧都仰覺	於熊野山神御殿、包紙有、(包紙)「[]神道附法印信」
13-112	伝法印信	一紙	1 通	—	瑞澄法印	包紙有、開不能
13-113	大阿闍梨位印	豎紙	1 通	寛延1.7.21	大阿闍梨権大僧都法印隆榮→瑞澄	包紙有、(包紙)「阿闍梨位」
13-114	御流神道附法[印信]	豎紙	1 通	—	→口章	包紙有、開不能
13-115	大日本紀神祇[]	一紙	1 通	—	—	包紙有、開不能
13-116	妙成就	豎紙	1 通	文化9.6.16	伝燈大阿闍梨法印秀清→榮昌法印	包紙有
13-117-0	八千枚大事	包紙	1 枚	—	先瑞	—
13-117-1	八千枚秘觀	一紙	1 通	—	—	—

13-117-2	八千枚大事	一紙	1 通	天明2.7.26	大阿闍梨権少僧都照應→先瑞法印	—
13-118	惣許可印信	一紙	1 通	寛永9.9.21	大阿闍梨法印大和尚位快深→鏡舜阿闍梨	包紙有
13-119	三部經大事	豎紙	1 通	宝曆9.7.25	伝燈大阿闍梨法印権大僧都堯憲→榮深大法師	包紙有
13-120-1	小野七重灌頂	豎紙	1 通	—	前大僧正禪助→印玄	標題は端裏書に拠る
13-120-2	真言宗灌頂血脈相承	豎紙	1 通	—	→金剛仏子印玄	大日如来～印玄律師
13-121	秘密伝法灌頂秘印	豎紙	1 通	万延1.6.1	阿闍梨権僧正通濟→章榮	大師～兼海の血脈有、包紙有、(包紙)「中院入于伝流」
13-122	伝法灌頂阿闍梨職位事	豎紙	1 通	文化8.8.5	大阿闍梨法印隆映(花押)→大法師瑞宣	—
13-123	[許可奉書]	豎紙	1 通	天保9.5	小池坊権僧正榮明(花押)→智端房	大高檀紙、30年の留学後、談林において法幢を建て、学徒へ提唱の事等
13-124	阿弥陀湏 不動湏	豎紙	1 通	宝曆9.7.25	伝燈大阿闍梨法印権大僧都堯憲→榮深大法師	包紙有
13-125	請状	一紙	1 通	明治13.5.8	会奉行権訓導隆専	5月10日大般若職衆書上
13-126	大阿闍梨証文	豎紙	1 通	正徳6.3.8	浄明院現住法印龍敵(花押)→金剛仏子英禪	於浄明院仏閣
13-127	血脈	豎紙	1 通	—	瑞春	—
13-128	[奉書]	豎紙	1 通	明和4.3.28	前大僧正判→真言諸寺院中	東寺西院及諸伽藍修造之事
13-129-0	伝法許可灌頂印信	包紙	1 枚	—	瑞春	—
13-129-1	伝法許可灌頂印信	豎紙	1 通	享保20.1.5	伝燈大阿闍梨法印宥了→瑞春	—
13-129-2	[印可状]	豎紙	1 通	享保20.1.5	伝燈大阿闍梨法印宥了→瑞春	於大和国山辺郡針邑観音寺道場
13-130	附法記	豎紙	1 通	文化3.秋	伝燈大阿闍梨熊嶽29世院室浄寶(花押)	温泉郡味酒郷仲之坊歎喜寺現住寂岸附法相続、包紙有
13-131	附法状	一紙	1 通	永禄1.4.16	無量寿院法院頼雄判→瑞春	先年、江州神照寺無量寿院へ下向の砌、授与の後、報恩院道場において授与の際の添目録
13-132	伝法灌頂阿闍梨職位事	豎紙	1 通	文化5.3.16	大阿闍梨法印浄寶→	—
13-133-0	許可	包紙	1 枚	—	—	133-1、2の包紙
13-133-1	伝法許可灌頂印信	豎紙	1 通	安永4.3.29	伝燈大阿闍梨僧正法印大和尚位有慶→大法師先瑞	—
13-133-2	[印可状]	豎紙	1 通	安永4.3.29	伝燈大阿闍梨僧正法印大和尚位有慶→大法師先瑞	於和州小池坊道場、両部印可授与
13-134-0	印信義三意—	包紙	1 枚	—	—	—
13-134-1	伝法灌頂阿闍梨職位事	一紙	1 通	享保21.3.23	伝燈阿闍梨院家法印瑞章(花押)→大法師瑞川	—
13-134-2	[印可状]	一紙	1 通	享保21.3.23	伝燈阿闍梨院家法印瑞章→大法師瑞川	於豫陽石手寺道場
13-135	阿闍梨位	豎紙	2 通	文化9.6.16	伝燈大阿闍梨法印秀清→榮昌法印	包紙有
13-136-0	伝流 五重	包紙	1 枚	—	—	内側に貼紙有、136-1～6の包紙
13-136-1	五	一紙	1 通	—	—	初重～五重の印及び梵字

13-136-2	血脈 五	一紙	1 通	—	—	大日如来～瑞澄法印
13-136-3	文妙上人記	一紙	1 通	寛永1.8.12	—	(本奥書)延慶3.5.21、於高雄淨蓮房五重大事伝受了、(書写奥書)寛永1.8.12、印玄上人御自筆写、(血脈)真空～印玄
13-136-4	五重 当水 廣	一紙	1 通	寛永1.8.12	顯證	摩尼珠院持来写置之(本奥書)正慶2.5.2、於法勝院、伝法院本願御流号当流
13-136-5	院生御伝授記	一紙	1 通	—	—	(本奥書)貞治5.4.21、於菩提院堂奉受、伝法院流五重大事、於僧正御房、(書写奥書)文安5.11.9、自宝光院法印慶—依平臥以無作法文使受之、法印仲盛年63
13-136-6	伝法院流五重大事受法記	一紙	1 通	—	法印権大僧都覺果33	(本奥書)応永20.8.22、伝法院方第五大事奉伝授、前大僧正御房守一、(奥書)「栄果僧正御自筆記写シノ被記者折紙也、顯證也」
13-137	多門天王灌頂	一紙	1 通	寛文5.8.1	阿闍梨信遍→大僧都静守改孝源	(端裏)「多門天王大事」(包紙)「伝流多門天王大事」
13-138-0	伝流柿袋	包紙	1 枚	—	—	—
13-138-1	持明院柿袋秘法	豎紙	1 通	—	—	観圓、定恵、光遍、性遍の血脈有
13-138-2	[柿子本秘法]	豎紙	1 通	—	—	「白毫寺勝圓上人持来之間書留」(端裏)「(梵字)白毫」
13-138-3	持明院柿袋口決	豎紙	1 通	—	—	「本云正是高野山上人持明院正流二依也」
13-139-0	悉曇印信并秘々中秘密三包	包紙	1 枚	[]3.29	章光(梵字)	(裏書)「目録」
13-139-1	(梵字)五種等至	豎紙	5 通	文化1.3.29	悉曇阿闍梨法印浄寶→章光	第一～第五等至、包紙有
13-139-2	(梵字)極秘	一紙	2 通	文化1.3.29	悉曇阿闍梨法印浄寶→章光	極秘七種仮名、極秘大五韻各一通有、包紙有
13-139-3	悉曇灌頂印信	豎紙	2 通	文化1.3.29	悉曇阿闍梨法印浄寶→章光	大日如来～章光、金剛界許可印信有、於熊野山石手寺授兩部印可、包紙有
13-140	[許可奉書]	豎紙	1 通	寛文12.1.5	小池坊僧正頼意(花押)→昇仙房	16年住山に付、下国以後、常法談所執行の事
13-141	[奉書]	豎紙	1 通	明和4.3.28	前大僧正判奉→真言諸寺院中	東寺西院及び諸伽藍修造の事、128と関連
13-142	雙圓性海口伝	豎紙	1 通	宝曆9.7.25	伝燈大阿闍梨法印権大僧都堯憲→榮深大法師	—
13-143-0	幸心方	包紙	1 枚	—	—	「ユキ大事、阿闍梨位大事、報恩院血脈」
13-143-1	阿闍梨位	一紙	1 通	安永9.4.20	阿闍梨尊榮→薰章法師	—
13-143-2	阿闍梨位	一紙	1 通	安永9.4.20	—	—
13-143-3	[覚]	一紙	1 通	—	—	13-143-1、2の印信について
13-143-4	[血脈]	一紙	1 通	—	—	大日如来～薰章
13-144-0	幸心房	包紙	1 枚	—	—	「ユキ大事、アサ梨位大事、報恩院血脈」
13-144-1	阿闍梨位	一紙	1 通	—	—	—
13-144-2	阿闍梨位	一紙	1 通	安永4	阿闍梨有慶→先瑞了	—
13-144-3	[血脈]	一紙	1 通	—	—	大日如来～先瑞
13-145	[奉書]	一紙	1 通	-.3.14	寶輪院権僧正在判、佛案院僧正在判→真言諸寺院	当所西院等修造の事
13-146	支木	木	2 本	—	—	包紙有、(包紙)「支木 章榮」
13-147	齒木 二支	包紙	1 枚	元禄8.2.21	實名	包紙のみ
13-148-0	三部經大事	包紙	1 枚	—	—	—
13-148-1-1	三部經大事	豎紙	1 通	—	—	(書写奥書)文永7.3.10、権大僧都禪一、(本奥)正嘉1.4.20、参禪定院物語之次被仰之故、智浄房阿闍梨之説ヲ云、包紙有、(帯封)「孝源御本此二通而已」

13-148-1-2	三部經大事	豎紙	1 通	文化15.5.7	法印權僧正通濟	包紙有、(本奥書)文永7.3.20、權大僧都禪—(書写奥書)元祿10.5.15、奉伝授前大僧正孝源、法印唯阿
13-148-2	三部經伝授記 私記云々	一紙	1 通	—	—	包紙有、(奥書)享徳4.3.3、大法師信巖
13-148-3	三部經大事 私記	一紙	1 通	—	暢榮	包紙有
13-148-4	三部經大事 血脈 以齋怡法印伝授記書之	一紙	1 通	—	—	包紙有、經瑜法印～法印通濟
13-149	[宣旨案]	一紙	1 通	明和3.11.14	左中弁伊光→東寺定額僧綱中	西院及諸伽藍修造の事
13-150	三部經大事	豎紙	1 通	享保20.1.7	伝燈大阿闍梨法印宥了→瑞春	包紙有
13-151	求聞持瓶華之大事	一紙	1 通	天明2.7	阿闍梨權少僧都昭應(花押)→洗瑞和尚	於高野山金剛峯寺奥院求聞持所秘密場、一紙同折
13-152	齒木	木	2 本	—	章榮	包紙有
13-153	御流神道附法印信	豎紙	1 通	文化5.4.23	伝神大阿闍梨法印淨寶→僧都俊盈	包紙有於熊野山神御殿
13-154-0	呪願文	包紙	1 枚	—	—	—
13-154-1	誓願文	一紙	1 通	文政9.11	榮隆→南無大聖歡喜雙身大王	—
13-154-2	祈願事	一紙	1 通	—	仏子快洲	歡喜天、八千枚
13-154-3	願文	一紙	1 通	文政11.9	快寿	願文書上の一紙有
13-155	第二重	豎紙	1 通	天明1.8.17	伝灯大阿闍梨法印尊榮(花押)→先瑞阿闍梨	(貼紙)伝灯大阿闍梨法印先瑞(花押)→寂岸阿闍梨、包紙有、(包紙)「第二」
13-156	多聞天王灌頂	一紙	1 通	文化15.5.7	伝授大阿闍梨權僧正唯阿→通濟	万延1.5.19、權僧正通濟→章榮の異筆有
13-157	大位三重	一紙	1 通	—	—	(血脈)大日如来～瑞澄、大位三重相承本口伝記有
13-158	御流神道灌頂一流相伝許可	豎紙	1 通	文化5.4.23	伝神大阿闍梨院家法印淨寶→僧都吽怒	於熊野山神御殿
13-159	御流神道許可	一紙	1 通	—	有章	開不能
13-160	(梵字)(梵字)大事 秘々中深秘	豎紙	1 通	寛政2.3.12	悉曇阿闍梨法印高幢→密應	(端裏)「(梵字)(梵字)第四等至」
13-161	齒木	木	2 本	—	—	包紙有
13-162	[]大日本紀灌頂	豎紙	1 通	安政2.3.27	伝燈神祇大阿闍梨法印完洲→智洲	於豫州石手寺道場
13-163	三輪流神道惣許可印信	豎紙	1 通	天保11.9.10	神祇大阿闍梨苾芻真祖(朱印)→快洲	於和州三輪山大御輪寺、包紙有
13-164	御流神道[]	一紙	1 通	—	—	包紙有、開不能
13-165	唯引智	一紙	1 通	天文3.1.1	伝燈阿闍梨法印實快→瑞澄	包紙有
13-166	伝法灌頂阿闍梨職位事	豎紙	1 通	—	—	開不能
13-167	(梵字)(梵字)極秘	一紙	2 通	寛政2.3.12	悉曇阿闍梨高幢→密應	包紙有、(包紙)「七種仮名一通、大五韻一通」
13-168	第二重	豎紙	1 通	享保20.1.5	伝灯大阿闍梨法印宥了→瑞春僧都	包紙有
13-169	初重在口伝 如常	豎紙	1 通	—	—	—

13-170	齒木	木	2本	—	—	包紙破損
13-171	靈 三寶院	一紙	1通	寬永9.9.21	大阿闍梨法印大和尚位快深→鏡舜	於与州温泉郡長福寺
13-172-0	投華	包紙	1枚	—	—	—
13-172-1	初夜後夜	包紙	1枚	—	—	葉在中
13-173	三身印信	一紙	1通	—	小池坊權僧正唯阿→傳附有章法師	包紙有
13-174	[口決]	一紙	1通	—	—	包紙有、開不能、(包紙)「是八上書無」、(包紙朱書)「靈汀口決也」
13-175	切文	一紙	1通	—	—	開不能
13-176	[印可狀]	豎紙	1通	天保4.8.19	傳燈大阿闍梨法印章安→法師圓章	於豫州石手寺道場授兩部灌頂
13-177	第二重	豎紙	1通	正德5.10.29	伝灯大阿闍梨法印瑞元(花押)→快端阿闍梨	包紙有
13-178	[印可狀]	豎紙	1通	天保13.4.10	伝燈大阿闍梨法印宥恕(花押)→金剛佛子	於無量山萬福寺道場授兩部灌頂
13-179	師弟傳	豎紙	1通	明和3.5.19	傳神主新禪院法傘智蓋芯葛→剛寶法師	包紙有
13-180	持戒清淨大事	一紙	1通	—	—	包紙有、開不能
13-181	[血脈]	折紙	1通	—	—	包紙有、開不能
13-182	[印可狀]	豎紙	1通	寬政1.11.28	傳燈大阿闍梨法印薰章(花押)→傳燈大法師	—
13-183	伝法灌頂阿闍梨位事	豎紙	1通	寬政1.11.28	伝灯大阿闍梨法印薰章(花押)→大法印實純	大日如来～愚身金剛界第56代
13-184	[印可狀]	豎紙	1通	寬政1.11.28	石手寺第廿六世伝燈大阿闍梨法印薰章	風早郡二神嶋安養寺、新末寺格免許
13-185	御流神道一流相傳許可	豎紙	1通	文化4.11.3	傳神大阿闍梨法印淨寶→僧都瑞宣	於熊野山神御殿
13-186	求聞持大事	一紙	1通	—	—	開不能
13-187	傳法	豎紙	1通	—	—	包紙有、開不能
13-188	阿弥陀須・不動須	一紙	1通	享保20.1.8	傳燈大阿遮梨法印宥了→瑞春	包紙有
13-189	第三重	豎紙	1通	宝曆9.7.25	伝灯大阿闍梨法印權大僧都堯憲→榮深大法師	包紙有
13-190	始終傳	豎紙	1通	明和3.5.19	傳神主新禪院法傘智蓋芯葛→剛寶法印	包紙有、(包紙)「元始無終神道有始有終神命人命傳」、於東大寺真言院神御殿
13-191	[血脈]	一紙	1通	—	—	開不能
13-192	第二重	一紙	1通	—	—	包紙有、開不能
13-193	[目錄]	豎紙	1通	[明治13].5	—	御門主近衛高鳳尊尼所藏品、石手寺へ寄贈、小破
13-194	請狀	豎紙	1通	明治13.5.8	會奉行 權訓導隆專→曼荼羅供職衆	虫損大
13-195	求聞持遣大事	豎紙	1通	天明2.7.13	伝授阿闍梨招應	小破
13-196	傳法灌頂阿闍梨位事	豎紙	1通	天保4.8.19	傳燈大阿闍梨法印章安→佛子圓章	—
13-197-0	許可 義七七三意一	包紙	1枚	—	—	—

13-197-1	授与印信許可文	豎紙	1 通	天明1.8.17	傳燈大阿闍梨法印尊榮(花押)	文化3.9.6、浄雲(花押)→寂岸の貼紙有
13-197-2	傳法許可秘印	豎紙	1 通	天明1.8.17	傳燈大阿闍梨法印尊榮(花押)	文化3.9.6、浄雲(花押)の貼紙有
13-198	阿字不断秘觀(梵字)上人流	豎紙	1 通	文化15.5.7	阿闍梨権僧正唯阿	(異筆)万延1.5.28、権僧正通濟→章榮
13-199	伝法許可灌頂印信	豎紙	1 通	文化7.6.3	大阿闍梨法印隆映(花押)	小破
13-200	大阿闍梨位印	一紙	1 通	—	—	—
13-201	西院大事	一紙	1 通	文化11.10.27	伝燈大阿闍梨法印祐淳→法印純應	於湯嶋圓滿寺灌頂道場、胎藏界、金剛界印明
13-202	口上之覚	一紙	1 通	—、午11	石手寺(印)	録所の事
13-203	第二重	一紙	1 通	寛政1.11.28	伝燈大阿闍梨法印 薫章(印)→實純阿闍梨	一印二明大事授与
13-204	[印可状]	一紙	1 通	—	—	開不能
13-205	唯授一人大事記	豎紙	1 通	明曆3.4.26	(種字)顯證六十一	—
13-206	[書状]	豎紙	1 通	—	—	開不能
13-207	大日本紀灌頂初重印信	一紙	1 通	安政2.3.27	伝燈神祇大阿闍梨法印完洲→智洲	於豫洲石手寺道場
13-208	[印可状]	一紙	1 通	—	—	開不能
13-209-1	傳法許[]	豎紙	1 通	享和3	傳授大阿闍[]	後欠
13-209-2	[免許状]	豎紙	1 通	—	[]大阿闍梨法印 尊榮(花押)	新末寺格の免許、枝番意味無し、前欠
13-210	伝法許[]	豎紙	1 通	—	—	開不能
13-211	後夜	葉	4 枚	—	—	包紙有、包紙に葉四枚入
13-212	第三重	一紙	1 通	享保20.1.5	伝燈大阿闍梨法印 宥了→瑞春僧都	包紙有
13-213	[奉書]	一紙	1 通	明和4.3.28	僧正(花押)奉→真言宗諸寺院中	東寺西院及諸伽藍修造事、「勸修寺宮気色」
13-214	[血脈]	一紙	1 通	—	—	開不能
13-215	[印信]	豎紙	1 通	—	→章榮	包紙有、開不能、上部欠
13-216	妙	包紙	1 枚	—	—	開不能
13-217	初夜投花	葉	5 枚	—	—	包紙有
13-218	伝流 三部経大[事]	包紙	1 枚	—	—	開不能
13-219-1	血脈	一紙	2 通	慶長19.2.19	傳授大阿闍梨権大僧都法印 快深	大日如来～鏡舜、付、鏡舜～本龍四十八年の血脈、枝番意味無し
13-219-2	[印信]	一紙	1 通	—	—	開不能、枝番意味無し
13-220	[印信]	豎紙	1 通	—	—	開不能
13-221	(梵字)(梵字)第一等至	豎紙	1 通	—	—	包紙有、開不能
13-222	[奉書]	一紙	1 通	明和4.3.28	前大僧正 判→真言諸寺院中	東寺西院及諸伽藍修造事、「大覚寺御門跡御気色」、虫損大
13-223	西院口口伽藍修造之事	豎紙	1 通	明和3.11.14	左中辨判→東寺諸門徒中	—
13-224	[印可状]	豎紙	1 通	—	—	開不能
13-225	[印信]	一紙	1 通	—	—	開不能
13-226	本願方	包紙	1 枚	—	—	開不能

13-227	[印信]	豎紙	1 通	—	—	開不能
13-228	[]道有始有終神命人命伝	豎紙	1 通	—	—	包紙有、貼紙有、大破
13-229	[印可状]	豎紙	1 通	—	—	開不能
13-230	御流神道灌頂一流相伝許可	一紙	1 通	文化5.4.23	伝神阿闍梨法印 浄宝→僧都 宥實	於熊野山神御殿、包紙有、(包紙)「御流神道附法印信」
13-231	十六大菩薩惣灌頂密印	一紙	1 通	—	→智位房	包紙有、(包紙)「極秘」、開不能
13-232	[印信]	一紙	1 通	—	—	包紙有、開不能
13-233	保寿院流	豎紙	2 通	—	阿闍梨快洲	包紙有、開不能
13-234	西院口大事	包紙	1 枚	—	→法印快洲	開不能
13-235	[印信]	豎紙	1 通	—	—	開不能
13-236	[印信]	豎紙	1 通	—	→章榮法印	包紙有、開不能
13-237	[断簡]	断簡	1 通	—	—	—
13-238	[印信]	豎紙	1 通	—	—	開不能
13-239	金剛線	包紙	1 枚	元禄8.2.21	實名	—
13-240	西院流大事	一紙	1 通	—	—	開不能
13-241	双円性海口伝	豎紙	1 通	—	伝燈大阿闍梨法印 秀清→榮昌法印	包紙有
13-242	[補任奉書]	豎紙	1 通	天保10.2.23	(花押)→伊豫国温泉郡石手村石手寺蓮恕御房	寶輪院宝兼帯の事、嵯峨御所御気色、大高檀紙
13-243	[奉書]	一紙	1 通	明和4.3.28	前大僧正判奉→真言諸寺院中	東寺西院及諸伽藍修造之事、総法務宮御気色
13-244	[補任奉書]	豎紙	1 通	寛政4.1.2	(花押)奉→章安御房	大高檀紙、権律師御免之事、惣法務宮御気色
13-245	補任奉書	豎紙	1 通	文政3.9.2	(花押)奉→有童御房	権大僧都御免之事、総務宮御気色
13-246	[奉書]	豎紙	1 通	弘化4.5	小池坊権僧正深賢(花押)→隆確御房	大高檀紙、32年の留学後、談林において学徒へ説法の事
13-247	[印可状]	豎紙	1 通	文化5.3.16	伝燈大阿闍梨法印浄寶→大法師瑞宣	於熊野山石手寺道場
13-248	御流神道灌頂一流相傳許可	豎紙	1 通	文化5.余.23	伝燈大阿闍梨法印浄宝→僧都秀精	於熊野山神御殿、包紙有、(包紙)「御流神道附法印信」
13-249	総許可 印信	一紙	1 通	—	→瑞春	包紙有、開不能
13-250-0	伝法許可灌頂印信	包紙	1 枚	—	→法印有[章]	13-250-1~13-250-2の包紙、虫損有
13-250-1	伝法許可灌頂印信	豎紙	1 通	文政3.6.1	伝燈大阿闍梨権僧正 唯阿→法印有章	包紙有、虫損有
13-250-2	[印可状]	一紙	1 通	文政3.6.1	→法印有章	於長谷寺好山道場、包紙有、虫損有
13-251-0	傳法灌頂血脈	包紙	1 枚	—	西方章榮法師	—
13-251-1	尼衆血脈	豎紙	1 通	—	—	大日如来~章榮、於豊山法起院
13-251-2	[血脈]	豎紙	1 通	—	—	大日如来~章榮
13-252	大位三重	一紙	1 通	—	—	包紙有、開不能
13-253	血脈二通	一紙	2 通	元文1.秋	豊山学生如々子	—
13-254	御流神道灌頂一流相傳許可	豎紙	1 通	文化4.11.23	伝神大阿闍梨法印 浄宝→僧都隆映	於熊野山神御殿、包紙有、(包紙)「御流神道附法印信」
13-255	[印可状]	一紙	1 通	文化13.9.2	伝燈大阿闍梨 瑞傳→大法師章恕	於飯岡山浄明院

13-256	(梵字)(梵字)第三等至	一紙	1 通	寛政2.3.12	悉曇阿闍梨法印 高幢→密應	「四、本三昧耶引言」、「五、縛日縛引言」結誦の事
13-257	[印可状]	豎紙	1 通	享保12.7.29	大阿闍梨僧正法印大和尚尚彦→法印澄海	於長谷寺傳法院道場
13-258	御流神道灌頂一流相傳許可	豎紙	1 通	文化5.4.23	傳神大阿闍梨院家法印淨寶→僧都鑲明	於熊野山神御殿、包紙有、(包紙)「御流神道附法印信」
13-259	傳法灌頂阿闍梨職位事	豎紙	1 通	嘉永5.3.28	傳燈大阿闍梨法印大和尚位 完洲→法師仙秀	—
13-260-0	番心五	包紙	1 枚	—	—	(内側)「異本上書 信證御流 伝大事五重 伝印信番心、血脈、番心五、番心、五重大事口決」、「番心五重 大事口決一、伝印信番
13-260-1	番心五重大事口決	一紙2枚繼	1 通	—	—	包紙有、「廣澤之方灌頂淺深五重次第」
13-260-2	傳法灌頂印信	一紙3枚繼	1 通	—	—	大日如來～章榮、(端裏)「傳印信番心」
13-261	[印可状]	豎紙	1 通	文化7.6.3	大阿闍梨法印 隆映(花押)→瑞宣阿闍梨	於吉祥寺善寶寺道場
13-262	印信許可文(写)	一紙	1 通	慶長19.2.19	傳授大阿闍梨法印權大僧都 快深→鏡舜	(端裏)「許可文三字無シ」
13-263	[奉書]	豎紙	1 通	-3.14	寶輪院權僧正義(花押)佛乘院僧正賢(花押)→真言諸寺院中	当所西院等修造之事
13-264	[印可状]	豎紙	1 通	文化2.6.28	大阿闍梨法印 淨寶→僧都瑞宣	於瀧雲山太山寺道場、下部破損
13-265	[奉書]	豎紙	1 通	天保2.10.19	左中将重基→謹上 大納言僧都御房	来年弘法大師千年忌の事
13-266	血脈悉曇	豎紙	1 通	—	榮天	包紙有、大日如來～榮天
13-267	敬白請諷誦事	一紙	1 通	明治16.3.28	護持法主 敬白	—
13-268	御流神道一流相伝許可	豎紙	1 通	文化5.4.23	伝神大阿闍梨院家法印淨寶→僧都實深	於熊野山神御殿、包紙有、(包紙)「御流神道附法印信」
13-269	御流神道灌頂一流相傳許可	豎紙	1 通	文化5.4.23	伝神大阿闍梨院家法印淨寶→僧都義賢	於熊野山神御殿、包紙有、(包紙)「御流神道附法印信」
13-270	惣許可印信	豎紙	1 通	正徳5.10.29	伝灯大阿闍梨法印 瑞元(花押)→快瑞阿闍梨	包紙有、(包紙)「惣許可 三寶院」
13-271	日招山薬師寺法流付法状	一紙	1 通	正徳5.10.29	熊野山石手寺第廿世法印瑞元(花押)	包紙有
13-272-0	許可 義 三意—	包紙	1 枚	—	→快端	13-272-1、13-272-2の包紙
13-272-1	傳法許可秘印	豎紙	1 通	正徳5.10.29	傳燈大阿闍梨法印瑞元(花押)→快端	—
13-272-2	授與印信許可文	豎紙	1 通	正徳5.10.29	傳燈大阿闍梨法印瑞元(花押)→大法師快端	—
13-273	御流神道灌頂一流相傳許可	豎紙	1 通	文化5.4.23	伝神大阿闍梨院家法印淨寶→僧都真恕	於熊野山神御殿、包紙有、(包紙)「御流神道附法印信 僧都真恕」
13-274	釈論舍利大事	一紙2枚繼	1 通	—	—	(本奥書)文永7.5.3 於南勝院、覺敏阿闍梨、(奥書)文化15.5.7 唯阿權僧正→法印通濟、包紙有
13-275-0	求聞持八度大事	包紙	1 枚	—	—	—
13-275-1	求聞持大事	豎紙	1 通	文化15.5.19	權僧正通濟→章榮	—
13-275-2	[血脈]	豎紙	1 通	—	—	善無畏三蔵～空恵、(帶封)「此分尊所本無之」

13-276	求聞持秘印 中觀上人相伝	一紙	1 通	—	—	開不能
13-277	第二重	一紙	1 通	—	—	開不能、包紙有
13-278	伝法許可灌頂印信	豎紙	1 通	天保6.3.16	伝授大阿闍梨法印 馴龍 →法印 章榮	於豫洲飯岡山浄明院道場、包紙有
13-279-0	傳法灌頂印信	包紙	1 枚	—	→(包紙)授與 章榮	13-279-1、13-279-2の包紙
13-279-1	傳法灌頂阿闍梨位事	豎紙	1 通	天保4.8.19	傳燈大阿闍梨法印 章安 →佛子 章榮	大日如來～章榮
13-279-2	法師章榮授印可	豎紙	1 通	天保4.8.19	傳燈大阿闍梨法印 章安 →法師 章榮	於豫洲石手寺道場
13-280-1	瑜祇序分	一紙	1 通	文化9.6.16	伝燈大阿闍梨法印 秀清 →榮昌法印	包紙有、(包紙)「梵字」、枝番意味無し
13-280-2	[補任奉書]	豎紙	1 通	寛政9.5.20	(花押)→豫洲松山石手寺音 澄御房	大高檀紙、實輪院室兼帯、大覺寺御門跡御氣色
13-281	[補任奉書]	豎紙	1 通	寛文8.12.10	(花押)奉→龍海御房	法印御免之事、惣法務宮御氣色
13-282	[補任奉書]	豎紙	1 通	享保4.8.5	(花押)奉→瑞章御房	権大僧都御免、仁和寺宮御氣色
13-283	[補任奉書]	豎紙	1 通	正徳5.6.9	(花押)奉→瑞章御房	大高檀紙、権少僧都御免之事、惣法務宮御氣色
13-284	奉書	豎紙	1 通	宝永7.2.3	(花押)奉→瑞章御房	権律師御免、御室宮御氣色
13-285	伝法許可灌頂印信	豎紙	1 通	享和3.2.6	伝授大阿闍梨法印 浄寶 →僧都 章光	—
13-286	傳法灌頂印信	豎紙	1 通	文政12.4.26	大阿闍梨前法務大僧正 亮深→法印 道榮	於大覺寺道場
13-287	[補任奉書]	豎紙	1 通	明和3.9.22	(花押)→豫洲松山石手寺澄 如御房	大高檀紙、實輪院之寶澄如兼帯之事、大覺寺御門跡御氣色
13-288-0	伝法許可灌頂印信紹書血脈	包紙	1 枚	—	→祐賢	—
13-288-1	[血脈]	豎紙	1 通	—	—	大日如來～祐賢、包紙有、大破
13-288-2	伝法許可灌頂印信	豎紙	1 通	文政12.10.14	大阿闍梨法印大和尚位 完洲→祐賢(貼紙)「受者 実名」	大破
13-288-3	[印可状]	一紙2枚継	1 通	文政12.10.14	大阿闍梨法印大和尚位 龍肝(貼紙)「完洲」→権大 僧都 祐賢	於金峯山寺瑠璃光院、(貼紙)「右於熊野山石手寺(道場)両部印可訖」
13-289	[包紙]	包紙	1 枚	—	→隆確房	包紙のみ
13-290	[補任奉書]	豎紙	1 通	享保10.5.7	(花押)奉→瑞章御房	大高檀紙、色衣御免之事、惣法務宮御氣色
13-291	[印可状]	豎紙	1 通	□和3.2.6	傳法大阿闍梨法印 浄寶 (花押)→僧都 章光	於熊野山石手寺道場
13-292-0	当山一代問純房實全印信	包紙	1 枚	—	—	292-1～292-3を包む
13-292-1	当山一代問純房實全印信	一紙	1 通	宝曆6.3.27	法印瑞澄(花押)	於予州石手寺道場
13-292-2	[印可状]	一紙	2 通	享保21.3.23	傳燈大阿闍梨法印家印 瑞章→傳燈大法師 実全	於豫陽石手寺道場授兩部、包紙有
13-292-3	印信義能三意	包紙	1 枚	—	→実全	開不能
13-293	阿弥陀頂不動頂	豎紙	1 通	文化9.6.16	伝燈大阿闍梨法印秀清→ 榮昌法印記	包紙有
13-294	[伝法灌頂許可印信写]	豎紙	1 通	—	—	天長3.3.5

13-295	傳流 五輪九字大事	一紙	1 枚	—	—	包紙有、開不能
13-296	持明院柿袋口決	繼紙	1 通	—	—	「本云正是高野山上人持明院正流二依ル也」
13-297	五重	一紙	1 通	寛延元.7.21	大阿闍梨權大僧都法印隆栄→瑞澄	包紙有
13-298-0	幸心方	包紙	1 枚	—	—	—
13-298-1	雙圓性海口伝	一紙	1 通	安永9.4.20	—	—
13-298-2	三部經大事	一紙	1 通	安永9.4.20	—	「金剛頂經」「蘇悉地經」
13-298-3	阿弥陀湏	一紙	1 通	安永9.4.20	—	「不動湏」
13-298-4	合行大事	一紙	1 通	安永9.4.20	—	—
13-298-5	愛染明王大事	一紙	1 通	安永9.4.20	—	—
13-298-6	妙成就	一紙	1 通	安永9.4.20	—	—
13-299	許可印信	一紙	1 通	寛延元.7.21	大阿闍梨權大僧都法印隆栄→瑞澄	—
13-300	秘密伝法灌頂秘印(写)	豎紙	1 通	寛永元.6.27	兼淵→兼性	—
13-301-0	常喜院流大事	包紙	1 枚	—	—	(朱書)「傳流」
13-301-1	[記]	一紙	1 通	元文5.11.13	傳燈大阿闍梨教嶽→真常大法師	於武州大同心山廣徳寺道場
13-301-2	兩部傳法血脈	一紙	1 通	—	—	權僧正通濟～法印章栄
13-301-3	傳法灌頂印可事	一紙	1 通	万延1.7.20	傳授阿闍梨權僧正通濟→章栄	—
13-302	菩提心論大事	一紙	1 通	元禄15.5.15	大僧正孝源→法印慧辨	(包紙朱書)「傳流」
13-303-0	本願方印信一紙 血脈一紙	包紙	1 枚	—	—	—
13-303-1	[印可状]	豎紙	1 通	安政7.2.18	傳法大阿闍梨苾芻和上位海如(印)	—
13-303-2	伝法院流相承[衆]	豎紙	1 通	—	—	僧名等書上
13-304	[札]	一紙	1 枚	—	—	「(梵字)本尊修奉薬師密供院内安穩興隆佛伝攸」
13-305	[札]	一紙	2 枚	—	—	「(梵字)諸天善神 奉誦除夜般若心經一歳日數院内安全興隆傳法攸 皆來守護」、 「(梵字)諸天善神 奉誦除夜般若心經一歳日數院内安全祈処 皆來守護」
13-306	[通達]	一紙5枚繼	1 通	-3.14	東寺雜掌 石原大貳法眼 淨操(花押)、同年預代 宮野肥後法眼 即應(花押)、同役者駒井安口法眼 慶忠(花押)→伊豫国真言 諸寺院御中	大師堂の上葺替のため、寄付願
13-307	[印可状]	豎紙	1 通	寛政2.3.12	悉曇阿闍梨法印高幢→密應	—
13-308	第三重	豎紙	1 通	文化2.8.6	法印淨宝(花押)→僧都瑞宣	包紙有
13-309	[年代記]	豎紙	1 通	—	—	(包紙)「即身義大事 高野中院明」、開不能
13-310	理趣經最極秘密灌頂	一紙	1 通	寛永9.9.21	伝授大阿闍梨法印大和尚位快深→鏡舜	—
13-311	文殊童形大事	一紙	1 通	元禄7	大阿闍梨法印龍岩→瑞元	包紙有、(奥書)「瑞麟」
13-312	後夜 完洲	葉	1 枚	—	—	包紙有
13-313	第三重	豎紙	1 通	天保6.7.16	法印權大僧都馴龍→章栄	於豫州飯岡山淨明院道場、(包紙)「授与章栄」、(包紙朱書)「上人方」
13-314	梵本法身偈	一紙	1 通	—	—	「已上全以常喜院真言集写之」

13-315	辨財天一即法	一紙	1 通	寛文11.8.下旬	昇仙房 龍海→栄厦	於豊山各深房
13-316	[書状]	一紙	1 通	—	—	開不能
13-317-1	[愛染王法就三十七尊印言有]	一紙	1 通	—	権僧正唯阿→有章法師	包紙中破
13-317-2	[愛染王法就三十七尊秘々之印]	一紙	1 通	—	権僧正唯阿→有章法師	—
13-318	[書状]	一紙	1 通	—	—	開不能
13-319	[書状]	豎紙	1 通	庚辰.-.28	[]法印淨寶(花押)	上部欠
13-320	[縁起]	繼紙	1 通	—	—	墨界21行
13-321	静心伝	包紙	1 枚	—	—	—
13-322	第二重	豎紙	1 通	文化7.8.21	金資隆映→瑞宣阿闍梨	包紙有
13-323	官物之目録	一紙	1 通	—	—	開不能
13-324	投華 後夜	葉	1 枚	—	—	包紙有
13-325	后夜投花	葉	4 枚	—	童栄	包紙有
13-326	紹書 西方	一紙	1 通	—	—	開不能
13-327	後夜	葉	5 枚	—	—	(包紙)「第壹」
13-328	(梵字)字不断秘観[]	一紙	1 通	寛文5	伝授大阿闍梨[]	下部欠
13-329	[書状]	一紙	1 通	元禄16	—	開不能
13-330	[]淨如来大事	一紙	1 通	—	—	包紙有、開不能
13-331	阿弥陀印明	一紙	1 通	—	—	包紙有、開不能
13-332-0	十五日精進大事 三通	包紙	1 枚	—	瑞麟	332-1～332-5の包紙
13-332	授伝事目録	一紙	1 通	—	—	—
13-333	(梵字)第二等至	豎紙	1 通	寛政2.3.12	悉曇阿闍梨法印高幢→密應	—
13-334	後夜念誦	一紙	1 通	—	—	開不能
13-335	[三衣真言]	一紙	1 通	—	小池坊権僧正唯阿→有章法師	(包紙)「三衣印明」
13-336	切文	一紙	1 通	享保20.1.7	伝燈大阿闍梨法印宥了→瑞春	(包紙)「瑞春」
13-337	御流神道灌頂一流相伝許可	豎紙	1 通	寛政11.5.9	伝燈大阿闍梨権大僧都法印亮稚→法印栄天	於長谷寺慈心院道場
13-338	[包紙]	包紙	1 枚	—	—	—
13-339	阿弥陀九品往生印明	一紙	1 通	—	権僧正唯阿→有章法印	(包紙)「九品往生印言」
13-340	七月行大事八印一明口決	横折	1 通	—	昇仙房龍海	—
13-341	(梵字)字観略作法 三十三通之内三十	折紙	1 通	享保3.7.中旬	法印瑞元→雲元	包紙有
13-342	弁財天八印一明大事	一紙	1 通	永禄12.6	住実舞→金子実舞	—
13-343	[印可状]	一紙	1 通	—	—	開不能
13-344-0	求聞持諸大事	包紙	1 枚	—	—	帙有、(帙表紙)「聞持法(梵字)」、344-1～344-7入
13-344-1	勢州朝熊山明王院一流別布次第求聞持開結并不断	一紙等	8 通	貞享3.1	佛子尊戒、佛子法如	包紙有
13-345-0	光明真言極秘印 第五	包紙	1 枚	—	→瑞真	「三十三通内」
13-345-1	柁尾明恵上人七十印口伝	一紙	1 通	寛保3.3.中旬	法印瑞澄→瑞真	(本奥書)正徳3.1.中旬、法印瑞海→瑞元

13-345-2	[八葉印]	一紙	1 通	—	—	「此小野方唯授一人秘伝也」
13-345-3	光明真言七種印信	一紙	1 通	寛保3.3.中旬	法印瑞澄→瑞真	(本奥書)正徳3.1.中旬、法印瑞海→瑞元
13-346-0	水施餓鬼作法	包紙	1 枚	[寛保3.3.中旬]	瑞真	「施餓鬼一印作法 三十三通内第七」
13-346-1	施餓鬼一印法	一紙	1 通	寛保3.3.中旬	瑞澄→瑞真	「第七三之内一」
13-346-2	水施餓鬼	一紙	1 通	寛保3.3.中旬	→瑞真	(本奥書)正徳3.3.中旬、法印瑞海→瑞元
13-347	諸説草	豎帳	1 冊	寛文12.5	利忍→豫州竜山智覚房	—
13-348	大流第三重六壺[詳]記	豎帳	1 冊	[元禄]	—	虫損
13-349	許可略作法 表白寺有	粘葉装	1 帖	—	—	—
13-350-0	結縁灌頂表白 四種	包紙	1 枚	—	自春房 亮貞	(表紙)「明九十六」、(紙封)「結縁灌頂表白四種」
13-350-1	初夜表白 結縁	横折	1 通	—	—	—
13-350-2	結縁灌頂乞戒表白	横帳	1 冊	—	—	(表紙朱書)「醍醐」
13-350-3	結縁灌頂表白大阿	粘葉装	1 帖	—	亮貞	—
13-350-4	結縁灌頂表白	粘葉装	1 帖	—	亮貞	(表紙)「応永廿六五九 理性院道場」
13-351-0	結縁灌頂	包紙	1 枚	明和29	澄如	(表紙)「 \neq 右八所一包入」
13-351-1	[聖教]	粘葉装	1 帖	延享1.7.下旬	有慶	「金剛来弟子等異口同音白書」と有
13-351-2	結縁灌頂初夜表白	粘葉装	1 帖	寛保4.2.29	有慶、法如	—
13-351-3	定戒道師作法	粘葉装	1 帖	寛保4.2	法如	—
13-351-4	結縁灌頂表白	粘葉装	1 帖	—	—	—
13-351-5	結縁灌頂釈迦院	粘葉装	1 帖	—	法如	—
13-352-0	[包紙]	包紙	1 枚	—	—	(包紙)「二四字一、弁才天秘訣一、高尾口訣一、神鑑記一、已上種入」
13-352-1	弁才天秘訣	柵形本	1 冊	元文3.2.晦日	近江浅井郡小谷寺明王院 →予州義勇房瑞澄	—
13-352-2	神鑑記	柵形本	1 冊	元文3.2.11	江州小谷寺明王院→予州 桑門義勇瑞澄	—
13-352-3	高尾口訣	柵形本	1 冊	元文2.4.18	瑞澄(花押)	於和陽針邑観音密寺書写
13-352-4	二四字	柵形本	1 冊	享保20.8.18	豫州沙門義勇房瑞澄	於和州針邑神宮寺、(本奥書)慶安2.8、摂州多田蓮花寺桑門亮口
13-353-0	諸切紙数通	包紙	1 枚	—	—	「随求陀羅尼書写ノ図 瑞春」、353-1~353-9の包紙
13-353-1	御戸開閉大事	一紙	1 通	—	—	—
13-353-2	日需夕日礼大事	一紙	1 通	—	—	—
13-353-3	御流神道加行次第	一紙	1 通	—	—	—
13-353-4	大師不断求聞持大事	一紙	1 通	文政16.3.15	阿闍梨諦観律師→昇住	—
13-353-5	十八道加行作法私記	一紙	1 通	—	—	—
13-353-6	[印可供養料拔書]	横折	1 通	—	—	(奥書)文明4、如常七十一、(奥書)賜法務御本
13-353-7	[星万タラ下絵図]	絵図	1 鋪	宝暦10	瑞澄	太守定高公、当山御入の節、下絵図所持の件
13-353-8	[聖教拔書]	横折	1 通	—	—	大日経等拔書
13-353-9	棟札案 二紙	一紙	2 枚	—	—	包紙有「高野山宝院ヨリ申請写之」
13-354	[漢詩集]	小横帳	1 冊	—	—	表紙欠、8丁目に「笠原先生詩会集」と有
13-355	尊初重五	粘葉装	22 帖	—	—	「通用文殊」「不空羂索」等、(不空羂索奥書)明暦3.4.中旬、求法沙門舜良房尊如、(童子経書写作法経釈奥書)享保9.4.伝授、宝暦3.2、以御本書写、實信
13-356-0	結縁灌頂 六包	包紙	1 通	—	自春房 亮貞	「明能八」

13-356-1	天龍八部讚并法施文	横折	1 通	—	—	「私三之内」
13-356-2	[平仲媒図、長仲媒図]	絵図	1 鋪	—	—	—
13-356-3	結縁灌頂 夜儀図	絵図	1 鋪	—	自春房 亮貞	(包紙)「結縁灌頂 壇図 戒場図 内陳図 夜儀図 四種」
13-357	灌頂散念誦	一紙	1 通	—	—	包紙有
13-358-0	明九二十	包紙	1 枚	—	—	(表紙)「結縁灌頂數万タラ一、三摩耶戒場図一、初夜内陣図三、三十七尊印明一」
13-358-1	[卅七尊印言為結縁灌頂小壇抄]	横帳	1 冊	—	—	—
13-358-2	受者引入時図	一紙	1 枚	—	—	—
13-359-0	結縁灌頂	包紙	1 枚	—	—	(表紙)「自春房亮貞」「明九二十五」
13-359-1	記録書様	横折	1 通	—	—	—
13-359-2	結縁灌頂職衆交名	横折	1 通	—	—	—
13-359-3	請定 結縁灌頂職衆事	一紙	1 通	—	—	(奥書)至徳2.4.20、行事上座大法師、於灌頂院、(端裏)「職衆請定案文」
13-359-4	三昧耶戒取作	横折	1 通	—	—	(表紙裏)「取作入」
13-359-5	右方	一紙	1 通	—	—	人名書上
13-359-6	左方	一紙	1 通	—	—	人名書上
13-360	神祇灌頂初夜作法	折紙	1 通	—	—	包紙有
13-361-0	頼瑜灌頂差図	包紙	1 枚	正徳3.閏5.18	瑞元	「明九十九」「三通四紙」、(本奥書)宝永3.9、以経蔵旧本写、金剛仏子寛順、(奥書)正徳3.閏5.18、以法務大僧正御自筆本書写、瑞元
13-361-1	初後夜図并後朝嘆徳座図	絵図	1 枚	正徳3.閏5.18	瑞元	(本奥書)宝永3.9、以旧本写校、寛順、(奥書)正徳3.閏5.18、瑞元
13-361-2	灌頂護摩壇様私	絵図	1 枚	正徳3.閏5.18	瑞元	(本奥書)宝永3.9、寛順、(奥書)正徳3.閏5.18、賜右御自筆之本書写、瑞元
13-361-3	三摩耶戒図并庭儀行列図私	絵図	1 鋪	正徳3.閏5	瑞元	法務御自筆本書写(本奥書)弘安6.6.26覚洞院一卷式図并報恩院指図私図之頼—
13-362-0	鎮守読経作法二冊 御影堂誦経作法一冊 幣帛私記一	包紙	1 枚	—	自春坊 亮貞	—
13-362-1	鎮守読経作法	粘葉装	1 帖	—	—	(本奥書)康正2.10.13、金剛仏子隆瑜五十、(奥書)大阿闍梨報恩院隆僧正御本、於醍醐寺、尊如
13-362-2	鎮守読経導師作法	粘葉装	1 帖	—	—	—
13-362-3	御影堂誦経作法	粘葉装	1 帖	—	—	—
13-362-4	鎮守読経幣切様事	横折	1 通	—	—	(本奥書)寛文13.8.21、尊如御口説ヲ記シ玉フヲ申請書写、章海房勝如
13-363-0	幸心 教授作法 二通	包紙	1 枚	—	瑞元	13-363-1~363-5を包む、(表紙)「明九四」
13-363-1	三摩耶戒	一紙	1 通	享保21.3.24	石手寺法印瑞章	「石手寺法印瑞章修行ノ砌」
13-363-2	結縁灌頂三摩耶戒行事次第	一紙	1 通	—	—	(表紙朱書)「三ノ内」
13-363-3	結縁灌頂次第	一紙	1 通	—	—	—
13-363-4	伝法灌頂教授作法	粘葉装	1 帖	—	瑞元	(本奥書)明暦3.9.14、於醍醐寺、尊如、(奥書)寛文11.4.8、長谷寺、深説房實尊
13-363-5	幸心院同壇教授作法 瑞元	粘葉装	1 帖	元禄16.3.22	予陽石手寺 仏子瑞元	(本奥書)万治3.9.15、於醍醐寺、仏子尊如
13-364	伝法灌頂鎮守読経図并幣之図	絵図	1 通	—	善音	(包紙)「明九十三」
13-365	(梵字)(梵字)(梵字)守護	札	1 枚	—	—	包紙有、開不能
13-366	大日経疏印信	一紙	1 通	—	—	(包紙)「三十三通内二十八」、(本奥)正徳3.1.中旬、法印瑞海→雲元、(写奥)享保3.7.中旬、法印瑞元→雲元
13-367-0	両海尊号	包紙	1 枚	—	精運	13-367-1~367-3を包む
13-367-1	[諸仏配置図]	絵図	1 鋪	—	—	—

13-367-2	[諸仏配置図]	絵図	1 鋪	—	—	—
13-367-3	[諸仏配置図]	絵図	1 鋪	—	—	—
13-368	衣服加持	一紙	1 通	寛保3.3.中旬	法印瑞澄→瑞真	(包紙)「十七通内第五」、(包紙朱書)「五イ」、(本奥書)正徳3.1.中旬、法印瑞海→瑞元、下部破損大
13-369	刷作法	一紙	1 通	享保3.7.中旬	法印瑞元→雲元	(包紙)「三十三通内十四」
13-370	邪氣等加地作法	横折	1 通	寛保3.3.中旬	法印瑞澄→瑞真	(包紙)「三十三通内十七」、(本奥書)正徳3.1.中旬、法印瑞海→瑞元
13-371-0	鎮守読経作法三	包紙	1 枚	—	—	「明九五」
13-371-1	灌頂鎮守読経	粘葉装	1 帖	—	—	—
13-371-2	鎮守読経作法	粘葉装	1 帖	—	—	康正2.10.13、大阿闍梨報恩院隆濟僧正醍醐寺住山之砌校合、求法沙門尊如
13-371-3	鎮守読経作法	粘葉装	1 帖	—	—	康正2.10.13、大阿闍梨報恩院隆濟僧正醍醐寺住山之砌校合、求法沙門尊如
13-372-0	銀錢之凶星磨合私星供口決	包紙	1 枚	—	瑞元	—
13-372-1	星摺合私	小横帳	1 冊	宝永3.5.13	瑞元	(本奥書)寛文11.11.下旬、於和州長谷寺住山之砌書写、龍海
13-372-2	銀錢之調様事	一紙	1 枚	—	—	—
13-372-3	八供養菩提印明	一紙2枚継	1 通	—	—	—
13-373-0	早々念誦法一	包紙	1 枚	—	—	他十一 〃十二
13-373-1	隱形法	粘葉装	1 帖	元禄12	緇林轄子竜山	以三宝院經藏本書写
13-373-2	招魂大事私	粘葉装	1 帖	—	瑞澄	—
13-373-3	招魂法	粘葉装	1 帖	—	主政咩之	—
13-373-4	招魂作法	粘葉装	1 帖	—	龍山	—
13-373-5	修学土代条々	粘葉装	1 帖	—	—	(本奥書)享保3.4.12、醍醐住山之以式人之本書写、端州房瑞麟24齡
13-373-6	両部糸曳様	粘葉装	1 帖	寛文112.1.1	昇仙房龍海	(本奥書)明暦3.2.4、於豊山、各深房栄慶
13-373-7	伝授目錄	粘葉装	1 帖	—	—	(本奥書)元禄2.8、豊山学侶隆意自筆之本、利忍房竜山
13-373-8	放捨作法	粘葉装	1 帖	—	眞性	—
13-373-9	開門大事自明	粘葉装	1 帖	—	—	(本奥書)享保6.7.7、依瑞元和尚之口伝記之、求法沙門陽山房瑞春(花押)
13-374-0	荒神	包紙	1 枚	—	—	「熊野山什宝」
13-374-1	如来荒神并表白	粘葉装	1 帖	享保20.3.5	義勇房瑞俊 改澄	(表紙)「頼瑜」、(本奥)延宝9.2、於長谷寺、草海房勝如、包紙有、(帶)「如来荒神」
13-374-2	三宝荒神并表白	粘葉装	2 帖	—	実静	包紙有
13-374-3	荒神供次第 三宝二	粘葉装	2 帖	—	予州 利忍	包紙有
13-374-4	荒神供表白	粘葉装	1 帖	享保20.春.7	豫州沙門義勇瑞俊 改澄	—
13-374-5	荒神供次第	粘葉装	2 帖	—	湖北 澄如	—
13-375	(梵字)字観略作法	一紙	1 通	寛保3.3.中旬	法印瑞澄→瑞真	(本奥書)正徳3.1.中旬、法印瑞海→瑞元、(包紙)「三十三通内」
13-376	如来荒神供法	小横帳	1 冊	—	教順	—
13-377	法花	粘葉装	1 帖	—	—	(包紙)「薄初重 三」
13-378	中性院初重印可作法	折本	1 帖	—	通濟権僧正→栄真	包紙有
13-379	幸心伝法灌頂讚次第	一紙	1 通	正徳5.6.上旬	—	(包紙)「十七通内第十回」
13-380	奥疏伝講聞記	小横帳	2 冊	明治13.10.4	—	「第一」「第二」合綴
13-381-0	薄初重 弐	包紙	1 枚	—	—	—
13-381-1	金輪	粘葉装	1 帖	—	—	綴ハズレ
13-381-2	尊勝	粘葉装	1 帖	—	—	—
13-382	諸社大事	一紙	1 通	享保3.7.中旬	法印瑞元→雲元	(包紙)「三十三通内三十一」

13-383	作持門全	木版豎帳	1冊	-28.2.25	俊也	挟込有
13-384-0	浴像作法	包紙	1枚	—	金剛子隆海	「△三」
13-384-1	沐像法	横折	1通	—	—	(本奥書)享保8.5.10、金剛峯寺沙門真源、(奥書)延享5.4.下旬、於野嶽、阿闍梨真源碩德御本写、金剛仏子隆海探道
13-384-2	[浴像經秘藏記]	横折	1通	—	—	(本奥書)享保3.3.下旬、上醍醐報恩院法務大僧正寬須阿闍梨御伝授、宇治恵心院良純、(奥書)延享5.4.下旬、於野嶽、金剛末資隆海探道
13-385	十八道念誦次第	小横帳	1冊	明治15	行者章神	「愛媛縣下伊予国温泉郡石手村石手寺内松友章神」
13-386	不動法	小横帳	1冊	—	沙門 宜住房	—
13-387-0	薄二重三經部 二帖	包紙	1枚	—	—	「守護[靈]止風雨」
13-387-1	花籠覆紐并誦經物紐	一紙	3枚	—	亮瑞	—
13-387-2	中陰行法神分	一紙	1通	—	—	—
13-387-3	覺	豎紙	1通	—	—	五宝、五香等書上
13-388	伝法院御流聴書	小横帳	1冊	—	摩尼閣 玉之	6.2~7.17分
13-389-0	諸仏阿闍寶生定光善名稱	包紙	1枚	—	利忍房龍山	「薄後重一番」
13-389-1	二重目錄	柵形本	1帖	—	—	(表紙朱書)「御本三十三」
13-389-2	阿闍	粘葉装	1帖	明曆3.4.23	舜良房学如	(本奥書)於醍醐寺、幸心院大僧正寬滋
13-389-3	寶生尊	粘葉装	1帖	—	—	—
13-389-4	定光仏	柵形本	1冊	—	—	(表紙)「二」
13-389-5	善名稱	粘葉装	1帖	—	—	(表紙)「二」
13-390	[伝法灌頂事業]	横帳	1冊	寛文12.春	春宵闍梨	於真太山院
13-391-0	灌頂道具図并寸法	包紙	1枚	—	—	「散花机、明障子并大且瓶寸法、赤白益并鳥口図、瓶莊図、明九廿七」
13-391-1	伝授次第目錄	横折	1通	享和3.3.9	蓮恕	(本奥書)寛政6.4.6、以法住僧正御本書写、淨宝
13-391-2	五十五万反二十一時与配	横折	1通	享和3.7.22	端雲	(本奥書)天正13.7.5、以幸心院実雅僧正御本書写、深重25才
13-391-3	[記]	一紙	1通	—	—	赤白益之事、覆面之事、花籠地敷之事
13-391-4	[瓶莊儿図、綵帛莊儿図]	一紙	1通	—	—	—
13-391-5	[記]	一紙	1通	—	—	明障子ノ屏風及び諷誦之事
13-391-6	散花机莊様之事	一紙	1通	—	—	—
13-392	第九塔印	繼紙	1通	—	—	開不能
13-393-0	灌頂教授作法 二種	包紙	1枚	—	瑞旭	「明九廿三」「報恩院道場東局」
13-393-1	幸心院同壇教授作法	綴葉装	1帖	享保13.5	金剛仏子瑞旭	於江北惣持寺、(本奥書)建長8.6.15、報恩院、定濟
13-393-2	伝法灌頂教授作法	綴葉装	1帖	享保13.5	小子瑞旭	於江北惣持寺、(本奥書)明曆3.9.14、於醍醐寺、金剛仏子尊如
13-394	地鎮表白	粘葉装	1帖	—	龍山	—
13-395	金真頭次第	粘葉装	1帖	—	龍山	(奥書)金剛仏子憲深
13-396	[金剛界曼荼羅]	絵図	2鋪	—	—	—
13-397-0	後夜念誦大事	包紙	1枚	—	瑞元	—
13-397-1	後夜念誦作法	横折	1通	寛政2.3.21	音澄書	—
13-397-2	針作法	一紙	1通	—	義算	—
13-397-3	後夜念誦	横折	1通	元禄6.4.16	瑞元	(本奥書)永禄7.1.17、寛實、(端裏)「寅時法三寶院」
13-397-4	後夜念誦大事	横折	1通	—	阿闍梨深快→祐鏝	—
13-398-0	八福輪日記式通	包紙	1枚	—	—	—

13-398-1	八福輪之日記	横折	1 通	宝永2.1	—	—
13-398-2	八福輪之日記	一紙	1 通	元禄8.7.15	阿闍梨法印龍岩	(本奥書)元禄5.7.27、阿闍梨法印慶授→瑞龍
13-399	文殊童形大事	札	1 枚	—	瑞旭	文殊菩薩御尊像有、包紙有
13-400	鎮守四書幣切様本形	一紙	2 通	—	善音	包紙有
13-401-0	請雨止雨大事式通	包紙	1 枚	—	亮瑞伝	—
13-401-1	一止雨極大深秘法	一紙	1 通	寛文11.12.下旬	各深房榮慶伝授→昇仙房龍海	於豊山、(本奥書)慶長17.3.6、洛陽東山豊国於智積院、僧正祐宣示之、秀応25歳
13-401-2	請雨観念 止雨要訣	一紙	1 通	万治2.12.3	—	朝倍堂場授与
13-402	七ノ内 星万茶羅	絵図	1 鋪	—	—	—
13-403	星供	横帳	1 冊	—	—	—
13-404	結願詞 惣二通	一紙	1 通	慶長7.1.下旬	小池頼心房性盛法印	於長谷寺
13-405	幡一 幣一 幡釘一	一紙	3 枚	—	—	—
13-406	蠟燭事	一紙	1 通	元禄2.1	勝如	「幸心院被用蠟燭」
13-407	銀錢事 又云擬錢也	一紙	1 通	—	章海房勝如	—
13-408	[聖教]	折本	1 帖	—	—	折界6行、脱丁有
13-409	知元辰星法	一紙	1 通	—	章海房勝如	—
13-410	銀錢之調様事	一紙	1 通	—	—	—
13-411	仏説如意虚空蔵菩薩陀羅尼經	折本	1 帖	嘉永5.3	北齊院邑秀苾弥太六、菅生山受明灌頂法名壽昌稱名寺徳全	奉納熊野山虚空蔵、墨界5行、前欠
13-412-0	流灌頂 二包	包紙	1 枚	—	—	13-412-1~412-6を包む
13-412-1	三ノ内 流灌頂	粘葉装	1 帖	—	實秀	—
13-412-2	三ノ内 流灌頂	粘葉装	1 帖	—	實秀	—
13-412-3	三ノ内 流灌頂	粘葉装	1 帖	—	實秀	—
13-412-4	流灌頂塔婆幡図	絵図	1 鋪	—	章海房勝如	—
13-412-5	流灌頂法	粘葉装	1 帖	—	本瑞	(奥書)天明6.11.28、大和国寺尾村於伝徳寺、真龍19歳
13-412-6	流灌頂作法	綴葉装	1 帖	—	瑞岩	(奥書)永禄11.7.9、於江州脇坂妙楽院、性盛
13-413-0	八千枚作法一枚 故實一枚 図一枚 支度記二枚 假介盤図一枚 私記一枚 口授口決一尽	包紙	1 枚	—	瑞澄	「(梵字)三包ノ内」
13-413-1	八千枚作法	粘葉装	1 帖	享保20.4.15	義勇房瑞春生37 度21	於醍醐寺、有雅大僧正以御本書写
13-413-2	八千枚故実	粘葉装	1 帖	享保20.4.15	義勇瑞俊21度	(本奥書)弘長3.8.9、亮深20度
13-413-3	八千枚私記	横帳	1 冊	元文4.9.5	江州小谷明王院瑞澄	(本奥書)元禄2.3.27、醍醐寺報恩院前大僧正有雅和尚奉伝授、澄意
13-413-4	[支度記]	一紙	1 通	—	—	—
13-413-5	[假介盤図]	絵図	1 鋪	—	—	—
13-413-6	[口授口決]	横折	1 通	—	—	—
13-414	伝法灌頂儀	綴葉装	1 帖	—	—	(本奥書)貞和6.2.1、賜與僧正御自筆書写、求法資覚秀、(奥書)天正7.7.4、末資覚實
13-415	伝法灌頂表白	折本	1 帖	—	—	—
13-416	滅罪真言	一紙	1 通	享保3.6.4	亮瑞	前法務前僧正寛順大和上親賜御本、包紙有
13-417	諸大事第五結	粘葉装	1 帖	—	—	—

13-418	六字經法 三寶院簿	榊形本	1帖	—	—	(表紙)「初重三番」、綴ハズレ
13-419	(梵字)(梵字)神法	粘葉装	1帖	—	—	摩怛利神法勤修院理明房興然伝、後欠
13-420	金剛薩埵	綴葉装	1帖	—	—	高隆寺僧正記
13-421	不動護摩私記	小横帳	1冊	明治14.1.15	章漁	於熊野山石手寺道場
13-422	金剛界念誦次第	小横帳(綴)	6冊	—	行者今玄	—
13-423	童子經供養啓白	綴葉装	1帖	—	—	(奥書)文明6、隆源僧正御自筆本ニテ写
13-424	遷宮大事	粘葉装	1帖	—	—	(奥書)康曆3.1.19、南院二品大王聖御自筆草案書写、僧都信瑜 求法秀算
13-425	六月抄	粘葉装	1帖	—	秀見房真阿(梵字)	(本奥)仁安3.勝—傳領道教、(写奥)慶安1.於高野山小田原上藏院、与州石手寺之住秀見
13-426-0	合六種	包紙	1枚	—	—	426-1~426-6を包む
13-426-1	求聞持次第覚(梵字)	小横帳	1冊	—	亮瑞	—
13-426-2	求聞持法	粘葉装	1帖	—	—	(本奥書)元禄8.9.10、浄嚴57(奥書)享保13.4、以栄与闍梨之本、亮瑞
13-426-3	虚空蔵求聞持諸大事	粘葉装	1帖	—	—	—
13-426-4	求聞持次第 覚(梵字)	粘葉装	1帖	—	—	(本奥書)建治3.9.25、於高野山丈六堂書本願御房
13-426-5	求聞持次第聞書	榊形本	1帖	—	仏子増盛	—
13-426-6	虚空蔵求聞持法要鈔目録	粘葉装	1帖	—	—	—
13-427	辨財天法	榊形本	1帖	—	—	綴ハズレ
13-428	吉野熊野秘法	施風葉	1帖	—	秀賀	於天川宮可修法
13-429	[作壇略作法]	粘葉装	1帖	—	—	—
13-430	初夜金剛界 三—院道—	綴葉装	1帖	—	朝意	(朱書)「宥榮求之」
13-431	胎蔵界念誦次第 都督	粘葉装	1帖	元禄7.8.6	魯津房瑞元	(本奥書)「報恩院御本奥書曰此兩部略次第祖師報恩院僧正憲—御作」綴キレ
13-432	佛生会法則	榊形本	1帖	延享3.2.上旬	—	—
13-433-0	鎮守読経作法一冊 御影堂 誦経作法一冊 幣帛私記一	包紙	1枚	—	瑞澄	(表紙)「明九廿六」、433-1・433-2を包む
13-433-1	御影堂誦経作法	榊形本	1帖	—	—	—
13-433-2	鎮守読経作法	粘葉装	1帖	—	—	(本奥)大阿闍梨水本隆覚僧正御房、受者源瑜、康正2.於醍醐寺、大阿闍梨報恩院隆済僧正、尊如
13-434-0	結縁灌頂得仏之名号諸切紙	包紙	1枚	—	—	(本奥)寛永1.報恩院大僧正御本写、瑞元房宏英、434-1・434-2を包む
13-434-1	灌頂前行表白	横折	1通	—	—	(本奥書)享保9.4.20、可畏彦瑞春、包紙有
13-434-2	印可加行表白	横折	1通	—	—	(本奥書)正徳3.3.23、以幸心法務寛順大僧正御本書写、智端房瑞元、(奥書)享保5.9.16、以瑞元和尚以御本書写、陽山房瑞春、包紙有
13-435	胎蔵界念誦次第 太	粘葉装	1帖	—	—	—
13-436	秘鈔伝習記第二	大美濃切本	1帖	—	—	(本奥書)享保2.10.3、(奥書)寛政4.5.7、良恭73
13-437	七月精進作法	榊形本	1帖	—	—	(本奥書)宝永3.3.下旬、以石手無染所筆之本書写、探瑞之
13-438	能延六月法	粘葉装	1帖	—	—	(奥書)於洛陽中性院、介仏子直傳、のりしろハズレ
13-439	文殊法通用	榊形本	1帖	—	瑞雲	—
13-440	能延六月法	榊形本	1帖	—	伊 空友房	(奥書)貞享1.5、於高野、鏡照
13-441	禁五路樸秘々大事	榊形本	1帖	天明4.1.30	瑞澄	(本奥書)以秀精法印御本書写、於玉善寺
13-442	正観音法	榊形本	1帖	—	—	—
13-443-1	内護摩略作法	榊形本	1帖	—	—	(本奥書)享保3.4.10、和州口口澄岸法印ヨリ伝授、常州新治郡佐久山宥嚴弟子宥了、(奥書)享保20.3.18、枝番に意味無
13-443-2	[金剛般若経]	粘葉装端紙	1枚	—	—	貼紙有

13-444	加行中法度事	横折	1 通	—	瑞澄	(本奥書)「報恩院大僧正源雅在判」
13-445	金輪	榊形本	1 帖	—	—	(表紙)「印」
13-446	阿弥陀法附阿闍大日虚空蔵	榊形本	1 帖	—	實信	貼紙有
13-447	△水天	榊形本	1 帖	—	芳雲	(表紙)「三宝院」、(表紙朱書)「本元△簿初」
13-448	引導大事	榊形本	1 帖	—	仏子大陸	—
13-449	報恩院灌頂道具目録	榊形本	1 帖	—	—	(本奥書)正保2.10.20、寛濟記、(奥書)明曆2.8、大僧正有雅
13-450	印可加行表白	横折	1 通	文政4.4.23	瑞天	(本奥書)於醍醐寺報心院、大僧正寛滋
13-451	六 十八道表白	横折	1 通	—	報恩院前大僧正源雅在判	—
13-452	地 加行間可禁制條々	横折	1 通	—	—	17條有
13-453-0	例時入堂次第	包紙	1 枚	—	密鏤	—
13-453-1	入堂次第	横折	1 通	—	廣傳	—
13-453-2	朝	横折	1 通	—	—	—
13-454	[印信写]	一紙	1 通	—	—	阿闍梨行位印、正平2.1.11写
13-455	知元辰様奥アリ 知本命星 元辰等作法	粘葉装端紙	1 枚	—	—	(表紙朱書)「共九八」
13-456	[聖教]	折本	1 帖	—	—	「越後柏崎 明蔵寺什物」、前欠
13-457-1	水天供口決 薄草決聖僧記 天龍八部讚并諸天讚	粘葉装	1 帖	—	—	(本奥書)天正12.5.17、(奥書)元禄3.7.10、口雲、枝番に意味無
13-457-2	水天	榊形本	1 帖	—	—	(本奥書)於醍醐寺、舜良房尊如、(奥書)延宝5.6.6、次伝長俊、(表紙)「初」
13-457-3	水天供表白 四帖内 宥快	粘葉装	1 帖	—	—	(本奥書)元和4.11.3、俊圭法印以御本書之、(奥書)元禄2.5、亮貞
13-458	普賢延命自明	粘葉装	1 帖	—	探瑞	(表紙)「初」
13-459	五大虚空蔵	榊形本	1 帖	—	—	—
13-460-1	正観音	榊形本	1 帖	—	—	(表紙)「初」、枝番に意味無
13-460-2	目天子青	榊形本	1 帖	寛政8.4.28	大阿闍梨密桂大和尚→純 信	於長徳密寺、(本奥書)元文2.5、金剛峯寺摩尼密院比丘安意隆海房
13-461	滅悪趣尊	榊形本	1 帖	—	—	—
13-462-1	初重 大勢至法 二丁薄	粘葉装	1 帖	—	憲實之	枝番に意味無
13-462-2	初馬頭	粘葉装	1 帖	—	—	貼紙有
13-463	守護国界経念誦次第	榊形本	1 帖	—	—	貼紙有
13-464	水天	粘葉装	1 帖	延宝5.6.6	快賢	(本奥)於醍醐寺、幸心院就貫濟大僧正本、舜良房尊如、(写奥)延宝5.6.6、以幸一院 有雅御本、随勝如快賢
13-465	虚空蔵法自明	榊形本	1 帖	—	—	—
13-466	灌頂護摩	粘葉装	1 帖	—	—	(本奥書)延文2.11.27、於釈迦院、金剛仏子隆宥
13-467	結縁灌頂表白 [大]阿	粘葉装	1 帖	—	—	—
13-468	弁才天	榊形本	1 帖	—	—	—
13-469	星磨合私	小横帳	1 冊	—	沙門昇仙 龍海	(本奥書)寛文11.11.下旬、於和州長谷寺
13-470	星供養	横帳	1 冊	—	—	—
13-471	灌頂護摩	榊形本	1 帖	寛永7.8	介仏子瑞元	(本奥書)金剛仏子兼勝
13-472	八千枚作法一	粘葉装	1 帖	—	—	ハズレ有
13-473	不動法	折本	1 帖	—	—	標題は内題による
13-474	[針加持 九字大事]	折本	1 帖	—	—	—

13-475	求聞持法	粘葉装	1帖	—	憲譽(梵字)	—
13-476	壽延經	粘葉装	1帖	—	瑞元	—
13-477-0	[包紙]	包紙	1枚	—	—	477-1~477-5を包む
13-477-1	別秘私口決 又名菩薩第三大事	横折	1通	—	瑞澄	—
13-477-2	十二重灌頂口決	一紙	1通	—	—	—
13-477-3	[印信]	横折	1通	寛延1.7.21	阿闍梨隆榮→瑞澄	—
13-477-4	根本師資血脈大事	一紙	1通	—	—	大日如来~法印瑞澄
13-477-5	[密教法具図]	絵図	1枚	—	—	—
13-478	祈雨神供	折本	1帖	—	—	(表紙)「六之内」
13-479	隨求法	柵形本	1帖	—	澄海	—
13-480	神供次第	柵形本	1帖	—	賢盛	—
13-481	水天供表白	柵形本	1帖	天保13.11	イヨ蓮華寺住哲文瑞意	(本奥書)應永5.6.24、宝性院法印権大僧都有快
13-482	十一面 三十三之内	粘葉装	1帖	—	介仏子實春	—
13-483	愛染王通用	柵形本	1帖	元禄13.11	祥瑞	於石手寺、(本奥書)於醍醐寺、沙門尊如、(表紙)「初」
13-484	全 十八道加行私記	横折	1通	—	—	—
13-485	三部被申事	一紙	1通	享和3.3.9	瑞雲	(本奥書)以祖祖憲深僧正自筆草本書写、末資清浄金剛仏子隆源
13-486	内(梵字)(梵字)	柵形本	1帖	—	玉算	—
13-487	[聖教]	一紙	1通	—	—	—
13-488	伝法灌頂紹文	折本	1帖	—	神賢	(朱書)「三」
13-489	通用文殊	柵形本	1帖	—	—	(表紙)「初」
13-490	[聖教]	折本	1帖	—	—	—
13-491	鎮壇支度	横折	1通	—	龍山	(本奥書)貞応2.10(貼紙)貞応2.10阿闍梨前権之外題長講鎮壇支配
13-492	記録優婆塞優婆夷	一紙2枚継	1通	—	—	(本奥書)至徳2.4.22、於下醍醐、大僧正有雅
13-493	曼荼羅供作法	一紙	1通	宝永5.7.6	—	「上醍醐理源大師八百年忌」
13-494	五佛灌頂	横折	1通	—	—	於熊野山石手寺、龍光灌頂ヲ受也
13-495	糸縫会場之図	絵図	1枚	元治1.秋	イヨ顯勝深章	(本奥書)宝永7.1、以隆譽御本書写
13-496	般若菩薩	柵形本	1帖	—	—	—
13-497	知当年星法	一紙	1通	—	—	(貼紙)「知元辰事」「無辰星知事」
13-498	[書状]	一紙	1通	享保5.9.16	石手寺第廿世院家法印瑞元(花押)	養命山法壽院相傳之法流授との事
13-499	七曜九曜	折本	1帖	—	—	—
13-500	沐像法	粘葉装	1帖	正徳3.4.17	智端房瑞元	以幸心院法務大僧正御自筆之本書写、(本奥書)金剛仏子寛順
13-501	十八道六法事	横折	1通	—	康全	—
13-502	[記]	横折	1通	—	—	諸仏書上
13-503	本命星[]	柵形本	1帖	宝暦12.3.17	利宝房 楹澄	表紙虫損大
13-504	金剛界羯磨会三十七尊印明	横折	1通	文政8.4.下旬	受者 智現房 章栄	於善宝寺
13-505	大黒天神像事	粘葉装	1帖	—	秀雄	(奥書)文応1.10.11、石山座主長能法印
13-506	[聖教]	粘葉装	1帖	—	瑞泉院隆然	(奥書)貞享5、東寺佛乘院殿光暁公之以御本書写
13-507	嘆徳表白	折本	1帖	—	—	(本奥書)文明18.4.1、醍醐山釈迦院道場、(表紙)「彼勤仕之以檜扇写之」

13-508	[聖教]	一紙	1 通	—	—	—
13-509	許可印信	豎紙	1 通	享保12.2.23	大阿闍梨法印大和尚位亮瑞→大法師瑞旭	—
13-510	理趣經大事	一紙	1 通	寛永9.9.21	大阿闍梨法印大和尚位快深→鏡舜	(端裏書)「三」
13-511	靈供作法	横折	1 通	—	—	「三十三通内第十」、包紙有
13-512	三重大事	一紙	1 通	—	—	(端裏書)「(梵字)大事三」
13-513	五輪九字[]	一紙	1 通	—	—	開不能
13-514	菩薩十善戒牒	様式	1 通	明治31.5.26	伝戒大阿遮梨苾芻雲照(印)	包紙有
13-515	火伏四方堅等札 十七通内第六 方違等札守文	包紙	1 枚	—	—	(朱書)「十七イ」
13-516	[帙]	帙	1 帙	—	—	—
13-517	後夜念誦 当流	一紙	1 通	—	瑞雲	—
13-518	早念誦大事	一紙	1 通	享保3.7.中旬	法印瑞元→雲元	(包紙)「三十三通内二十九」「雲元」
13-519	伝法院流	横折	1 通	文政10.4.2	通濟	(奥書)從仁和寺前法務貢光院權僧正祥忍奉受印可之砌、心口院書写
13-520	畔二 薬師法弁才天法	包紙	1 枚	—	—	—
13-521	[地藏尊 不動明王 毘沙門天像図]	絵図	1 枚	—	—	—
13-522	隠所作法	一紙	1 通	—	—	(端裏朱書)「十四」、(包紙)「厠作法 三十三通内第十四」
13-523	不動極秘臨終大事	一紙	1 通	享保3.7.中旬	法印瑞元→雲元	(奥書)正徳3.1.中旬、法印瑞海(包紙)「三十三通内第二」
13-524	[次勸請明王天等作法]	折本	1 帖	—	—	—
13-525	法灌頂印明私口決	粘葉装	1 帖	—	神賢	後欠
13-526	聞見録 貞	豎帳	1 冊	—	後憲頼空	(朱書)「宇」、(本奥書)正和3、大覚寺御伝受、註先師自性上人訓説、享禄2、印舜
13-527	謹浴造 興教大師之厨子之願文	豎帳	1 冊	天明6.11	勸進乞士大衆中	後欠
13-528	大疏第三重第九私記	豎帳	1 冊	—	—	(奥書)天和1.12、於和州長谷寺、自春房亮貞、(表紙)「三冊之内」
13-529	初夜	包紙	1 枚	—	實名	—
13-530	属星供養数	一紙	1 通	—	—	(奥書)天正19.5、能下権大僧都性盛
13-531	星供幡之図	一紙	1 通	—	昇仙房 龍海	包紙有
13-532	咲徳受者返答 結縁嘆徳大阿返答	横折	1 通	—	瑞溪	包紙有
13-533	専水 自身引導大事 山内流	一紙	1 通	—	—	(本奥書)前住山門後住妙楽寺行好法印御房→沙門顕澄、(奥書)貞享5.6、孝源法務院→卓玄、包紙有
13-534	初夜	葉	3 枚	—	—	包紙有
13-535	[印信]	一紙	1 通	—	—	開不能
13-536	[印信]	一紙	1 通	—	—	開不能、上部欠
13-537	[小皿]	皿	1 枚	—	—	包紙有
13-538	[印信]	一紙	1 通	—	—	開不能
13-539	[断簡]	断簡	1 枚	—	—	聖教の一部
13-540	[聖教]	一紙	1 通	—	—	作法等多数有、前欠
13-541	普遍光明大隨求陀羅尼經	折本	3卷 3 帖	—	—	三上・下、四上存
13-542	大青面金剛大呪	施風葉	1 帖	—	—	—

13-543	三肝鈔	粘葉装	1帖	寛文9.4.8	長谷寺豊山 法印栄慶	(本奥書)大治3.7.3、権僧正勝覚72
13-544	中肝驚心抄上	施風葉	1帖	元文3	(梵字)(梵字)仏子 瑞澄	(奥書)永禄7.5.17、自竜光院石学頭秀頼善傳受
13-545	法事奉行之條々	折本	1帖	—	秀雄	後欠
13-546	永聞灑淨供具共三	施風葉	1帖	—	—	(印)「千秋萬葉 熊野山金剛蔵 不許讓與」
13-547	[般若心經]	木版中本	1冊	延宝6.8.1	京寺町通中野宗左衛門	綴紐切、前欠
13-548-1	求聞次第私日記共三	折本	1帖	—	—	13-548帙入、(奥書)天明2.8、高野山奥之院於虚空蔵院道場、豊山持習端洗瑞
13-548-2	求聞次第私日記共三	折本	1帖	天明2.8	城州相良郡笠置會下洗瑞	(本奥書)安永9.11.17、南勢朝熊岳明王院末資隆範
13-548-3	求聞持道場作法共三	折本	1帖	宝暦10.7.12	法印端澄大和尚位→洗端	—
13-549	八字文殊法	折本	1帖	—	—	—
13-550	受法最要卷下	半紙本	1冊	寶永4	洛陽宣風坊書肆等会版	—
13-551	薬師法 私	柘形本	1冊	—	—	(奥書)正徳3.4
13-552	護摩供事鈔中	木版中本	1冊	—	推海	—
13-553	三昧耶戒教授手鏡	折本	1帖	—	仏子 章純	後欠
13-554	初夜作法 胎界 西院	折本	1帖	—	—	(本奥書)明暦3.5.27、舜良房尊如、(奥書)正徳3.3、醍醐住山之砌書写、智端房瑞元
13-555	玄秘鈔 四卷	柘形本	4巻 4帖	寛文13.7.21	報恩院有推僧正伝授英岳	(帙内)「三帙之内熊野山石手寺経蔵不出、江州徳持寺住法印亮瑞奇付之」
13-556	(梵字)秘蔵金宝集 十巻	柘形本	10巻 10帖	—	—	巻一開不能、(巻二奥書)永享6.6.25、於上長講堂、濟恵36歳、(印)「千秋萬葉 熊野山金剛蔵 不許讓與」、(帙内)「三帙之内豫州松山熊山石手寺経庫不出」
13-557	不動尊瑜伽要鈔巻三標目	柘形本	1帖	—	—	—
13-558	正訂諸説草下 朔日十二日 廿一日	中本	1冊	—	—	—
13-559	初二三	葉	3枚	—	—	包紙有
13-560	[聖教]	柘形本	1帖	—	—	「土公供表白 幸心院有作 弁章」「阿弥陀道場観一説」等有
13-561	馬鳴	粘葉装	1帖	—	—	—
13-562	龍樹	粘葉装	1帖	—	—	—
13-563	地藏菩薩	粘葉装	1帖	—	瑞雲	—
13-564	水天供表白	柘形本	1冊	—	芳雲	後欠
13-565	大威徳	柘形本	1冊	—	—	(表紙)「初」、綴じ目ハズレ
13-566	火伏四方堅等札 方違等札 守文	一紙	4通	正徳5.6.上旬	法印瑞元→雲貞	「十七通内第六」、包紙有
13-567	武具加持 具足加持	一紙	2通	正徳5.6.上旬	法印瑞元→雲貞	(具足加持本奥書)寛文7.4.21、大阿闍梨法印尊如→勝如「十七通内第七」
14-0	[ダンボール箱]	ダンボール	1箱	—	—	—
14-1	理趣釋口決鈔	豎帳	1冊	寛政8.9.2	浄宝 四十有七齡	(本奥書)「円光上人聞書云云」
14-2	阿毘建磨俱舎論図解	豎帳	1冊	—	—	—
14-3	四度加行用意	豎帳端紙	1枚	—	—	「衣袈裟事」「見物事」等
14-4	行法抄 三向院全結願開白	豎帳	1冊	—	鸞峯山(印)	(奥書)貞享13.武州足立郡八條領大瀬村寶積院住僧良識房ノ從恩借二書納
14-5	大疏第三重五 評判	豎帳	1冊	寛延3.9	大住	(表紙)「十九之内八」、僧正英岳御清談
14-6	[聖教]	豎帳	1冊	—	—	「三部三昧耶」「加持香水」等口伝、前後欠
14-7	俱舎論法義 第二第三巻	豎帳	1冊	—	大僊	—
14-8	論場旗鼓科 全	豎帳	1冊	—	密乘沙門降伎	—
14-9	論場旗鼓引扱	豎帳	1冊	明治12.9.上旬	沙門隆俊	—

14-10	破地獄曼荼羅	一紙	2 通	寛保3.3.中旬	法印瑞澄→瑞真	包紙有、「三十三通内第六」、種子曼荼羅図
14-11	諸宗通内施餓鬼作法	一紙	3 通	寛保3.3.中旬	法印瑞澄→瑞真	包紙有、「三十三通内第八」、(本奥書)正徳3.1.中旬、法印端海→瑞元
14-12	御精進作法	一紙	2 通	寛保3.3.中旬	法印瑞澄→瑞真	包紙有、「三十三通内十一」、(本奥書)正徳3.1.中旬、法印端海→瑞元
14-13	後夜念誦作法	一紙	3 通	寛保3.3.中旬	法印瑞澄→瑞真	包紙有、「三十三通内十二」、(本奥書)正徳3.1.中旬、法印端海→瑞元
14-14	六一山	半折	1 通	寛保3.3.中旬	法印瑞澄→瑞真	包紙有、「三十三通内十三」、(本奥書)正徳3.正月.中旬、法印端海→瑞元
14-15	廁作法	一紙	1 通	寛保3.3.中旬	法印瑞澄→瑞真	包紙有、「三十三通内十四」、(本奥書)正徳3.1.中旬、法印端海→瑞元
14-16	古佛修復撥遣勸請	一紙	1 通	寛保3.3.中旬	法印瑞澄→瑞真	包紙有、「三十三通内十六」、(本奥書)享保3.7.中旬、法印瑞元→瑞春
14-17	身堅作法	一紙	1 通	寛保3.3.中旬	法印瑞澄→瑞真	「三十三通内十八」、(本奥書)正徳3.1.中旬、法印端海→瑞元
14-18	除魔大事	一紙	2 通	寛保3.3.中旬	法印瑞澄→瑞真	「三十三通内十九」、(本奥書)正徳3.1.中旬、法印端海→瑞元
14-19	心經大事	一紙	1 通	寛保3.3.中旬	法印瑞澄→瑞真	「三十三通内二十六」、(本奥書)正徳3.正月.中旬、法印端海→瑞元
14-20	仁王經大事	一紙	2 通	寛保3.3.中旬	法印瑞澄→瑞真	包紙有「三十三通 二十七」(本奥書)正徳3.正月.中旬、法印瑞海→瑞元
14-21	大日經疏印信	一紙	1 通	寛保3.3.中旬	法印瑞澄→瑞真	「三十三通内二十八」
14-22	臨終大事	一紙	1 通	享保3.7.中旬	法印瑞元→雲元	包紙有、「三十[三]通内第一」、(本奥書)正徳3.1.中旬、法印端海→瑞元
14-23-0	諸宗通用施餓鬼作法	包紙	1 枚	—	雲元	「三十三通内第八」
14-23-1	施餓鬼作法	一紙	1 通	享保3.7.中旬	法印瑞元→雲元	—
14-23-2	水施餓鬼法	一紙	1 通	正徳3.1.中旬	—	(端裏書朱書)「第七 三之内」
14-23-3	[石手寺周辺樋管水路図]	絵図	1 舗	[江戸]	—	—
14-23-4	[記]	一紙	1 通	—	—	梵字、方角、色等対応表
14-24	後夜念誦作法	一紙	1 通	—	法印瑞元→雲元	「三十三通内十二」、(奥書)享保3.7.中旬、法印瑞元→實榮
14-25-0	三部春日九社大師密嚴拝見大事	包紙	1 枚	—	法印瑞元→雲元	「三十三通内三十二」
14-25-1	三部拝見	一紙	1 通	享保3.7.中旬	法印瑞元→雲元	—
14-25-2	日天子法 青	一紙	1 枚	正徳4.10.28	雲峯	—
14-26	自身引導大事	一紙	1 通	正徳4.9.中旬	法印端海→瑞麟	「三十三通内第四」、(本奥書)正徳3.1.中旬、端海→瑞元
14-27	(梵字)字観略作法	横折	1 通	正徳3.1	法印端海→瑞元	包紙有、「三十三通内三十」
14-28	衣服加持	一紙	1 通	正徳4.8.下旬	法印端海→瑞麟	包紙有、「十七通内第五」、(本奥書)正徳3.1.中旬、法印端海→瑞元
14-29	立座之大事	一紙	1 通	正徳5.6.上旬	法印瑞元→雲貞	—
14-30	印可大事	一紙	1 通	—	—	包紙有、「十七通内第十五」
14-31	門開之大事	一紙	1 通	寛保3.3.中旬	法印瑞澄→瑞真	「十七通内第十七」(朱書)「六一」(本奥書)正徳3.1.中旬、法印端海→瑞元
14-32-0	水丁教授作法 二種	包紙	1 枚	—	自春房 亮真	(帯封)「水丁教授作法 二種」、14-32-1と32-2の包紙
14-32-1	伝法灌頂教授作法	中本	1 冊	延宝9.4.14	金資亮真	(本奥書)明暦3.9.14、金剛仏子尊如
14-32-2	幸心院同壇教授作法	中本	1 冊	延宝9.4.14	金資亮真	(本奥書)万治3.9.15、仏子尊如
14-33	五瓶齒木図	絵図	1 舗	—	瑞旭	包紙有
14-34	[庭讃鉢捌事・江州惣寺汀庭儀筵道私図]	一紙	1 通	享保8.3.24	法如	包紙有
14-35	五宝包 名香包 花籠覆紐并誦經物紐私記一紙亮五	紙製品	6 点	—	瑞旭	包紙有、花籠覆紐等の見本及び説明書
14-36	[血脈]	一紙	1 通	—	—	後欠
14-37	三摩耶戒図釋迦院道場	絵図	1 舗	—	自春房 亮真	貞和四(写)
14-38	孟蘭盆講作法 醍醐	折本	1 帖	—	瑞雲	後欠

14-39	令葉包紙四種	包紙	4 枚	—	—	(包紙)「黄金」「五宝」
14-40-1	金剛線加持瓶水加持図并内証	一紙	3 通	—	—	包紙有、(包紙)「御本之外私入之」、14-40-2入
14-40-2	金剛線加持瓶水加持図并内証	一紙	4 通	—	—	包紙有、14-40-1の中に、14-40-1と同内容
14-41	盆供法則 醍醐	包紙	1 枚	—	瑞雲	—
14-42	幸心方 弘法大師秘法印可誓状 印仏作法 沐像作法	中本	1 冊	—	栄真	包紙有、(包紙)「印可誓状 印仏作法 沐像作法 栄真」、(奥書)宝暦12.3.5、舜澄清如
14-43	星供幡台等ノ寸法図	一紙	1 通	—	—	—
14-44	印仏作法当流	横折	1 通	正徳3.4.14	智端房 瑞元	「報恩院法務大僧正寛順御本書写」
14-45	伝法灌頂諸役人草案五紙入	横折	5 通	—	—	包紙有
14-46	[聖教]	折本	1 帖	—	—	前・後欠
14-47	嘆徳表白	横折	1 通	—	—	—
14-48	書籍記	横折	1 通	—	—	唯戈述記、三類境等20種有
14-49	[聖教]	小横帳	1 冊	—	—	(裏表紙)「石手寺内道場而拾之三好明殿」、前欠
14-50	秘鈔御伝受聞記	小横帳	1 冊	文政9.5.1	—	—
14-51	糸縫金胎ノ作法	横帳	1 冊	—	—	(包紙)「糸縫 端△検事」
14-52	三摩耶戒作法 私記	小本	1 冊	安政7.2	智賢章栄	—
14-53	魔訶迦羅天拜見大事	小本	1 冊	—	—	(本奥書)野州寺山観音寺良岳閣梨伝勝幢(奥書)万延1.6.2 通濟七十三
14-54	不動法	小横帳	1 冊	明治12.11.中	(梵字)子章源	於熊野山道場
14-55	金光明最勝王經第七	小横帳	1 冊	宝暦13.8.3	沙門瑞澄拝	前欠
14-56	[聖教]	中本	1 冊	—	—	小鏡術之大事等、前・後欠
14-57	理趣経法胎	柵型本	1 帖	—	末資秀伝	後欠
14-58-0	曼荼羅供	包紙	1 枚	—	瑞澄	(表紙)「(梵字)、甲」、裏面に目録有、14-58-1~58-4一括
14-58-1	曼荼羅供作法	粘葉装	1 帖	享保20.閏3	義勇瑞春生年37	(本奥書)文禄3.4.11、大阿闍梨法印権大僧都大和尚位良盛、於和州針邑神宮密寺
14-58-2	曼荼羅作法	粘葉装	1 帖	享保20.閏3	豫洲沙門義勇瑞春37	於和州針邑神宮寺、(本奥書)正喜1.8.22、於覚泪院、親快
14-58-3	曼荼羅供法則	粘葉装	1 帖	—	—	—
14-58-4	曼荼羅供作法系玉	粘葉装	4 帖	—	—	(奥書)寛延1.10.1、金剛末資瑞澄
14-59	金五路極悉大事	粘葉装	1 帖	享保12.10.1	法印亮瑞	—
14-60	灌頂護摩	粘葉装	1 帖	享保2.3.2	介仏子探瑞	(本奥)誂内大臣僧都禅覚書、兼勝、延文2.尺迦院、隆宥
14-61	愛染明王極秘法 私	小本	1 冊	—	—	「本尊加持」等
14-62-0	諸加持同諸加持	包紙	1 枚	—	澄如	「明九十五」
14-62-1	諸加持	粘葉装	1 帖	—	—	(本奥書)明暦3.9.12 尊如、(奥書)俊栄
14-62-2	来廿日伝法灌頂役人事	横折	1 通	—	—	—
14-63	[聖教]	小横帳端紙	1 枚	—	—	前・後欠
14-64	法花経法 三宝院 薄	粘葉装	1 帖	—	—	(表紙)「初重三番」、綴外れ
14-65	法花	粘葉装	1 帖	—	—	(表紙)「初重三番」、綴外れ
14-66	理趣経段之印 三宝院 薄	粘葉装	1 帖	—	—	(表紙)「初重三番」、(本奥書)長享2.7.24、憲深御自筆本写、賢深
14-67	右宝陀羅尼法 三宝院 薄	柵型本	1 帖	—	—	(表紙)「初重三番」、綴外れ

14-68	理趣經法 三寶院 薄	粘葉裝	1 帖	—	—	(表紙)「初重三番」、(本奥)宝徳3.於報息院、隆濟、長享2.賢深
14-69	宝樓閣經 三寶院 薄	樹型本	1 帖	—	—	(表紙)「初重三番」、綴外れ
14-70-0	童裏	包紙	1 枚	—	—	「十五童子供一童子經書写作法一同一同封并天一帝白方一生家養者之事同守ノ六通」
14-70-1	童子經守	一紙	1 通	—	—	—
14-70-2	佛説諸童子陀羅尼經	罽紙	1 通	延宝5.7.27	章海房勝如	(朱書)「醍醐再住時以寛濟奥書本写之畢」
14-70-3	薄ノ初 童子經書写作法	粘葉裝	1 帖	—	—	包紙有、(本奥)長享2.以憲深御本、賢源、永正16.隆助
14-70-4	童子經封并天一帝白方	横折	1 通	延宝5.9.8	章海房勝如	包紙有
14-70-5	[生家養者之事]	一紙	1 通	享保3.5	亮瑞	包紙有、「上醍醐山報恩院法務前大僧正寛順以御本令他書写」
14-70-6	十五童子供ム	粘葉裝	1 帖	元禄2.5	亮貞	包紙有、(本奥書)延宝6.8.18 末資僧正有雅
14-70-7	薄ノ初 童子經書写作法	粘葉裝	1 帖	元禄2.5	金剛仏子亮貞	「二卷ノ中二ハ此卷易行」、(本奥書)正平9.覺洞院憲深、(写奥)元禄2.5.亮貞
14-71	童子經書写作法經拜	粘葉裝	1 帖	—	—	(表紙)「初重、三番」
14-72	伝法灌頂鎮守読經作法	粘葉裝	1 帖	—	法如	—
14-73	星供	横帳	1 冊	—	昌演房尊栄	—
14-74	十一面觀世音秘法	包紙	1 枚	—	(梵字)(梵字)章範	—
14-75	星供支度分	一紙	1 通	—	—	—
14-76	金剛界愚聞記	小横帳	1 冊	—	慈空	「不許他見」
14-77	属星供・同私記・普星傳・北斗供・星供日記・七曜九曜道場觀・七曜九曜十二宮廿八宿等種印言	粘葉裝	5 帖	明和6.4	昌演房尊栄	「大僧正寛濟以御本校合之了云云」、14-73・75と関連
14-78	施餓鬼法	小横帳	1 冊	—	—	—
14-79	童子經 三寶院 薄	粘葉裝端紙	1 帖	—	—	(表紙)「初重三番」
14-80	薬師法	粘葉裝	1 帖	—	—	(奥書)寛延2.5.1、仏子法瑞
14-81	勸請句并夜讚入 二紙	横折	1 通	—	—	包紙有、(包紙)宝曆11、東大寺洞泉律師御本借用二而書写、義等、(奥書)寛文13年、章海房勝如
14-82	幸心院系縫作法	小横帳	1 冊	—	自春房亮貞	包紙・一紙有、(表紙)「香薬合作法・五瓶莊儿作法・關伽水酌作法鎮守読經作法并仲媒図一紙」、「合二紙」、「外二系縫図等二紙」、「明九六」
14-83-0	幸心院灌頂図	包紙	1 枚	—	澄如	83-1~83-4の包紙
14-83-1	[初夜]	絵図	1 鋪	—	—	(奥書)宝曆11.9.25
14-83-2	戒場貞和	絵図	1 鋪	—	瑞春	—
14-83-3	灌頂護摩図	絵図	1 鋪	—	瑞春	—
14-83-4	後夜	絵図	1 鋪	—	瑞春	—
14-84-0	幸心灌頂護摩	包紙	1 枚	—	—	「成賢僧正作」、「四帖入」
14-84-1	傳法水丁護摩作法	粘葉裝	1 帖	—	瑞元	(書写奥書)寛文4.3.4、仏子栄慶
14-84-2	傳法水丁護摩作法	粘葉裝	1 帖	—	昇仙房龍海	(書写奥書)於幸心院、俊良房尊如
14-84-3	灌頂護摩	粘葉裝	1 帖	享保2.4.22	予州實應	(本奥書)文永3.7、極楽坊僧正本書写之
14-84-4	灌頂護摩	粘葉裝	1 帖	—	昇仙房龍海	(本奥書)文永3.7.上旬、極楽坊僧正本書写之、(書写奥書)天正17.3.13、於尾州無量光院、性盛頼四房
14-84-5	灌頂護摩	粘葉裝	1 帖	—	昇仙房龍海	(本奥書)内大臣僧都禅覚書、兼勝、(書写奥書)万治3.9.15俊良房尊如
14-85	上堂図	絵図	1 鋪	—	貞和	包紙有
14-86-0	頼揄灌頂差図	包紙	1 枚	—	—	(表紙)「明九三十」、(本奥)宝永3年9月、金剛仏子寛順、(写奥)享保9年3月13日、可畏彦

14-86-1	三摩耶戒図并庭儀行列図控	絵図	1 鋪	享保9.3	可畏彦瑞春	(本奥書)弘安6.6.26、覚洞院一卷式図并報恩院指図控図之頼—
14-86-2	初凌夜図控并後朝嘆徳座図	絵図	1 鋪	享保9.3.13	瑞春	(本奥書)弘安6.5.21、高野山中性院頼—
14-86-3	[絵図]	絵図	1 鋪	—	—	—
14-86-4	灌頂護摩壇様控	絵図	1 鋪	—	—	(本奥書)宝永3.9、寛順、(奥書)享保9.3.11、瑞春
14-87-0	幸心 伝法灌頂誦經導師作法二冊 同表白一紙	包紙	1 枚	—	自春房亮貞	87-1~87-3の包紙
14-87-1	伝法灌頂誦經導師作法	粘葉装	1 帖	貞享4.春	亮貞	(本奥書)正嘉1.10.13、於三宝院、金剛仏子明舜
14-87-2	誦經	粘葉装	1 帖	貞享4.春	亮貞	—
14-87-3	仁和寺宮御灌頂誦經表白	横折	1 通	貞享4.春	亮貞	(本奥)慶長15.9.25、仁和寺宮覚深親王御灌頂之時誦經導師表白、式部少輔清原秀賢草
14-88	大黒天神	柵形本	1 帖	—	英善	—
14-89	頓得如意宝珠法并財天深秘	粘葉装	1 帖	元禄16.7	—	—
14-90	灌頂護摩	柵形本	1 帖	—	—	(本奥書)詔内大臣僧都禅覚書之金剛仏子兼勝(書写奥書)宝永7.閏8、介仏子瑞元
14-91	勸流十八道礼拝加行次第	柵形本	1 帖	—	—	後欠
14-92	不空羂索	粘葉装	1 帖	—	—	(表紙)「初」(本奥書)諸観音以御本、秀慶(奥書)以法務覚順御本、瑞元、本瑞、兼流
14-93	文珠法	粘葉装	1 帖	—	—	後欠
14-94	九曜道場観 私	粘葉装	1 帖	宝永3.3	求法宣傳房元誉	(表紙)「十一共三、三」、「隆誉御本書写了」
14-95	不動法	柵形本	1 帖	明治4.11.中旬	忠誠所持	—
14-96	瘡病加持作法	折本	1 帖	—	—	—
14-97	[法花文句]	横折	3 通	—	昇住瑞阿	三通同内容、(書写奥書)和州豊山弥勒院悟心房法花文句開演之節、其因縁ヲ伝授
14-98	神供壇莊嚴并作法	横折	1 通	—	秀慶	—
14-99	神分十八道	折本	1 帖	—	—	—
14-100	施餓鬼法	折本	1 帖	—	(梵字)資弘應	「明蔵寺什物」、(朱書)御口云 勸修寺、祖師寛信法務、後欠力
14-101	印可略授作法	粘葉装	1 帖	—	—	(奥書)慶応4.6.10、台山明心院音範
14-102	伝法水丁誦經導師作法	粘葉装	1 帖	—	瑞春	(本奥)正喜元.3.13、於三宝院、勝舜、(写奥)万治3.9.15、於幸心院、尊如
14-103	神供法	竖帳	1 冊	明治16.3.14	松尾明殿	儒子明殿房 神供作法
14-104	[祝詞]	一紙	1 通	—	—	前・後欠
14-105	大法護摩壇作法	粘葉装	1 帖	—	仙教房	(表紙)「三十三」
14-106	聖如意輪念誦次第	粘葉装	1 帖	—	順性	包紙有、(包紙)「仏子 章天」、(奥書)延宝5.9、西蔵院
14-107	結願作法	横折	1 通	—	—	—
14-108-0	咩八 彼法	包紙	1 枚	—	—	—
14-108-1-0	浄薦ノ形 二枚 柳 盤二硯ヲ置ク図 壹枚	包紙	1 枚	—	亮瑞	「都三種」
14-108-1-1	柳盤二硯ヲ置ク図	一紙	1 通	—	—	絵図有
14-108-1-2	後夜念誦作法 向一山	一紙	1 通	元禄7.4	大阿闍梨法印秀慶→瑞元	(奥書)延宝8.3、大阿闍梨元如
14-108-1-3	[薦寸法図]	一紙	2 枚	—	—	「竖一尺一寸二分」「横一尺二寸五分」
14-108-2	彼法	粘葉装	1 帖	寛永18.11.8	実秀	「石手寺口家」
14-109-0	遷座	包紙	1 枚	—	—	14-109-1~14-109-4包紙一括
14-109-1	金真次第 勝如 私	粘葉装	1 帖	—	龍山	(表紙)「二之内」

14-109-2	十字之大事 九字印大事 陣着法兵大事 兵具加持大事 弓矢之大事 矢違イ之	粘葉装	1 帖	元禄9.7	金剛仏子 高岩	(表紙)「二之内」、(奥書)元禄5、大和長谷寺 竜岩、於熊野山石手寺
14-109-3	略金真友慶私	粘葉装	1 帖	—	龍山	—
14-109-4	遷座	粘葉装	1 帖	宝永7.12	快秀	(本奥書)文正元年
14-110	[聖教]	粘葉装	1 帖	—	—	表紙・前欠
14-111	聖如意輪念誦次第	柵形本	1 帖	—3.14	—	(奥書)「龍暎房」
14-112	曼荼羅供内場作法	折本	1 帖	—	—	(本奥書)正徳6.4.6、勝慧、(奥書)天明5.5.下旬、栄栄
14-113	幸心院流御伝授日記	小横帳	1 冊	—	大阿闍梨豊山第二十八世 化主 有慶僧正	3月2日~9月13日
14-114	瑜祇一經撰在自身大事	絵図	1 鋪	—	—	—
14-115	大黒天神法	粘葉装	1 帖	—	—	(本奥書)金剛仏子 成一、(奥書)金剛仏子 憲一
14-116	十一面秘供	折本	1 帖	—	—	(奥書)天保14、於豊山 金剛仏子 秀玄
14-117	心經	粘葉装	1 帖	—	—	(表紙)「初重 三番」
14-118	呪賊經 三宝院 薄	柵形本	1 帖	—	—	(表紙)「初重 三番」、貼紙有、綴外れ
14-119	無垢浄光陀羅尼法	粘葉装	1 帖	—	—	(表紙)「初重 三番」
14-120	菩提場經法	柵形本	1 帖	—	—	(表紙)「初重 三番」、貼紙有、綴外れ
14-121	早早時念誦法	折本	1 帖	—	—	(奥書)醍醐、表紙一部欠
14-122	三宝院伝法灌頂金剛線聞 書 聖一記 同 三卷内庭	豎帳	1 冊	—	—	(表紙)「千秋葛葉熊野山金剛蔵 不許讓与」「石手寺不出」、(奥書)享保21.4納、瑞元遺弟
14-123	梵網經	木版折本	1 帖	—	—	—
14-124	金剛拳樓閣一切瑜伽揄祇 經品一	木版折本	1 帖	—	—	(奥書)「奉権現寄附 石手寺 實雄上人(花押)」
14-125	致	木版折本	1 帖	—	—	「大般若波羅蜜多經卷第三百四十六」
14-126	地藏菩薩本願經卷下	木版折本	1 帖	—	—	—
14-127	妙法蓮經提婆達多品 第十二 五	木版折本	1 帖	寛政11.4	—	(奥書)「施主門屋周兵衛種記 為現当二世安穩 取願皆令満足 豫洲松山領和氣郡谷村室岡山蓮華寺薬王院現住 法印法元」
14-128	[第六段北方不空図]	絵図	1 鋪	—	—	落款有
14-129	[第四段西方無量寿図]	絵図	1 鋪	—	—	落款有
14-130	[第三段東方阿闍図]	絵図	1 鋪	—	—	落款有、護持仏子光賢慶純(梵字)
14-131	[第五段南方宝生図]	絵図	1 鋪	—	—	落款有
14-132-0	幸心方	包紙	1 枚	—	—	合行大事他
14-132-1	阿弥陀湏	一紙	1 通	元文5.8.22	法印宏意→瑞澄僧都	—
14-132-2	愛染明王大事	一紙	1 通	元文5.8.23	法印宏意→瑞澄僧都	—
14-132-3	目錄	一紙	1 通	—	—	(本奥書)永禄元.卯.16、無量壽院法印頼雄
14-132-4	双円性海口伝	一紙	1 通	元文5.8.22	法印宏意→瑞澄僧都	—
14-132-5	三部經大事	一紙	1 通	元文5.8.22	法印宏意→瑞澄僧都	—
14-132-6	合行大事 印可曼供	一紙	1 通	元文5.8.22	法印宏意→瑞澄僧都	—
14-132-7	妙成就蘇悉地又号妙拳士手	一紙	1 通	元文5.8.22	法印宏意→瑞澄僧都	—
14-133-0	幸心方	包紙	1 枚	—	—	「第二第三」
14-133-1	第二重	一紙	1 通	元文4.3.3	法印宏意→瑞澄	包紙有

14-133-2	第三重	一紙	1 通	元文4.8.4	法印宏意→瑞澄僧都	包紙有
14-134	伝法許可灌頂印信	豎紙	1 通	元文2.3.14	伝燈大阿闍梨法印大和尚宏意	—
14-135	[印可状]	豎紙	1 通	元文2.3.14	伝燈大阿闍梨法印大和尚宏意→瑞澄僧都	江州坂田郡楞嚴院灌頂道場授两部印可訖
14-136-0	血脈	包紙	1 枚	—	章光	(朱書)第十二 澤方三輪
14-136-1	広澤流	一紙	1 通	—	—	大日如来～章光、挟み込み有
14-136-2	三輪相承血脈	一紙	1 通	—	—	大日如来～章光
14-136-3	三輪流血脈	一紙	1 通	—	—	大日如来～章光
14-137	自心引導即身是仏之大事	一紙	1 通	享和7.9.9	章光	(包紙朱書)「第十四」、(包紙裏)「臨終正念之肝府往生浄土之秘契也」
14-138	文殊五十万遍作法	一紙	1 通	正徳3.1.中旬	法印端海→瑞元	(奥書)醍醐寺住山之砌、以法務大僧正有雅御真筆本書写、(包紙)「十七通之内第十」
14-139-0	臨終大事	包紙	1 枚	—	章光→章榮主	「三十三通之内第壹」、139-1.-2を包む
14-139-1	臨終大事	一紙	1 通	正徳3.1.中旬	法印端海→瑞元	—
14-139-2	第一臨終大—	一紙	1 通	—	章光	—
14-140	辨才天八印一明大事	一紙	1 通	正徳3.1.中旬	法印端海→瑞元	(包紙)「三十三通之内二十三」
14-141-0	十五日行大事	包紙	1 枚	—	—	「十七通内第九」、(朱書)「七イ」、143-1.-2を包む
14-141-1	十五日行大事	一紙	1 通	正徳3.1.中旬	端海→瑞元	(本奥書)尊慶僧正→尊鏡、(端裏朱書)「第九 二之内」
14-141-2	日増月大事	一紙	1 通	正徳3.1.中旬	法印端海→瑞元	(本奥書)尊慶僧正→尊鏡、(端裏朱書)「第九 二之内」
14-142	散杖之大事	一紙	1 通	正徳3.1.中旬	法印端海→瑞元	(包紙)「十七通之内第十六」
14-143	三身印言淺略初	一紙	1 通	享和3.9.9	伝燈大阿闍梨口寶→章光	(包紙朱書)「第一」
14-144	不動極秘臨終大事	一紙	1 通	正徳3.1.中旬	法印端海→瑞元	(朱書)「真言行者臨終通用大事」、(包紙)「三十三通之内第二」
14-145	四方電王大事	一紙	1 通	正徳3.1.中旬	法印端海→瑞元	(包紙)「三十三之内二十二」、挟込有
14-146	後夜念誦法	一紙	2 通	正徳3.1.中旬	法印端海→瑞元	(包紙)「三十三通之内十二」、挟込有
14-147	悪夢消滅法	一紙	1 通	正徳3.1.中旬	法印端海→瑞元	(包紙)「三十三通之内二十」、挟込2通有
14-148-0	観音経大事	包紙	1 枚	—	—	「十七通之内第十一」、(朱書)「一イ」、149-1.-2を包む
14-148-1	普門品二句偈文大事	一紙	1 通	正徳3.1.中旬	法印端海→瑞元	(端裏朱書)「第十一 二之内」
14-148-2	護身法	一紙	1 通	—	瑞元	(端裏朱書)「第十一 二之内」
14-149	越三摩耶大事	一紙	2 通	—	伝燈大和尚位苾芻浄宝→章光	(包紙朱書)「第十三」、(包紙裏朱書)「大事一、口伝一」
14-150	光明真言極秘印	一紙	3 通	正徳3.1.中旬	法印端海→瑞元	(包紙)「三十三通之内第五」、「光明真言七種印信」[梅尾明恵上人七重印口伝頼瑜法印記][小野方秘伝]有
14-151	并見大事	一紙	1 通	正徳3.1.中旬	法印端海→瑞元	(包紙)「三十三之内三十二」「三部、春日、九社、大師、ウム」
14-152	[包紙]	包紙	1 枚	—	—	「三十三之内二十四」
14-153	疫病大事	一紙	3 通	正徳3.1.中旬	法印端海→瑞元	(包紙)「三十三之内二十一」
14-154	最極秘密灌頂印信	一紙	1 通	享和3.9.9	大阿闍梨耶浄宝→章光	(包紙)「最極三輪」、(包紙朱書)「第十」
14-155	三身印言深秘 後	一紙	1 通	享和3.9.9	傳燈大和尚位浄宝→章光	(包紙朱書)「第二」
14-156-0	璽印信第六天魔王相伝	包紙	1 枚	—	→章光	(朱書)「第五」、156-1.-2を包む
14-156-1	璽印信二付テ私記之	一紙	1 通	—	—	—
14-156-2	璽印信	一紙	1 通	—	—	三輪慶円上人～章光の血脈
14-157-0	即身成仏印信二通	包紙	1 枚	—	→章光	(朱書)「第六」、(裏)「印璽二通、口訣二紙」、157-1～-4を包む

14-157-1	[和州宝生ニテ三輪慶円上人修行時壇中二数多舍利降来事]	一紙	1 通	—	—	(奥書)勸修寺慈尊院僧正栄海製
14-157-2	三輪慶円上人以此大事親所奉授善女龍王秘密甚深	一紙	1 通	享和3.9.9	傳燈大和尚位浄宝→章光	—
14-157-3	一本 即身成仏 三輪	一紙	1 通	—	—	—
14-157-4	即身成仏印明毘沙門天夢想	一紙	1 通	宝永1.5.6	法印秀慶	(本奥書)元禄17.4.下旬、於室生山、蘭若書比丘秀遍
14-158	法王灌頂	一紙	1 通	—	章光	(包紙朱書)「第七」
14-159	廣澤流	一紙	1 通	享和3.9.9	大和尚苾芻浄宝→章光	(包紙)「印可廣水」、(包紙朱書)「第十一」
14-160	七月精進并一度大事	一紙	3 通	—	—	「日天行一度大事」「七月精進開白大事」「弁才天七月精進八印」有、(包紙)「十七通之内第參」、(包紙朱書)「三イ」
14-161	那々夜持大事	一紙	1 通	明曆2.3	→勝如	(包紙)「十七通之内第貳」、(包紙朱書)「四イ」
14-162	火伏四方堅等札 方違等札守之文	横折	1 通	—	—	(包紙)「十七通之内第六」、(包紙朱書)「十七イ」、挟込有
14-163	衣服加持	一紙	1 通	—	—	(包紙)「十七通之内第五」、(包紙朱書)「五イ」
14-164	帯加持并産兒易加持 易産符并小兒夜啼止方	一紙	3 通	—	—	(包紙)「十七通之内第四」
14-165-0	施餓鬼一印作法 水施餓鬼作法	包紙	1 枚	—	—	「三十三通之内第七」、165-1～-3を包む
14-165-1	施餓鬼一印法	一紙	1 通	正徳3.1.中旬	法印端海→瑞元	—
14-165-2	水施餓鬼法	一紙	1 通	正徳3.1.中旬	法印端海→瑞元	挟込2通有
14-165-3	水施餓鬼	一紙	1 通	正徳3.1.中旬	法印端海→瑞元	—
14-166	[包紙]	包紙	1 枚	—	—	「三十三之内十六」
14-167	六一山大事	横折	1 通	正徳3.1.中旬	法印端海→瑞元	(包紙)「往返」、挟込有
14-168	早念誦大事	一紙	1 通	正徳3.1.中旬	法印端海→瑞元	(包紙)「三十三之内二十九」
14-169	仁王經大事	一紙	2 通	正徳3.1.中旬	法印端海→瑞元	(包紙)「三十三通之内二十七」
14-170	幸心伝法灌頂讚次第	一紙	1 通	—	—	(包紙)「十七通之内第十四」
14-171	印可大事	一紙	1 通	—	—	(包紙)「十七通之内第十五」、(包紙朱書)「八イ」
14-172	大日經疏印信	一紙	2 通	正徳3.1.中旬	法印端海→瑞元	(包紙)「三十三之内二十八」
14-173-0	七日千座 一時千座	包紙	1 枚	—	章栄→章光	「十七通之内第壹」、(朱書)「十六イ」、173-1.-2を包む
14-173-1	大黒天七月千座法	一紙	1 通	—	—	—
14-173-2	大黒一時千座大事	一紙	1 通	—	—	—
14-174-0	[包紙]	包紙	1 枚	—	—	174-1.-2を包む
14-174-1	姪欲罪滅法	一紙	1 通	元禄7.4.18	阿闍梨法印龍巖→瑞元	—
14-174-2	光明真言七種印信	一紙	1 通	—	—	—
14-175	諸社大事	一紙	1 通	正徳3.1.中旬	法印端海→瑞元	(包紙)「三十三通之内三十一」
14-176	心經大事	一紙	1 通	正徳3.1.中旬	法印端海→瑞元	(包紙)「三十三通之内二十六」
14-177	除魔大事	一紙	1 通	正徳3.1.中旬	法印端海→瑞元	(包紙)「三十三通之内十九」、挟込有
14-178	施餓鬼作法	一紙	2 通	正徳3.1.中旬	法印端海→瑞元	(包紙)「諸宗通用」「三十三通之内第八」
14-179	(梵字)字觀略作法	横折	1 通	正徳3.1.中旬	法印端海→瑞元	(包紙)「三十三之内三十」
14-180-0	悉曇十不可大事	包紙	1 枚	—	—	180-1～-5を包む

14-180-1	式伏大事	一紙	1通	—	—	—
14-180-2	悉曇十不可大事	一紙	1通	—	—	—
14-180-3	悉曇伝授別行 十七日	一紙	1通	天保4.6.下旬	—	(奥書)「有光和尚ヨリ伝授」「東郁靈仁春秋廿六」
14-180-4	[記]	一紙	1通	—	—	梵字書上
14-180-5	[記]	一紙	1通	—	—	梵字書上
14-181	立座之大事	一紙	1通	—	—	(包紙)「十七通之内第二十」、(包紙朱書)「九イ」
14-182	田夫愛染秘法	一紙	1通	—	—	(包紙)「十七通之内第十三」、(包紙朱書)「十三イ」
14-183	一心灌頂三輪	一紙	1通	享和3.9.9	伝燈大阿闍梨浄宝→章光	(包紙朱書)「第八」
14-184-0	互為三輪	包紙	1枚	—	章光	(朱書)「第九」、184-1~3を包む
14-184-1	互為灌頂	一紙	1通	—	—	(奥書)嘉曆3.9.28、三輪寺蓮道上人口伝
14-184-2	[平等寺阿伽井ノ溪灌頂大事]	一紙	1通	享和3.9.9	章光	(本奥書)嘉曆3.9.28、三輪寺蓮道上人口伝
14-184-3	過去毘婆尸仏授三輪大明神給灌頂印明亦授慶圓上人給之事	一紙	1通	享和3.9.9	伝燈大阿闍梨法印浄宝→章光	—
15-0	[経函]	木箱	1合	—	—	(裏書)「聖教入瑞澄造焉」
15-1	大疏第三重	木版特大本	7巻 7冊	—	—	4巻欠
15-2	大疏第三重	木版大本	5巻 9冊	—	—	1・2・4巻欠、3・5巻(1冊)、6巻(3冊)、7・8巻(2冊)存
15-3	大疏第三重	木版特大本	3巻 3冊	—	—	4巻(1冊)・7巻(2冊)存
15-4	大疏第三重 六	木版大本	1巻 1冊	—	—	—
15-5	大疏第三重	木版大本	3巻 3冊	—	—	4・6・7巻存
15-6	大疏第三重	木版大本	4巻 4冊	—	—	4・5・7・8巻存
15-7	大疏第三重	木版大本	3巻 3冊	—	—	3・5・7巻存、(5・7巻裏表紙)「共十一」「伊与本州」
15-8	大疏百條第三重	木版大本	3巻 3冊	—	—	2・4・7巻存
15-9	第三重第五	木版大本	1巻 1冊	—	—	—
15-10	第三重五巻 私	半紙本	1巻 1冊	—	—	(奥書)享保4、常州教達
15-11	大疏第三重第四 快道記	大本	1巻 1冊	—	—	(表紙)「蓮忍」「深章」
15-12	大疏啓蒙	木版大本	2巻 2冊	—	—	5-4・5存、(奥書)貞享1.9、瑞林休隠運做、(奥書)貞享2.9、門人黙敬重沐識
15-13	大疏啓蒙 第六	木版大本	3巻 3冊	—	—	6-1・2・3存、(表紙)「宝来」「宝乘」、(奥書)天和2.12、養坊退隠老頭陀運做
15-14	大疏啓蒙	木版大本	5巻 5冊	—	—	6-2・4・5.7-3・4存、(表紙)「成石住物」、(奥書)天和3、運做識
15-15	大疏啓蒙	木版大本	2巻 2冊	貞享1.12	運敬	「四之二」「八之余下」存、(奥書)貞享1.12、瑞林老比丘運敬
15-16	大疏啓蒙 第二	木版大本	5巻 5冊	—	—	「二之一」~「二之四」「或問」存、(表紙)「イヨ智賢」、(本奥書)元禄1.11、瑞応老人運做識、(四本奥書)文政7.8、下サ心敬求(花押)、(書写奥書)貞享2.8、門人黙敬拜題
15-17	大疏啓蒙	木版大本	2巻 2冊	天和3.	運敬	7-2.8-4存。(奥書)天和3.9.9、比丘泊如運做満七十歳識
15-18	大疏啓蒙 第八	木版大本	2巻 2冊	—	—	「八之四」「八之余或問上」存(表紙)「成石住」(奥書)貞享1.11.2瑞応老比丘運做
15-19	大疏啓蒙 第一之三	木版大本	1巻 1冊	—	—	(表紙)「共六 都位観鏡」、(奥書)貞享1.5.10、老比丘運做
15-20	改正傍註大疏啓蒙	木版大本	2巻 2冊	—	—	「四之二」「四之三」存、(表紙)「成進石住物利宝」、(四之二奥書)寛文10.11.4、権僧正運做、(四之三奥書)貞享1.9.15、瑞林休隠比丘運做識
15-21	改正傍註大疏啓蒙	木版大本	下 1冊	—	—	第八或問下。巻頭「智積院蔵版」(奥書)享保1.12、瑞林老比丘運做
15-22	大疏啓蒙	木版大本	2巻 2冊	—	—	「一或門目錄」「七或門」存、(奥書)貞享4、瑞應七十四雙運做
15-23	百題自在房	木版大本	9巻 9冊	慶安4.1	長谷川市郎兵衛 刊行	「巻第二」~「巻第十」存

15-24	大毘盧遮那成仏経疏	木版半紙本	3巻 3冊	宝永7.8	桑門知勝	3・4・6巻存、(表紙)「仏」(本奥)元禄15.以浄厳本、慧辯(写奥)宝永7.8.以慧辯律師本、知勝
15-25	大乘五種姓玄論本	木版半紙本	1冊	—	—	(表紙)「宙」、南京留学伝法相宗沙門基弁撰
15-26	自証説法十八段第三重	木版大本	1巻 2冊	—	—	(表紙)「共十一巻」、2冊同内容
15-27	愚迷発心集	木版大本	1冊	—	解脱上人造	—
15-28	大疏談義 第一	木版大本	1冊	—	—	—
15-29	菩提心論	半紙本	1冊	—	—	(表紙裏朱印)「伊予国温泉郡石手寺」、綴りハズレ、後欠
15-30	修観要記	半紙本	1冊	—	—	(表紙)「特」(与州沙門義勇)「千秋萬葉熊野山金剛藏不許讓與」朱印、(奥書)享保18.覚盛
15-31	国訳秘密儀軌天等部	活版半紙本	1冊	昭和5.8.23	高井観海、塚本賢暁吉祥眞雄、伊豆宥法	「仏教珍籍刊行会」発行
15-32	[曼荼羅図]	木版折本	1帖	—	—	「第七段東南隔」から「第十二段外金剛部」まで6面の曼荼羅図
16-0	[経函]	木箱	1合	—	—	—
16-1	華山不動立印記	木版折本	1帖	安永9.8刊	洛東妙厳、京師書房鈴木半兵衛刻	帙有
16-2	普遍真言蔵	木版折本	1帖	—	—	中巻存
16-3	仏名会法則	木版折本	1帖	—	—	(巻末)「月輪院」
16-4	曼荼羅供私記	半紙本	1冊	寛文9.8	昇仙坊龍海 於長谷寺	(本奥書)元和8.8、松橋僧正幸円(朱印)「熊野山金剛蔵」
16-5	十八道事鈔	木版半紙本	1冊	—	道快	上巻存
16-6	大聖大歡喜双身毘那夜迦法	半紙本	1冊	—	—	—
16-7	挟衣目録	木版半紙本	1冊	—	—	—
16-8-1	薄草紙後重口訳	半紙本	6巻 3冊	—	—	(朱印)「熊野山金剛蔵」
16-8-2	薄草紙口訳	大本	20巻 10冊	—	—	(本奥書)弘長2.1.23、頼瑜、(書写奥書)報徳院僧正東山隠老憲深
16-9	諸尊要鈔	粘葉装	1帖	—	—	(本奥書)建保6.2.12、於遍知院金剛仏子憲一、(帙内)「三供之内 熊野山石手寺経庫不出、江州総持寺住法印亮瑞寄附之」、(朱印)「熊野山金剛蔵」
16-10	秘略抄	粘葉装	3巻 3帖	正徳3.閏5.8	予州沙門智瑞房瑞元	於上醍醐西谷、(本奥)康治2.阿闍梨権大僧都法眼寛信。帙有。「熊野山金剛蔵」朱印
16-11	薄後	粘葉装	47巻 47帖	—	利忍房龍山	帙、包紙有。「瑞元」、(朱印)「熊野山金剛蔵」、諸天・諸観音・諸文殊・諸明王・諸菩薩
16-12	秘蔵記末	粘葉装	1帖	—	—	「芳運」
16-13	大毘盧遮那経供養次第法疏	木版半紙本	1冊	—	—	(奥書)享保16.4.28、和州豊山西蔵院住鹿嶋芳寿房端海見御本、湛実
16-14	十八道口決	大本	1冊	—	東山隠老	(本奥書)弘長1.6.16、於醍醐寺報恩院、頼瑜(朱印)「頼雄房蔵」熊野山金剛蔵
16-15-1	野胎口決鈔	大本	1冊	—	—	(本奥書)弘長1.10、於醍醐寺報恩院、頼瑜(書写奥書)明応8.8.3、於根来寺
16-15-2	野金口決鈔	大本	1冊	—	—	(本奥書)弘長1.8、頼瑜
16-16	護摩口決	大本	1冊	—	—	(本奥)頼瑜、(朱印)「熊野山金剛蔵」、(写奥)慶安2、醍醐寛滋僧正書写本校了
16-17	厚草紙	半紙本	1冊	享和3.7.16	萬福寺圓明	於石手寺(本奥書)元文2.11.27、帙有
16-18	秒鈔問答	特大本	15巻 19冊	寛延2.4.12	瑞澄	(朱印)「熊野山金剛蔵」
16-19	嘆徳	木版折本	1帖	—	—	—
16-20	治承記	半紙本	3巻 3冊	正徳3.3.14	予州瑞元三十九	於上醍醐下之坊(本奥書)元弘2.5.6、於大善寺、師主(朱印)「熊野山金剛蔵」
16-21	加行吉日事	半紙本	1冊	宝暦6.7	鏡算	於南山、(本奥書)元龜2.春、於八茎山閑処集記
16-22	行法肝葉鈔	半紙本	1冊	文化2.5.10	河州石川郡叡福寺光明院光厳道場玄肇	(本奥書)宝治2.2.21、於善通寺大師御誕生所之草庵、道範記
16-23	豊山蔵版 秘密儀軌	木版大本	4巻 4冊	享保17.冬	和州豊山妙音輪下沙門等	(朱印)「熊野山金剛蔵」

16-24	真言宗三部經并大日經疏緣起事	半紙本	1冊	元文5.7.中旬	智棹房良慶	(本奥書)寛文12.7.下旬
16-25	灌頂支度私記	半紙本	1冊	明和1	予州松山石手寺法弟義等房如	於豊山隣山之端主写書、(本奥書)正徳2.6.12
16-26	金剛界発愿鈔	半紙本	1冊	延享2.9	東大寺放光院苾芻直盛	(本奥書)永仁3.閏2.5
16-27	胎藏界入理鈔	半紙本	1冊	延享2.11	求法金剛仏子小比丘直盛	(本奥書)元禄15、養詮房定昌、(表紙)「章範」
16-28	薄初後重聞書	半紙本	1冊	寛文12.1.上	昇仙坊龍海	於豊山春嶺之草堂妙見寺住職各深房栄夏和尚之以写本(朱印)「熊野山金剛藏」
16-29	灌頂聞書	半紙本	1冊	寛文4.1.下	沙門閑竜	於豊山(表紙朱書)「龍海」
16-30	三摩地講義要伝	半紙本	1冊	元禄10.9.	—	—
16-31	伴塵塚	半紙本	1冊	—	—	表紙見せ消ち
16-32	金剛界事鈔上	木版半紙本	1冊	—	就延命院次第為初心未練門人聊記之	(裏表紙裏)「(大門坊雅海)」
16-33	多賀大社縁起略記	大本	1冊	—	圓瑞	(表紙)「勿」
16-34	金剛界発愿抄	半紙本	3卷 3冊	—	延命院作	(本奥書)永仁2.5、(書写奥書)享保18.7、金剛末資義勇瑞春生年五七、中卷開不能
16-35	胎藏入理鈔	半紙本	3卷 3冊	享保18.4.8	義勇房瑞春生年三十五	大和国山辺郡針村觀青寺窓下写。(本奥書)正安2.9.12、於根来寺中口院坊、頼瑜
16-36	[秘藏記本]	木版半紙本	1冊	—	—	(表紙裏)「芳運」(奥書)寛文6.10.5、叙本、尾陽蜂浜賀産雲龍房快全所持本
16-37	虚空蔵求聞持法要抄全	半紙本	1冊	元文3.7	義勇瑞澄	於江州小谷円成院(本奥書)元禄8.12.17、武部北岡靈雲開基沙門浄嚴57
16-38	高野山中院流聞書	半紙本	1冊	明暦3.2	於豊山 正仙寺真性	(写奥)万治3.4、於和州長谷寺、豫州石手寺之住性宣
16-39	血脈鈔付三寶院照海私記	大本	2卷 2冊	天和8.10.6	石手寺實秀	於和州長谷寺小池坊之写(本奥書)慶長15.6、於洛陽豊国智積院、求法秀華京識
16-40	金剛界発愿鈔 上	半紙本	1冊	—	—	(表紙)「章範」、(小口)「金界発愿上」
16-41	金剛界事鈔	木版大本	3卷 2冊	—	—	中卷1冊、下卷2冊存
16-42	胎藏界事鈔	木版大本	3卷 2冊	—	—	上・中・下卷存、(本奥書)明徳3.8.中旬、於地藏院、金剛仏子道快、(奥書)文明3.9.下旬、於東寺法輪院、金剛仏子宗承、(表紙)「共十」、(裏表紙裏)「雅海」
16-43	伝流印信血脈法燈記	大本	1冊	慶應4.6.15	章範齡三十五	従親教師海一大和尚奉受付囑、(本奥書)天明5.8.6、教王山住隆誠
16-44	不動尊瑜伽要鈔 卷一	樹形本	1帖	元禄8.2.13	東武府城北岡宝林浄嚴	—
16-45	聖無動尊法	粘葉装	1帖	天明8	金剛来縛瑳薫	(本奥書)元禄6、武部靈雲如興沙門浄嚴五十五歳、包紙有
16-46	受者加持 高座加持 阿伽水加持	横折	1通	寛文11.4.17	瑞元	(本奥書)於醍醐寺幸心院、以隆源御自筆本、尊如(奥書)寛文10.4.17、深説、包紙有
16-47	法須初後夜 散念誦之事	一紙	1通	万治3.9	尊如	(本奥書)正保4.7、前大僧正寛濟、包紙有
16-48	灌頂護摩三種	粘葉装	2帖	貞享4.春.	自春坊亮貞	(幸心灌頂護摩本奥)延文2.於釈迦院、隆宥(灌頂護摩作法本奥)文永3、極楽坊僧正ノ本、弟子如寛
16-49	灌頂護摩	樹形本	1帖	—	瑞元	(本奥書)文永3、極楽坊僧正本書写、成賢僧正作(書写奥書)寛永7.閏8、智瑞瑞元
16-50	普賢延命法	半紙本	1冊	延享3.9	東武円明院住権大僧都阿闍梨長征→授与瑞興	於東武円明院
16-51	通用文殊	粘葉装	1帖	—	—	(表紙)「初之五」「実映」
16-52	虚空蔵	粘葉装	1帖	寛文1.4.19	快賢	於長谷寺、(本奥書)明暦3.4.19、拔良房尊如、(表紙)「初」
17-0	[経函]	木箱	1合	—	—	(蓋書)「第一」、「変」
17-1	豊山[智]山登山能所雜記 附下国到着記	竖帳	1冊	[明和]5.9	役者最勝院、同地藏院	—
17-2	石手寺雲怨代造化之什物帳重記	竖帳	1冊	—	—	—
17-3	[覚]	竖帳	1冊	天正4.1.晦日	遍照院法印大和尚位祐遍判	遍照院祭礼の事等、前後欠

17-4	選挙状	罫紙縦帳	2冊	明治13.1.15	愛媛県真言宗教導取締真野秀清代理教導職試補高志大信(印)他1名→本宗管長権中教正守野秀善殿	選挙の推薦状
17-5	史記評林	木版大本	58巻 13冊	—	—	1~12・14~41・110~117巻存、一部開不能
17-6	新撰冠註 十住心論	木版大本	7巻 7冊	—	—	(本奥書)弘安5.6.上旬、金剛資頼瑜(書写奥書)宝暦2.9金剛峯寺快辨
17-7	菩提心義	木版大本	7巻 7冊	—	五大院	「二之本・末」「三之本・末」「四之本・末」「五之本」存、(表紙)「加」
17-8	補訂 和漢年代記	木版大本	5巻 5冊	—	—	2~6巻存、(表紙)「石手寺什宝」、神武~元禄
17-9	起信論專釈鈔	木版大本	1巻 2冊	慶安3.4	中野治兵衛刊行	「下之二」存、(1丁目朱印)「尾州知多郡上野間大仙寺什物」
17-10	佛	木版大本	1巻 17冊	—	—	「大疏一愚草一」1・2・5・7・8・9「大疏二愚草二」3・4・6・7「大疏三愚草三」本目錄末下目錄存(本奥書)文永4.5(書写奥書)建治3.5.28、金剛仏子頼瑜
17-11	菩提心論教相 玄談	木版大本	1冊	—	—	—
17-12	磨光韻鏡 韻鏡索隠 翻切門法 下	木版大本	1冊	天明7.5	皇都二條通書肆 山本長兵衛	延享1.8原刻
17-13	理趣経純秘鈔存公記 二	木版大本	1冊	—	—	(表紙)「瑞澄」、後欠、開不能
17-14	篋篋初心口伝	木版大本	2巻 2冊	—	—	上下巻存、(序)元禄4.11、武州沙門盛典書、於本山寓軒(印)
17-15	真言引導要集便蒙	木版大本	2巻 1冊	—	—	5・6巻存、前後欠
17-16	囊心地視経拔書瀝囊鈔拔書	半紙本	1冊	—	—	—
17-17	大疏第三重六大法身評判	半紙本	1冊	—	林常 記	(奥書)天保4.4.23、(表紙)「共十二内」「恵」「有真」
17-18	宿曜経	特大本	2巻 2冊	—	—	(奥書)延宝9、神京書肆村上勤兵衛刊行、上下巻存
17-19	秘蔵宝鑰略解	木版大本	6巻 6冊	—	輪山蘭若比丘行性述	(奥書)元禄4、書肆前川茂右衛門他2名(小口)「共六イヨ能持」「宝鑰略解」
17-20	大疏第三重五之巻聞書	半紙本	1冊	元禄13	豫州慈雲	(表紙)「石手寺不出」「正」(朱印)「千秋萬葉不許讓與熊野山金剛蔵」
17-21	改正般若心経秘鍵	木版大本	1冊	享保17.11	皇都書肆中野宗右衛門、他5名	「入唐沙門空海上表 右筆甲州曉善」
17-22	春秋左氏伝校本	木版大本	4巻 2冊	—	昭公 晋杜氏集解・唐陸氏音義	「二十三、二十四」「二十五、二十六」存
17-23	四ノ巻 絵木法然	半紙本	1冊	元禄11.11.10	化主英笠僧正	—
17-24	撰八転義論述意下	大本	3巻 1冊	明治16	西京西本願寺 豊山末葉好山隆後海定	巻3~5存
17-25	起信注疏	半紙本	1冊	—	豫州慈雲	(表紙)「盧入」、(朱印)「千秋萬葉 不許讓與 熊野山金剛蔵」
17-26	阿弥陀十疑論臨終用心事明遍僧都法語 弘法大師告明遍記文 三学行者用心真言律之事 説戒十縁 神	半紙本	1冊	—	上野快盛(印)	—
17-27	三十三通本作法纂解	木版大本	3巻 1冊	—	—	上中下巻存、(奥書)貞享1.3、土川宇平他2名
17-28	[住心論整作并奉進事]	木版特大本	1巻 2冊	—	—	「十住心在多種事」(奥書)永正7.2.16-25、高野住山之仙順房要書、印融七十六歳、「第八住心」(奥書)永正7.4.8、印融七十六歳、綴紐キレ
17-29	孝養集	木版大本	2巻 2冊	—	高野山伝法院 覚鑿	中・下巻存、(下巻奥書)寛永20.1、三條通菱屋町婦町 林甚右衛門
17-30	大疏第三重評判第一	半紙本	1冊	—	有慶記	(表紙)「イヨ大量」、(小口)「十巻之内」
17-31	韻鏡指南鈔 下	木版大本	1冊	—	—	「広韻指南鈔序」(奥書)寛文9.3、京洛住医上田秋庵「広韻反切指南鈔自序」(奥書)寛文9.3.19、洛用貧士大田嘉方(表紙墨書)「神」(表紙朱書)「瑞雲」
17-32	科弁顯密二教論略解	木版特大本	4巻 4冊	—	豊山喜多 沙門尊祐述	「上之三」「上之四」「下之一」「下之二」存、(奥書)元禄10.9、剖嗣氏 前川茂右衛門尉 松岡盛右衛門尉 前川権兵衛尉、(小口)「共六 義等」

17-33	天台教儀集 註卷下	木版大本	1冊	寛文2.8.上旬	柳馬場二条ト町 吉野屋権兵衛板	「南天竺 沙門 蒙潤集」、(奥書)洪武12(天授5).1、明州府在城宝雲振祖天台教寺住持比丘必彰謹募衆縁
17-34	住心品講記	大本	1冊	—	—	(朱印)「千秋萬葉 不許讓與 熊野山金剛藏」
17-35	阿毘達磨俱舍論	木版大本	1冊	—	尊者世親造 唐三藏法師玄奘奉詔訳	—
17-36	説教十一兼題録評 全	木版半紙本	1冊	明治7.4	佐々木祐肇著述	「官許尾張栗田蔵梓」
17-37	五經正義表	半紙本	1冊	享保2.4.10	石手寺第廿世 玉八脩	(朱印)「千秋萬葉 熊野山金剛藏 不許讓與」
17-38	宗義決択集 廿二卷内	木版大本	1冊	—	宥快	縁覚言説之事、草木成仏之事、六大仏形之事、瑞相三身之事、宿善有無之事十四
17-39	二教論上巻鈔	木版特大本	2巻 2冊	—	—	巻一・二存、(奥書)享保7.11.21、石手寺、第廿世瑞元拝誌、(表紙)「石手寺常住物」
17-40	無言抄	木版特大本	1巻 2冊	慶長3	二品親王空性	上巻存、綴紐キレ
17-41	大慧普覚禪師書 上二	木版大本	1冊	—	—	(表紙)「言」
17-42	権化因縁 観音怪経鼓吹	木版大本	3巻 3冊	元禄5.3	小佐治半右衛門他3名	3・4・6巻存、(表紙)「良弁伝七ウ 中将姫因縁十一ウ 光明皇后簪遮会因縁十三右」
17-43	寶鑰中巻鈔 第二・三	木版特大本	1冊	享保7.11.21	豫州石手寺法印瑞元	(表紙)「〈品〉持 石手寺常住物」
17-44	天台問用自在房	木版大本	1冊	—	—	—
17-45	二教論指光抄	木版大本	1冊	—	沙門空海撰	—
17-46	起信論專积鈔 卷之上	木版大本	1冊	—	—	「尾州熱田臨濟山龍珠禪寺什物」
17-47	真言引導要集便蒙	木版大本	2巻 1冊	—	総州沙門伝慧述	7・8巻存
17-48	[大日経疏第一本]	木版大本	2巻 1冊	—	—	「下半三日」「末下半四日」存
17-49	観世音普門品影響鈔	木版大本	1冊	—	—	巻1
17-50	[口決]	一紙	1通	—	—	(本奥書)於高野大師所、実慧僧都伝習・前大僧正口元、(書写奥書)宝暦9.12.3、恵蔵、「東大寺知足院」印
17-51	菩提心論	大本	1冊	—	—	(表紙朱書)「佐伯清童」(表紙墨書)「十終」(朱印)「伊予国温泉郡石手寺」
17-52	[大日経住心品疏科文一]	木版大本	1冊	—	—	「快仙蔵」
17-53	大日経住心品疏第一科[]	特大本	1冊	—	—	(奥書)文久1.1.1.下旬、大空章輪
17-54	大日経住心品疏科文五	木版特大本	1冊	—	—	—
17-55	百題自在房	表紙端紙	1枚	—	—	表紙のみ
17-56	冠註十住心論	特大本	8冊	—	—	開不能
17-57	伊予組積立会勘定帳	竖帳	1冊	嘉永1	—	—
17-58	仁王門功德鑑	木版大本	2巻 1冊	天明1.4	東都書林前川権兵衛	上下巻存、(表紙)「説法所用」
18-0	[経函]	木箱	1函	—	—	—
18-1	[聖教]	折本	1帖	—	—	(奥書)安永8.夏中、仏子英範、前後欠
18-2	[聖教]	折本	1帖	延享4.6.16	瑞澄	奉納石手寺本堂
18-3	[経作法]	折本	1帖	天保8.8.9	沙門[瑞]宝	後欠
18-4	[聖教]	折本	1帖	—	—	—
18-5-0	持戒清浄印信(写)	包紙	1枚	天文1.12.5	金資宏盛	「此文言控本之印信之裏紙写之」、18-5-1を一括
18-5-1-0	持戒清浄文言(写)	包紙	1枚	天文1.12.5	金剛宏盛	18-5-1-1~18-5-1-6を一括
18-5-1-1	梵網菩薩戒本次明	折本	1帖	元禄6.9.7	兼澄	(本奥)都賀僧衣本求得、顕證、(写奥)元禄6.9.7、真乘院本写、兼澄、「柵尾二之内」
18-5-1-2	持戒清浄印信(写)	一紙	1通	天文1.12.5	沙門宏盛判判→弁智	於柵尾観海院住坊
18-5-1-3	持戒清浄印信(写)	一紙	1通	天文1.12.5	沙門宏盛判判→弁智	於柵尾観海院住坊
18-5-1-4	持戒清浄印信 梵網菩薩戒本次明	施風葉	1帖	—	—	(本奥書)慶安2.5.27、以当地蔵院、(書写奥書)天文1.12.5、金資宏盛

18-5-1-5	持戒清淨印信	折本	1帖	—	—	(奥書)正中2.1.8、高惠、「桐尾二之内」
18-5-1-6	持戒清淨印信	折本	1帖	—	—	(奥書)正中2.1.8、高惠(朱書)如仙上人記、印明本説、唐大惣持智通記「桐尾二之内」
18-6-0	伝法灌頂図	包紙	1枚	—	自春房亮貞	(表紙)「明九七」「三包」、18-6-1～18-6-4を一括
18-6-1	三寶院道場図	絵図	1鋪	—	—	(包紙)「三寶院灌頂道場図底儀」「自春房亮貞」、(帯封)「灌頂道場図底儀」
18-6-2	記録書様	横折	1通	—	—	醍醐寺金剛界、胎藏界結縁灌頂に関する事
18-6-3	法頂初後夜 散念誦之事	横折	2通	—	—	(包紙)「灌頂散念誦」、(奥書)万治3.9、法務御自筆ヲ以、尊如
18-6-4	[帯封]	帯封	2本	—	—	「灌頂護摩一帖」「初四」
18-7-0	日々臨終念仏願文式通	包紙	1枚	—	瑞春	—
18-7-1	日々臨終念仏ノ願文	横折	1通	享保16.7.12	義勇瑞春	於江州總持寺(奥書)幸心院寛順法務御制作御願文
18-7-2	日々りんしゃうねん仏のくわんもん	横折	1通	—	—	—
18-8	土公供作法	粘葉装	1帖	—	—	—
18-9-1	御流神祇灌頂初夜授次第	粘葉装	1帖	—	—	(本奥書)文政3.5.11、御流神祇末資憲譽、(書写奥書)天保14.7、啓本、18-9-1～10包紙一括
18-9-2	御流神祇灌頂後夜授次第	粘葉装	1帖	—	—	(本奥書)文政3.5.11、御流神祇末葉憲譽、(書写奥書)文政9.7.27、末資通済
18-9-3	初夜御流神道灌頂胎藏界次第	粘葉装	1帖	—	—	(本奥書)寛政11.3、永久寺釈迦院宗肇師之本書写、密乘沙門亮雅、(書写奥書)文政3.5、泰栗房澄正
18-9-4	後夜御流神道灌頂金剛界次第	粘葉装	1帖	—	—	(本奥書)寛政11.3、内山永久寺釈迦院宗肇師之本書写、密乘沙門亮雅、(書写奥書)文政3.5、豊山沙門憲譽
18-9-5	御流神道灌頂壇前作法兩部共用之	粘葉装	1帖	—	—	(本奥書)文政3.4.中旬、憲譽、(書写奥書)天保41.7、於吉祥院、啓本、(表紙)「御本兩部習合麗氣灌頂入且次第終」
18-9-6	御流神道灌頂壇前作法 初後夜共用之	粘葉装	1帖	—	—	(本奥書)文政3.4.中旬、金資憲譽、(書写奥書)文政9.7.27、末資通済
18-9-7	投華証文	粘葉装	1帖	—	—	(本奥書)文政3.5.16、憲譽、(書写奥書)文政9.7、通済
18-9-8	御流神道灌頂開結事	粘葉装	1帖	—	—	(本奥書)寛政10.9、亮雅、(書写奥書)文政3.5、憲譽
18-9-9	神道勸請作且破且作法	粘葉装	1帖	—	—	(本奥書)享保10.3、神真、(書写奥書)文政9.7.27、通済
18-9-10	御流神名仏名習合様 憲△	粘葉装	1帖	—	—	(奥書)文政9.7.2、末資最勝通済39
18-10	[聖教]	粘葉装	1帖	—	—	前後欠
18-11	[聖教]	綴葉装	1帖	—	石手寺 實秀	表紙に梵字有
18-12	梵綱經 全	木版中本	1冊	寛政13.1	皇都書林寺町通著屋宗八	「近江州八幡東福寺蔵版」
18-13	普遍光明大隨未陀羅尼經	折本	3巻 3帖	—	—	「上二」「上五」「下二」存、破損大
18-14	栗山大[儼]大疏第三重評判有慶僧正記第六[]	豎帳	1冊	明治13.10.下	栗山大儼、於豊山觀学院	(奥書)文化7.5、豊山梧桐寮、沙門釈老、(表紙)「供式」
18-15	根本説一切有部戒經	木版半紙本	1冊	明治13.6.17	書肆東京飯倉森江佐七	「真言宗法務所転法輪蔵版、功德主 高野山蓮上院三枝高範、幹事 樹下覺三」
18-16	御遺告釈疑抄本	大本	1冊	—	各任房義道	「共三」、(奥書)寛永20.9、与州松山石手寺各任実寿、今八淨遍
18-17	經疏秘經相承記 全	半紙本	1冊	享保16.2	求法苾芻陽山瑞春	於和州豊山長谷寺(表紙)「陽口」(表紙裏印)「千秋萬葉熊野山金剛蔵不許讓與」
18-18	不動法私記	折本	1帖	—	—	—
18-19-0	薄二重二仏頂部 四帖	包紙	1枚	—	—	19-1～19-4包紙一括、(表紙)「口阿蔵」
18-19-1	大仏頂	粘葉装	1帖	—	—	(表紙)「二重二」
18-19-2	大勝金剛	柘形本	1帖	—	—	「後二」
18-19-3	熾盛光法	粘葉装	1帖	—	—	「重二」
18-19-4	白傘蓋	粘葉装	1帖	—	音説秀深	「後二」

18-20	靈供作法	一紙	1 通	享保3.7.中旬	法印瑞元→雲元	「三十三通内第十」
18-21	小学 卷之六	大本	1 冊	—	—	前後欠
18-22	護法論	大本	1 冊	—	—	前後欠
18-23	先陳後訖対四 源唯仏説和	豎帳	1 冊	—	—	(本奥)建武1.樹海(写奥)応永四報賢(表紙)「仏子報賢、円範」 「伝領定源」
18-24	金剛頂瑜伽世七尊出生義・ 金剛頂瑜伽經十八会指帰	大本	1 冊	—	快弁	(奥書)明曆1、快鏝
18-25	勸化法要抄 合冊一二三	豎帳	1 冊	—	—	(裏表紙)「明治六年三月於極月堂求之、大了」
18-26	阿字觀節解	木版大本	1 冊	—	沙門華海輯	書林前川宇右衛門刊行
18-27	大疏啓蒙第九之一	木版大本	1 冊	癸亥.10.22	運做	
18-28	大疏啓蒙第五之二	木版大本	1 冊	—	運做	(奥書)天和1.10、老比丘運做誌
18-29	大疏啓蒙第六之五	木版大本	1 冊	天和3.-.端午 日	黙敬漱盥	(表紙)「石住物成」
18-30	大疏啓蒙第九之或問上	木版大本	1 冊	-.11	瑞應運做	(奥書)乙丑仲冬初五依衆師之請筆之竟、瑞應運做、(表紙)「石住物」
18-31	大疏第三重三評	半紙本	1 冊	—	—	(表紙)「惠」
18-32	大疏第三重第六 私評	豎帳	1 冊	文化7	—	(表紙)「惠」(表紙裏)「一事相業 鳳林坊 一藹慈眼院」、 挟み込み有
18-33	大疏第三重一評判	半紙本	1 冊	—	宥慶	(表紙)「惠」
18-34	大疏第三重第六上記	半紙本	1 冊	—	有慶記	
18-35	大疏第三重有慶記	半紙本	1 冊	—	真良	第拾上卷。(表紙)「惠」
18-36	大疏第三重第十有記不審	半紙本	1 冊	—	—	(奥書)豊山領留学之砌書写、密了幸秀(表紙)「隆俊南海(究山)了光道」
18-37	大疏第三重評判第五	半紙本	1 冊	—	有慶	
19-0	[経函]	木箱	1 合	—	—	—
19-1	光明王最勝王経	斐紙木版折本	10巻 10 冊	寛政2.12.-	大日本泉州廬山沙門大忍	城井氏蔵版、経師京都寺町五條上町高木藤兵衛、書林同所中野宗左衛門
20-0	[経函]	木箱	1 箱	—	—	「事相部」 「檀」
20-1	礼記 元	木版大本	1 冊	—	—	「礼記序説」存
20-2	諸懸譚	半紙本	1 冊	元禄14.11.晦	予州 智瑞	(表紙)「大」 「石手寺什物」(内題)「疏第三十五精難精答」 「英岳僧正」
20-3	檜尾口決	半紙本	1 冊	寛延3.12	法如法印義等房	於豊山、(本奥)文禄2.1.5、江州神照寺無量寿院以本写之、(表紙)「梵字」
20-4	大日経住心品疏科文三	木版特大本	1 冊	—	—	「州豫 管口山蔵」(朱印)
20-5	批評判可也可见	半紙本	1 冊	享保5.5.11	可畏彦道人洞雲(落款)	(表紙)「瑞春」
20-6	心王八草紙御判談	大本	1 冊	—	—	後欠
20-7	六大法身口決	大本	1 冊	—	—	(表紙)「三十五之内」
20-8	大疏啓蒙第九之三空性無境	半紙本	1 冊	享保4.11.10	快容	標題は内題に拠る(表紙)「二十二ノ内」
20-9	礼記 負	木版大本	1 冊	—	—	「伊豫国温泉郡石手寺」(朱印)「青木伊三郎 二十年三月」 (裏表紙)「石手寺什物」
20-10	法苑珠林拔書 儒釋要門	半紙本	1 冊	正徳元.4	瑞元	(表紙)「儒箱」 「瑞麟」(裏表紙内)「豫章 舜仁」
20-11	阿波羅波記	大本	1 冊	—	—	(本奥)文治元.4.21、光忠写本(表紙)「勿」 「圓瑞」
20-12	大疏第三重第一卷	半紙本	1 冊	宝永2.10.8	化主亮貞僧正	
20-13	大疏第三重第七私記	半紙本	1 冊	天明2.4.	澄寛坊懂恕改	(本奥)享保6.10.8、化主権僧正信有
20-14	礼記判	木版大本	1 冊	—	—	(小口)「礼三」(裏表紙)「石手寺」(朱印)「伊豫国 温泉郡 石手寺」 綴紐キレ
20-15	鎮座伝記	特大本	1 冊	—	—	(表紙)「神」 「石手寺什物」(表紙)「石手寺什物、薰草」
20-16	大疏第一	木版半紙本	1 冊	—	沙門一行阿闍梨記	綴紐キレ(表紙)「清連」、後欠
20-17	西谷名目巻下末	木版大本	1 冊	寛文8.9.	大佛長刀町[]屋十[]衛門	表紙欠、「石手寺」

20-18	論語徵集覽卷之二	木版大本	1冊	—	—	—
20-19	小学句読口義詳解六	木版特大本	1冊	—	—	(裏表紙)「石手寺」「天台陳選句読」
20-20	発心識体裏即心之印	半紙本	1冊	寛政1.	蓮阿	(本奥書)寛延2.10.9、僧正信恕、標題は内題に拠る
20-21	大疏宗義論議科目記 下	半紙本	1冊	明和4.11.7	鹿鳴秀山房蓮阿(花押)	(表紙)「共二」「恵」、「於豊山勧学西軒書写」、綴紐キレ
20-22	大疏第三重一実智俗縁目録	半紙本	1冊	正徳3.5.28	尚運	(表紙)「初瀬雲巖越後」「一ヶ條目録」「常州老衲沙門亮海記」「長谷寺住山之砌」
20-23	大疏第三重七巻快道記	半紙本	1冊	寛政3.10.9	[沙門林常快道]	(表紙)「会津観覧」「隆浚」「沙門林常快道記」、(裏表紙)「梵字」口観覧
20-24	[文選]	木版大本	1冊	—	—	前欠、後欠
20-25	[異本法花]	木版大本	1冊	—	—	異本の挟み込み有大破、前欠
20-26	大日経疏第一本	木版大本	1冊	—	—	—
20-27	心経愚草第七科	半紙本	1冊	—	頼瑜	(表紙)「持」、(朱印)「千秋萬葉 熊野山金剛蔵 不許譲與」
20-28	内伝篋篋要術	半紙本	1冊	宝暦11.1.5	義等	(表紙)「神」「宝暦十年十二月廿日般日逆三二当ル(舜識)」挟み込み有、綴紐キレ
20-29	神風恵草	大本	1冊	—	越智宿禰橘性向井義元	(本奥書)享保9.5.跡部光海翁判、(表紙)「向井氏書之」、綴紐キレ
20-30	雁魚錦箋一	木版大本	1冊	—	[延李先生]	「増補較正賛延李先生雁魚錦箋卷之二」
20-31	教乘法数巻第三	木版半紙本	1冊	—	—	(表紙)「義堅」「日向」「古杭昭慶員葉斎釋妙燈重梓」、後欠
20-32	[墓誌]	大本	1冊	文化11.7.	観音寺第十三世鑿洲誌嫡孫浅井某乙彫	元暁とその子供の墓誌
20-33	四教五時名目	木版半紙本	2巻 2冊	—	—	(地)小口「五上末」(地)小口「五下末」、上末・下巻存
20-34	口後対	竖帳	1冊	—	—	(奥書)至徳1、良英(表紙朱書)「三百二十年」、(表紙)「口治二年辰十月日」「隆賢」
20-35	[記録]	竖帳	1冊	明和7.10.8	化主快尊	明和7.10.3~同.10.12の詮議について
20-36	唯識二十論	大本	1冊	—	—	(表紙)「真良」
20-37	未来星宿劫千佛名経巻下	特大本	1冊	寛暦7	佛子 先瑞	—
20-38	修習止観禅要	大本	1冊	—	—	「杭州法華山西方庵校刻」、(表紙)「居預 一古口文庫」、(表紙朱印)「梵字」口口山」
20-39	天台四教儀集註懸談	大本	1冊	—	浄界快蓮	(本奥書)明治4.8、智巖、(表紙)「浄界蔵」
20-40	奈加遠美能波羅井麻津加世能斯野	大本	1冊	—	—	—
20-41	真言問答 全	大本	1冊	—	—	—
20-42	無畏禅要下	大本	1冊	承応4.3.-	前川茂右衛門	(本奥書)保安4.7.12、於成身院末学実範、(表紙)「土州太龍」
20-43	聖教	木版大本	1冊	—	—	(表紙)「代々伝録 石手寺口物」、前欠
20-44	文選刪註巻之十	木版大本	1冊	—	—	「司馬長郷」
20-45	不空必要上	大本	1冊	承応4.3.-	前川茂右衛門	(表紙)「土州太龍」、(裏表紙見返し朱書)貞亨3.5.15浄巖、享保元.10.30円栄
20-46	大疏宗義論議科目記	大本	1冊	—	豊山僧正英岳記	(小口)「共二 廉島秀山」
20-47	起信論義記講録第七	半紙本	1冊	—	—	—
20-48	仁王経鈔	木版特大本	2冊	—	—	上、下巻
20-49	新訳仁王経上	木版大本	1冊	—	—	上巻1冊
20-50	大疏第三重第三	半紙本	1冊	宝永4.10.6	僧正尊祐	「僧正尊祐御判談」「菩提心体、宝永四丁亥十月六日」、(表紙)「豫州顯勝王」
20-51	第疏第十評判	半紙本	1冊	宝永1.10.5	亮貞	「宝珠譬喩單純御判談宝永元申申天十月五日亮貞」、大破、後欠
20-52	大疏第三重第六評判	半紙本	1冊	寛延3.6.中旬	佐州宮浦慶宮寺弟子圓智房	(本奥書)元禄13.9.24、僧正英岳代玄海記、(表紙)「儀秀」「与州 澄寛」
20-53	説法明眼論鈔巻下	木版大本	1冊	寛文12.4.-	沙門志閑	(本奥書)正保4.9.19、標題は内題に拠る(朱書)「口性」(表紙)「土陽栄秀」
20-54	孟蘭盆経疏記巻之下	木版特大本	1冊	天和2.4.8	—	(表紙)「大」、前欠

20-55	[食法]	木版大本	1冊	元禄3.10	無量山勤息加州如来教寺直弟 天栄比丘	(表紙)「秀傳求之」
20-56	光明真言經照闇鈔上	木版大本	1冊	寛文12.3.15	沙門亮汰	(表紙)「共三真」「薩州沙門亮汰集」
20-57	代経律論釈法数巻第五、六	木版大本	1冊	—	—	巻第五、六で一冊、後欠
20-58	五時名目下ノ条	木版大本	1冊	寛永18.4.-	—	「天台圓宗四教五時津金寺名目下之来」
20-59	有宗七十五法記 上	木版大本	1冊	—	—	(表紙)「其三」「註冠」
20-60	[聖教]	半紙本	1冊	寛文13	木性 四十五歳	(裏表紙見返し)「前年十二月十二日」、本尊之図、六十四卦の名など記載 前欠
20-61	著秘傳全	大本	1冊	—	昇仙房 龍海	(表紙朱印)「千秋萬葉 熊野山金剛蔵 不許譲與」
20-62	三界義一卷	木版大本	1冊	慶安5.4.-	—	三界義目録 46之事
20-63	校刻 異部宗輪論述記	木版大本	1冊	明和9.1.-	伝法相宗沙門釈基弁撰	(本奥書)元禄9.2原刻・安永3.7.校刻 京洛書肆井上忠兵衛他2名
20-64	性靈集 中	木版小本	1冊	—	—	(表紙)「新点袖珍」「石手寺什物」
20-65	聲字實相義問答	半紙本	1冊	—	豫州 昌演	—
20-66	却癡忌記上 禪堂院	木版大本	1冊	享保2.6.6	沙門亮瑞	(本奥書)元禄6.5.上旬 勢満沙門兼隆(表紙)「東夢三箱 石手寺 木中」
20-67	[書経]	大本	1冊	—	—	「書集伝序」「書経篇目」「書経上」
20-68	大疏談義改作入紙	大本	1冊	文化2.-.-	豊山真如院口英	(表紙)「予州大空」(裏朱書)「右筆豊真如院琳英」、教主真応は文化2、大僧正草按 発心識体は文政1.8.27 即心文印は文政3.11.11
20-69	大疏第三重第三惠隆記	半紙本	1冊	安政4.9.20	秀盛	(表紙)「第十七号玄」
20-70	大疏啓蒙第十之二目録	木版大本	1冊	貞享1.3.27	瑞応休穩老比丘 運做	—
20-71	大疏第十五及十八巻講義	半紙本	1冊	—6.11	門人召軍	(表紙)「演奥自四九巻至五六巻了」、第百席から第百十八席まで
20-72	八伝声懸談	大本	1冊	延享1.秋	張州沙門覚融宏遂	(表紙)「八伝声鈔玄談 孟沿」
20-73	西谷名目玄談	木版特大本	1冊	—	沙門密彦	(表紙)「減縁減行摺覧十如是読文」(奥書)元禄13.1中野小左衛門壽梓
20-74	嚧徳座図、讃頭法則、誦経導師法則	一紙	3通	正保4.8.-	信海	於醍醐寺報息院、清隆源、包紙有
20-75	未来経法則	小横帳	1冊	寛政7.12.9	恵明	「書写之事」「石手寺不出」
20-76	三論玄義講録	半紙本	1冊	享保8.8.上旬	—	(朱書)「以師講演付紙次第書記写为一巻矣科註第一之巻」
20-77	発心識体	小横帳	1冊	本座10.12	—	—
20-78	[聖教]	折本端紙	1枚	—	—	前後欠
20-79	[聖教]	一紙	2枚	—	—	前後欠
20-80	書頭西谷名目 下本	大本	1冊	—	—	中後欠
20-81	[聖教]	大本	1冊	—	—	後欠
21-0	[経函]	木箱	1合	—	—	—
21-1	山谷詩集	木版大本	2巻 11冊	慶安5.5	野田弥兵衛 新刊	(表紙)「変」「熊野山石手寺什宝」「俊尊」(小口)「共十一」、破損大
21-2	水土解弁	木版大本	2巻 2冊	—	求林齋西川如見先生述	(表紙)「トサ栄清」、(表紙裏)「平安城書林柳枝軒刊行(印)」
21-3	春秋左氏伝校本	木版大本	12巻 6冊	文化8.夏	滄浪居蔵版(朱印)	巻15~22・27~30存、(奥書)「左伝周顧、左国世族解 嗣出」「門人村瀬誨輔校」
21-4	大智慶論	木版大本	103巻 53冊	寛文1.12	烏丸通下立売下町 野田庄右衛門板行	巻1~100・條目1~3巻存
21-5	宗義決摂集 廿二巻内	木版大本	20巻 20冊	寛永14.3.21	宥快	(小口)「俊王」(朱印)「最上 大運蔵」
22-0	[経函]	木箱	1合	—	—	—
22-1	阿毘達磨俱舍論	木版特大本	14巻 14冊	—	—	巻3~巻30存、「総計三十号」
22-2	三教指帰註刪補	木版特大本	3巻 3冊	—	江府愛阜沙門運做	巻1、3、4存、「イヨ宗運什物 七巻之内」
22-3	[欠番]	—	—	—	—	22-2と同内容のため統合

22-4	唯識論了義燈	木版特大本	3卷 3冊		溜洲大雲寺惠沼述	卷1本、末、卷7末存
22-5	釈摩訶衍論助解全	木版特大本	1冊	寛永2	豊山化主温如亮貞	「麩屋町遍銷藥師下町東側書林麻妻莊兵衛同姓清衛門寿梓(朱印)」
22-6	小学句読口義祥解	木版特大本	1冊	—	—	(表紙裏)「熊野山石手寺」
22-7	引導要集使蒙	木版特大本	6卷 6冊	—	—	卷1~卷12存、「各宗書籍製本発売所発行者 永田長左衛門」
22-8	十住心論	木版特大本	2卷 2冊	—	—	卷2、9 開不能
22-9	莊子	木版特大本	1冊	—	—	卷2存
22-10	護法資治論	木版大本	1冊	—	—	卷6存、(表紙)「共五 初篇 石手寺什物 薫章」
22-11	大疏第三重六卷記有慶記	木版半紙本	1冊	—	—	—
22-12	古筆拾集抄	木版特大本	3卷 3冊	—	卯融	卷1、2、5存、(表紙)「真」
22-13	勸学院蔵中諸師手澤書籍目録	特大本	1冊	—	—	(表紙朱印)「豊山勸学院蔵本」
22-14	[天道諸表白]	大本	1冊	—	—	(奥書)宝永6.1.6 於高山松仙寺 賢阿
22-15	[三教指帰 上]	木版特大本	1冊	—	—	表紙欠、開不能、瑞天所持
22-16	[孟蘭盆経直講]	木版特大本	1冊	—	—	卷14存、開不能
22-17	論伽課誦 下	木版折本	1冊	—	—	(奥書)撰州大坂信士中筋氏次右衛門施銀十兩伊川氏他25名各施銀十錢
23-0	[経函]	木箱	1函	—	—	三段、(貼紙)「力」
23-1	華嚴経中一乗五教分齊義	木版大本	3卷 3冊	慶安4.11	二條通玉屋町村上平樂寺	「秀伝求之」(小口)「五教章上・中・下」
23-2	大乘起信論疏	木版大本	2卷 3冊	—	—	上卷2、下卷1、2存、開不能
23-3	華嚴一乗教分記輔宗匡真抄	木版大本	1冊	—	—	開不能、(小口)「匡真抄一」
23-4	華嚴法界義鏡 世云華嚴	木版大本	2卷 2冊	—	—	(表紙)「共二禪」「通同」(小口)「法界義鏡上下」(小口)「共二」「隆延」開不能
23-5	大日経疏第一本抄	木版大本	9卷 4冊	—	—	「上半三之四」「上半四之五」「上半五之七」「下半一之二」存、開不能
23-6	大疏第三重第四私考 下	半紙本	1冊	—	武陽中嶋金剛教院快慧草	(小口)「疏四私下」、開不能
23-7	疏第三重六余義勘文 下	半紙本	1冊	—	—	(小口)「素光」、開不能、標題は小口に拠る
23-8	荒斗八気	半紙本	2卷 2冊	—	—	(小口)「光」、標題は小口に拠る
23-9	[聖教]	半紙本	1冊	—	—	開不能、(小口)「□□□記」
23-10	大疏管絃秘曲俯聴審問 土臣口専	木版半紙本	1冊	—	—	(小口)「全 管絃秘曲」、開不能
23-11	大乘成業文林抄	木版大本	4卷 4冊	—	—	—
23-12	叢篋理諺抄 四	木版大本	1冊	—	—	—
23-13	観音疏記講録	木版大本	2卷 2冊	享保10.夏	大雲謹撰	—
23-14	標拳問答	木版大本	2卷 2冊	文化6.6.27	信陽太運	中・下存、(奥書)文化5.7.11、筆者信陽沙門釋太運宥光 生年21才
23-15	僧史略 上	木版大本	1冊	—	—	—
23-16	四分義極略私記 上	木版大本	1冊	—	西大寺別当忠美撰	(表紙)「伊」
23-17	百法問答抄	木版大本	9卷 9冊	—	書林中野五郎左衛門刊行	(奥書)享保14.12、予州松山 端道房間瑞(花押)
23-18	釋氏要覽	木版大本	3卷 3冊	—	前川茂右衛門尉開板	上・中・下存
23-19	叢篋理諺抄	木版大本	4卷 4冊	—	—	1、2、3、5卷存。書肆定栄堂大坂心齋橋吉文字屋市兵衛他2名
23-20	疏[]	大本	1冊	天明2.1	澄寛房賢恕	(表紙)「儀」
23-21	大疏第三重口口私記 完	大本	1冊	—	—	(表紙)「恵」
23-22	唯識義	木版大本	4卷 4冊	—	釋真興撰	章1、2、3、4存、(表紙)「章範斬舎」
23-23	阿弥陀経通賛疎 上中下	木版大本	3卷 3冊	—	—	全存、(奥書)嘉暦1.6.17、大慈恩寺沙門窺基撰、(朱印)「端口蔵」

23-24	円覺經略疏	木版大本	2卷 2冊	—	唐終南山草堂寺沙門宗密	序・上之一・二、下之一・二全存、金紫祿大夫裴休撰、龍沙章江禪院伝法沙門如山註序(奥書)元祿7.7、村上平等寺重鐫(表紙)「弥勒章初張己來」
23-25	成唯識論述記序解	木版大本	2卷 2冊	元祿9.1	実養著、書林中野宗左衛門	全存
23-26	法苑義鏡	木版大本	5卷 6冊	—	五心義林 釈善珠述	(裏表紙)明治4.2.下旬、新薬師密寺喜多坊大了、(表紙)「伊 卓慎」
23-27	唯識論枢要	木版大本	2卷 4冊	—	大慈恩寺 翻經 沙門基撰	上本、上末、下本、下末存、「大空蔵」
23-28	大武第二私記	半紙本	1卷 1冊	—	—	標題は下小口に拠る、(背)「栄福」
24-0	[経函]	木箱	1函	—	—	三段、(貼紙)「忍」
24-1	大疏啓蒙	木版大本	10卷 18冊	貞享4.12	運做	第6~8欠力、(奥書)瑞応七十四叟運做、(表紙)「宝乘」、第一~十或問18冊
24-2	大疏啓蒙第一或問	木版大本	1冊	貞享4.12	運做	(裏表紙裏朱書)「予州円成」、(表紙)「五十八冊内」
24-3	大疏啓蒙第一之目録	木版大本	1冊	貞享1.6.10	運做	(裏表紙)文政3.9.11、法雲房瑞阿主、「石什物」
24-4	大疏啓蒙	木版大本	3冊	貞享1.6.10	運做	(奥書)貞享2.7、門人黙敬漱盟謹書、(表紙)「イヨ興春」共六、第1-4・5存
24-5	大疏啓蒙	木版大本	2冊	貞享1.4.7	運做	(表紙裏朱書)「高幢」(表紙)「實勢主」、第一之三目録、第十之三目録存
24-6	大疏啓蒙	木版大本	3冊	貞享1.4.6	運做	「茶全」「イヨ実門」「与州賢意」。第9-1目録・或問上下、1-1目録、1-2目録存
24-7	大疏啓蒙第三之上目録	木版大本	1冊	巳未.11.15	老比丘泊如	表紙欠
24-8	大疏啓蒙	木版大本	3冊	貞享1.4	老比丘運做	(表紙)「土州観鏡」共六、第一之一、一之四、一之五存
24-9	大疏啓蒙	木版大本	6冊	天和2.11.13	老比丘運做	(表紙)「与州昇住」、第六之一、二、三、四、五、第六或問存
24-10	大疏啓蒙	木版大本	7冊	文政7.8	老比丘泊如書写	(表紙)「イヨ智賢」、(奥書)貞享1.4.6~2.7、運做。第1-2・4・5.2-1・2・3・或問存
24-11	大疏啓蒙	木版大本	6冊	貞享1.3	老比丘運做	(奥書)貞享2.8.門人黙敬合十題。第10-1・2・3・4・10或問上下存
24-12	大疏啓蒙	木版大本	14冊	辛酉.11	老比丘運做	(表紙)「石手寺什物」第5-1・2・3・4・5、6-5.8-3.9-4.9或問下、10-1・3・4・或問上下存
24-13	標輿問答上	大本	1卷 1冊	—	—	(奥書)文化6年5月28日信州沙門釋音光、(表紙)「大疏第三重一二三卷惠信陽大運」、(小口)「共三信州音光」、「標輿問答上」
24-14	識義章	大本	2卷 2冊	—	—	(五本末表紙)「其口章範斬舎」、(五本末小口)「哲空隆賢」「唯識義章五」、(六本末表紙)「共六章範斬食六」、(六本末小口)「哲空隆賢」「唯識義章六止」
25-0	[経函]	木箱	1合	—	—	木製、三段、(蓋)「忍真言」
25-1	華嚴五教章匡真鈔	木版特大本	9卷 9冊	—	京西華嚴教住持僧瀧鳳潭	巻2~巻10存
25-2	百法問答鈔私考	木版大本	6卷 6冊	天和3	八尾清兵衛	巻1~9存、(小口)「西海芳瑞」、(巻9奥書)天和3.2、八尾清兵衛
25-3	表無表章詮要鈔	木版特大本	6卷 6冊	—	—	巻1~6存、(巻6奥書)延宝2、三條衣棚町文台屋多兵衛梓行、(表紙)「雲」
25-4	秘蔵記旨要鈔	木版特大本	4卷 4冊	—	南山桜池院雄竹記	巻1、2、4、5存、(表紙)「土州栄順」(巻5奥書)寛文11.2、仲野小佐衛門開板
25-5	付法伝纂解	木版特大本	5卷 5冊	—	東海愛皐住持沙門運做選	巻1上下、巻2上下存、(巻2奥書)寛文3.3、前川茂右衛門刷新行、(奥書)延享3.5、於南海紀陽、沙門釋昭乘
25-6	四教集解	木版特大本	3卷 3冊	元祿6.2	京烏丸三木太郎右衛門	巻上・中・下存、(奥書)寛文9.4.1於洛東東西軒
25-7	理趣釋經最勝究竟義	木版特大本	5卷 5冊	—	松徳寺 千光編集	巻上之本・中・末、下之一、二存(下之二奥書)正徳2.4.8 天龍山松徳寺蔵版 沼田喜右衛門同与兵衛(表紙)「共五巻」「上陽昌徳」
25-8	開題	木版大本	5卷 5冊	—	—	「江州八幡宮實相院」
25-9	真言二字義	木版半紙本	1冊	—	—	(表紙)「深覚」、(奥書)弘安3.3.11、沙門覚胤
25-10	八家秘録 上	木版特大本	1冊	—	—	—
25-11	仏生講式 全	大本	1冊	文政5.4	イヨ頭竜主	—
25-12	四分義極略私記下	木版大本	1冊	—	—	—
25-13	長曆	木版大本	1冊	万治2.8	吉旦寺町誓願寺前西村又左衛門新板	(奥書)寛永11、新説、(表紙)「神」
25-14	[聖教]	折本	1冊	—	—	前・後欠

25-15	[聖教]	特大本	1冊	—	—	探心略記等、貞享～元禄、南海予州松山求法釋沙門慈雲瑞龍書写
26-0	[經函]	木箱	1函	—	—	木製、三段
26-1	大日經住心品疏玉振鈔	特大本	4卷 4冊	享和2	南紀根嶺大伝法院蔵梓	卷3、4、7、附存、(表紙)「恵明」
26-2	管絃相成義	木版特大本	2卷 4冊	寛政7.8	根嶺沙門法住記	南紀根嶺大伝法院蔵版、東六条中數珠屋町池田屋七兵衛、乾坤卷各2冊
26-3	大疏啓蒙	木版特大本	5卷 5冊	—	—	第2.9存、「智積院蔵版」、(表紙)「順海」、(奥書)老比丘運做、(表紙)「与州能持」「イヨ顯勝主」、(奥書)天和3.12.9、瑞應比丘運做
26-4	具舎論頌疏	木版特大本	8卷 8冊	宝永5.10	中大雲寺沙門圓暉述	卷3、13、14、21、22、24、28存、樽桑国皇畿書坊三木太郎左衛門他5名
26-5	金七十論	木版大本	3卷 3冊	安永年中	張州亮傳	於豊山書肆求(本奥書)元禄8.12、総之下州仮高妙雲山法輪講寺住呂如海謹識
26-6	首椽巖義疏注經	木版特大本	10冊	延宝8.6	—	—
26-7	秘密雜記	特大本	2冊	—	—	(本奥)宝永6.於三輪山遍照院性亮阿闍梨本、隆山房慈光、(写奥)明和9.6、資林常快蓮
26-8	三種悉地破地獄儀軌仏頂尊勝地破地獄儀軌	特大本	1冊	—	—	(表紙裏朱印)「千秋萬葉熊野山金剛蔵不讓与」
26-9	秘密因縁管絃相成義弄引	大本	2卷 2冊	寛政9.1.中旬	土州太龍	於明王院、(表紙)「土州太龍」「全貳」
26-10	大乘義章	木版特大本	20卷 24冊	延宝2	遠法師撰	中野小左衛門板行
26-11	仏国曆象編	木版大本	5卷 5冊	—	平安東森隱士無外子釈円通	「東叡大王府蔵版」「御本製大阪長堀橋北詰榮大和屋四郎兵衛」
27-0	[經函]	木箱	1函	—	—	三段、(貼紙)「慧」
27-1	大疏第三重第一道私記	大本	4卷 4冊	—	林常快道記	(奥書)安政4.6下旬、於豊山普川院仏子智盛、(表紙)「予州智盛」。天、地、第3.9存、朱印「智盛」「章輪」
27-2	疏第三重私記	大本	2卷 2冊	—	林常快道記	(奥書)文化9.8、宥光、第六、第八存、(表紙)「共十五」「秀恵蔵」
27-3	大疏第三重有慶記六	大本	上下 2冊	—	—	(奥書)嘉永3.9、南予興俊、(表紙)「共二予州興俊持」
27-4	大疏第三重評判	大本	4卷 4冊	—	—	(奥書)イヨ大量。第3、8、4卷存。開不能、(表紙)「月イヨ大量」、(小口)「十卷之内」
27-5	第三重評記	大本	1卷 2冊	—	—	4巻が2冊存、1冊開不能
27-6	大疏百條	大本	2卷 2冊	—	—	第3、第7存、第7開不能
27-7	大疏第三重評判有慶記	大本	1冊	—	化主圭賢真良記	(本奥書)文化11、於豊嶺方丈前部屋、予州大量、(奥書)嘉永7.7、於景山門前普門院予州堪道、(表紙)「イヨ堪道」、(小口)「十卷之内」
27-8	大疏第三有慶記	大本	1冊	—	土州真良房有慶僧正	(奥書)嘉永7.7下旬、於豊山普門院、予州智盛房章輪、(小口)「共二イヨ智盛」
27-9	大疏第三重第六私記	大本	1冊	寛政2.12.20	林常記	(奥書)安政7、(小口)「共十イヨ智賢」
27-10	大疏第三重第四	大本	1冊	—	林常快道記	(奥書)安政5、於石手寺谷上山住栄賀、(表紙)「恵又玄」、(小口)「又玄」
27-11	大疏第三重二評判	大本	1冊	—	豊山上陽沙門林常快道記	(奥書)安政3冬、於松山余郡朝生田村善宝寺智盛章輪、(本奥書)筆者備前国岡山浪人久須美忠次郎、(表紙)「忠大空」
27-12	大疏第三十問	大本	1冊	—	僧正亮貞	(奥書)文政7、於和州豊山勸章院昇佳陽阿、(表紙)「予章昇佳」
27-13	秋經相美記并法身三觀	大本	1冊	享保16	瑞軒陽山瑞春	於隣山(表紙)「陽山」「(小口)「全」「(朱印)「千秋万葉熊野山金剛蔵不許讓与」
27-14	法華講談	大本	1冊	宝永2.7.12	豊山慈心院現住泉栄房	(表紙)「加石手寺宝蔵」、朱印「千秋万葉熊野山金剛蔵不許讓与」。予州慈雲房桂巖講演
27-15	大疏第九有慶記	大本	1冊	—	—	(表紙朱印)「超倫」
27-16	大疏第三重第三如意蔵	大本	1冊	—	—	(奥書)享保10.9上旬於洛東智積妙雲軒窓予州善音快做(表紙)「イヨ善音潮瑞房」
27-17	大疏第三重第六余義副文	大本	1冊	—	化主信怒	上巻。(小口)「共二素光」
27-18	大疏第三重第十私記甲申	大本	1冊	—	化主亮貞僧正	(表紙)「甲辰記併せて三通之内」、(表紙朱印)「千秋万葉熊野山金剛蔵不許讓与」
27-19	大疏第三評判第八快道記	大本	1冊	—	林常記	(奥書)天保13.9中旬、越后慈等賢慎、(表紙)「恵」、「越后慈等」
27-20	大疏第三重林常快道記	大本	1冊	—	上野林常記	10巻、(表紙)「恵」
27-21	大疏第三重有慶記評判	大本	1冊	—	化主圭賢真良記	十之巻。(表紙)「土州文教隆俊」
27-22	大疏第三重	大本	1冊	寛政1.11	和州豊山寓学上毛快道	(表紙)「隆俊」

27-23	大疏評判第九快道記	半紙本	1冊	安永2	豊山上毛沙門快道記	(表紙)「會津神興隆俊」、(奥書)文化10.9、於紅葉片、沙門善澄
27-24	大疏第三重第五快道記	半紙本	1冊	安永8.10.8	常林	(表紙)「土佐隆玄」、(奥書)文政12.8.18書写了、綴じ紐キレ、虫損
27-25	大疏第三重第六快道記	半紙本	1冊	寛政2.12.20	林常快道	(奥書)萬延1.6、泰聰、「化主快運」、虫損
27-26	大疏第三重卷之二有慶記	半紙本	1冊	延享3.10.8	化主僧正信恕真良私記	(表紙)「土陽觀鏡」、綴じ紐キレ
27-27	大疏第三重二之卷評判	半紙本	1冊	安永5.10.8	豊州土陽沙門快道記	(表紙)「豫州顯勝」「恵」、綴じ紐キレ、開不能
27-28	大疏八之卷評判快道下	半紙本	1冊	—	—	(本奥書)天保3.武陽調布法玄、(写奥書)天保13.豫陽章栄誌、(表紙)「恵」
27-29	大疏第三重第三評判	半紙本	1冊	—	—	(表紙)「快道記」「恵」「開提定性林常僧正御記」、綴じ紐キレ
27-30	[大疏第三重評判第一]	大本	1冊	—	林常快道記	(奥書朱印)「賢」
27-31	大疏第三重第一快道記評判	大本	1冊	—	豊山快道林常記	(奥書)安政2.9.21、於豊山普門院、予州産智賢章栄、(表紙)「恵」
27-32	大疏第三重第四評判全	半紙本	1冊	安永7.2.28	化主僧正信恕	(表紙)「恵」「二月廿八日論義近代未聞云云但近年從京都智積院所為招之云云」、破
27-33	大疏第三重九卷快道記	半紙本	1冊	—	—	(表紙)「恵」、虫損、開不能
27-34	十地十六生	半紙本	1冊	—	—	(表紙)「□□□□重十聞書」、標題は内題に拠る、(表紙朱印)「千秋萬葉熊野山金剛藏不許讓與」、綴じ紐キレ、後欠
27-35	第三卷快道記	大本	1冊	安永6	快道	(奥書)安政4、初二條於豊山慈眼院、後五條与州松山多聞院、与州顯勝、(表紙)「恵」、「△此一巻内朱書并墨書ノ細字ハ私ニ書入ル也、非快道師ノ義ニ向後覽之人可得其趣ヲ云云」 「寛邦」
27-36	第三重八之卷快道記	大本	1冊	—	林常快道集	(表紙)「文教」
27-37	四威儀小作法	半紙本	1冊	明治14.5	真言宗法務所蔵版	(奥書)明治14.5.17届、東寺定額僧釈雲照北豊嶋郡田端村大龍寺寄照等著
27-38	唯一長卜部兼延記	半紙本	1冊	—	—	(奥書)元禄15、於豊山勸学院、仏子端瑞元、(表紙)「石手寺什物」
27-39	民間歳時記	半紙本	1冊	—	名古屋玄医選	(奥書)延宝8.秋下旬、於南泉妙順寺、八十甲子
27-40	顯教二教論參上講延上之一	大本	1冊	—	真言沙門釈亮海録	(奥書)於大和国式上郡初瀬村豊山長谷寺金剛仏子大洪戒叉、(表紙)「予州栗山大儂」
27-41	五字金鑰全「天」	大本	1冊	文久3	大道良正選	(表紙)「敲雲」
27-42	大日經疏鈔	木版特大本	1冊	—	東寺西院僧坊	第一本鈔二卷、(奥書)元徳2.8.4
27-43	性靈集便蒙第十	特大本	1冊	延宝3.4	前川茂右衛門尉刊行	第十卷(終)、(奥書)享保3.7、於和陽豊山
27-44	[聖教]	大本	1冊	—	—	標題欠損、開不能
27-45	増補諸乘法数	木版中本	1冊	—	姑蘇洞庭沙門行深編集	(奥書)貞享2.2原板須磨勘兵衛、明治13.3.8御届、同29刻成(表紙)「予州大儂」
27-46	円機活法卷之十二	木版中本	1冊	—	—	表紙裏表破損大
27-47	[聖教]	折本	1帖	—	—	表紙欠、帙有
27-48	[聖教]	半紙本端紙	2枚	—	—	—
27-49	[表紙]	表紙端紙	1枚	—	—	「宝」
28-0	[經函]	木箱	1函	—	—	三段、(貼紙)「威」
28-1	史記評林	木版大本	82巻 12冊	延宝2.5	洛陽本能寺前八尾友春刊	序、総、家12~29、伝1~49、58~70巻存
28-2	俱舎論記	木版大本	20巻 28冊	—	沙門釈普光	全存、(奥書)元禄15.9、平安城宣風坊書林井上實氏蔵版
28-3	俱舎論疏	木版大本	30巻 30冊	—	沙門釈法宝撰	全存、(奥書)宝永1.6、平安城宣風坊書林□□□蔵版
29-0	[經函]	木箱	1函	—	—	—
29-1	大疏第三重	木版特大本	5冊	寛永10	—	—
29-2	大疏百條第二重	木版特大本	1冊	貞享.10	瑞應退隱比丘泊如運做識	(表紙)「文精」
29-3	大疏談義	木版特大本	2冊	貞享1.夏	瑞應休隱比丘運做	(奥書)門人慶宜、「豊山勸学院蔵版 弘所書林 山田善三郎」
29-4	大流談義	木版大本	1冊	—	—	(表紙)「石手寺什物」

29-5	大疏談義	木版大本	1冊	貞享1	瑞應休隱比丘運徹	(奥書)門人慶宜、(表紙)「豫洲大空」、(朱書)明治2.11求之畢、大空章範
29-6	大疏談義	木版大本	1冊	貞享1	瑞應休隱比丘運徹	(表紙)「倍咩」、(奥書)門人慶宜、安政2.6.晦日、濃州沙門倍咩
29-7	自証說法十八段 全	大本	1冊	—	—	—
29-8	自証說法十八段	木版大本	1冊	—	—	(表紙)「虎」、(黒印)「是春房」
29-9	自証說法十八段	木版特大本	1冊	—	—	(表紙)「共十一」、(蔵書印)「イヨ 龍恩」
29-10	校訂 自証說法十八段	木版特大本	1冊	—	—	(表紙)「大映」、(朱印)「成音」、1丁目「瑞天」
29-11	大疏第三重第十目錄	木版大本	1冊	天和2.9	烏丸通大和屋久兵衛	—
29-12	大疏百條第二重	大本	1冊	貞享2.10	瑞應退隱比丘泊如運徹	(本奥)明和2.法雲行歳26、(写奥)慶応4年校合、(表紙朱書)「文教」
29-13	大疏第三重	木版大本	1冊	—	—	—
29-14	大疏百條第三重第九	木版大本	1冊	—	—	(裏表紙見返し)瑞伝 護持者 栄信、瑞全(裏表紙)「石手寺什物与州瑞全」
29-15	大疏第三重九	木版大本	1冊	—	—	(表紙)「被 大儼」
29-16	大疏第三重九	木版大本	1冊	—	—	(表紙)「へ」、土州太口」
29-17	大疏第三重十	木版大本	1冊	寛永10.8	—	(蔵書印)「イヨ龍恩」
29-18	大疏百條第三重第十	木版大本	1冊	寛永10.8	洛下桐花軒井上忠兵衛	(裏表紙見返し)「龍浄」
29-19	大疏第三重	木版大本	2巻 2冊	—	—	3、10巻存、(表紙)「咸」「石手寺什物」「熊埜山第壹号拝備」(裏表紙)「石手寺什物」
29-20	大疏百條第三重第一	木版大本	1冊	—	—	(表紙裏)「地藏」
29-21	大疏百條第三重第二	木版大本	1冊	—	—	(表紙)「石手寺 土州 管口」
29-22	大疏百條第三重第十	木版特大本	1冊	寛永10.8	—	—
29-23	大疏第三重	木版特大本	2巻 2冊	—	—	9、10巻存
29-24	大疏第三重	木版大本	4巻 4冊	—	—	2、4、9、10巻存
29-25	大疏百條第三重	木版大本	3巻 3冊	—	—	1、5、7巻存、(7巻蔵書印)「イヨ龍恩」
29-26	大疏草子 四	木版大本	1冊	—	—	(背)「共十一 章」
29-27	大疏第三重 九	木版大本	1冊	—	—	—
29-28	大疏第三重	木版大本	7巻 7冊	[安政4~6]	智盛章輪	於豊山普門院写、(表紙)「智盛」
29-29	大疏啓蒙	木版大本	11巻 11冊	—	—	(背朱書)「東冬求」
30-0	[経函]	木箱	1合	—	—	—
30-1	[聖教]	半紙本等	38冊	—	—	「三十帖冊子」等、一段目すべて、開不能
30-2	加行用入	切紙等	8通	明治20~36	—	「金剛界表白」(切紙、包紙有、明治36.5)、「胎藏界表白」(〃)、「傳授目錄并十八道加行作法」(横折2通、包紙有、(奥書)明治31.11.5、秀陽僧正之御本写之、章妙)等
30-3	佛布施包形一巻附私記一紙	一紙等	13通	—	法如、快徹、亮瑞等	「五瓶莊彩帛結縁図并私記一紙」(享保14.1、我師源長和尚勸学院灌頂説明之砌書写、包紙「快徹」)、「五色糸引図・五瓶莊嚴」、(本奥書)文禄2.5.7、於五條回幡堂、以五坊性盛御本書之、来榮甚良房、(奥書)元文3.6、於豊山、夏良房有慶)等有
30-4	本願方	豎紙	2通	大正13.10.5	傳燈大阿闍梨權中僧正正盛→大本僧正	包紙有、愛媛縣温泉郡道後村石手寺道場授兩部灌頂印可、「傳法院流相承血脈」(大日如来→大本、豎紙)有
30-5	本願方印信一紙	豎紙	1通	明治27.6.8	大阿遮梨前長者法務大僧正単嚴(花押)→權少僧都大本	包紙有、於長谷寺道場、授兩部灌頂印可
30-6	傳法許可灌頂印信紹書	豎紙	2通	明治30.11.8	傳授大阿闍梨大僧正大了一→權中僧都大本	30-6~9こより一括、於東京護國道場、授兩部印可、「傳法許可灌頂印信」(豎紙)有
30-7	重上人方	一紙	2通	明治30.12.31	阿闍梨大了一→大本	「第二重」「第三重」有
30-8	重幸心	一紙	2通	明治30.12.31	阿闍梨大了一→大本	「第二」「第三」有

30-9	傳法灌頂印信紹書	豎紙	3 通	明治16.2.28	傳授大阿闍梨大教正和尚位秀善→大法師大本於長谷寺道場、授兩部灌頂	包紙有、(奧書)明治30.12.12、傳授大阿闍梨大僧正大了→大本「此印信授与」と有、「[血脈]」(大日如来→大本)、「傳法歛帳阿闍梨職之事」
30-10	生々而加護	一紙	1 通	明治27.6	大阿闍梨前長者法務大僧正榮嚴大和尚位(花押)→權少僧都大本	30-10～-15より一括、於長谷寺道場、包紙有
30-11	延三七大事	一紙	1 通	明治27.5.25	傳授大阿闍梨法務大僧正榮嚴(花押)→大本	包紙有
30-12	三衣一鉢大事	一紙	1 通	明治27.5.21	傳授大阿闍梨法務大僧正榮嚴(花押)→大本	於和州豊山長谷寺道場、包紙有
30-13	不動尊大事	一紙	1 通	明治27.5	傳授大阿闍梨法務大僧正榮嚴(花押)→大本	包紙有、於豊山長谷寺道場
30-14	印可	豎紙	1 通	明治27.3.2	大阿闍梨前長者法務大僧正榮嚴大和尚位(花押)→權少僧都大本	包紙有、於長谷寺道場
30-15	持戒清淨印信	豎紙	1 通	明治27.5.31	傳授大阿闍梨前長者法務大僧正榮嚴(花押)→大本	包紙有、於豊山長谷寺道場
30-16	瑜祇灌頂印信	一紙	3 通	明治30.11	章妙	包紙有、「瑜祇灌頂印口」「瑜祇血脈」「印可道場觀如来奉印」、(血脈)大日如来～章範
30-17	九徹印明	一紙	1 通	—	大阿闍梨大了→阿闍梨章範	包紙有「不動九徹印」「最極秘印明授阿闍梨大本(章範)畢」小破
30-18	後夜念誦幸心	一紙二枚繼	1 通	—	阿闍梨大了→大本	繼目はがれ有、包紙有、「後夜念誦当流」、「阿闍梨大了→授与大本」
30-19	阿弥陀湏	一紙	1 通	—	阿闍梨大了→大本	—
30-20	[印信写]	一紙	2 通	—	阿闍梨大了→大本	「愛染王三十七尊秘々印」、「愛染王法就廿七尊印信有重、淺深習事」、「阿闍梨大了→授与大本」、包紙有
30-21	阿闍梨位	一紙	2 通	—	阿闍梨大了→大本	包紙有
30-22	瑜祇序文同切文	一紙	2 通	—	阿闍梨大了→大本	包紙有、「即身成佛義言」、「瑜祇序文」、「阿闍梨大了→授与大本」
30-23	不動断末魔大事大本	一紙	1 通	—	阿闍梨大了→大本	包紙有、「不動断末魔大事」
30-24	得自性清淨如来大事	一紙	1 通	—	阿闍梨大了→大本	包紙有、「法菩薩印」、「觀自在王印」、「胎藏蓮花印」、「決定往定印」、「卍八願印」
30-25	火伏法	一紙	1 通	明治30.11	章籍阿闍梨傳之→大本	包紙有、(本奥書)宝曆8.11.11、覺融阿闍梨傳之→有慶
30-26	火伏印信 唯授秘々	一紙	1 通	明治30.11	章籍阿闍梨傳之→大本	包紙有、(本奥書)太龍法印僧正→馴龍
30-27	妙成就	一紙	1 通	—	阿闍梨大了→大本	包紙有、(包紙)「妙」
30-28	断末魔印信	一紙	1 通	—	阿闍梨大了→大本	包紙有
30-29	三部經大事	一紙	1 通	—	阿闍梨大了→大本	包紙有、(包紙)「三」
30-30	仁王經轉讀印明	一紙	1 通	—	(梵字)(梵字)大了→大本	包紙有
30-31	九品往生印信	一紙	1 通	—	(梵字)(梵字)大了→大本	包紙有
30-32	佛布施之事	一紙	1 通	宝永4.2	—	—
30-33	根来寺蔵版興教大師行狀 図記	木版大本	3卷 3冊	明治21.2.18	上野相憲著	発行兼印刷東京府平民森江佐七、(表紙)「直樹」、(朱印)「新義派宰務所蔵版印」
30-34	果宝口訣賢宝記卷之四	木版大本	1冊	延文1.10.22	東寺西院僧房封師	—
30-35	般若理趣經純秘鈔	木版大本	3卷 3冊	—	薩州沙門亮汰集	(表紙)「隆俊」、(奥書)元禄3.11.10、板本麻妻良保同庄兵衛開板(印)、(朱印)「良保」
30-36	般若心經秘鍵講翼	大本	2卷 2冊	—	—	(奥書)文化12.2、於瀧雲山五智院南子乞食智英、表紙「紹空(印)」
30-37	大日經疏文前要義	木版中本	1冊	明治31.6.4	権田雷斧著、密蔵教報社発行	—

30-38	[聖教]	枡形本	1帖	—	—	表紙「初快賢」、表紙欠、小破
30-39	ノートブック	ノート	1冊	—	—	鉛筆書5ページ使用、中型のノートブック
30-40	胎蔵界念誦次第	枡形本	1帖	—	—	—
30-41	妙法蓮華経卷第三	木版	6枚	—	—	—
30-42	愚迷発心集全	木版小本	1冊	明治22.7.25	名古屋区山田二郎三郎著・発行	—
30-43	字記聞書	大本	1冊	—	—	(表紙)「大」、(表紙朱印)「千秋万葉熊野山金剛蔵不許譲与」
30-44	伝法漢頂血脉	特大本	1冊	—	—	(奥書)享保6.10.27、於般若寺妙寂院三輪大御輪寺東禅院高心
30-45	大疏談義	木版特大本	2巻 2冊	貞享1.10	門人慶宜	(表紙)「直樹大本」、(小口)「阿弥陀山元雅」
30-46	二十唯識論	木版特大本	3冊	明和4	東大寺西室伝法相宗沙門釋基弁選	唯識二十論、唯識二十論述記上下巻、(下巻奥書)元禄15.2、上院開板、明和5.2改正、皇都書林井上忠兵衛河南四郎右衛門合梓、(上下表紙)「直樹大本」
30-47	起信論義記	木版特大本	3巻 3冊	—	京兆府魏国西寺釋法蔵	(奥書)元禄12.9、洛下額田正三郎他2名蔵板、皇都丁子屋庄兵衛丁子屋定七
30-48	自證説法十八段	木版特大本	1冊	—	—	(表紙)「智盛」、(小口)「共十一越後快亮」
30-49	唯識三類境選要完	木版特大本	1冊	—	—	(奥書)享保18.1、求版〔 〕
30-50	心経略疏全	木版特大本	1冊	—	京兆崇福寺沙門法蔵選	(奥書)寛永20.2重梓、(表紙朱書)「天」
30-51	因明論科註完	木版特大本	1冊	文化2.9	豊山本願院住持僧睿倫選	(奥書)明治4.11、南都新薬師寺の講演にて補意
30-52	大疏百條第三重第一	木版特大本	1冊	—	—	(表紙)「智盛」、(表紙朱書)「玄」
30-53	開眼大事	横折	1通	明治13.2.下	阿闍梨章範→弘恕	「阿闍梨章範示之」「授与弘恕」
30-54	苾芻戒牒	一紙	1通	明治24.11.16	傳戒鄔婆駄耶大了	「傳戒鄔婆駄耶大了」(朱印)、「攝心能修惠粵大本以明治廿四年十二月十六日已刻於武蔵国弥勒寺戒道場兼通受」、包紙有、小破
30-55	求法傳授目錄	横帳	1冊	明治30.10.28	章妙	包紙有、「自明治三十年六月十六日至同年十月廿八日奉傳授畢」「智積化主権大僧正快連大和尚奉傳授標目」
30-56	纂元回授	枡形本	1帖	享保20.2.26	義勇瑞俊	包紙有、(表紙裏)「千秋萬葉熊野山金剛蔵不許譲与(印)讚州覚盛携筆」、「享保第廿乙卯季二月廿六日以他筆書写畢義勇瑞俊」、(朱書)「同年同月廿七日交合了」、包紙有、「不動法」「両大師所作」「以上毎日三時」、虫損、中破
30-57	幸心院流印可前行作法	豎紙	1通	—	大本	(表紙)「真言宗法務所」、「密嚴教報第百八十五号附録」・密嚴教報社発行、「明治廿五年四月十四日遞信省認可」、(表紙朱印)「直樹」
30-58	明治三十年改正宗典并法規	活版並製本	1冊	明治30.6.12	青鹿秀榮発行兼印刷、小林楚龍編輯	(表紙)「直樹」、「密嚴教報第二百二十三号附録」
30-59	真言宗新義派寺法	活版並製本	1冊	明治32.1.12	—	(表紙朱印)「直樹」
30-60	真言宗新義派学制	活版並製本	1冊	—	—	離騷・屈原、九辯二首・宋玉、等有、(表紙朱印)「直樹」
30-61	漢文学	活版並製本	1冊	—	文学士桑原鷲蔵編纂	—
30-62	幸心方大阿手鑑	折本	1冊	明治32.4.20	大本依豊山大阿手鑑記ス	—
30-63	加持世界第一号附録	活版並製本	1冊	明治33.10.10	加持世界社	綴外れ「明治卅三年十月八日内務省許可、明治卅三年十月十日第三郵便物認可」
30-64	故大僧正大了和上塔銘	拓本めぐり	1枚	—	—	「陸軍中将正三位勲一等小爵三浦梧楼撰著」
31-0	[経函]	木箱	1合	—	—	(上段上板)「大」
31-1	[聖教]	大本	40巻 40冊	—	—	1段目すべて開不能
31-2	大疏指心鈔	木版大本	15巻 15冊	—	—	一、二、四~十六まで存
31-3	大疏指心鈔	木版特大本	12巻 12冊	—	—	(表紙朱書)「欠」、(三巻表紙朱書)「土州恵学」
31-4	大乘法苑義林章	木版大本	13巻 13冊	元禄15.11	沙門道空書、洛陽書林村上勘兵衛他2名	1本、2本末、3本末、4本末、5本末、6本末、7本末存(奥書)天明8.5智憧師書写沙門理舜(2本)、天明8.6.23(2本)天明8.7. 10隠在寺(3本末)、(表紙)「順海、理舜」
31-5	首書職原鈔	木版大本	5巻 5冊	—	—	上1.2、下1.2、補遺後附存、(裏表紙裏)「頼誉」、(表紙)白字「王」、墨書「変」
31-6	聖無動経慈動鈔 上	木版特大本	1冊	—	—	(表紙)「那言第四箱浄宝」、「〈言〉」

31-7	日本撰述	木版特大本	1冊	安永8.8	中野宗左衛門	(表紙)「水城 睿仁」、(裏表紙見返)安永9.2.11寛政7来正月騰写於薛蘿舎海東水国隠士睿仁猛二十七載
31-8	冠註 住心品疏略解	木版特大本	3巻 3冊	—	—	(表紙)「大 石手寺什物」挟み込み有(裏表紙見返し)「拾七之壳、拾四之員口」
31-9	撰八転義論	木版大本	5巻 2冊	—	—	「乾」「坤」存(表紙)「順海」
31-10	註華嚴法界觀門序	木版大本	1冊	慶安2.11	二條通松屋町武村市兵衛	(奥書)応永3.2、三河守源時則謹誌彫工弾正為經
31-11	華嚴金獅子章	木版大本	1冊	天保12.8.1	洛陽釋休成	(奥)寛政7.4.8
31-12	華嚴五十要問答 初巻	木版大本	1冊	—	—	(表紙)「共二禪」「大空」、(地)「華嚴五十要問答 上」
31-13	白虎八嘯声巻一、巻二	木版大本	2巻 2冊	—	海雲堂華嚴沙門覺洲鳩著	(奥書)寛延3.1平安書林寺町通五条上ル町 中野宗左衛門、(表紙)「順海」
31-14	唯識三十頌 全	木版大本	1冊	寛政11.9.	釈惠隆	(奥書)文化12.2.7或唯識論聽聞時 釈林暁
31-15	四分義極略私記	木版大本	15巻 2冊	寛延3.春	沙門賢基 謹題	「上校刻、下」存、(表紙)「隆俊」、(地)「四分私記」上下
31-16	大日經疏鈔一本第三鈔	木版大本	25巻 25冊	寛文1.12.	烏丸通野田庄右衛門板	(奥書)嘉曆4.大法師果宝
31-17	釈論百条第三重	木版大本	10巻 10冊	—	中性院第四院務僧都聖憲	(表紙)「毘」、(背)「共十一」
31-18	釈摩訶衍論贊玄疏	木版特大本	5巻 5冊	—	—	(表紙)「毘」、各巻見開きに目次、各巻欄外に書き込み有
31-19	大日經疏二	木版大本	40巻 1冊	慶安2.9	—	(奥書)「於高野山開板」、欄外に書き込み有
31-20	釈論百條第二重	木版大本	1冊	寛永13.12	上洛姪円板之	(表紙)「毘共二丙」「義等」
31-21	釈論百条第二重	木版大本	1冊	寛永13.12	上洛姪円板之	(表紙)「峯善」、(地)「釈論百条第二重」
31-22	華嚴經文義綱目	木版大本	1冊	元禄8.春	沙門釈法蔵	(序)仙台龍宝住持長与、実養、於洛之智積輪、下京丁子屋九郎右衛門刊
31-23	華嚴五十要問答 後巻	木版大本	1冊	—	—	(表紙)「共二禪」「大空」、元禄8.4.穀日 書林井上忠兵衛寿梓
31-24	法界無差別論	木版大本	1冊	—	—	(表紙)草範
31-25	釈摩訶術論記一卷	木版大本	1巻 1冊	—	沙門聖宝鈔	—
31-26	冠註 分別六合釈 全	木版大本	1巻 1冊	—	—	(表紙)「地」寛政9. 林鐘吉辰 紀州根来寺大伝法院蔵版
31-27	釈論啓蒙第一之中	木版大本	1巻 1冊	戊午.8.9	老比丘運做	(表紙)「毘」。全三冊中
31-28	釈論百条第二重	木版特大本	1巻 1冊	—	—	(裏表紙見返し)「書堂 前川茂右衛門 繩枢軒敦忠
31-29	釈論一、四、五、六	木版大本	4巻 4冊	—	—	(奥書)「有快」(表紙)「竜意」(一)而回鳳威姚興皇帝製(四~六)龍樹菩薩造
32-0	[経函]	木箱	1合	—	—	(蓋表)「第四」、(蓋裏)「佛」「護摩」、(上段側板)「那」
32-1	指心鈔	木版大本	15巻 15冊	寛永12.9.	石黒莊太夫板	1~10、12~16存、(本奥書)文永11.頼生、(裏表紙)「土州之住鏡心之」、(8巻)「海春」、(7巻)「鏡心」「海春」、(4巻・10巻)「与州之住實映之」、(5巻)「鏡心」「予州明映」
32-2	住心品疏	木版大本	4巻 7冊	寛文3.4.8	—	2~4・6巻存、3・4・6巻は2冊ずつ、(奥書)万治癸丑(ママ)載秋於長谷寺科焉、(裏表紙見返し)「寛保三玄五月与慧等沙弥瑞澄」、朱印
32-3	住心品疏	木版大本	6巻 6冊	寛文3.4.8	—	1~6巻存、(3・5巻裏表紙見返し)正徳1.5、予章舜仁房瑞麟、小破
32-4	住心品専心抄	半紙本	8巻 8冊	宝暦10	—	1巻欠、(表紙)「仏大」「共九」「能持房音澄」、(奥書)延享4.講、和州富春宝如、寛延3.再講
32-5	釈魔訶衍論	木版特大本	10巻 10冊	—	龍樹菩薩造	(表紙)「毘」、(巻10奥書)建長8.2、高野山金剛仏子快賢、洛陽書林前川茂右衛門、小破
32-6	釈魔訶衍論通玄鈔	木版特大本	4冊	正保3.10	—	(表紙)「毘」柳馬場通二条下町吉野家權兵衛開板
32-7	釈魔訶衍論記	木版大本	6巻 6冊	—	皇宋光嚴無際大師普観	(表紙)「毘」、(地)「記一」~「六」、(小口)「共六」
32-8	唯識三類境選要完	木版大本	1冊	享保18.1	第八世住清凉院一乘宗英泉	挟込書状有、「清凉院蔵本」、(奥書)無相宗末永芸伝
32-9	釈論開解鈔	木版特大本	36巻 18冊	—	—	(表紙白字)〈巻)「毘」、(小口)「通計十八冊」、「開解鈔一之二」~「世五之世六」
32-10	釈論啓蒙第一之下	木版大本	1冊	延宝6.8	老比丘運做	上巻欠、延宝7.3校訂、智積門下芳春、(表紙)「毘」、(地)「釈一啓蒙下」
32-11	釈論第三重私記第二伝言	木版大本	1冊	寛永2	湿如亮貞誌	(表紙)「毘」
32-12	釈魔訶衍論鈔	木版大本	2巻 1冊	—	—	1~6存、(表紙)「毘」、(小口)「共四十五」、(地)「論四末有少七之八」
32-13	支那撰述起信論疏筆削記	木版特大本	5冊	—	—	—

32-14	釈論名目上下	木版大本	2冊	寛永21.2	西田勝兵衛新刊	(表紙)「宥智」
32-15	[聖教]	木版大本	1冊	延宝6.8	大乘光法師選	中野五郎左衛門刊、黒印「所持主本空」
32-16	起信論教理鈔	木版大本	19巻 10冊	寛文10	宇光隆沙弥誌	(奥書)元亨2.10.13、華嚴宗末資貧道湛背、武州六浦庄金沢称名寺序
32-17	起信論義記玄談	木版大本	1冊	—	—	(表紙)「入」「武陽宜端」、(奥書)宝暦5.12、於豊山釣岸寮慶利
32-18	五車韻瑞卷之四十	木版大本	1冊	—	吳興後学凌以棟父編輯	五車韻瑞卷四十、四十一、四十二、四十三を収載
32-19	釈論広短冊全	木版大本	3巻 3冊	—	—	三巻とも同内容
32-20	釈論百條第三重	木版大本	9巻 9冊	—	—	1~9巻存、(本奥書)至徳4.5.中旬、中性院第四院務僧都聖憲製草
32-21	釈摩訶衍論指事 上下	木版大本	1巻 1冊	—	—	(奥書)元禄7.9.- 井上忠兵衛識
32-22	釈論啓蒙第一之上 目録	木版大本	1冊	天和3.閏5.-	七十翁 運敬	(挟込)「通計三冊子」と短冊に墨書
32-23	孟蘭盆經直講	木版大本	4巻 4冊	—	—	13、16の表紙欠
32-24	鎮座本記	木版特大本	1冊	己亥.2.4	—	(表紙見返し)「石手寺什物 董章」
32-25	四教集解	木版大本	2冊	—	—	上巻欠、(表紙)「律拳」と墨書有、(書写奥書)永嘉沙門釈從義撰
32-26	校正大明三蔵教目録	木版大本	1巻 1冊	—	—	—
32-27	釈摩訶衍論鈔	木版大本	26冊	—	宥快 御口	6巻欠、(書写奥書)明暦3.1.- 書林村上勸兵衛刊行
33-0	[経函]	木箱	1合	—	—	(蓋表)「第七」(蓋裏)西嶽鎮皇京中重花應(上段羽板)「盧」(上段側板)「神」
33-1	大ノ東起信論義疏	木版大本	4巻 4冊	—	—	全存・上之上、上之下、下之上、下之下、(木口)「共四」
33-2	志那撰述大般涅槃經会疏	木版大本	36巻 36冊	—	—	全存
33-3	新刻華嚴行願品疏鈔	木版大本	7巻 7冊	—	—	全巻1~6、科文、(木口)「共七局」、(表紙)「盧」
33-4	起信論疏筆削記	木版大本	6巻 6冊	—	—	全存、(木口)「共六」
33-5	頭春孟蘭盆經疏新起	木版大本	5巻 5冊	—	—	全、(表紙)「信濃之義宴」、「共五」、「真」、「神」
33-6	三論玄義誘蒙	木版大本	5巻 5冊	—	—	全存・事義、書目、巻上、巻中、巻下、(表紙)「盧」、(木口)「共五」
33-7	起信論專釋鈔	木版大本	4巻 4冊	—	—	上之1、上之3、下之1、下之2存、(木口)「共四冊」
33-8	科詮三論玄義	木版大本	7巻 7冊	—	—	全存、(木口)「共七本端」
33-9	十二門福	木版大本	1巻 1冊	寛文4.8	中野五郎左衛門刊	(木口)「共七寛源坊」、(表紙)「盧」
33-10	百論	木版大本	2巻 2冊	—	—	上、下存、(木口)「共七寛源坊」、(表紙)「盧」
33-11	中論	木版大本	4巻 4冊	—	—	享、利、元、貞存、(木口)「共七、寛源坊」
33-12	仁王經疏	木版大本	6巻 6冊	寛文1.11	—	全存、(木口)「共六」、(表紙)「盧」与州能持」
33-13	玉印鈔	木版大本	5巻 5冊	承応1.11	—	1之2、3之4、5之6、7之8、9之10巻存(木口)「全五」(木版奥書)永正2.6.15法印清豪記
33-14	大日經疏	木版大本	3巻 3冊	—	—	4、8、24巻存、(表紙)「大」(木口)「三十一」
33-15	寂照堂谷響集	木版大本	13巻 13冊	元禄2.11	洛陽書林中野宗左衛門他1名	全存(4、5、6巻は2冊存)(木口)「共十」(十巻表紙)「太龍(花押)」
33-16	寂照堂谷響続集	木版大本	9巻 10冊	元禄5.4	洛陽書林前川茂右衛門他2名	1巻欠、(表紙)「那」(木口)「共十」
33-17	冠註五教章	木版大本	10巻 10冊	宝永3.9	書林村上勸左衛門他2名	上1~3、中1~3、下1~4存、(表紙)「昇住」
33-18	三論玄義檢幽鈔	木版大本	7巻 7冊	寛文1.7	中野小左衛門梓行	全存、(木口)「共七」(表紙)「盧」
33-19	寂照堂谷響集第二目録	木版大本	1冊	—	—	表紙欠
33-20	華嚴五教章別解	木版大本	4巻 4冊	—	筑波山主真述	上、中、下之1、2存、(木口)「共四」
33-21	俱舍論世間品頌疏	木版大本	1冊	元禄10.7	三木太郎右衛門、毛利田氏	雒陽烏丸二條上町、摂州浪華北御堂前。5巻存、(木口)「共五」
33-22	冠註五教章	木版大本	10巻 10冊	宝永3.9	村上勸左衛門他2名	全存、(表紙)「盧」「石手寺什物」(木口)「共十」「秀精」
34-0	[ダンボール箱]	ダンボール	1箱	—	—	—
34-1	瑞元代記録	特大本	1冊	—	—	(見返)「從正徳五乙未歲至嘉永四辛亥年百三十六年、此記至享保十六年都十七年」

34-2	祈禱錄	特大本	1冊	延享4.4	法印瑞章(花押)	(表紙)「石手寺」
34-3	二教論指光鈔	木版大本	3卷 3冊	宝曆13.4.下旬	沙門智鳳	1、3、5卷存、(本奥書)寛延2.5.下旬~7.9.於豊山勸学院、沙門卓義、(1巻表紙)「二拾四内、共五」(3、5巻表紙)「本四内共五」、題箋ハズレ
34-4	支那選述 異部宗輪論述記	木版特大本	2巻 2冊	元禄9.2	書林梅村右衛門他	(木口)「共二」「鹿嶋 素光」
34-5	諸宗章疏録	木版大本	2巻 2冊	寛政2.11	皇都村上勤兵衛他4名	(木口)「共三」
34-6	秘蔵宝鑰纂解	木版大本	2巻 2冊	—	—	3、4巻存、(木口)「共六」「イヨ」
34-7	起信別記	特大本	2巻 2冊	—	—	乾、坤存、(表紙)「共二」「貞範」、乾巻裏表紙欠
34-8	新版 開題	木版大本	2巻 2冊	—	—	1、2巻存、(表紙)「成」、(裏表紙)「豫陽釈沙門慈雲瑞龍」
34-9	支那撰述 薬師經直解	木版大本	3巻 3冊	—	神雉銅駝坊書林長尾平兵衛	上中下巻全存、(表紙)「真」「共三」「イヨ」「イヨ法元、瑞晨、栄覺」「石手寺什宝」(下巻裏表紙裏)「全三冊、前玉善寺法印實本、為遺物賜之開正焉」「舜賢坊 栄覺」
34-10	支那撰述 起信論疏筆削記	木版特大本	3巻 3冊	—	長水沙門 子璇録	3、4、5巻存、(木口)「共六」「堯深」「イヨ示教」、綴じ目ハズレ
34-11	大乘法苑義林章	木版特大本	14巻 13冊	元禄15.11	沙門基撰	洛陽書林村上勤兵衛他2名。1之本欠、綴ハズレ、(表紙)「遮」
34-12	四教集解	木版特大本	3巻 3冊	元禄6.2	京烏丸三木太郎右衛門	(表紙)「共三」「奉」「即充」「永嘉沙門」(奥書)寛文9.洛東東西軒。開不能
34-13	四教儀集註筆記	大本	2巻 2冊	宝曆2.10.21	金剛仏子隆營	中下存。(本奥)延享3.靈空和尚、(表紙)「如」、(朱印)「千秋万葉熊野山金剛藏不許讓与」
34-14	科註起信論疏	木版大本	3巻 3冊	寛文8.8	丁子屋吉田五郎兵衛	上之2、下之1、2存、(奥書)寛保3.5、沙弥慧等者也、法印瑞澄
34-15	科註住心品	木版特大本	2巻 2冊	—	—	上中存
34-16	三十三遍本作法纂解	木版特大本	3巻 3冊	貞享1.3	雙丘沙門釋慧晃述	土川宇平他2名板(奥書)文政2.8、於豊山瑞天求之、(表紙)「共三」「予州瑞天」
34-17	開区編	木版大本	2巻 2冊	貞享5	瑞応山運敏選、岡元春書	書肆永昌坊前川茂右衛門、(表紙)「予州瑞天」
34-18	金剛頂經義訳	木版大本	1冊	—	—	(奥書)正応4.慶賢、高野山往生院宝蔵院版、(表紙)「瑞元」、「千秋万葉熊野山金剛藏不許讓与」朱印
34-19	三論玄義翼解	大本	1冊	享保12.1.8	石手寺塔頭定観坊現住陽山瑞春	(表紙)「慶 写本五ノ内、可畏彦瑞春、石手寺」
34-20	諸懸譚	大本	1冊	元禄13.9.下旬	南海予州釋智端	於豊山隠竹寮、(表紙)「持」「石手寺什物」(小口)「智端」(表紙朱印)「千秋万葉 熊野山金剛藏 不許讓与」
34-21	十巻書玄談完	木版大本	1冊	—	—	(書写奥書)天保5.初夏 於智嶺滝 泰蔵、(表紙)「伊予 泰蔵」
34-22	大毘盧遮那成仏經疏次第	木版大本	1冊	—	—	—
34-23	篋篋	木版大本	1冊	—	—	—
34-24	西谷名目玄談	木版大本	2巻 1冊	元禄13.1	沙門密彦記	「中野小左衛門壽梓」、(表紙)「共二」
34-25	頭書西谷名目 下末	木版特大本	1冊	寛文8.9.-	大佛長刀町錢屋口衛門	(表紙)「加」
34-26	臬宝伝法記	木版大本	1冊	—	—	(表紙)「大」「石手寺什物」、とじ紐切れ
34-27	因明入正理論義纂要	木版大本	1冊	—	—	(本奥書)建武4.10.25律師尊經74(書写奥書)正徳4.8.18以東大寺新禪院
34-28	因明入正理論義断 上全	木版大本	1冊	—	權律師尊經	(本奥書)建武4.12.18、(書写奥書)正徳4.7.晦日 以東大寺新禪院
34-29	[華嚴綱目序]	木版大本	1冊	元禄8.春	雄陽書林井上忠兵衛(識)	綴紐切れ
34-30	勝曼師子孔一乘大方便方広經	木版特大本	1冊	—	劉宋天竺三蔵求那跋陀羅訳	寛永元年井上實氏秋開蔵版
34-31	臨濟録 上	木版大本	1冊	—	—	(表紙)「共二神」
34-32	二教論指光鈔 三	大本	1冊	—	—	—
34-33	聲字實相義研心鈔 第五	木版大本	1冊	—	—	(木口)「声共五」「キト」
34-34	小学句読口義祥解 卷七	木版特大本	1冊	—	—	(表紙見返し)「石手寺什物」
34-35	新訳仁王經抄 卷上	大本	1冊	—	—	(表紙)「山院福見寺 大谷山 不動院」
34-36	孟蘭盆經疏新記	木版大本	1冊	寛永-12	中野市右衛門繡梓	(表紙見返し)「賢英(印)」

35-0	[ダンボール箱]	ダンボール	1 箱	—	—	—
35-1	祈祷録 石手寺	特大本	1 冊	元文5.4.	法印瑞章(花押)	—
35-2	南海寄帰伝	木版特大本	2巻 1 冊	—	唐 三蔵沙門義浄 撰	(表紙)「大了蔵」
35-3	南海寄帰伝卷三四尾	木版大本	1 冊	—	唐 三蔵沙門義浄 撰	第三巻のみ存
35-4	密宗血脈鈔	木版大本	2巻 2 冊	寛永8.8.上旬	洛陽四条寺町茂右衛門尉	中・下巻存、(表紙)「成」「神」、(奥書)元和8.2.28恭畏
35-5	大日経疏	木版大本	8巻 8 冊	—	—	第一愚草第4.6、第二愚草第1.2.3上.5.7上、第三愚草第末上存、(表紙)「仏」
35-6	菩薩心義 一之末、五之末	木版大本	2巻 2 冊	寛文2.11	長谷川一郎兵衛開板	胎蔵金剛菩薩心義略問答抄
35-7	訂正韻鏡	木版大本	1 冊	寛文11.11	吸月堂 清水春流	(表紙)「神」、(奥書)「唐本、和本、諸本、善不善ヲ且ツ從 且ツ改ム」
35-8	本作法纂解鳴鼓	木版大本	1 冊	寛政3.5	但州密乘沙門寛潤 誌	上巻存(表紙)「錦」、凡例に「高野山聖、無動院蔵版」
35-9	小学外篇句読	木版大本	1 冊	—	天台陳選句読	巻五のみ、前後欠(表紙)嘉言
35-10	雜問答 全	木版大本	1 冊	—	—	(表紙)「石」、(表紙裏)「イヨ瑞雲」
35-11	四教	木版特大本	1 冊	—	—	(表紙)「律」「法」「供三」「奉」
35-12	阿字観鈔 上下	木版特大本	2巻 2 冊	—	—	(表紙)「地」
35-13	大日経住心品流	木版特大本	3巻 3 冊	文久2.	大空章輪	3.4.6巻存。(表紙)「智賢」、(奥書)万治癸丑.秋、於長谷寺科正
35-14	菩提心論教相記 上下	木版大本	2巻 2 冊	延宝5.2	沙門亮汰述	書林村上勘兵衛、前川茂右衛門。菩提心論教相記玄談、巻下「沙門亮汰述」
35-15	大乘法苑義林章	木版特大本	1 冊	—	沙門基撰	一卷之末存(表紙)「末」「理舜」「順海」、表紙に目次の書入れ有
35-16	天台四教儀	半紙本	5 冊	—	高麗沙門 諦観録	同一のもの五冊(表紙)「拾五部之内」
35-17	大疏啓蒙	木版特大本	2巻 4 冊	—	—	巻7-3,7-5,8-3,8-4存。(小口)「都合五十八」、(表紙)「宝乘」「然少口」「成」「石住物」「義題」「瑞宮」
35-18	高雄口訣	木版半紙本	1 冊	享保6.7.28	祐宝 66才	—
35-19	三論玄義玄談纂解	半紙本	1 冊	享保12.閏 1.28	石手密寺塔頭定観坊表住 課畏彦瑞春(花押)	(表紙)「盧」「書本五ノ内」「可畏翁瑞春」「石手寺」
35-20	護摩供事	木版大本	2巻 2 冊	—	—	(奥書)天正10.於日州法花嚴寺百日參籠書写、源与法師、文明12.宗承、「大門坊 雅海」
35-21	宝論下巻鈔	木版大本	4巻 4 冊	享保7.11.21	石手寺第廿世法印瑞元	(奥書)未来永劫石手寺権現不出 実秀 正保4.7.21、(表紙)「石手寺常住物」
35-22	二教論上巻鈔	木版特大本	1 冊	—	—	第3.4存(表紙)「石手寺常住物品持」、(巻末)「享保7.11.21修補了、予州石手寺院家瑞元」
35-23	声字義鈔	大本	1 冊	享保7.11.21	瑞元	声字実相義鈔上存(表紙)「石手寺常住物」
35-24	吽字義鈔	木版特大本	1 冊	—	—	(奥書)享保7.11.21令補候之、石手寺法印瑞元48、(表紙)「品持、石手寺常住物」
35-25	即身義鈔第二	木版大本	1 冊	享保7.11.21	石手寺院家瑞元	(奥書)未来永劫石手寺権現不出、実秀正保4.7.21(表紙)「石手寺常住物」
35-26	瑜伽護摩儀軌鈔	木版特大本	3巻 3 冊	元禄4.冬	京麩町通坂本麻良保他刊	(表紙)「金三了」、「熊野山金剛蔵」朱印
35-27	理趣経純秘抄存公記	木版特大本	3巻 3 冊	正徳5.1.	崎峰閑人亮貞	巻1.3.4存、(表紙)「真」「瑞澄」、(小口)「共四」、皇都中野宗左衛門版、延享5.3.義勇瑞澄
35-28	大日経住心疏 第二	木版大本	1 冊	文久2.1.下旬	大空章臨	(表紙)「智賢」
35-29	八斎戒作法	木版大本	1 冊	—	—	(表紙)「真」、五条橋通御影堂前町丁子屋 北村六兵衛開板
35-30	顕密二教論略解 上之二	木版大本	1 冊	—	豊山喜多 沙門尊祐 述	—
35-31	釈迦一代記	木版大本	1 冊	—	—	巻七存
35-32	四座秘曲 全	半紙本	1 冊	—	—	四座講式秘曲伝記、(表紙)「慶蔵」
35-33	金剛頂瑜伽蓮華部大儀軌上	半紙本	1 冊	宝暦9.11.21	恵蔵	(本奥)安祥寺慶雲僧持本、実慧僧都記、(朱印)「東大寺知足院」
35-34	大疏第三重第一巻評判	半紙本	1 冊	宝暦4.-	伊予法玄房 秀善	(書写奥書)宝暦4.-.舞射宿日 予陽法玄房 秀善
35-35	野金口決鈔	半紙本	1 冊	寛文4.1.下旬	俊良房尊如	(本奥)弘長1.頼瑜於醍醐寺(表紙)「与州性直房」朱印「千秋万葉熊野山金剛蔵不許譲与」
35-36	大疏第五評判有慶記	半紙本	1 冊	—	—	(表紙)「順城」、(朱印)「超倫」
35-37	大疏第三重第七評判有慶	半紙本	1 冊	—	—	(奥書)天保12.9.6 予州智賢章榮、(表紙)「恵」

35-38	文選	木版大本	1冊	—	—	第十二存(奥書)承応3.4.- 風月庄左衛門刊行
35-39	[十住心広名目]	木版大本	4巻 4冊	—	—	(奥書)宝永8.-開版、(表紙)「大」
35-40	[蓮花図]	絵図	1鋪	—	—	彩色有
35-41	[聖教]	端紙	1枚	—	—	「依彼ノ夢想之告」、「被読師辞退」等の内容
35-42	往心品疏 六	包紙	1枚	—	—	包紙端紙「大空」と墨書有
35-43	諸次第	枅形本	40帖	—	—	(本奥書)延宝9.8.10金剛仏子憲深(書写奥書)享保20.1.29実快自筆書写、未資瑞春
36-0	[ダンボール箱]	ダンボール	1箱	—	—	—
36-1	大疏啓蒙	木版大本	7冊	天和2-貞享1	瑞林隠比丘運做識	(六巻)「或石住物豫州石手寺」
36-2	大疏啓蒙	木版大本	8冊	貞享1.9.3	瑞應林隠比丘泊如運做題	—
36-3	大疏啓蒙	木版大本	8冊	甲子秋	老比丘運做	(表紙)「石住物利宝」
36-4	大疏啓蒙	木版大本	1冊	甲子.5.10	老比丘運做	(表紙)「イヨ智賢(印)」
36-5	大疏啓蒙	木版大本	1冊	貞享4.-	瑞應七十四運做	(表紙)「イヨ實」
36-6	俱舍論頌疏	木版大本	2冊	—	中大寺沙門圓暉述	—
36-7	秘藏宝	木版大本	3冊	—	—	「本浄蔵」と有
36-8	性靈集便蒙	木版大本	2冊	天和1.8.22	—	(表紙)「那」朱印有
36-9	性靈集便蒙	木版大本	4冊	—	—	(巻四裏表紙見返し)「伊豫国温泉郡石手寺什物」
36-10	古文書真宝合解評林	木版大本	2冊	—	—	(表紙)「豫陽沙門瑞亮」
36-11	大毘盧遮那仏経疏	木版粘葉装	5帖	—	沙門一行阿闍梨	(本奥書)貞享1.10.浄蔵点写(写奥書)宝永7.8.智勝23才
36-12	七帖見開	木版大本	3巻 3冊	—	満案	(表紙)「加」(本奥)応永5.12.12
36-13	二教論指光鈔	大本	1冊	—	—	—
36-14	二教論指光鈔	大本	1巻 1冊	—	—	(巻末)五智山朱印
36-15	勝宗十句義論釈 下	木版大本	1巻 1冊	安永8.7.	南部興福寺竹林院相宗盛範	帝都書林北村四郎兵衛等5名刊
36-16	刻二乗成仏章	木版大本	1冊	寛政7.4.29	無為室蔵版	浪花南久太郎町心齋橋筋河内屋永助発布
36-17	三教指帰註刪補 第五	木版大本	1冊	万治2.7.-	—	(巻末)「イヨ宗運什物也」
36-18	三教指帰註刪補 第七	木版大本	1冊	—	—	—
36-19	十巻章懸譚	半紙本	1冊	享保6.-	瑞春(花押)	(本奥)享保6.8.8豫州石手寺現往沙門院家法印瑞元、(写奥)享保6.瑞巖僧正十三回為追善師瑞元於石手寺給開演十巻章之砌拜写之畢、瑞春、(巻頭)瑞洞雲達石手寺什物
36-20	開心鈔	木版大本	1冊	—	東寺沙門果宝記	全巻存、(本奥)貞和5.10.17、浄善開板
36-21	合類大因縁集	木版大判	4巻 1冊	貞享3.1.-	花洛五條坊木賊山書林 清水九郎右衛門 小森善 左衛門	—
36-22	宗義決択集 第九	木版大本	1冊	—	—	(奥書)延宝2.6.仲旬 鎮西筑後久留米松蘭山之住僧快実順昌房求之
36-23	即身成仏義	木版特大本	1冊	万治3.2.中	高野山宝光院第廿四世応盛	(表紙)「共拾 十巻章即身成仏義沙門空海」
36-24	改正聲字実相義二	木版特大本	1冊	—	—	(表紙)「共拾」、(巻頭印)「本浄蔵」
36-25	易学啓蒙	木版大本	1冊	—	—	—
36-26	信州諏方真善阿遮梨心地 秘事	豎帳	1冊	<宝曆4.1.22>	本然之	—
36-27	施食作法	一紙	2通	享保3.7.中旬	法印瑞元→雲元	他、「鉢作法」有、包紙有、(包紙上書)「三十三通之内第九」
36-28	三部経大事	一紙	2通	—	—	包紙有中身開不能
36-29	[書状]	一紙2枚継	1通	-2.1	松山石手寺→大洲曾溪院 御役者中	福見寺と西輪寺の掛合の件

36-30	四書集註	木版中本	1冊	—	—	「掃葉山房藏版」と有
36-31	新義聲明入門	木版豎帳	1冊	大正3.10.29印刷	—	「大正四年五月青廉僧正より拝受」と有
36-32	三教指帰	木版大本	1冊	元禄10.10.8	阿州高安郡師子孔山教興寺 苾芻蓮體	(奥書)享保6.9.吉日「大坂比御堂前毛利田庄太郎同心府橋比久太郎町 小蔦勘右衛門」
36-33	般若心経秘鍵	木版半本	1冊	—	—	(表紙裏書)「三蔵院純成」、「松尾」の印有
36-34	即身成仏安心決定	木版大本	1冊	天明7.10.8	武州倉田明星院住持浄金	武州倉田明星院藏版(朱印)
36-35	入阿毘達摩論叙	大本	1冊	文化5.10.27	光道文精春秋	(表紙)「仁」「光道」、(本奥)天明9豊山上毛快道(写奥)文化5.於息精舎光道文精
36-36	大日経疏爛脱	半紙本	1冊	宝永2.10.中	瑞元	(写奥)于豊山、南海予章松陽県密乗求法釈瑞元
36-37	胎蔵界印図	木版大本	1冊	明暦1.	京本屋喜兵衛板	五條通橋本町
36-38	大日経住心品	粘葉装	1帖	万治3.1.吉日	—	(表紙)「天三十一号黄」「土野龍伝」
36-39	什訳題心経文	木版大本	1冊	—	薩州亮汰記	—
36-40	[表紙]	大本	1冊	—	—	端紙
36-41	科註勝宗十句義論	木版大本	1冊	宝暦10.4	皇都中野宗左衛門板	寺町通五條上ル町西側
36-42	[開不能]	大本	6冊	—	—	開不能
37-0	[ダンボール箱]	ダンボール	1箱	—	—	—
37-1	大疏啓蒙	木版特大本	10冊	—	運做	第1-2,4-1,4-2,6或問,7-1,7-3,7-5,7或問存
37-2	大疏啓蒙	木版特大本	8冊	—	運做	第5-3,5-4,6-3,6或問,-1,7-2,7-3,7-4存
37-3	大疏啓蒙	木版特大本	2冊	—	運做	存巻「第五之一、第五之二」
37-4	古文真宝合解評林	木版特大本	3冊	延宝7.	弘章堂山本長兵衛刊	7,8,10巻(表紙右側)「共十慶子陽沙門瑞元」
37-5	大疏啓蒙	木板特大本	4冊	—	—	存巻「第八之一～第八之四」
37-6	俱舎論頌疏	木版特大本	2冊	—	中大雲寺沙門円輝	(小口)「共十四イヨ大量」、巻九と巻数不明の2冊
37-7	三教指帰刪補鈔	木版特大本	4冊	—	—	第一・二・五・八の4巻、小口「宗順」
37-8	大疏指心鈔	木版特大本	3冊	—	—	第七、八、九巻(奥書)建治4.2.7、金剛仏子頼喩
37-9	大毘盧遮那成佛経疏	木版半本	10巻 10冊	宝永7.	沙門智勝	3・11～16・18～20存、(奥書)貞享1.浄巖。綴ハズレ
37-10	教乘法數	木版半本	7巻 5冊	—	—	1・2・5～9存(表紙)「義堅」「子」(木口)「共十」(表紙裏)「日向」虫損
37-11	秘蔵寶鑰勘註	木版大本	7巻 7冊	—	—	1・3～8存(表紙)「本四内共八」外題ハズレ有、表紙朱印
37-12	菩提心論初心鈔二	木版大本	1冊	—	洛陽四條前川茂右衛門	(表紙)「本四内共二」、表紙朱印、1丁目朱印・黒印有
37-13	新刻改正 論語	木版大本	3巻 3冊	—	—	1・2・4存、破損大、開不能
37-14	七帖見聞	木版特大本	10巻 10冊	寛永5.5.中旬	洛下四條中野市右衛門	(奥書)應永9.中寶幢院僧貞舜、(木口)「共十三」「珍精之」、(表紙)「加」、天台名目類聚鈔
37-15	顯密二教論	木版特大本	1冊	—	沙門空海撰	—
37-16	金剛頂瑜伽中発阿耨多羅三藐三菩提心論	木版特大本	1冊	—	—	「檀主生国阿州大周順」と有
37-17	龍頭助語辞	木版大本	1冊	享保2.夏	皇都書林梅村弥右衛門版	印有
37-18	顯密十号讚歎義	木版大本	1冊	—	—	(表紙)「イヨ瑞天」と有、「南紀根嶺大伝法印藏版」
37-19	地蔵本願経上	木版大本	1冊	—	—	(表紙貼紙)「此本二巻灌光明汀師弟子栄巖師ヨリ預之」
37-20	大疏第三重	木版大本	1冊	—	—	—
37-21	兩種外道草子了簡	大本	1冊	天明2.2	澄寛房賢恕	(木口)「共二」、(表紙)右上「儀」、右下「澄寛房」、「賢恕(梵字)」、「瑞運房」、小破
37-22	新訳仁王経抄巻下	木版大本	1冊	—	石黒庄太夫 板本	(表紙)「山内」「福見寺」、とじ紐切れ、標題は内題による、開不能
37-23	四教儀集註筆記	半紙本	1冊	—	—	(表紙朱印)千秋萬葉、熊野山金剛藏、不許讓與」、小破

37-24	大疏第三重第三如意藏	半紙本	1冊	—	—	(表紙)破損甚大、標題は内題による、一丁目に落款、(朱書)「言本也」
37-25	六一山秘密記	半紙本	1冊	元禄12.11.20	豫州 智端房瑞元(朱印)	(朱印)裏千秋萬葉・熊野山金剛藏・不許讓與、「僧正仁海記」、紐切、小破
37-26	果宝伝宝記	木版大本	1冊	明暦1	—	第五・六2巻一冊、(表紙右側)「大石手寺什物」、(小口)「共三」
37-27	天経或問上巻	大本	1冊	—	—	中破、帙有
37-28	護身法私鈔	木版特大本	1冊	承応4.3中旬	頼慶述	(奥書)慶長13.3.21、於高野山蓮花谷書写
37-29	大隨求 下	木版大本	1冊	—	沙門亮汰述	(奥書)「天和1.10、曇寺沙門朝清」
37-30	勝宗十句議論釋 上	木版大本	1冊	安永3.5	興福寺竹林院盛範	(奥書)「安永改1.12大月上人自筆本書写南都興福寺竹林院相宗学道沙門盛範」
37-31	観心弁異科註	大本	1冊	元禄16.6.24	智海	観心弁異科註、(巻末)元禄16.6.24此智海冠解時日
37-32	遍照発揮性靈集第五目錄	木版大本	1冊	—	—	「心榮イヨ」(朱印)、(表紙朱書)「松尾章純之所有石手寺」(裏表紙)「沙門持叢石手寺」
37-33	秘蔵記旨要鈔	木版大本	1冊	—	土州 栄深	巻3存、(表紙)「<都>主」、「玄」、「土州 栄順」、(背)「共五ノ内」、小破、丸印・角印
37-34	聖無動経慈恕鈔 巻下	木版特大本	1冊	—	武陽前僧録前大僧正隆光	(奥書)「書株 麻妻荘兵衛同姓清衛門寿梓」、(朱印)「良保」
37-35	讚頌集	木版大本	1冊	—	—	(表紙)「那」
37-36	六合釋	木版特大本	1冊	元禄13.4.	洛陽五條中野宗左衛門	(表紙)「加」豫陽圓澄(花押)、(奥書)「文化5.11.上旬、知端書入」
37-37	論語徵集覽 卷之三	木版大本	1冊	—	—	—
37-38	二経論指光鈔 巻第二	木版特大本	1冊	—	—	(表紙)「本四内共五」、破損大
37-39	[十八史略]	大本	1冊	—	—	開不能
37-40	[聖教]	大本	1冊	—	—	開不能
37-41	[聖教]	一紙	1枚	—	—	前欠、後欠
37-42	中庸 後藤点	木版大本	1冊	—	—	全、破損大、外題に「新刻改正」と有
38-0	[ダンボール箱]	ダンボール箱	1箱	—	—	—
38-1	大日経疏	木版大本	12巻 12冊	—	高野山宝性院宥快法印	(木口)「三十一」、(表紙)「大」、1・11~13・15・18・20・21・25・27・30・31存
38-2	大日経疏鈔	木版大本	4巻 4冊	寛文1.12	烏丸通下立売下町野田庄 右衛門板→イヨ覚賢	一・二・廿六・廿七存
38-3	秘義宝輪勘註	木版大本	5巻 5冊	—	—	1・2・5存、(木口)「共二十四 上サ秀典」
38-4	俱舎論頌釋疏	木版大本	9巻 5冊	—	—	1・2・3・4・5・6・7・13・14存、(木口)「共十四<十九>」、(長紙)「遮」
38-5	咩字義探宗記	木版大本	2巻 2冊	—	—	(奥書)弘安3.於高野山伝法院別院、頼瑜、永仁3.於根香寺、南山朽老頼瑜、(木口)「共二十四 上サ秀典」、1・2存
38-6	宗義決譯集	木版大本	2巻 2冊	—	—	(奥書)「貧工沙門快實未」、(木口)「高」、七・八存
38-7	開匱編	木版大本	2巻 2冊	貞享3.秋	洛東寂棲岡元春謹書	京極書林前川茂右衛門寿梓、(木口)「共三」、(表紙)「那」、巻上下存
38-8	二経論指光鈔	木版大本	2巻 2冊	—	—	(木口)「共二十四」、4・5存
38-9	三省録	木版大本	2巻 2冊	天保4.1	志賀理助著、原三右衛門板	「発行者林横山町三丁目和泉屋金右衛門江戸下谷御成道英文蔵」、3・5存
38-10	拾芥抄	木版大本	2巻 2冊	—	—	(木口)「共三」、(表紙)「言」、上巻欠
38-11	大疏指心鈔	木版大本	2巻 2冊	—	—	(奥書)建治2.頼一、(木口)「共八」、(表紙)「大」、五之六、九之十存
38-12	大疏指心鈔	木版大本	1冊	—	—	(奥書)建治2.頼一、(表紙)「共十六」、「瑞雲」、第四存
38-13	大日経疏玄譚 全	木版大本	2冊	—	—	「観音院蔵板」、(木口)「イヨ松乾山持物」、(表紙)「歎信 乾山」
38-14	秘鍵文林	木版大本	1冊	寛永16.10	二條通田原仁左衛門	「勢陽 自春」、(表紙)「盧」
38-15	三省録附言上	木版大本	1冊	—	志賀忍輯	—
38-16	阿毗達磨俱舎論	木版大本	3巻 1冊	—	—	7・8・9存
38-17	法華科註序鈔	木版大本	1冊	寛永9.2	前川茂右衛門刊之	標題は内題に拠る
38-18	開題三	木版大本	1冊	—	—	—

38-19	引導要集便蒙	大本	2卷 1冊	—	—	(木口)「共六 与州義音」
38-20	即身義頭鈔 二	木版大本	1冊	—	—	(表紙)「本四内共三」
38-21	秘蔵宝鑰纂解或問	木版大本	6巻 1冊	—	村上勘兵衛他2名	—
38-22	摩訶毘盧遮那經疏懸談	大本	1冊	—	—	(表紙)「<毘>持」、標題は内題に拠る、千秋萬葉不許讓与、熊野山金剛蔵
38-23	秘蔵宝私未鈔第一目録	木版大本	1冊	—	—	標題は内題に拠る、表紙外に有
38-24	聲字義開秘鈔	木版大本	1冊	—	—	(木口)「共二十四土州香典」
38-25	(梵字)(梵字)三密鈔	大本	1巻 1冊	—	—	(木口)「共七」、(表紙)「大」、下之上存
38-26	勝宗十句義論 全	木版大本	1巻 1冊	—	—	(版奥)「元禄13.4.中野宗左衛門寿梓」(書奥)「延享4.2於桃校舎、大法師林海(花押)」
38-27	住心品疏 三	大本	1冊	—	—	表紙のみ、(表紙)「大」
38-28	御請来目録 全	木版大本	1冊	—	—	(奥書)大同1.沙門空海、正安4.高野山慶賢、(木口)「豫州松山熊野山石手寺什物」「イヨカインシ」、(表紙)「持石手寺常什物」
39-0	[ダンボール箱]	ダンボール	1箱	—	—	—
39-1	秘蔵宝鑰纂解鈔	木版大本	3巻 3冊	—	—	(表紙)「那人<衍><那>」、(木口)「共七湖北」、1・3・6巻存
39-2	神代紀葦牙	木版大本	2巻 2冊	—	—	(木口)「共三」、中巻欠
39-3	祝詞考	木版大本	3巻 3冊	寛政12	皇大神宮権禰宜從四位下 荒木田神主久老	(木口)「共三」、天・地・人存
39-4	磐若寺大日經疏鈔	木版大本	3巻 2冊	—	—	(表紙)「<成>那」、(木口)「共二」
39-5	柯山倫師科註妙法蓮華經	木版特大本	8巻 10冊	—	—	(表紙)「加」、(木口)「共十」
39-6	支那撰述大慧普覺禪師書 首書	木版特大本	2巻 3冊	寛文9	二条菱屋町婦屋林傳左衛門 尉板行	(表紙)「言」、(木口)「共四通了」、上一・下一・下二存
39-7	梵綱古跡鈔拔萃	木版特大本	2冊	—	—	(表紙)「盧」「自春」、開不能、上・下存
39-8	大疏指心鈔	木版特大本	2巻 2冊	文永11版	金剛資頼—生年卅九歳	「於高野山又六堂葵堂」、(木口)「共十六」、1・2存、開不能
39-9	石山七集中	中本	1冊	—	—	(木口)「共三」
39-10	大疏第三重評判第八有慶 記 地	半紙本	1冊	天保13.9	越后慈等賢慎	「豊嶺霞庁」、(表紙)「北越慈等」
39-11	大疏第三重七之卷評判 有 慶記卷上	大本	1冊	—	—	(木口)「共二」、上存
39-12	入阿毘達磨論頭宗記	木版大本	1冊	—	沙門釋 慈光記	(表紙)「直樹大本」、題箋外れ、巻上存
39-13	阿毘達磨俱舍論図記	木版大本	1冊	元禄8.7	銅駝坊青林村上平樂寺	(大口)「共四 素光」、巻四存
39-14	(梵字)(梵)(梵)記 石山	木版大本	1冊	享保14.9.5	金剛峯寺阿闍梨真源	「華雒書林井上忠兵衛」、(表紙)「鹿鳴蓮阿」、開不能
39-15	韻鑑標註補遺 全	木版特大本	1冊	享保21.秋	漣窩河野齊通清書	(木口)「共三」
39-16	校正大明聖教目録 坤	木版大本	1冊	—	—	(木口)「共二」「慈雲」
39-17	三国相伝陰陽館篋篋内伝 金鳥玉免集	木版大本	1冊	—	—	(表紙)「神」「豫州龍持」
39-18	篋口(竹冠に良に皿)口伝初 心録	木版大本	1冊	—	—	(表紙)「質」「共二」
39-19	韻鏡字子列位	木版大本	1冊	元禄12.1	武州鴻巣沙門音[利]	(表紙)「神共二」
39-20	八家秘録 下	木版大本	1冊	元文1.10	天台沙門安然、書林寺町 五條上儿町井上忠兵衛版	(表紙)「真」
39-21	玉免集造屋篇巻第四	木版大本	1冊	正保4	—	(表紙)「神」、大破
39-22	即身成佛頭得鈔巻上	木版大本	1冊	—	—	(表紙)「牙」「共二十四巻、御抄物」

39-23	起信論義記教理抄	木版大本	1冊	[明治]	京都書林永田調兵衛 下 京区山川町	—
39-24	秘藏宝鑰勘註卷第三	木版大本	1冊	—	—	—
39-25	韻鑑古義標註 下	木版大本	1冊	享保11.11	洛陽書林秋田屋平左衛 門、文台屋治郎兵衛	(表紙)「神」、(本奥書)享録1.1清原宣賢
40-1	[善女竜王像]	紙本着色掛幅装	1幅	[江戸]	—	—
40-2	[善女竜王三神像]	紙本着色掛幅装	1幅	[江戸]	—	—
40-3	[阿字図]	紙本絹地金箔拵 幅装	1幅	[江戸]	—	(端裏)「阿字」
40-4	[本尊貼交像]	紙本木版掛幅装	1幅	[江戸~明治]	—	江島本宮岩屋・播州清心寺等
40-5	[聖 観音菩薩像]	紙本木版掛幅装	1幅	[江戸]	—	—
40-6	[不空三蔵像]	紙本墨画掛幅装	1幅	[江戸]	—	(端裏)「不空三蔵」
40-7	[天像]	紙本木版掛幅装	1幅	[江戸]	—	紙本木版幅
40-8	[梵字図]	紙本墨書掛幅装	1幅	[江戸]	沙門性善 八十八蔵書	「開眼供養」
40-9	鉄塔伝経大意図	紙本木版掛幅装	1幅	[江戸]	—	—
40-10	星曼荼羅図	紙本着色掛幅装	1幅	天明2	泉永寺住 便成	(端書)「石手寺什物」
40-11	[八字書]	紙本墨書掛幅装	1幅	[江戸]	文秀(落款)	(端書)「諸悪莫作等文秀宮筆」「諸悪莫作修善奉行」
40-12	[明王図]	紙本木版掛幅装	1幅	[江戸]	—	—
40-13	[明王図]	紙本木版掛幅装	1幅	[江戸]	—	—
40-14	[十三仏像]	紙本着色掛幅装	1幅	[江戸]	—	(端裏)「三幅之内文久二壬戌歳霜月於和州豊山門修幅竜石山弘正寺現住峯殿章純代」
40-15	[種子曼荼羅図]	紙本墨書掛幅装	1幅	宝暦5.6.18	石手寺現住沙門瑞澄拜書	(裏書)「奉書写随求曼荼羅一百輔陀羅尼一萬卷奉誦開眼供養之畢 沙門瑞澄(花押)」
40-16	大乘起信論衍訶摩釋	紙本墨書掛幅装	1幅	[江戸]	—	(端裏)「宝暦九卯年十月十二日求皆達之」
40-17	新義論談法度	紙本木版掛幅装	1幅	天正2.8	明恩院口口職坊頼口書之	—
40-18	大勝金剛像	絹本金泥掛幅装	1幅	[南北朝]	—	縦73.2cm、横39.9cm
40-19	尊勝曼荼羅	紙本墨書掛幅装	1幅	[江戸]	—	(端裏)「尊勝曼荼羅高祖御真蹟写浄宝」(裏書)「予尊勝供壹千座修行砌師王如宝造之焉給」
40-20	[金剛智三蔵像]	紙本木版掛幅装	1幅	[江戸]	—	(端裏)「金剛智三蔵」
40-21	[黒住大人伝]	紙本木版掛幅装	1幅	[江戸]	信天翁	(端裏)「受保傳白紙表粧」
40-22	[観音像]	紙本着色掛幅装	1幅	[江戸]	—	(端裏)「[]観音」
40-23	[金剛界種子曼荼羅図]	紙本墨画掛幅装	1幅	[江戸]	—	(端裏)「金剛界以洞宗泉性善之御本題書頭幢浄寶」
40-24	密宗血脈相承図	紙本木版掛幅装	1幅	[江戸]	—	(端裏)「福見寺現主秀傳求之」
40-25	蔵経之三乗取経位	紙本木版掛幅装	1幅	[江戸]	—	(端裏)「[大]蔵経之釣物 太淳」
40-26	[菩薩像]	紙本木版掛幅装	1幅	[江戸]	—	—
40-27	[菩薩像]	紙本木版掛幅装	1幅	[江戸]	—	—
40-28	[真言十僧像]	紙本着色掛幅装	1幅	[江戸]	—	—
40-29	[菩薩像]	紙本木版掛幅装	1幅	[江戸]	—	—
40-30	[龍猛大師像]	紙本木版掛幅装	1幅	[江戸]	—	—
40-31	[種子曼荼羅]	紙本木版掛幅装	1幅	[江戸]	—	—
40-32	[金界種子曼荼羅]	紙本着色掛幅装	1幅	[江戸]	—	(端裏)「金剛界宝暦第七丑集正[月]吉且前住自明法印求焉 干時寛政五丑星十二日吉辰現住實性補修之 大通山智勝院三蔵寺什物」
40-33	[高祖名言]	紙本墨書掛幅装	1幅	[江戸]	(落款)	—

40-34	[釈迦種子図]	紙本墨書掛幅装	1 幅	[江戸]	—	(端書)「[]瑞澄」
40-35	[胎蔵界種子曼荼羅]	紙本著色掛幅装	1 幅	[江戸]	—	—
40-36	[菩薩像]	紙本木版掛幅装	1 幅	[江戸]	—	—
40-37	[五字書]	紙本墨書掛幅装	1 幅	[江戸]	江西米山 書時奉七十	(端裏)「法幢院什物」「調齋賞音稀」
40-38	[菩薩像]	紙本木版掛幅装	1 幅	[江戸]	—	—
40-39	菩薩蔵撰種類図	紙本木版掛幅装	1 幅	[江戸]	—	(端裏)「梵網戒牒 錢洲」
40-40	天部像	紙本木版掛幅装	1 幅	[江戸]	—	—
40-41	[理源大師像]	紙本著色掛幅装	1 幅	[江戸]	—	(端裏)「理源大師 豫陽松山浮穴郡土居村無量山萬福寺常什物 現住實堂求之天明四甲辰年三月吉祥日」
40-42	善光寺阿弥陀如来像	紙本木版掛幅装	1 幅	[江戸]	—	(端裏)「善光寺阿弥陀如来像」
40-43	[菩薩像]	紙本木版掛幅装	1 幅	[江戸]	—	—
40-44	三字書	紙本墨書掛幅装	1 幅	[江戸]	園香書(落款)(落款)	「思無邪」(裏書)「之主恭運也」
40-45	一切經之目錄	紙本木版掛幅装	1 幅	[江戸]	—	—
40-46	[高僧像]	紙本著色掛幅装	1 幅	[江戸]	—	—
40-47	[熊野觀心十界曼荼羅]	紙本著色掛幅装	1 幅	[江戸]	—	—
40-48	日天像	紙本木版掛幅装	1 幅	[江戸]	—	(端裏)「日天」
40-49	洛陽東寺五大尊之写	紙本木版掛幅装	1 幅	[江戸]	—	(端裏)「東寺五大尊」
40-50	[種子曼荼羅図]	紙本木版掛幅装	1 幅	[江戸]	—	(端裏)「ヨ州 章純主」
40-51	摩耶斯龍王優鉢羅龍王像	紙本著色掛幅装	1 幅	[江戸]	—	(端裏)「三幅對 摩耶斯龍王優鉢羅龍王大和国口」
40-52	真邪僧正像	紙本木版掛幅装	1 幅	文政11.6.2	—	(端裏)「真邪僧正」(紙背印)「豊山仏絵表具師 浅田佐兵衛」
40-53	明算流諸方大事目錄	紙本墨書卷子装	1 軸	寛文2.5.16	傳授阿闍梨権大僧都良意判	(端裏)「明算流大事目錄」
40-54	理源大師像	絹本著色掛幅装	1 幅	[江戸]	—	(端裏)「理源大師一護持瑞傳」
40-55	摩利支天像	絹本著色掛幅装	1 幅	[江戸]	—	—
40-56	豊山能満院虚空蔵尊像	紙本木版掛幅装	1 幅	文政6.4.6	—	(端裏)「豊山能満院虚空蔵尊 蓮怒」(紙背印)「豊山仏絵具師 浅田佐兵衛」(裏書)「奉開眼求聞持本像絵像一幅豊山能満院 諦観(花押)」
40-57	[弘法大師像]	絹本著色刺繍掛幅装	1 幅	[江戸]	—	—

信仰形態の変遷からみた四国八十八ヶ所成立過程

胡 光

一 研究の目的

平成二六～二八年度（二〇一四～一七）科学研究費助成事業・基盤研究（C）26370795「信仰形態の変遷からみた四国八十八ヶ所成立過程の研究」（研究代表者・胡光）の最終年度にあたり、研究の総括をしておきたい。

近年さまざまな学問分野で四国遍路研究が盛んに行われている（森正人『四国遍路の近現代』2005、浅川泰宏『巡礼の文化人類学的研究』2008、頼富本宏『四国遍路とはなにか』2009、星野英紀・浅川泰宏『四国遍路』2011、武田和昭『四国辺路の形成過程』2012等）。しかし、歴史学からの研究は少なく、四国八十八ヶ所（四国霊場）がいつどのようにして成立したかは全く不明である。本研究は、各札所において多様な信仰がどのようにして大師信仰に一元化されるか考察することを通して、八十八の札所の成立過程を説明しようとするものである。

四国遍路と言えば、弘法大師の遺蹟を訪ねるものとされ、現在の各札所には必ず大師堂が設けられるなど大師一尊化の傾向が強く表れている。しかし、近世以前の史料を見ると、必ずしも大師堂があるわけではなく、札所には多様な信仰が存在していたことがわかる。したがって、大師信仰以前の多様な信仰を抽出し、それらがどのようにして大師信仰に一元化されるかを検討することは、未だ明らかでない札所の成立過程を探る上で有効な方法である。本研究は、各札所にある諸資料を総合的に調査することで、こうした課題を達成しようとする。

四国遍路は「遍路する人々」（「人」）「遍路を迎える地域」（「地域」）「札所（霊場）」の三要素で構成されていると考える。これまでの研究では、遍路日記や案内書を用いた「人」「地域」に関わる研究が主体であった。一方「札所」に係る研究はほとんど進んでおらず、「札所」には寺院だけでなく日本特有の神仏習合文化を示す神社も含まれていたことさえ充分認識されていない。また、山岳信

仰、熊野信仰、浄土信仰、大師信仰のそれぞれについては多くの研究があるが、各札所に即して多様な信仰が大師信仰に一元化される過程を検討した研究はほとんどない。四国遍路の研究で最大の課題は、いつ、誰によって、どのように札所が選定され、八十八ヶ所が確立するのかということである。この基本的な命題が今でも定説を見ていない理由は、右記の研究状況（方法）にあると言える。

以上の視点から本研究では、愛媛県歴史文化博物館・愛媛県美術館・伊方町立町見郷土館・香川県庁・香川県立ミュージアムとも共同で、次の調査を行った。

【総合調査】第51番札所石手寺（愛媛県松山市）、第52番札所太山寺（同市）、第75番札所善通寺（香川県善通寺市／継続中）、久妙寺（愛媛県西条市／継続中）
【概要調査】第45番札所岩屋寺（愛媛県久万高原町）、第74番札所甲山寺（香川県善通寺市）、第86番札所志度寺（香川県さぬき市）、金胎廃寺（愛媛県伊方町）、三崎八幡神社（同町／継続中）、若山俵札（愛媛県八幡浜市／継続中）

二 研究の成果

本研究の中心は、本書でまとめた第51番札所熊野山虚空蔵院石手寺と、既に報告書を刊行している第52番札所瀧雲山護持院太山寺である。

太山寺は、松山平野北部の山間に位置し、堀江湾を臨み、奥之院からは瀬戸内海を一望できる。諸堂全ての彫刻・絵画・工芸品・聖教・古文書類の調査を行い、その調査資料数は一七、〇〇〇点に及んだ。

国宝太山寺本堂には、後冷泉院・後三条院・堀河院・鳥羽院・崇徳院・近衛院・後白河院が奉納したという平安時代後期制作の十一面観音立像が七軀も安置され、全て重要文化財に指定されている。今次調査では、これらと同時期に制作された五軀の如来像や不動明王像、神像が新たに確認された。これほどの平安仏教遺物が残っている例はなく、伊予国内外からの信仰を集める当寺の特殊性を表すとともに、平安時代には当寺が観音信仰の拠点であったことを示している。

太山寺文書からは、河野家をはじめ、加藤・蒲生・松平家という歴代領主家の厚

い保護を受けたことがうかがえる。さらに、五種の古縁起が発見された。室町時代成立の縁起には、聖武天皇の勅願による行基菩薩の開基が謳われていた。江戸時代前期の縁起には、弘法大師開山と八十八ヶ所の記述が見え、中期の縁起には海運の発達と四国遍路の隆盛によって、豊後（大分県）から真野長者伝説が伝わってくる。これによって後期の縁起は、当寺の開基を用明天皇代の真野長者とし、行基菩薩は本尊由緒に特化された。長者を導いたのは観音菩薩であり、元の山号は補陀落山であったことが記される。この地には、長く観音信仰や補陀落信仰が根付き、そこに弘法大師信仰が加わってきた。鎌倉時代の制作になる当寺所蔵の県指定文化財弘法大師像は、四国で最も古いものであり、当寺は大師信仰拡大の拠点でもあった。

真野長者伝説伝来の背景には、九州での弘法大師と四国遍路信仰の拡大があった。西方からの四国遍路の玄関口として、太山寺と高浜・三津浜が知られていたのである。松山藩からの通達も残っていた。真野長者伝説が伝わったのと同じ頃、松山藩では三津浜に制限していた上陸を太山寺近くの高浜も許可する。西方からの四国遍路増加状況が分かる。上陸した遍路が目指したのは太山寺であった。阿波の一番札所に象徴されるように、これまでの研究は東方からの遍路に偏った畿内史観とでも言える方法と結論であったが、多様な遍路像を提起することができた。西方からの遍路は、第51番石手寺で結願し、道後温泉で体を癒す。

往古の石手寺は、石手川から道後温泉付近までを寺地としており、室町時代の守護河野家の居城湯築城と隣接していた。湯築城は道後八幡（伊佐爾波神社）跡地にあり、石手寺以外にも天台系寺院が丘陵上に点在し、裏山には末法思想の経塚群があるなど、古来道後一帯が聖地であった。

河野家が湯築城を築くのは南北朝時代であり、石手寺の彫刻・絵画にも南北朝・室町時代の作品が多いのも河野家との関係が考えられる。棟札からも、この時代の建設・修復が多く見られ、四国遍路開創に係る衛門三郎伝説を記す永禄十年（一五六七）刻板も河野通宣による薬師堂再建にあたり武運長久を祈念したものであった。今次調査で発見された、全国的にも珍しい「大勝金剛像」も河野家由来のものとい

てよいだろう。石手寺は以後の領主にも篤い保護を受け「一国之惣本寺」となる。

石手寺の信仰は、河野家の祖、越智玉興が白山権現を勧請したことに始まり、本尊を薬師如来とする寺院をなし、温泉とともに薬師信仰をもとに聖地化する。さらに、真言密教、熊野信仰、阿弥陀信仰、三島信仰が導入され、時宗・真言律宗の影響も受けた。さらに、平安時代後期の寛治三年（一〇八九）弘法大師木像を祀る御影堂が建立されたとするのは定かではないが、永禄十年に大師堂があったのは確実であり、この時既に「札所」であったこと、阿波焼山寺とのネットワークの存在、「再生」の思想を刻板は伝えており、大師信仰拡大と四国遍路開創に関わる重要寺院であることは論を俟たない。当寺の板木からは、大師信仰に加えて隔夜信仰・念仏信仰・大随求菩薩信仰など庶民信仰を拡張していた様子もうかがえる。

今次調査では、鎌倉時代以来の古い由緒を持つ菩薩面・天童面（愛媛県指定有形文化財）が、一般的な来迎会とは異なる、神仏習合による熊野権現影向を現す、全国的にも珍しい練り供養具であったことが明らかとなり、それを描いた絵巻の詳細も提示された。行事の実態が可視化できる貴重な事例である。熊野山という山号にも因み、熊野信仰と八十八ヶ所成立の関係にも注目していきたい。

第45番札所海岸山岩屋寺の岩窟から一六、〇〇〇点もの柿経・笹塔婆が発見された。八十八ヶ所成立期の戦国〜江戸時代初期のものと断じられ、法華経や「南無阿弥陀仏」の名号が見られることから、六十六部や念仏聖が参籠していたことを知る。このほか、八十八ヶ所にならなかった古刹の調査を行い、札所成立の起源を探ろうとしたり、一六〇〇点を超える俵札の調査を行ったが、調査資料が膨大であり、比較研究までに至らなかった。他の札所調査とともに、今後の課題としたい。

本研究にあたり、調査を受け入れてくださった各寺社や博物館など資料所蔵者の皆様、各分野の知識を活かし総合研究に加わってくださった研究協力者の皆様、猛暑極寒のなか調査にあたってくれた愛媛大学日本史研究室の研究補助員の皆様に、末筆ながら御礼申し上げます。

【参考文献】

川岡勉『河野氏の歴史と道後湯築城』（青葉図書、一九九八年）、川岡勉「中世の石手寺と四国遍路」（『四国遍路と世界の巡礼研究会編』『四国遍路と世界の巡礼』、法蔵館、二〇〇七年）、寺内浩「愛媛県久万高原町岩屋寺（けら経・笹塔婆について）」『愛媛大学法文学部論集』人文学科編四〇、二〇一六年）

【研究協力者／申請時】

長井健（近世絵画／愛媛県美術館） 石岡ひとみ（考古学／同前） 今村賢司（民俗学／愛媛県歴史文化博物館） 高嶋賢二（民俗学／町見郷土館） 三好賢子（仏教彫刻／香川県立ミュージアム） 松岡明子（仏教絵画／同前） 武田和昭（仏教美術／圓明院住職） 田井静明（民俗学／瀬戸内海歴史民俗資料館）

【研究協力者／実施時追加】

黒川信義（伊方町文化財保護委員／金石文） 北山健一郎（香川県庁／考古学） 松原潔（善通寺宝物館／仏教彫刻） 上野進（香川県庁／中世史） 御厨義道（香川県立ミュージアム／近世史） 野村美紀（同前／近代史） 芳地智子（同前／中世史） 小野祐平（同前／近世史） 山内治朋（愛媛県歴史文化博物館／中世史） 神野裕太（神奈川県立歴史博物館／仏教彫刻）

【科研の成果論文】

胡「山岳信仰と四国遍路」（『四国遍路と山岳信仰』岩田書院、二〇一四年）、胡「太山寺と伊予の霊場」（『空海の足音四国へんろ展愛媛編』愛媛県美術館、二〇一四年）、胡「四国霊場開創一二〇〇年の真実」（『空海の足音四国へんろ展香川編』香川県立ミュージアム、二〇一四年）、胡「四国遍路をめぐる最新の研究から」（『愛媛大学法文学部同窓会報』一九、二〇一五年）、胡「四国遍路と伊予霊場」（『四国遍路と巡礼』愛媛県歴史文化博物館、二〇一五年）、胡編『四国霊場第五十二番札所太山寺総合調査報告書（一）』（二）』（愛媛大学法文学部日本史研究室、二〇一五・一六年）、胡「歌舞伎作品の歴史叙述―虚構と真実の世界―」（『四国遍路と世界の巡礼』二号、愛媛大学法文学部附属四国遍路・世界の巡礼研究センター、二〇一七年）、胡「歴史学研究と大学教育の邂逅―四国遍路研究のフィールドワーク」（『愛媛大学における地域調査のためのフィールドワーク体制の確立』愛媛大学、二〇一七年）、本書（二〇一七年）

執筆者一覧

岡本 佑弥（愛媛大学大学院）
松原 潔（善通寺宝物館学芸員）
神野 祐太（神奈川県立歴史博物館学芸員）
武田 和昭（圓明院住職）
高嶋 賢二（伊方町立町見郷土館学芸員）
石岡ひとみ（愛媛県教育委員会学芸員）
今村 賢司（愛媛県歴史文化博物館学芸員）
胡 光（愛媛大学法文学部教授）

表紙の写真：石手寺境内（胡光撮影）

裏表紙の写真：大勝金剛像（石手寺所蔵／武田和昭撮影）

* 本書は、科学研究費助成事業・基盤研究(C)26370795「信仰形態の変遷からみた四国八十八ヶ所成立過程の研究」（研究代表者：胡光）によって刊行した。 ©2017 無断で転載することを禁じる。

四国霊場第五十一番札所石手寺総合調査報告書
発行日 2017年3月24日 発行
編集 胡 光
発行 愛媛大学法文学部附属 四国遍路・世界の巡礼研究センター
〒790-8577 松山市文京町3 TEL 089-927-9312
E-mail: henro.center.ehime@gmail.com
URL: http://henro.ll.ehime-u.ac.jp/
印刷 瀬戸内印刷株式会社
〒790-0056 松山市土居田町836-7 TEL:089-971-9123